

長
谷
津
遺
跡

長 谷 津 遺 跡

高崎渋川バイパス（2期工区）社会資本総合整備
（活力創出基盤整備）事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

高崎渋川バイパス（2期工区）社会資本総合整備
（活力創出基盤整備）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二二

群馬県渋川土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



2012

群馬県渋川土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

長谷津遺跡

高崎渋川バイパス（2期工区）社会資本総合整備
（活力創出基盤整備）事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

2012

群馬県渋川土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺跡遠景（東から）



遺跡出土縄文土器

序

長谷津遺跡は、高崎渋川バイパス建設工事に伴い、平成19年1月から平成21年1月にかけて、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施しました。

高崎渋川線は近世の「三国往還」を踏襲しており、古くから往来が盛んな道路として知られております。近年は交通量が大幅に増加し慢性的な交通渋滞が発生し、その解消のためにバイパス線の建設が進められてきました。先行して、現在高崎市小八木町の大八木工業団地南交差点から同市金子町上宿交差点までの区間が14年3月に開通しました。この時の工事に先立つ発掘調査では冷水東遺跡をはじめ小八木志志貝戸遺跡などの貴重な埋蔵文化財の記録を残すことができました。

長谷津遺跡は高崎渋川バイパスの第2期工区である金古町以北の北群馬郡榛東村からの発掘調査を実施したものであります。

発掘調査の成果として、縄文時代中期から後期にかけての集落跡、古墳時代の竪穴住居や冢などを中心に、近世に至るまでの長期にわたる営みの痕跡が判明しました。特に、古墳時代の竪穴住居は周辺に数多く現存する古墳との関係を解明する上で貴重な資料になることと確信しております。

本報告書が高崎渋川バイパス建設に伴い発掘調査された他の遺跡とともに、榛東村はもとより群馬県の歴史解明に当たって貴重かつ有効な資料提供となることを願ってやみません。

また、この度の報告書上梓に至るまでには、群馬県渋川土木事務所、群馬県教育委員会、榛東村教育委員会、ならびに地元関係者の皆様にも多大なるご協力を賜りました。ここに心から感謝申し上げるとともに、本書が基本的な歴史資料として広く活用されることを願い、序といたします。

平成24年2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 栄 一

例 言

1. 本書は、(主)高崎渋川線バイパス(2期工区)事業に伴い発掘調査された長谷津遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 長谷津遺跡は北群馬郡榑東村新井2161-1、2540-1、2540-3、2540-4、2532、2537、3534、2531、2535-1、2526-1、2533、2951-2、2952-1、2952-2、2952-3、2952-4、2952-7、2953-2、2953-4、2953-7、2954-1、29555、2957-1、2957-3、2957-4、2957-5番地に所在する。
3. 事業主体 群馬県中部県民局 渋川土木事務所
4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成19年1月1日から平成19年3月31日(主要地方道高崎渋川線地方道路交付金事業)
平成19年4月2日から平成19年6月30日(主要地方道高崎渋川線地方特定道路整備事業)
平成21年1月1日から平成21年1月31日(主要地方道高崎渋川線道路改築事業(地方道・連携))
6. 発掘調査体制は次の通りである。
平成18年度(1月1日から3月31日)
調査担当者:飯田陽一(主席専門員)、田村邦宏(主任調査研究員)
遺跡掘削請負工事 株式会社コイデ
委託:地上測量 技研測量株式会社
航空測量・空中写真撮影技研測量株式会社
平成19年度(4月2日から6月30日)
調査担当者:神谷佳明(主席専門員)、田村邦宏(主任調査研究員)
遺跡掘削請負工事 株式会社飯塚組
委託:地上測量 技研測量株式会社
航空測量・空中写真撮影株式会社シン技術コンサル
平成20年度(1月1日から1月31日)
調査担当者:須田正久(主任調査研究員)、横尾 豊(主任調査研究員)
遺跡掘削請負工事:株式会社 測研
委託:地上測量 株式会社シン技術コンサル
航空測量・空中写真撮影 技研測量株式会社
7. 整理事業の期間と体制は次の通りである。
履行期間 平成22年10月1日から平成23年3月31日 平成23年10月1日から平成24年3月31日
整理担当及び整理期間 新井 仁(主任調査研究員) 平成22年10月1日から平成23年3月31日
須田正久(主任調査研究員) 平成23年4月1日から平成23年8月31日)
保存処理:関 邦一(補佐) 写真撮影:佐藤元彦(補佐)
遺物観察 石器、石製品 岩崎泰一(主席専門員)、縄文土器 橋本 淳(主任調査研究員)、
土師器・須恵器 神谷佳明(主席専門員)、陶磁器・鉄製品 大西雅弘(主席専門員)
8. 本書作成の担当者は次の通りである。
編集:新井 仁 須田正久 本文執筆:須田正久
9. 発掘調査及び本書作成にあたり、下記の諸機関、諸氏にご教示、ご協力いただいた。記して感謝の意を表します。
(敬省略、順不同) 群馬県中部県民局 渋川土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、榑東村教育委員会、
吉岡町教育委員会、角田祥子(榑東村教育委員会事務局生涯学習係主任)、瀧野 巧(吉岡町教育委員会事務局
生涯学室室長)
10. 発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

凡 例

1. 本書の遺構図中にある+印とそれに付記される数値は、国家座標値X・Y値を表す。なお、遺構図中に標記した名称は、国家座標値の下3桁のみを用いて表記した。
2. 遺構図中で使用した北方位は座標北を示す。(真北方向角偏差-26°42.89")
3. 遺構の方位は、座標北を基準として主軸角度等の傾きを計測した。
4. 遺構図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則的に下記の縮尺で掲載した。
 竪穴住居 竪穴状遺構 1:60 炉 竈 1:20 埋設土器 1:10 1:20
 掘立柱建物 礎石建物 土坑 柱穴 1:40 溝 1:60 1:80 1:100 畠 1:100
 石葺・石器 1:1 1:2 1:3 1:4
 縄文時代土器 土師器、陶磁器、鉄製品 1:3 1:4 1:6

6. 遺物写真は、遺構図とほぼ同じ縮尺で掲載してある。
7. 遺物の計測値は、欠損品の数値には()を付して完形品と区別した。
8. 本書で使用したテフラの名称及び降下年代は以下の説を採用した。
 浅間B軽石・As-B (1108年) 榛名二ツ岳火山灰・Hr-FA (6世紀初頭)
 榛名二ツ岳軽石・Hr-FP (6世紀中頃) 浅間C軽石・As-C (4世紀初頭)
 浅間板鼻黄色軽石・As-YP (13000~14000) 浅間六合軽石・As-Kn (5400)
 浅間白糸軽石・As-Sr (18000~20000)
9. 竪穴住居面積は、壁下場で求め、プランメーターで3回計測し、その平均値を採用した。
10. 縄文土器の胎土中に植物繊維を含むものは土器断面図中に●を表記した。
11. 図中で使用したスクリーントーンは次の通りである。



12. 遺物観察表(土器)の色調は、農林水産省農林水産技術会議 監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版標準土色帖』(1996年版)を参考に色名を使用した。
13. 遺構番号の呼称は、1区からの通番である。
14. 調査区は調査時の地割りや道路境を基準とし区割りを行った。調査は平成18年度に第1次調査として1区、2区を行い、平成19年度に2次、3次調査として3区、4区、5区を行った。
15. 本書で使用した地形図は下記の通りである。

地形図 国土地理院 1:25,000「伊香保」(平成14年9月1日発行)
 地形図 国土地理院 1:25,000「渋川」(平成14年10月1日発行)
 地形図 国土地理院 1:25,000「前橋」(平成22年12月1日発行)
 地形図 国土地理院 1:25,000「下室田」(平成14年5月1日発行)
 地形図 国土地理院 1:50,000「前橋」(平成10年3月1日発行)
 地形図 国土地理院 1:50,000「榛名山」(平成10年3月1日発行)
 地勢図 国土地理院 1:200,000「長野」(平成10年2月1日発行)
 地勢図 国土地理院 1:200,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行)
 榛東村地形図 1:2,500 (平成10年3月測図)
 地形分類図「群馬町誌 資料編 自然」(平成7年12月1日発行)

16. 本書で使用した土器（土師器・須恵器）の図版上での表現は以下の通りである。
胎土の砂細粒と粗砂粒は径2mmほどで区別した。
計測値については 口：口径、底：底径、高：器高、台：高台径、摘：摘み径を示す。
17. 本書で使用した石器・石製品の図版上での表現は以下の通りである。
石斧刃部側の摩耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の摩耗痕については横位定規線で図示した。
磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は摩耗範囲を示す。
その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。
石皿については、使用部の摩耗および再生状態（再敲打）を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。
台石については、打痕・摩耗痕を含む礫面の状態を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。
18. 遺構名称の変更について遺構の性格の見直しにより整理段階において遺構名称の変更したものと及び、遺構としての性格を持たないと判断して欠番とした遺構を下記に掲載した。

変更した遺構

区	旧遺構名称	新遺構名称	区	旧遺構名称	新遺構名称
2区	1号住居	1号竪穴状遺構	5区	13号土坑	123号土坑
4区	4号埋裏	156号土坑	5区	15号土坑	125号土坑
4区	5号埋裏	157号土坑	5区	16号土坑	126号土坑
4区	6号埋裏	158号土坑	5区	19号土坑	129号土坑
4区	1号集石	159号土坑	5区	21号土坑	131号土坑
4区	104号土坑	3号立柱内 ビット1	5区	23号土坑	133号土坑
			5区	25号土坑	135号土坑
4区	106号土坑	3号立柱内 ビット2	5区	27号土坑	137号土坑
			5区	30号土坑	140号土坑
4区	101号土坑	3号立柱内 ビット3	5区	33号土坑	143号土坑
			5区	41号土坑	151号土坑
4区	103号土坑	3号立柱内 ビット4	5区	42号土坑	152号土坑
5区	1号土坑	111号土坑	5区	43号土坑	153号土坑
5区	2号土坑	112号土坑	5区	2号集石	1号礎石
5区	3号土坑	113号土坑	5区	1号集石	2号礎石
5区	4号土坑	114号土坑	5区	3号集石	3号礎石
5区	5号土坑	115号土坑	5区	4号集石	4号礎石
5区	6号土坑	116号土坑	5区	5号集石	5号礎石
5区	12号土坑	122号土坑			

欠番にした遺構

2区	4区	5区
1土坑	48土坑	117土坑
3土坑	49土坑	119土坑
4土坑	50土坑	120土坑
5土坑	51土坑	121土坑
9土坑	52土坑	124土坑
12土坑	54土坑	127土坑
13土坑	56土坑	128土坑
14土坑	57土坑	130土坑
15土坑	61土坑	132土坑
19土坑	66土坑	134土坑
21土坑	68土坑	136土坑
21土坑	75土坑	138土坑
22土坑	77土坑	139土坑
23土坑	78土坑	141土坑
31土坑	84土坑	142土坑
33土坑	86土坑	144土坑
38土坑	90土坑	145土坑
41土坑	92土坑	146土坑
45土坑	100土坑	147土坑
46土坑	105土坑	148土坑
	107土坑	149土坑
		150土坑
		154土坑
		155土坑

目 次

口絵	
序	
例言	
凡例	
本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次	
第1章 調査の経過と方法	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第3節 基本順序	4
第2章 地理的環境と歴史的環境	
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	8
第3章 検出された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	12
第2節 縄文時代の遺構と遺物	14
第1項 竪穴住居	14
第2項 埋設土器	26
第3項 掘立柱建物	29
第4項 土坑	31
第5項 遺構外出土遺物	52
第3節 古墳時代～奈良・平安時代の遺構と遺物	101
第1項 竪穴住居	101
第2項 竪穴状遺構	108
第3項 畚	109
第4項 土坑	110
第5項 遺構外出土遺物	110
第4節 中近世の遺構と遺物	111
第1項 掘立柱建物	111
第2項 礎石建物	113
第3項 土坑	114
第4項 溝	118
第5項 遺構外出土遺物	122
第5節 旧石器試掘調査	124
第4章 自然科学分析	
第1節 長谷津遺跡における火山灰分析	125
第2節 長谷津遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析	132
第5章 調査の成果とまとめ	
第1節 古墳時代の遺構	138
第2節 縄文時代の遺構と遺物	140

挿図目次・表目次・写真図版

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	遺跡調査区位置図	2
第3図	遺跡調査区範囲図	3
第4図	基本層序測量地点図・基本層序図	5
第5図	長谷津遺跡周辺の地形分類図	7
第6図	周辺の遺跡位置図	9
第7図	遺跡全体図(2面)	13
第8図	4区 4号住居	14
第9図	4区 4号住居炉及び出土遺物(1)	15
第10図	4区 4号住居出土遺物(2)	16
第11図	4区 4号住居出土遺物(3)	17
第12図	4区 4号住居出土遺物(4)	18
第13図	4区 5・6号住居重複状況	20
第14図	4区 6号住居と出土遺物(1)	21
第15図	4区 6号住居出土遺物(2)	22
第16図	4区 5号住居・炉・炉振り方	23
第17図	4区 5号住居出土遺物	24
第18図	2区 1号埋設土器	26
第19図	4区 2号埋設土器及び3号埋設土器	27
第20図	4区 3号埋設土器・出土遺物	28
第21図	4区 3号掘立柱建物	29
第22図	4区 縄文土坑位置図	30
第23図	4区 60号土坑と出土遺物・63号土坑	32
第24図	4区 69号土坑・70号土坑と69号土坑出土遺物	33
第25図	4区 70号土坑出土遺物	33
第26図	4区 72・73号土坑	34
第27図	4区 73号土坑出土遺物	35
第28図	4区 81号土坑・出土遺物	36
第29図	4区 91・159号土坑と159号土坑出土遺物	36
第30図	4区 59・82号土坑	37
第31図	4区 82号土坑出土遺物	38
第32図	4区 83号土坑	38
第33図	4区 83号土坑出土遺物	39
第34図	4区 97号土坑と出土遺物	41
第35図	4区 98号土坑と出土遺物	41
第36図	4区 108・110号土坑と110号土坑出土遺物	42
第37図	1区 2号土坑・2区 6・7・11・12～17・24・25号土坑	43
第38図	2区 26～30・32・34～37・39・40・42～44・47・64・4区 65・67・74号土坑	44
第39図	4区 76・79・85・87～89・93・95・96・99・109・5区 116・122・123・125・126・129・131・133号土坑	45
第40図	5区 135・137・140・143・151・152・153号土坑	46

第41図	4区 53号土坑	48
第42図	4区 55・58号土坑	49
第43図	4区 62・80号土坑	50
第44図	4区 94・100号土坑	51
第45図	1区 遺構外出土遺物	52
第46図	2区 遺構外出土遺物(1)	53
第47図	2区 遺構外出土遺物(2)	54
第48図	2区 遺構外出土遺物(3)	55
第49図	2区 遺構外出土遺物(4)	56
第50図	2区 遺構外出土遺物(5)	57
第51図	2区 遺構外出土遺物(6)	58
第52図	2区 遺構外出土遺物(7)	59
第53図	2区 遺構外出土遺物(8)	60
第54図	2区 遺構外出土遺物(9)	61
第55図	2区 遺構外出土遺物(10)	62
第56図	3区 遺構外出土遺物	72
第57図	4区 遺構外出土遺物(1)	74
第58図	4区 遺構外出土遺物(2)	75
第59図	4区 遺構外出土遺物(3)	76
第60図	4区 遺構外出土遺物(4)	77
第61図	4区 遺構外出土遺物(5)	78
第62図	4区 遺構外出土遺物(6)	79
第63図	4区 遺構外出土遺物(7)	80
第64図	4区 遺構外出土遺物(8)	81
第65図	4区 遺構外出土遺物(9)	82
第66図	4区 遺構外出土遺物(10)	83
第67図	4区 遺構外出土遺物(11)	84
第68図	4区 遺構外出土遺物(12)	85
第69図	4区 遺構外出土遺物(13)	86
第70図	4区 遺構外出土遺物(14)	87
第71図	4区 遺構外出土遺物(15)	88
第72図	5区 遺構外出土遺物	99
第73図	遺跡全体図(1面)	102
第74図	2区 2号住居	103
第75図	2区 2号住居西廂	104
第76図	2区 2号住居東廂及び出土遺物	105
第77図	2区 3号住居	106
第78図	2区 3号住居廂及び出土遺物	107
第79図	2区 1号竪穴状遺構	108
第80図	3区・4区畠	109
第81図	2区 8・10・18号土坑	110
第82図	2区・4区 遺構外出土遺物	110
第83図	4区 1号掘立柱建物と1・2号掘立柱建物 位置関係	111
第84図	4区 2号掘立柱建物	112
第85図	5区 1号礎石建物(1～3号礎石)	113
第86図	5区 1号礎石建物(4・5号礎石)	114

第87図	5区	111号土坑と出土遺物(1).....	114
第88図	5区	111号土坑出土遺物(2).....	115
第89図	5区	111号土坑出土遺物(3).....	116
第90図	5区	112・113号土坑.....	117
第91図	5区	114・115号土坑.....	118
第92図	1区	1・2・3号溝 2区	4号溝と出土遺物120
第93図	1区	5号溝 2区	6～9号溝と出土遺物121
第94図	4区	10～13号溝.....	122
第95図	5区	遺構外出土遺物.....	123
第96図		旧石器試掘範囲図.....	124
第97図		自然化学分析試料採取地点位置図.....	125
第98図	1区・2区	土層柱状図.....	130
第99図	2区	土層柱状図.....	131
第100図	1区	No.1地点における植物珪酸体分析結果.....	134
第101図	2区	No.3、4地点における植物珪酸体分析結果.....	135
第102図	2区	No.5、8地点における植物珪酸体分析結果.....	136
第103図		長谷津遺跡の植物珪酸体(プラントオパール).....	137
第104図		遺跡周辺の古墳時代遺跡と古墳位置図.....	139
第105図	2区	遺構外遺物分布図.....	142
第106図	3・4区	遺構外遺物分布図.....	143

表目次

第1表		調査時及び変更後の正式遺構名称.....	1
第2表		周辺の遺跡一覧表.....	10
第3表	4区	4号住居遺物観察表(土器).....	18
第4表	4区	4号住居遺物観察表(石器・石製品).....	20
第5表	4区	6号住居遺物観察表(土器).....	22
第6表	4区	6号住居遺物観察表(石器・石製品).....	22
第7表	4区	5号住居遺物観察表(土器).....	25
第8表	4区	5号住居遺物観察表(石器・石製品).....	25
第9表	2区	1号埋設土器遺物観察表(土器).....	26
第10表	2区	2号埋設土器遺物観察表(土器).....	27
第11表	4区	3号埋設土器遺物観察表(土器).....	28
第12表	4区	3号掘立柱建物計測表.....	29
第13表	4区	60号土坑遺物観察表(土器).....	32
第14表	4区	69号土坑遺物観察表(土器).....	33
第15表	4区	69号土坑遺物観察表(石器・石製品).....	34
第16表	4区	70号土坑遺物観察表(土器).....	34
第17表	4区	73号土坑遺物観察表(土器).....	35
第18表	4区	73号土坑遺物観察表(石器・石製品).....	35
第19表	4区	81号土坑遺物観察表(土器).....	36
第20表	4区	159号土坑遺物観察表(石器・石製品).....	36
第21表	4区	82号土坑遺物観察表(土器).....	38
第22表	4区	83号土坑遺物観察表(土器).....	40
第23表	4区	83号土坑遺物観察表(石器・石製品).....	40
第24表	4区	97号土坑遺物観察表(土器).....	41
第25表	4区	98号土坑遺物観察表(土器).....	41

第26表	4区	110号土坑遺物観察表(土器).....	43
第27表		土坑計測表.....	47
第28表	1区	遺構外遺物観察表(土器).....	52
第29表	1区	遺構外遺物観察表(石器・石製品).....	52
第30表	2区	遺構外遺物観察表(土器).....	63
第31表	2区	遺構外遺物観察表(石器・石製品).....	71
第32表	3区	遺構外遺物観察表(土器).....	73
第33表	4区	遺構外遺物観察表(土器).....	89
第34表	4区	遺構外遺物観察表(石器・石製品).....	98
第35表	5区	遺構外遺物観察表(土器).....	100
第36表	5区	遺構外遺物観察表(石器・石製品).....	100
第37表	2区	2号竪穴住居遺物観察表(土器).....	105
第38表	2区	3号竪穴住居遺物観察表(土器).....	107
第39表	2区	土坑計測表.....	110
第40表	2区	遺構外遺物観察表(土器).....	110
第41表	4区	1号掘立柱建物計測表.....	111
第42表	4区	2号掘立柱建物計測表.....	112
第43表	5区	1号礎石建物計測表.....	114
第44表	5区	111号土坑遺物観察表(陶磁器類・土製品).....	117
第45表	5区	111号土坑遺物観察表(石器・石製品).....	117
第46表	5区	111号土坑遺物観察表(鉄製品).....	117
第47表	5区	土坑計測表.....	118
第48表	2区	4号溝遺物観察表(土器).....	120
第49表	5区	遺構外遺物観察表(陶磁器類).....	123
第50表		テフラ検出分析結果.....	129
第51表		屈折率測定結果.....	129
第52表		長谷津遺跡における植物珪酸体分析結果.....	134
第53表	2区	縄文土器グリット出土一覧表.....	144
第54表	3区	縄文土器グリット出土一覧表.....	145
第55表	4区	縄文土器グリット出土一覧表.....	145
第56表	5区	縄文土器グリット出土一覧表.....	145
第57表	4号住居出土石器・石材一覧表(4区).....	146	
第58表	5号住居出土石器・石材一覧表(4区).....	146	
第59表	6号住居出土石器・石材一覧表(4区).....	146	
第60表	69号土坑出土石器・石材一覧表(4区).....	146	
第61表	73号土坑出土石器・石材一覧表(4区).....	146	
第62表	81号土坑出土石器・石材一覧表(4区).....	146	
第63表	82・83号土坑出土石器・石材一覧表(4区).....	146	
第64表	97号土坑出土石器・石材一覧表(4区).....	146	
第65表		遺構別剥片出土量一覧表.....	146
第66表		包含層出土石器・石材一覧表(3区).....	147
第67表		包含層出土剥片一覧表.....	147

写真図版

P L. 1	4区 2面全景 (南から) 2区 2面全景 (東から) 2区 2面全景 (南から) 3・4区 2面全景 (北から) 5区 2面全景 (西から)		4区 60号土坑全景 (南から) 4区 60号土坑セクション (南から) 4区 63号土坑全景 (南西から) 4区 63号土坑セクション (南西から)
P L. 2	4区 4号住居遺物出土状況 (南から) 4区 4号住居全景 (南から) 4区 4号住居セクションB-B' (南から) 4区 4号住居遺物出土状況 (北西から) 4区 4号住居遺物出土状況 (南西から)		P L. 9 4区 69・70号土坑遺物出土状況 (南東から) 4区 69・70号土坑セクション (南東から) 4区 72号土坑全景 (南西から) 4区 72号土坑セクション (南から) 4区 73号土坑遺物出土状況 (南から) 4区 73号土坑セクション (南東から) 4区 81号土坑全景 (東から) 4区 81号土坑セクション (東から)
P L. 3	4区 4号住居炉全景 (北東から) 4区 4号住居炉セクションA-A' (東から) 4区 4号住居炉掘り方セクションA-A' (東から) 4区 4号住居掘り方全景 (南から) 4区 5・6号住居遺物出土状況全景 (南から)		P L. 10 4区 91号土坑全景 (南から) 4区 91号土坑セクション (南から) 4区 159号土坑全景 (北から) 4区 159号土坑セクション (北から) 4区 59号土坑全景 (東から) 4区 59号土坑セクション (東から)
P L. 4	4区 5・6号住居全景 (南から) 4区 6号住居全景 (南から) 4区 6号住居遺物出土近接 4区 6号住居炉全景 (南東から) 4区 6号住居炉セクションA-A' (南西から)		P L. 11 4区 82・83号土坑遺物出土状況 (南東から) 4区 82・83号土坑セクション (南東から) 4区 97号土坑全景 (東から) 4区 97号土坑セクション (東から) 4区 98号土坑全景 (北から) 4区 98号土坑セクション (南から) 4区 108号土坑全景 (北西から) 4区 110号土坑全景 (西から) 1区 2号土坑全景 (西から) 1区 2号土坑セクション (西から)
P L. 5	4区 6号住居掘り方全景 (南から) 4区 6号住居炉掘り方全景 (南から) 4区 5号住居セクションA-A' (南東から) 4区 5号住居セクションB-B' (東から) 4区 5号住居全景 (南から) 4区 5号住居遺物出土近接 4区 5号住居炉全景 (南から) 4区 5号住居炉セクションA-A' (南から)		P L. 12 2区 6号土坑全景 (南から) 2区 6号土坑セクション (南西から) 2区 11号土坑全景 (西から) 2区 11号土坑セクション (東から) 2区 12号土坑全景 (北東から) 2区 12号土坑セクション (東から) 2区 13号土坑全景 (西から) 2区 13号土坑セクション (東から)
P L. 6	4区 5・6号住居掘り方全景 (南から) 4区 5号住居掘り方全景 (東から) 2区 1号埋設土器全景 (南西から) 2区 1号埋設土器出土状況近接 4区 2号埋設土器全景 (南から) 4区 2号埋設土器セクション (南西から) 4区 3号埋設土器出土状況 (南東から) 4区 3号埋設土器セクション (東から)		P L. 13 2区 14号土坑全景 (西から) 2区 14号土坑セクション (西から) 2区 15号土坑全景 (西から) 2区 15号土坑セクション (西から) 2区 16号土坑全景 (南から) 2区 16号土坑セクション (南から) 2区 17号土坑全景 (東から) 2区 17号土坑セクション (東から)
P L. 7	4区 3号獨立柱建物全景 (南西から) 1号ピット全景 (南から) 1号ピットセクション (南東から) 2号ピットセクション (西から)		P L. 14 2区 24号土坑全景 (南から) 2区 24号土坑セクション (南から) 2区 26号土坑全景 (南から)
P L. 8	3号ピット全景 (南西から) 3号ピットセクション (南から) 4号ピット全景 (南西から) 4号ピットセクション (南西から)		

	2区 26号土坑セクション (南から)		4区 93号土坑全景 (南西から)
	2区 27号土坑全景 (南から)		4区 93号土坑セクション(南から)
	2区 27号土坑セクション (南から)		4区 95号土坑全景 (北から)
	2区 28号土坑全景 (南から)		4区 95号土坑セクション (南から)
	2区 28号土坑セクション (南から)		4区 96号土坑全景 (南東から)
P L. 15	2区 29号土坑全景 (南東から)		4区 96号土坑セクション(南から)
	2区 29号土坑セクション (東から)	P L. 21	4区 99号土坑全景 (南から)
	2区 30号土坑全景 (南西から)		4区 99号土坑セクション (南から)
	2区 30号土坑セクション (西から)		4区 109号土坑全景 (南西から)
	2区 32号土坑全景 (南から)		4区 109号土坑セクション(南西から)
	2区 32号土坑セクション (南西から)		5区 116号土坑全景 (南東から)
	2区 34号土坑全景 (南から)		5区 116号土坑セクション (東から)
	2区 34号土坑セクション (南から)		5区 122号土坑全景 (南東から)
P L. 16	2区 35号土坑全景 (南から)		5区 122号土坑セクション (南から)
	2区 35号土坑セクション (南から)	P L. 22	5区 123号土坑全景 (南東から)
	2区 36号土坑全景 (南から)		5区 123号土坑セクション (南から)
	2区 36号土坑セクション (南から)		5区 125号土坑全景 (西から)
	2区 37号土坑全景 (南から)		5区 125号土坑セクション (南から)
	2区 37号土坑セクション (南から)		5区 126号土坑 全景 (北東から)
	2区 39号土坑全景 (南から)		5区 126号土坑セクション(北東から)
	2区 39号土坑セクション (南から)		5区 129号土坑全景 (南から)
P L. 17	2区 40号土坑全景 (南から)		5区 129号土坑セクション (南から)
	2区 40号土坑セクション (南東から)	P L. 23	5区 131号土坑全景 (南東から)
	2区 42号土坑全景 (南東から)		5区 131号土坑セクション (南東から)
	2区 42号土坑セクション (南から)		5区 133号土坑全景 (東から)
	2区 43号土坑全景 (南から)		5区 133号土坑セクション (東から)
	2区 43号土坑セクション (南から)		5区 135号土坑全景 (北東から)
	2区 44号土坑全景 (南から)		5区 135号土坑セクション(北から)
	2区 44号土坑セクション (南から)		5区 137号土坑全景 (西から)
P L. 18	2区 47号土坑全景 (南東から)		5区 137号土坑セクション (南から)
	2区 47号土坑セクション (南東から)	P L. 24	5区 140号土坑全景 (北東から)
	4区 64号土坑全景 (南から)		5区 140号 土坑セクション (北東から)
	4区 64号土坑セクション (東から)		5区 143号土坑全景 (南東から)
	4区 65号土坑全景 (南から)		5区 143号土坑セクション (東から)
	4区 65号土坑セクション (南から)		5区 151号土坑全景 (北東から)
	4区 67号土坑全景 (南西から)		5区 151号土坑セクション (北東から)
	4区 67号土坑セクション (南西から)		5区 152号土坑全景 (東から)
P L. 19	4区 74号土坑全景 (南から)		5区 152号土坑セクション (南東から)
	4区 74号土坑セクション (南から)	P L. 25	5区 153号土坑全景 (南東から)
	4区 76号土坑全景 (南から)		5区 153号土坑セクション (南東から)
	4区 76号土坑セクション (南から)		4区 53号土坑全景 (南東から)
	4区 79号土坑全景 (東から)		4区 53号土坑セクション (南東から)
	4区 79号土坑セクション (東から)		4区 55号土坑全景 (南東から)
	4区 85号土坑セクション (南から)		4区 55号土坑セクション (南から)
	4区 87号土坑セクション (東から)		4区 58号土坑全景 (南東から)
P L. 20	4区 88号土坑全景 (南東から)		4区 58号土坑セクション (南東から)
	4区 88号土坑セクション (南東から)	P L. 26	4区 62号土坑全景 (北西から)

	4区 62号土坑セクション (南東から)		2区 3号住居3号ピット全景 (西から)
	4区 80号土坑全景 (西から)	P L. 33	2区 1号竪穴状遺構全景 (西から)
	4区 80号土坑セクション (北から)		2区 1号竪穴状遺構セクションA-A' (西から)
	4区 94号土坑全景 (東から)		2区 1号竪穴状遺構セクションB-B' (南から)
	4区 94号土坑セクション (東から)		2区 1号ピット全景 (西から)
P L. 27	2区 包含層遺物出土状況 (南から)		2区 1号ピットセクション (西から)
	2区 包含層遺物出土状況 (西から)	P L. 34	3、4区 1面高全景 (北から)
	2区 包含層遺物出土状況		3区 高近接 (西から)
	2区 包含層遺物出土近接 (東から)		3区 畝セクション (北から)
	3区 包含層遺物出土状況 (西から)		4区 高近接 (北から)
	3区 包含層遺物出土近接	P L. 35	4区 畝セクション (北から)
	4区 包含層遺物出土近接		2区 8号土坑全景 (南から)
	4区 包含層遺物出土近接		2区 8号土坑セクション (南から)
P L. 28	遺跡遠景 (東から)		2区 10号土坑全景 (南から)
	3・4区 1面全景 (南から)		2区 10号土坑セクション (南から)
P L. 29	2区 2号住居全景 (北東から)		2区 18号土坑全景 (東から)
	2区 2号住居セクションA-A' (南東から)		2区 18号土坑セクション (東から)
	2区 2号住居セクションB-B' (北東から)		4区 1面 遺構検出作業
	2区 2号住居遺物近接		2区 2号住居検出作業
	2区 2号住居離全景 (北東から)	P L. 36	4区 1号掘立柱建物全景 (南から)
P L. 30	2区 2号住居西離セクションA-A' (北東から)		2号ピットセクション (東から)
	2区 2号住居西離セクションB-B' (南東から)		3号ピットセクション (南東から)
	2区 2号住居西離遺物出土近接		4号ピットセクション (南西から)
	2区 2号住居掘り方全景 (北東から)	P L. 37	5号ピットセクション (南西から)
	2区 2号住居西離煙道部全景 (北東から)		4区 2号掘立柱建物全景 (南西から)
	2区 2号住居東離煙道部セクションA-A' (南西から)		1号ピットセクション (東から)
	2区 2号住居1号ピット全景 (東から)		2号ピットセクション (東から)
	2区 2号住居4号ピット全景 (東から)	P L. 38	4号ピットセクション (東から)
P L. 31	2区 3号住居全景 (西から)		5号ピットセクション (東から)
	2区 3号住居セクションA-A' (南から)		6号ピットセクション (東から)
	2区 3号住居セクションB-B' (西から)		7号ピットセクション (東から)
	2区 3号住居離全景 (西から)		8号ピットセクション (東から)
	2区 3号住居離セクションA-A' (西から)	P L. 39	9号ピットセクション (東から)
P L. 32	2区 3号住居離セクションB-B' (南から)		5区 1号礎石建物全景 (南から)
	2区 3号住居炭化物出土状況 (南から)		1号礎石全景 (南から)
	2区 3号住居掘り方全景 (西から)		2号礎石全景 (南から)
	2区 3号住居掘り方セクションA-A' (西から)		2号礎石セクション (南から)
	2区 3号住居1号ピット全景 (西から)		3号礎石下面全景 (東から)
	2区 3号住居1号ピットセクション (西から)	P L. 40	3号礎石全景 (西から)
	2区 3号住居2号ピット全景 (西から)		4号礎石全景 (南から)
			5号礎石全景 (南から)
			5号礎石セクション (南から)
			5区 111号土坑遺物出土状況 (南から)
			5区 111号土坑セクション (南から)
			5区 112号土坑全景 (南から)

	5区 112号土坑セクション (南から)	P L. 49	4区4号住居出土遺物 (3)
	5区 113号土坑全景 (南西から)		4区6号住居出土遺物
	5区 113号土坑セクション (南西から)	P L. 50	4区5号住居出土遺物
	5区 114号土坑全景 (南から)	P L. 51	2区1号埋設土器
	5区 115号土坑全景 (南西から)		4区2号埋設土器
P L. 41	1区 1号溝全景 (北から)		4区3号埋設土器
	1区 1号溝セクション (南から)	P L. 52	4区60号土坑出土遺物
	1区 2号溝全景 (南東から)		4区69号土坑出土遺物
	1区 3号溝全景 (北西から)		4区70号土坑出土遺物
	2区 2号溝セクション (南東から)		4区73号土坑出土遺物
P L. 42	2区 3号溝セクション (北西から)	P L. 53	4区81号土坑出土遺物
	2区 4号溝全景 (東から)		4区159号土坑出土遺物
	1区 5号溝全景 (南東から)		4区82号土坑出土遺物
	2区 6号溝全景 (北西から)		4区83号土坑出土遺物
	2区 7号溝全景 (東から)	P L. 54	4区97号土坑出土遺物
P L. 43	2区 4号溝セクション (南東から)		4区98号土坑出土遺物
	1区 5号溝セクション (北東から)		4区110号土坑出土遺物
	2区 6号溝セクション (東から)		1区遺構外出土遺物
	2区 7号溝セクション (南から)		2区遺構外出土遺物 (1)
	2区 8号溝全景 (南東から)	P L. 55	2区遺構外出土遺物 (2)
	4区 9号溝全景 (南から)	P L. 56	2区遺構外出土遺物 (3)
	2区 8号溝セクション (南から)	P L. 57	2区遺構外出土遺物 (4)
	2区 9号溝セクション (南から)	P L. 58	2区遺構外出土遺物 (5)
P L. 44	4区 10号溝全景 (北から)	P L. 59	2区遺構外出土遺物 (6)
	4区 11号溝全景 (西から)	P L. 60	2区遺構外出土遺物 (7)
	4区 10号溝セクション (南から)	P L. 61	2区遺構外出土遺物 (8)
	4区 11号溝セクション (南東から)	P L. 62	2区遺構外出土遺物 (9)
	4区 12・13号溝全景 (北から)	P L. 63	3区遺構外出土遺物
	4区 12号溝セクション (南から)	P L. 64	4区遺構外出土遺物 (1)
P L. 45	1区 旧石器試掘トレンチセクション (南から)	P L. 65	4区遺構外出土遺物 (2)
	2区 旧石器試掘全景 (南から)	P L. 66	4区遺構外出土遺物 (3)
	2区 旧石器試掘トレンチ断面調査	P L. 67	4区遺構外出土遺物 (4)
	2区 旧石器試掘トレンチセクション (北から)	P L. 68	4区遺構外出土遺物 (5)
	3区 旧石器トレンチ全景 (南東から)	P L. 69	4区遺構外出土遺物 (6)
	3区 旧石器試掘トレンチ (西から)	P L. 70	4区遺構外出土遺物 (7)
	4区 旧石器試掘トレンチ (南から)	P L. 71	4区遺構外出土遺物 (8)
	4区 旧石器試掘トレンチセクション (東から)	P L. 72	4区遺構外出土遺物 (9)
P L. 46	1区 基本土塊 (北東から)	P L. 73	4区遺構外出土遺物 (10)
	2区 基本土層 (西から)	P L. 74	4区遺構外出土遺物 (11)
	3区 基本土層 (西から)		5区遺構外出土遺物
	4区 基本土層 (西から)		2区2号住居出土遺物
	5区 基本土層 (南東から)		2区3号住居出土遺物
P L. 47	4区4号住居出土遺物 (1)		5区111号土坑出土遺物
P L. 48	4区4号住居出土遺物 (2)		

第1章 調査の経過と方法

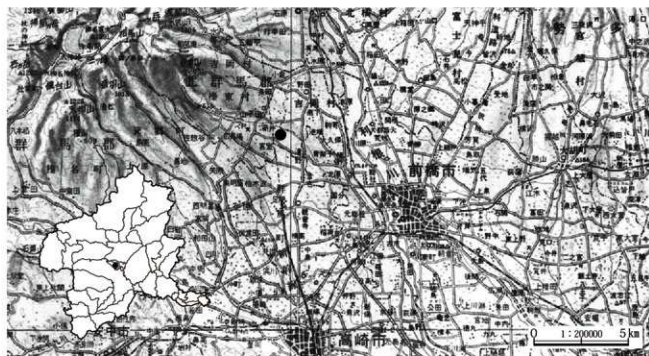
第1節 調査に至る経緯

主要地方道高崎渋川線は、高崎市と渋川市を最短で結び、県央部を縦断する重要な道路として機能している。ところが、家屋の密集する地域を走るため、幅員が狭く右折車線が少ないなどの要因から慢性的な交通渋滞が生じていた。この解決策として計画されたのが高崎市浜尻町から吉岡町小倉を結ぶバイパスの整備事業である。バイパス整備は分割して進められ、第1期分は高崎市小八木町から高崎市金古町までの6.2kmが平成14年3月に開通している。これに続く2期工事は、高崎市金古町から吉岡町小倉間の5.4kmが平成24年度完成を目指して進められることとなった。第1期工区において、小八木志志貝戸遺跡をはじめ合計11箇所及ぶ埋蔵文化財発掘調査の発掘調査が実施され、その成果については9冊の報告書にまとめて既に公刊済みである。第2期工区についても周知の埋蔵文化財包蔵地を通過することが判明したため、平成17年10月に工事主体となる群馬県土木整備部渋川土木事務所からの依頼を受け、緊急発掘の必要性の可否とその範囲を確定するための試掘調査が群馬県教育委員会文化財保護課によって実施された。その結果、縄文時代の文化層が認められた。試掘調査の結果をもとに、埋

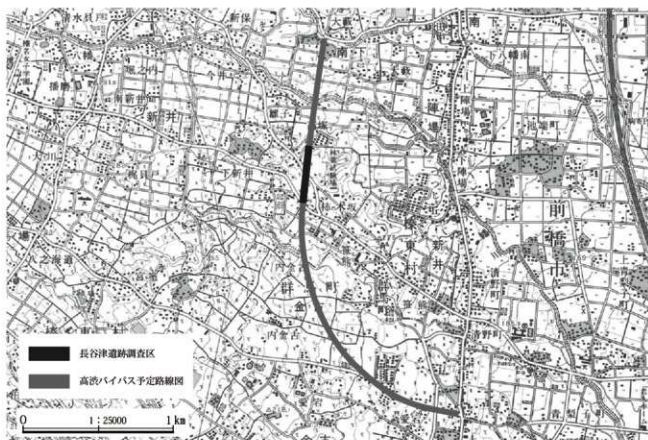
蔵文化財の行政措置が必要な旨を、群馬県教育委員会文化財保護課から渋川土木事務所へ通知するとともに、地元の榛東教育委員会と保存措置についての協議を行い、埋蔵文化財保護と開発事業との調整を図るために記録保存としての緊急発掘調査を行うことが決定された。発掘調査の実施主体として群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなり、下記内容で埋蔵文化財の緊急発掘調査が実施される運びとなった。長谷津遺跡は当初、長久保古墳群に隣接するため「長久保遺跡」として調査を開始したが、平成19年4月から調査時に遺跡名が「長谷津遺跡」であるということが確認された。以下の表に調査時及び変更後の正式遺構名称を記す。平成21年1月の調査時には「長谷津遺跡」として調査をおこなった。

第1表 調査時及び変更後の正式遺構名称

調査期間	調査時遺跡名称	正式遺跡名称	調査区
平成19年1月から3月	長久保遺跡	長谷津遺跡	1、2区
平成19年4月から6月	長久保遺跡	長谷津遺跡	3、4区
平成21年1月から3月	長谷津遺跡	長谷津遺跡	5区



第1図 遺跡位置図（国土地理院1:200,000「長野」平成10年2月1日発行使用「宇都宮」平成18年4月1日発行使用）

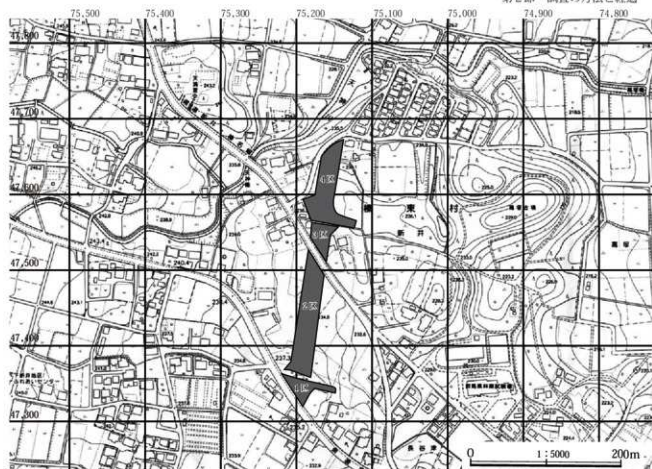


第2図 遺跡調査区位置図 (国土地理院1:25,000 「伊香保」平成14年9月1日発行使用 「武川」平成14年10月1日発行使用 「下室田」平成14年5月1日発行使用 「前橋」平成22年12月1日発行使用)

第2節 調査の方法と経過

遺跡が存在する群馬県は国家座標第IX系にあたることから調査区の設定にあたっては調査区グリッドを国家座標値に換算しやすいうように遺跡調査範囲の南東を基点に設定することとした。各グリッドは5m四方を1単位とした。なお、当事業団ですでに調査を終了した高崎渋川線改築工事(1期工区)に関連する遺跡発掘調査においては、グリッドの表記は100m単位で西方向へ算用数字を使用し北方向へはアルファベットを用いていたが、今回の調査では調査地が隔っていることや、最北地点の青梨子上屋敷遺跡と本遺跡間約1.7kmには遺跡が確認されていないことなどから、グリッド表記については下3桁のみを使用した。調査区の区割りは現存する道路及び用地境を考慮して設定を行い、南から1区とし順次5区まで設定した。遺構番号は1区から4区までは遺構毎に通して付番したが、平成21年1月調査の5区においては新たに遺構番号を付番が、整理段階において、通番に変更をした。調査は平成19年1月から3月まで、調査区南側を1区とし、現道を挟んだ北側を2区の調査をおこ

なった。平成19年4月から6月までの調査では、現道を挟んで3区と4区に分け調査を行った。なお、3・4区調査時は本線のみでの調査であったため、4区調査区西側隣接する道路取り付け部分については、未調査であったため十日市遺跡発掘調査時に並行して長谷津遺跡の5区として、平成21年1月に調査を行った。発掘調査はバックホーによる表土掘削を行い、作業員による鋤簾、移植ゴテ等での遺構検出、精査作業という手順で調査を進めた。表土を除去し、Hr-FA直上面を1面とし、古墳時代から中近世面とし遺構確認調査を行った。2面はトレンチ遺構確認調査で縄文遺構が確認されていたため、黒ボク土(VII層)上面まで掘り下げ、検出作業を行った。また、旧石器試掘のため2×4のグリッドを設定し調査を行った。遺構記録測量は、原則として断面、平面測量において1/10、1/20、1/40、1/100を遺構ごとに選択して行い、平面測量は委託業者が行った。記録写真撮影は6×7及びデジタルカメラを使用した。調査区全景写真撮影は委託業者による空中撮影を行った。



第3図 遺跡調査区範囲図(棟東村地形図1:2,500 平成10年3月測図使用)

発掘調査日誌抄録

平成18年度(2007)

1. 11 重機による表土掘削開始。プレハブ設置
- 12 1区作業員による遺構検出作業開始
- 15 1面(Hr-FA直上での遺構検出) Hr-FA以降の溝の検出
- 16 古墳想定域確認調査 Hr-FA面遺構検出作業 保護課試験箇所の再確認
- 18 トレンチ調査(1・2号トレンチ) 1号溝検出作業 調査区東部トレンチ調査
- 19 1区東側より溝検出 1区2箇所トレンチ(F A下確認、遺構なし)
- 22 1区2～5号溝精査 2区1面表土掘
- 23 1区1面全景写真 1～5号溝全景 2区5号トレンチ掘削精査
- 24 1区委託業者による平面測量及び遺物取り上げ 2区4～7号トレンチ掘削精査
- 25 2区竪穴状遺構、土坑、溝検出作業
- 30 2区1号竪穴状遺構全景(1号住居を竪穴状遺

構に変更)

- 31 1区重機による掘削 2面遺構検出作業
2. 1 2区1・2号住居電検出作業 1号住掘り方
- 2 1区2面精査 2区南側重機による2面掘削及び遺構検出作業
- 6 1区2面下トレンチ 2区縄文土器グリッド出土遺物取り上げ
- 7 1区旧石器試掘開始
- 9 2区2面遺構確認
- 13 1区基本土層記録、2区縄文包含層トレンチ
- 14 1区調査終了
- 20 1～3号住居検出作業
- 28 2区調査区南部より旧石器試掘開始
3. 2 2区航空撮影
- 5 縄文時代包含層調査
- 20 調査区中央部遺構確認(縄文包含層下層)
- 26 現場最終日 撤収作業
- 平成19年度(2008)
4. 10 3区遺構確認調査

第1章 調査の経過と方法

- | | | | |
|-----|--|--------------|--------------------------------|
| 12 | 4区文化財保護課試掘トレンチ精査 | 18 | 3区VI層下試掘トレンチ 4区東部、南部遺構
検出作業 |
| 27 | 3区高検出作業 | 19 | 3・4区旧石器試掘調査 4区土坑検出作業 |
| 5、2 | 4区掘立柱建物、土坑、溝、高検出作業 | 20 | 高所作業車による全景(3・4区3面)撮影 |
| 8 | 3・4区1面航空撮影、航空測量 | 26 | 現場最終日 撤収作業 |
| 14 | 3区縄文包含層調査 | 27 | 4区重機による埋め戻し開始 |
| 18 | 4区縄文包含層調査・遺物取り上げ | 29 | 発掘機材等引き上げ 埋め戻し終了 |
| 22 | 4区石囲炉周辺精査 北部縄文包含層調査 | | |
| 28 | 4区縄文包含層グリッド調査 | | |
| 29 | 4区4住検出作業 | | |
| 6、1 | 4区4・5号住居石囲炉断ち割り調査、2・3
号埋設土器検出作業 | 平成21年度(2010) | |
| 4 | 4区4・5号住居石囲炉完掘 1～3号埋設土器
精査と土坑、陥穴検出作業 | 1、8 | 5区表土掘削 1面遺構検出作業 |
| 6 | 4区4～6号住居検出作業 縄文包含層遺構確
認 | 14 | 礎石建物と土坑検出作業 |
| 11 | 3・4区2面航空撮影、航空測量 | 16 | 土坑出土遺物取り上げ |
| | | 20 | 1面全景写真 |
| | | 21 | 2面掘削、遺構検出作業(遺構なし) |
| | | 22 | 3面掘削、遺構検出作業 土坑精査 |
| | | 26 | 土坑全景 北壁基本土層記録 |
| | | 27 | 3面全景写真、器材撤収、5区調査終了 |

第3節 基本層序

本遺跡の基本層序は微高地と低地で詳細な部分で異なる様相も見られるが、基本的な堆積層は遺跡内及び周辺遺跡堆積層と同様であるといえる。

なお、分層については、火山灰考古学研究所の分析結果を基本とした。(詳細は第4章参照)

第4図基本土層については以下に解説する。

I層は現在の耕作土である。灰色・黄色を帯びた褐色を呈している。場所によって異なるが浅間B軽石(以後As-Bと略す)を僅かに混入する。締まりのない砂質状の土質である。

II層はAs-B降下後の中世から近世にかけての耕作土である。色調はI層に類似するが、I層よりAs-Bの混入が多い層。

II'層はII層よりAs-Bを多量に含む層。

II層下位には1108年(天仁元年)に浅間山が噴火した時の火山噴出物であるAs-B一次堆積層である。低地部で僅かに堆積が確認されたが、微高地部分では後世の耕作などにより踏み込まれているため、本遺跡ではほとんど確認されなかった。

III層は6世紀前半と推定される榛名山二ツ岳の噴火に伴う火山噴出物である榛名山二ツ岳軽石(以後Hr-FPと略

す)が黒褐色土層に踏み込まれた土層である。黒色土中に混入する軽石も少量である。軽石の一次堆積層は確認されていない。

IV層は6世紀初頭に榛名山二ツ岳が噴火した時の火山噴出物である榛名山二ツ岳火山灰(以後Hr-FAと略す)である。微高地、低地を問わず遺跡全体に一次堆積層が見られる。

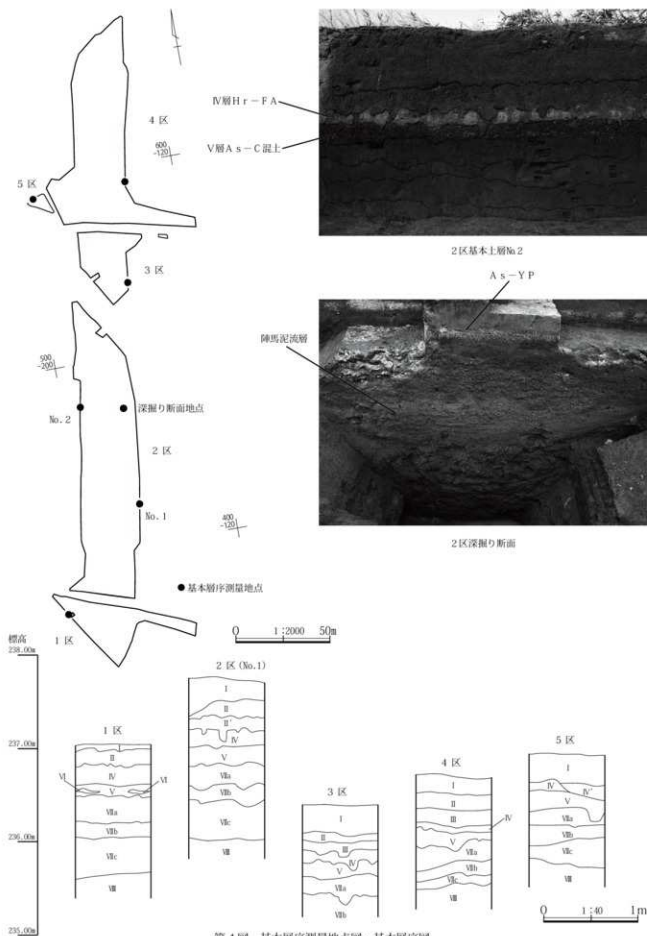
IV'層は黒色土にHr-FAが踏み込まれた土層である。

V層は古墳時代初頭に噴火した時の火山噴出物である浅間C軽石(以後As-Cと略す)が混入する土層である。この層もIV層同様に、遺跡内のほとんどの場所で確認できる。

VI層はAs-Cの一次堆積層である。調査区の一部で僅かに確認できた程度である。

VII層は黒ボク土層である。この土層中には縄文時代の示標となるテフラが多く挟まれているため、a、b、cに分層をおこなった。VII a層は黒色粘質土で縄文時代後期に相当する土層。VII b層は淡色黒ボク土で褐色土主体で縄文時代中期に相当する土層。VII c層はAs-Kn(浅間六合軽石 5400年前)を混入する土層。

VIII層はローム漸移層である。やや粘性を帯びる黄褐色土塊を含む土層。



第4図 基本層序測量地点図・基本層序図

第2章 地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境

長谷津遺跡は群馬県のほぼ中央部、北群馬郡榛東村に所在する。榛東村は村名からも分かるように上毛三山の雄峰榛名山の東麓に位置する。村域は北西部の相馬山(1,141m)を頂点とし、東南東方向に傾斜する地形を呈している。遺跡はこの相馬山を起源とする山体崩落により流出した岩屑なだれで形成された相馬ヶ原扇状地上に立地する。扇状地上には榛名山麓を起源とする滝沢川、堂ノ入沢、午王頭川、八幡川、上蟹沢川、下蟹沢川、梁谷川などが等間隔で南東方向に流れ扇状地面を浸食している。遺跡は利根川の支流である八幡川と牛池川の開析によって形成された台地上に立地する。標高は236mを測る。

村の北西部には吾妻山(830m)、鷹の巣山(956m)、相馬山と榛名山の田外輪山にあたる。浸食の進んだ山々が並び、険しい地形を形づくっている。これらの山々の南東部、標高900m～1,000m付近には平坦な面が目につく。これはのちの噴火によって浸食を免れて形成された面と考えられる。村の南西部には、旧陸軍の時代からの演習場となっている相馬ヶ原が広がっている。標高500m～350mの周辺は現在多くの住宅や工場が進出しているが、旧来は水を得にくい地域であったため、村の畑作の中心地となってきた。300m付近は、かつて山麓湧水帯にあたり、溜池が多く分布し、それを水源にして水田地帯として発達した。この350m～200m付近までが村の集落の集中地帯であり、農業生産の中心となっている。ところが、本遺跡の立地する標高220m辺りでは、環境が一変し、地図上でも等高線が複雑となり、土地の高低が顕著となる。桃井城跡周辺から高塚古墳、林業試験場にかけては大小様々な山林が残る丘陵が多くあり、最近では開発が進み、住宅地が広がるようになってきたが、もともとの集落はこれらの丘陵下の低地や、谷間に形成されていた山麓集落であった。

調査区は1区から4区にかけて緩やかに傾斜をしている。最も起伏が大きい1区では、表土下50cm未満で岩屑なだれによる堆積物と考えられる角礫や岩片が現れる場所も存在する。他の調査区でも1m未満で1区と同じように角礫が集中して現れる部分が数カ所ある。これらの

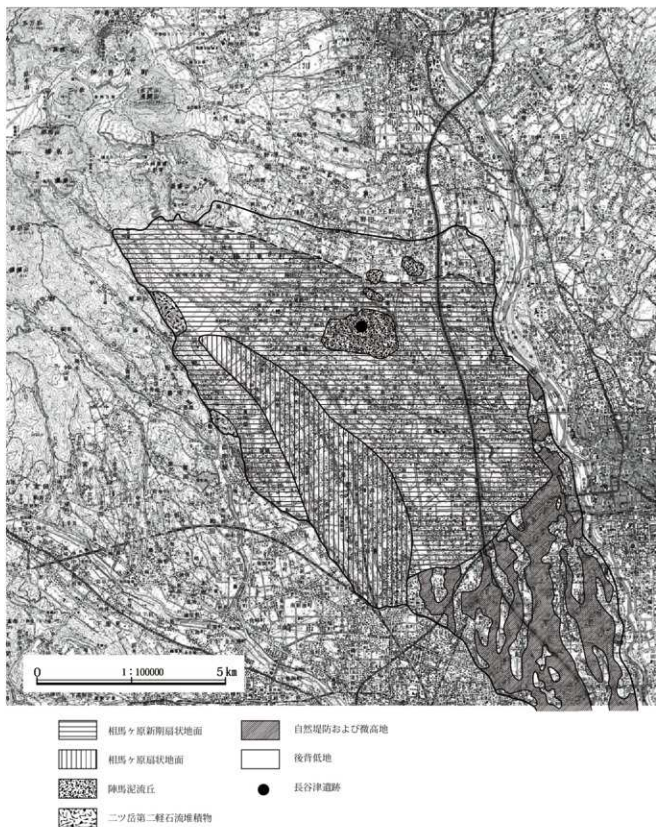
角礫などは縄文時代や古墳時代の住居などから数多く出土している。

本遺跡がある榛東村をはじめ、榛名山東麓の地形の基礎をなす相馬ヶ原扇状地は、火山山麓に形成された裾野扇状地である。この形成に関わった河川は榛名山麓に源流を発する白川と午王頭川である。この扇状地の範囲は明確ではないが次のような範囲が示されている。

扇頂は標高600m付近の白川と午王頭川で挟まれた榛東村上野原の山麓付近である。扇端は高崎市日高遺跡で見られるような微高地をはじめとする自然堤防上微高地が張り出している標高110m付近である。扇側は南限が白川上流部から井野川のラインで井野川の右岸は白川扇状地である。北限は午王頭川から駒寄川のラインであり、駒寄川の東側は前橋台地である。この相馬ヶ原扇状地に堆積する岩屑なだれは「陣場岩屑なだれ」と呼ばれ、扇状地上に大小多くの泥流丘を形成している。大きなものには、群馬県林業試験場が立地する広大なものから、小さい古墳のような規模のものまで様々な大きさや形状をしたものが存在する。遺跡はこの泥流丘上に立地している。本遺跡をはじめ、遺跡周辺の地形に大きな影響を与えているこの陣場岩屑なだれの起源については、前橋市総社町北部の利根川右岸に、前橋泥流の上位に火山灰質の泥流堆積物が認められ、この堆積物の直下には浅間白糸軽石(As-Sr)が、上位には板鼻黄色軽石(As-YP)が堆積している。このことから、この泥流の堆積年代は1.4万年前と推定され、これらが堆積物岩塊相と基質相の組み合わせからなることから、山体崩落に伴う岩屑なだれの堆積物に由来していると考えられる。この堆積物の層位や分布域、そして含まれる岩片の特徴から、この堆積物は榛名山東麓に分布する陣場岩屑なだれと同一のものと推定される。このことから、陣場岩屑なだれの起源は1.4万年前と考えられるが、このことは本遺跡の3面下のトレンチ断面においてAs-YP層下に陣場泥流層が認められていることから明確な時期判断資料となった。この泥流層は非常に厚く、重機による掘削においても泥流下の面は確認できなかった。このように厚く堆積している

陣場岩屑なだれの影響によって相馬ヶ原扇状地上の遺跡では旧石器時代面についての調査は行われていないのが

現状である。しかし、これはこの地域一帯の旧石器時代の存在を否定するものではない。



第5図 長谷津遺跡周辺の地形分類図（『群馬町誌 資料編 自然』平成7年12月1日発行より転載）

（この図の転載にあたっては高崎市立中央図書館長の許可を得て使用したものである。）

（国土地理院1:50,000「前橋」平成10年3月1日発行使用 「榛名山」平成10年3月1日発行使用）

第2節 歴史的環境

樺東村は、樺名山系から流れ出す幾筋もの中小河川により小規模な扇状地形をところどころに形成している。滝沢川、堂ノ入沢、午玉頭川、八幡川、上蟹沢川、下蟹沢川、染谷川などの河川とほぼ等間隔に、北から東南へ流れている。遺跡の多くはこれらの流域に沿って存在している。近年、村内における遺跡の調査は多くなり、その実態も解明されつつある。しかし、なお周辺の市町村に比べると古墳や包蔵地は多くあるものの、発掘調査事例は少ないのが実情である。以下に本遺跡周辺を中心に樺東村に所在する遺跡を時代別に記す。

旧石器時代 地理的環境でも述べたとおり、樺東村を含む馬ヶ原扇状地上の遺跡からは旧石器文化面の調査は困難なため発掘調査例が少なく旧石器についての報告は現状ではされていない。

縄文時代 草創期・早期の時期は土器小片の出土は認められるが、それらに伴う遺構は確認されていない。本遺跡からも草創期の石器や早期の土器片が出土しているが、遺構は検出されていない。

前期から中期にかけての遺跡は堂ノ入沢左岸の台地上に、前期包含層が確認された間谷塚遺跡や大形石棒が出土した小林沢遺跡がある。また、上蟹沢左岸台地上には本遺跡や十二前遺跡がある。これらの遺跡からは加曾利E3・4式土器を伴う竪穴住居が検出されている。十二前遺跡は加曾利E3式期の大集落の様相をもつ遺跡である。

後晩期の遺跡は八幡川右岸の台地上に新井遺跡がある。遺跡からは竪穴住居や配石墓群が検出されている。出土遺物は加曾利B1式から安行Ⅲa式が中心である。また、この遺跡は墓域を中心にその周囲に居住空間をもつ集落構造が考えられ、土器の他、土製耳飾や土偶、石棒なども出土しており、人々の精神生活を窺える貴重な遺跡である。滝沢川右岸には国指定史跡でもある茅野遺跡があり、遺跡からは竪穴住居や配石墓などが検出されている。出土遺物も後晩期の土器や土製品、石製品などが出土している。中でも耳飾や岩版の出土数は膨大で耳飾が570点以上、岩版が160点以上にのぼる。本遺跡からも堀之内2式土器を伴う埋設土器などが検出されている。また、隣接する十二前遺跡からも土製耳飾や土製円

盤などの後晩期の遺物が出土している。このように樺東村における縄文時代は中期から後晩期を中心に営まれており、当時の豊かな精神生活の様相が発掘調査からも窺い知ることができる。

弥生時代 当該期の遺構の遺構は確認されていない。これは弥生時代以降に盛んとなる稲作経営の立地要件に大きな要因があると考えられ、縄文時代の後晩期に大集落を形成した人たちは、やがて生活環境の変化により、樺名山麓の台地から豊富な水源を持つ利根川流域の低地部への移動していったのではないだろうか。

古墳時代 「上毛古墳総覧」によると現村内には168基の古墳が搭載されている。村内の古墳の分布を見ると遺跡がある新井地区周辺には139基の古墳が存在している。本遺跡周辺にも多くの古墳があり、遺跡約250m東には県指定史跡でもある6世紀後半構築とされる前方後円墳の高塚古墳がある。群馬大学の調査から筒輪軸や形象埴輪等が確認されている。さらに南東約700mには長久保古墳群、北原古墳群等が存在する。長久保古墳群は住宅団地の造成に伴い調査され、7世紀初頭から7世紀末の間に形成された前方後円墳2基、円墳20基が確認されている。南西方向には6世紀末の山寄せ式の円墳である柿ノ木坂古墳がある。しかし、このように6世紀後半から一気に形成された古墳群文化と対照的に、この時期の集落はおろか遺構の検出例はこれまで報告されていなかった。このことから本遺跡から検出された古墳時代の竪穴住居は村内で初例となる貴重なものである。また、検出された竪穴住居はIir-FA層を掘り込んで構築しているものであったが、3区、4区境で検出された畠はIir-FAで埋没しており、周辺には更に古い集落が存在する可能性があると考えられる。今回の調査で検出された古墳時代の遺構は、今後の村内における発掘調査や古墳時代の様相を解明する上で貴重な資料となるものである。

奈良・平安時代 奈良時代に入ると村内及び周辺遺跡からこの時期の遺構が数多く検出されている。これはこの時期、郷里制は従来の集落を元に設定させる。これを裏付ける資料として藤原宮の調査によって発見された木簡がある。これには表に「上毛野国車評」裏に「上毛野国車評野桃井里大贖帖」と書かれており、「上野毛国

は「上野国」の旧称であり、「車評」は群馬郡の旧名であると考えられる。「評」は「郡」と同意語である。「桃井里」は倭名抄から現在の桃東村に該当すると見られ、「大贄帖」は朝廷への貢進物である。このことから桃井里から鮎が宮廷に献上されていたことを示している。このように7世紀末には朝廷の支配下にあったこの地域は、やがて平安時代には人口も増加し継続的に大集落を形成し発展し続けたと考えられる。この時期の集落遺跡

として御堀遺跡、多屋遺跡、倉海戸遺跡、堂塚遺跡等がある。御堀遺跡では8世紀から11世紀の竪穴住居34軒や土師器、須恵器、灰釉陶器など数多くの遺物が出土している。またこの遺跡は「桃井城址」と重複し、土塁や堀など桃井城址と深い関係をもつ遺構も検出されている。また遺跡は村内の調査された遺跡の中で最も集落規模が大きく、これから考えるとこの集落こそ「桃井郷」の中心的な集落であり、藤原宮出土の木簡もこのあたりのも



第6図 周辺の遺跡位置図 (国土地理院1:25,000「伊香保」平成14年9月1日発行使用「渋川」平成14年10月1日発行使用「下室田」平成14年5月1日発行使用「前橋」平成22年12月1日発行使用)

第2章 地理的環境と歴史的環境

のである可能性が高いとされている。多屋遺跡は9世紀前半から後半にかけてのいる集落である。竪穴住居からは黒土器などが出土している。倉海戸遺跡は竪穴住居が2軒検出され、多量の灰釉陶器が出土している。

中近世 桃井城址は午王頭川と南城寺川にはさまれた台地上に立地し、御堀遺跡と重複する。城は東西約210m、南北190mの地域で西には半円形に空堀を構え、東には

直線的な水堀を掘って、午王頭川分流の河道と南城寺川とを結んでいる。山子田の字「御堀」にある城は桃井城と呼ばれているが、吉岡町の字「大敷」にある城も桃井城と呼ばれている。前者は平城で後者は丘城である。これらの城は同時期に存在し、大敷の城を東城と呼び、山子田の城を西城と呼ばれている。つまり、両城は、2城で対であり、いわゆる別城一郭のものである。

第2表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	概要	文献等
1	長谷津遺跡	桃東村新井	本報告書	
2	宮場遺跡	桃東村新井	縄文時代中期・奈良・平安 散布地。	群馬県文化財情報システム
3	空塚遺跡	桃東村新井	平安時代の竪穴住居1軒。	昭和57年度 桃東村教育委員会調査「桃東村誌」1988
4	十二前遺跡	桃東村新井	縄文時代中期集落。竪穴住居18軒、土坑17基、配石遺構4基	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第8集「十二前遺跡」概報 桃東村教委1999
5	下新井遺跡	桃東村新井	縄文時代後・晩期の集落。墓域。土製耳飾り113点、土偶12点、石棒10点が出土。平安時代の竪穴住居1軒。	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第4集「下新井地区遺跡群」発掘調査概報 桃東村教委1985
6	別分八幡下遺跡	桃東村広場	平安時代の竪穴住居10軒、時期不明土坑16基、溝2条。	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第5集「別分八幡下遺跡 中府神田遺跡」発掘調査概報 桃東村教委1987
7	多屋遺跡	桃東村新井	平安時代の竪穴住居5軒、土坑4基、ビット5基、溝1条。	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第4集「下新井地区遺跡群」発掘調査概報 桃東村教委1985
8	八幡遺跡	桃東村新井	八幡側の護岸工事の際、北陸系の赤土器が出土。県の遺跡台帳には弥生時代の遺跡とあるが、出土土器は古式土器1点で桃東中学校に保管されている。	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第1集「倉海戸遺跡」発掘調査概報 桃東村教委1984「桃東村誌」1988
9	御堀遺跡(桃井城址)	桃東村山子田	奈良・平安時代の集落。中世桃井城に関連する土塁、堀。	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第3集「御堀遺跡」発掘調査報告書 桃東村教委1985
10	清水貝戸遺跡	桃東村新井	弥生時代包含層。平安時代の竪穴住居4軒、時期不明竪穴状遺構1基、土坑6基。	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第9集「清水貝戸遺跡」桃東村教委2000
11	倉海戸遺跡	桃東村山子田	平安時代の竪穴住居2軒、土坑1基。	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第1集「倉海戸遺跡」発掘調査概報 桃東村教委1984
12	柳沢遺跡	桃東村山子田	奈良・平安 散布地。	群馬県文化財情報システム
13	雲符塚	桃東村山子田	関谷塚古墳群内。円墳	群馬県遺跡地図 1973 群馬県文化財情報システム
14	道城遺跡	桃東村長岡	奈良・平安 散布地。	群馬県文化財情報システム
15	関谷遺跡	桃東村山子田	奈良・平安 散布地。	群馬県文化財情報システム
16	穴薬師遺跡	桃東村山子田	関谷塚古墳群内。円墳4基	群馬県遺跡地図 1973 群馬県文化財情報システム
17	中府神田遺跡	桃東村山子田	時期不明の土坑10基、溝5条	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第5集「別分八幡下遺跡 中府神田遺跡」発掘調査概報 桃東村教委1987
18	平塚遺跡	桃東村長岡	縄文 散布地。出土遺物は桃東中学校に保管されている。	「桃東村誌」1988
19	茅野遺跡	桃東村長岡	竪穴住居、墓、水場などで構成される縄文時代後期から晩期にかけての大規模な集落。土製耳飾り577点、岩盤200点以上出土。因指定史跡。	桃東村埋蔵文化財発掘調査報告書第10集「史跡 茅野遺跡(一)遺構編」桃東村教委2005
20	台・小林沢遺跡	桃東村長岡	縄文時代中期から後期の土器片や石棒が出土。	平成6年 桃東村教育委員会・山武若古学研究所調査
21	舞台遺跡	吉岡町南下	縄文時代前期の竪穴式住居1軒。平安時代から中近世にかけての土坑、溝。	群馬文 2010「年報29」
22	千代開北遺跡	吉岡町北上	平安時代の竪穴住居2軒。平安時代から中近世にかけての土坑、溝。	群馬文 2010「年報29」
23	千代開南	吉岡町南下	平安時代の竪穴住居11軒。平安から中近世の土坑、ビット。	群馬文 2010「年報29」
24	住道遺跡	吉岡町南下	平安時代の竪穴住居9軒。中世の掘立柱建物35棟、土坑墓7基。平安時代から中近世にかけての土坑、ビット群。中世	群馬文 2010「年報29」
25	十日市遺跡	吉岡町南下	縄文時代前期住居2軒、土坑、包含層。奈良・平安時代の竪穴住居71軒。土坑、中世掘立柱建物25棟、土坑墓5基。	群馬文 2009「年報28・29」

No.	遺跡名	所在地	概 要	文献等
26	畑中遺跡	吉岡町北下	平安時代の竪穴住居6軒。時期不明の土坑、溝。	吉岡町文化財調査報告書第12集「畑中遺跡」 吉岡町教委2000
27	長山遺跡	吉岡町長山	平安時代の竪穴住居6軒。灰輪陶器片出土。	平成7年吉岡町教委調査 群理文 1996「年報15」
28	中御所遺跡	吉岡町陣場	平安時代の竪穴住居3軒。掘立柱建物1棟。	吉岡町文化財調査報告書第13集「中御所遺跡」 吉岡町教委2001
29	清里・陣場遺跡	吉岡町陣場・ 前橋池端	奈良・平安時代の竪穴住居64軒、土坑、溝。中世の井戸。	「清里・陣場遺跡」清里地区埋蔵文化財発掘調査 報告書第1集 群理文 1981「吉岡町の遺跡」吉岡町教育委員会 1983
30	金古北十三町遺跡	高崎市金古 前橋市青梨子	奈良・平安時代の竪穴住居19軒。奈良平安から中近世の掘立柱建物20棟、溝、土坑。Hr-FA下高、中世道路。	群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第245集「浄水村東遺跡・西分寺新田遺跡・金古北十三町遺跡」1988
31	青梨子上屋敷遺跡	前橋市青梨子	奈良時代の竪穴住居2軒。県内初となる神名、人名が書かれた土師器杯が出土。中近世の煎堀、溝、井戸。	群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第314集「青梨子上屋敷遺跡 金古北十三町遺跡」2003
32	関谷塚古墳群	樺東村山子田	雲首塚。穴築師古墳。	群馬県遺跡地図 1973 群馬県文化財情報システム
33	膳子古墳群	樺東村新井	上毛古墳群には11基が掲載されているが、確認できるのは総覧番号桃井村102、108、110号墳の3基の円墳のみ。この内1基を調査。全長約12mで馬具・旗・耳環が出土。7世紀前半の構築。	樺東村埋蔵文化財発掘調査報告書第2集「樺東村39号墳(膳子遺跡)発掘調査報告書 樺東村教委1985 「上毛古墳群」1938「樺東村古墳台帳」1980
34	高塚古墳	樺東村新井	全長60mの前方後円墳。二段に墳丘を築造。数多くの形象埴輪が出土。6世紀後半。県指定史跡。	「樺東村誌」1988 S 34、35群馬大学調査。
35	庚申塚古墳	樺東村山子田	上毛古墳群総覧番号桃井村101号墳。全長30mの円墳。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938
36	今井古墳群	樺東村新井	上毛古墳群総覧番号桃井村126号墳が存在。すべて円墳。	「上毛古墳群」1938「樺東村古墳台帳」1980
37	堂塚古墳群	樺東村新井	上毛古墳群総覧番号桃井村127、128、129号墳が存在。すべて円墳。	「上毛古墳群」1938「樺東村古墳台帳」1980
38	天玉山古墳	樺東村新井	堂塚古墳群内。上毛古墳群総覧番号桃井村127号墳。全長40mの円墳。	「上毛古墳群」1938「樺東村古墳台帳」1980
39	柿木坂古墳群	樺東村新井	上毛古墳群総覧番号桃井村38号墳が存在する。山寄式の円墳。全長約30m。6世紀末に構築か。古墳群他の番号は不詳。	「樺東村誌」1988 S 35群馬大学調査。「上毛古墳群」1938
40	長久保古墳群	樺東村新井	前方後円墳2基。円墳20基を調査。大刀・刀子・鏡・耳環・玉類が出土。7世紀初頭から末期。	昭和51～53年日本歴史学研究所調査「上毛古墳群」1938
41	北原古墳群	樺東村新井	上毛古墳群総覧番号桃井村23、24、25、66、70、71、140号墳の7基が存在。すべて円墳。23、24、25号墳は大山祇神社内。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938 「樺東村古墳台帳」1980
42	下ノ前古墳群	樺東村広馬場	2基が存在。上毛古墳群総覧番号不詳。	群馬県文化財情報システム「樺東村31号墳(笹熊遺跡)」発掘調査報告書 樺東村教委 1988
43	宮室古墳群	樺東村広馬場	上毛古墳群には11基が掲載。確認できるのは総覧番号相馬村1、2、4、6号墳。不詳1基の計5基の円墳が存在。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938 「樺東村古墳台帳」1980
44	方型山古墳群	樺東村広馬場	上毛古墳群には3基が掲載。相馬村32号墳は方型山古墳。前方後円墳で全長約47m。聖宮神社境内。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938 「樺東村古墳台帳」1980
45	金井古墳群	樺東村広馬場	上毛古墳群には14基が掲載。確認できるのは総覧番号相馬村11、12、13、19、21号墳。不詳2基の計7基の円墳が存在。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938 「樺東村古墳台帳」1980
46	立畦古墳群	樺東村新井	上毛古墳群には17基掲載。確認できるのは総覧番号桃井村14号墳のみ。14号墳は全長26mの円墳。直刀が出土。石棚間上。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938 「樺東村古墳台帳」1980
47	福岡山古墳	樺東村新井	判塚古墳群内。全長約57mの前方後円墳。埴輪・円筒埴輪が出土。上毛古墳群総覧番号桃井村3号墳。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938 「樺東村古墳台帳」1980
48	内金古墳群	高崎市金古	横穴石室を持つ円墳。埴輪・直刀・金環出土。	「群馬県遺跡地図」1973「群馬町の遺跡」1986
49	観音山古墳	樺東村新井	判塚古墳群内。全長約3mの円墳。上毛古墳群総覧番号桃井村1号墳。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938 「樺東村古墳台帳」1980
50	判塚古墳群	樺東村新井	観音山古墳、福岡山古墳などが存在する。	群馬県遺跡地図 1973 「上毛古墳群」1938 「樺東村古墳台帳」1980
51	樺東村31号墳 (笹熊遺跡)	樺東村新井	直径7mの山寄式の小円墳で内輪型横穴式石室を持つ。7世紀前半に構築。	群馬県埋蔵文化財発掘調査報告書第6集「樺東村31号墳(笹熊遺跡)発掘調査報告書 樺東村教委 1988
52	南下古墳群	吉岡町南下	南下から講察地区にかけて分布する古墳群。現在9基が存在する。AからF号墳は円墳で、横穴式石室を持つ。6世紀中葉から7世紀末の構築。	「吉岡町の遺跡」吉岡町教育委員会 1993 「南下古墳群」吉岡町教育委員会 2010
53	中御所Ⅱ遺跡	吉岡町陣場	Hr-FA下の遺状遺構。平安時代の竪穴住居10軒	吉岡町文化財調査報告書第21集「中御所Ⅱ遺跡」 吉岡町教委2005

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

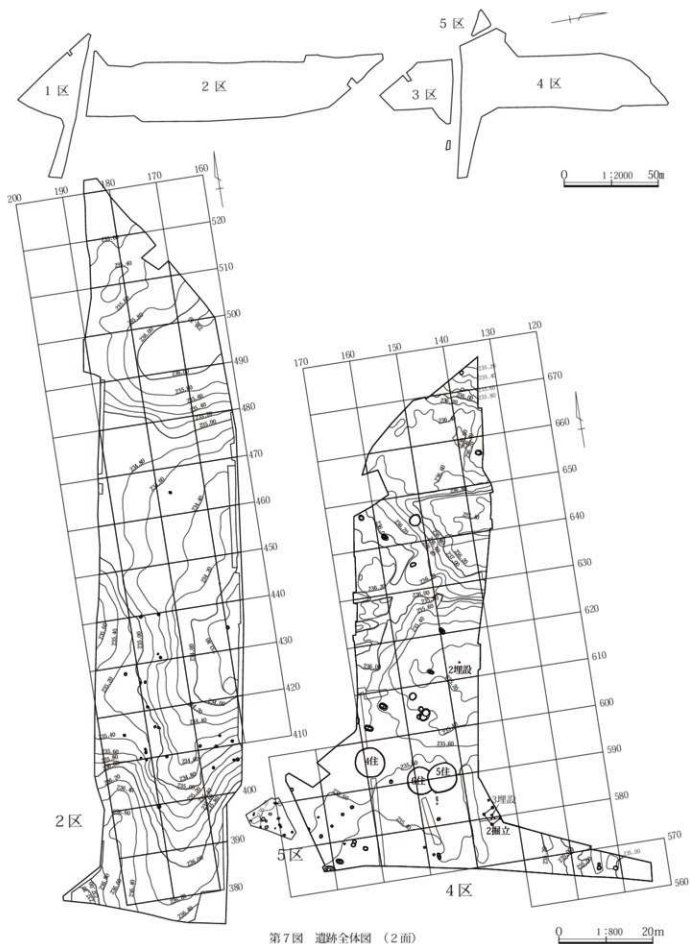
遺跡は群馬県の中央部に位置する北群馬郡榑東村に所在し、相馬山を起源とする山体崩落により流出した陣場岩層なだれの堆積により形成された相馬ヶ原扇状地の扇中央に位置する。調査区はこの岩層なだれにより形成された泥流丘上にある。このため、表土から遺構面までの深さはさほどではなく、古墳時代の遺構面まで40cm～50cm、ローム漸移層まで1.5m前後、1面ですでにロームや陣場岩層なだれに起因する角礫や礫が露出する部分も見られる。調査は試掘結果を踏まえHr-FA（IV層）面を調査第1面とし、概ね古墳時代後半から中近世の遺構確認面とした。第2面は黒ボク土（VIIa層）面で縄文時代中期から後期の遺構を確認した。3面はローム漸移層（VIII層）面で遺物が集中して出土した範囲を中心に遺構、遺物検出を行った。なお、旧石器試掘調査においては第3面下に試掘トレンチを入れAs-YP下面まで調査を行ったが、As-YP下には陣場岩層なだれ層が厚く堆積しており、旧石器の有無については明確にできない。検出、出土した遺構遺物を調査面ごとに関観すると以下の通りである。

第1面（古墳時代から中近世）からは竪穴住居2軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物2棟、礎石建物1棟、畠7区画、土坑8基、溝13条が検出されている。最も新しい遺構としては5区から検出された礎石建物1棟、土坑5基である。遺構に供伴する陶磁器や鉄製品、埋没土から近現代のものと考えられる。溝13条は埋没土が表土とAs-B混土との混合土主体であり、近世陶磁器片なども出土しているため中近世のものと考えられる。中世に位置付けられるものとしては、4区の掘立柱建物2棟である。どちらも遺物がなく明確な時期は判断できないが、柱穴埋没土は多量のAs-B混土を主体としており、この時期のものと考えられる。2区から検出された竪穴住居及び竪穴状遺構、土坑3基はHr-FA面を切り込んでおりHr-FA降下時以降のものであると考えられる。2号住居は供伴する出土遺物から古墳時代後半のものと考えられる。また、住居としての資料が乏しく竪穴状遺構とした1号竪穴状遺構は供伴する遺物がないため明確な時期判断はできな

いが、埋没土堆積状況から見ると2号住居に類似するため、これと同時期のものと考えられる。3号住居は遺物から奈良・平安時代（8世紀後半から9世紀前半）の遺構と考えられる。3区から4区南側にかけてHr-FAで埋没した畠が検出されている。畠は上面からの削平の影響を受け畠高などは明確にできないが、概ね南北方向とやや北西側に走行する畠サクを持つと考えられる。詳細な区画は不明だが、畠サク方向から概ね7区画が確認できる。Hr-FAの降下時期は6世紀前半であることから古墳時代前半以前に耕作されていたものであると考えられる。

第2面（縄文時代1面）からは竪穴住居3軒、掘立柱建物1棟、埋設土器3基、土坑81基が検出されている。4区から検出された住居は3軒とも石囲好をもつ。5号住と6号住は重複するが大きな時期差はなく、これらの住居は出土遺物から縄文中期後半から後期初頭に属するものと考えられる。3号掘立柱建物は半分以上が調査区外のため全容は不明であるが、柱穴形状、埋没土から縄文時代のものと考えられる。埋設土器は4区で出土した2個体の土器はどちらも加曾利E式で、2区出土の土器は堀之内2式である。4区の埋設土器周辺には同時期の竪穴住居や土坑などが存在するが、2区出土の埋設土器周辺にはこれに伴うものと考えられる後期の遺構は確認されていない。土坑は供伴する遺物や形態から時期が判断できるものが16基、陥穴7基、遺物の供伴や縄文時代の特徴的な形状は持たないが、黒ボク土（VIIa層）で埋没しているものが58基である。

第3面（縄文時代2面）からは土坑が数基検出された。しかし、埋土からこれらの遺構は2面検出の土坑と同時期のものとして判断した。2面から3面にかけての遺物包含層から数多くの土器、石器が出土した。それぞれ土器は約12,000点、石器類は剥片も含めると450点以上にのぼる。遺構外遺物出土の土器を時期別に見ると、加曾利E式を中心に称名寺式や堀之内2式なども目立つ。僅かであるが早期の押型文系や前期の諸磯式土器も出土している。また、旧石器調査試掘において、As-YP層上面の黄褐色土層から縄文時代草創期時と考えられる石槍が1点出土した。



第7図 遺跡全体図 (2面)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

本遺跡の縄文時代の遺構は竪穴住居3軒、掘立柱建物1棟、埋設土器3基、土坑81基が検出されている。これらの遺構は2、4区を中心に検出されている。すべての竪穴住居には垂角礫や角礫を使用した石囲いが付設されているが、炉体土器は見られない。時期は出土遺物から縄文時代中期後半から後期初頭に属するものと考えられる。埋設土器は加曾利E3式の土器が埋設されているものが2基、堀之内2式の土器を埋設しているものが1基検出されている。また、土坑からも中期から後期にかけての土器や石器が数多く出土している。

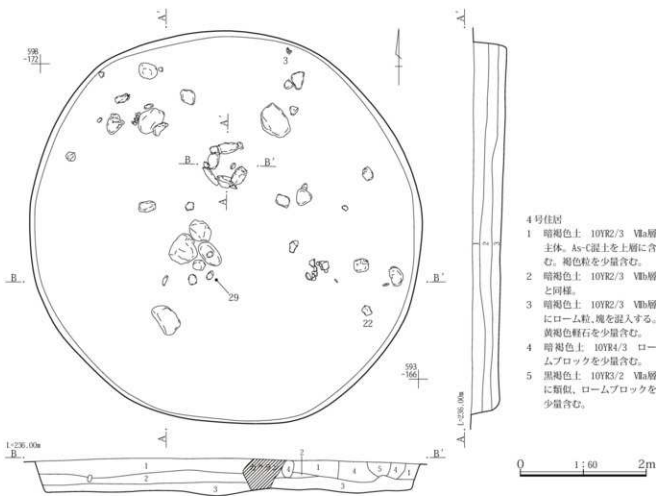
第1項 竪穴住居

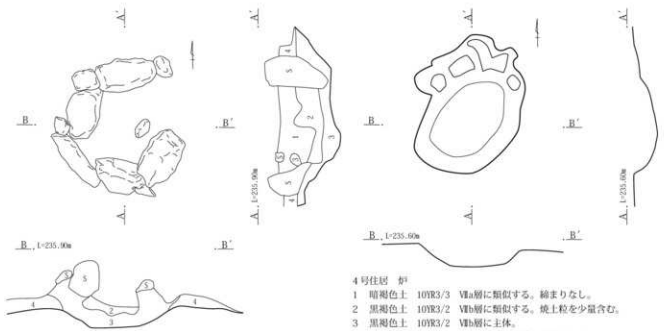
竪穴住居は4区の微高地部分から3軒が検出され、うち2軒は重複する。(第7図・13図)それぞれの住居からは石囲いが検出されたが、柱穴は確認されなかった。これは暗褐色土からなる地山と住居の埋没土が非常に近

似しているため、それらの相違を識別することが困難であったため、住居の柱穴の存在を否定するものではない。出土土器は加曾利E3式から称名寺式に属し、中期後半から後期初頭に限定される。

4区4号住居(第8～12図、PL. 2・3・47～49)

調査区南西部、座標地593-166に位置する。平面形状はやや不整形な楕円形を呈する。規模は長軸7.95m、短軸6.15m、壁高59cmを測り、面積は31.1㎡である。主軸方位はN-90°-Eを示す。床面はほぼ平坦であるが踏み締まりは弱い。埋没土は上層にV層が混入するが、VI層にローム粒や塊を多く混入する黄褐色土主体である。炉は北寄りに位置し、15cmから30cmほどの垂角礫を用いた不整形な楕円状の石囲炉である。規模は長軸71cm、短軸67cm、深38cmを測る。明確な火床面は確認できなかったが、埋土中には焼土が散見する。炉体土器は確認されなかった。

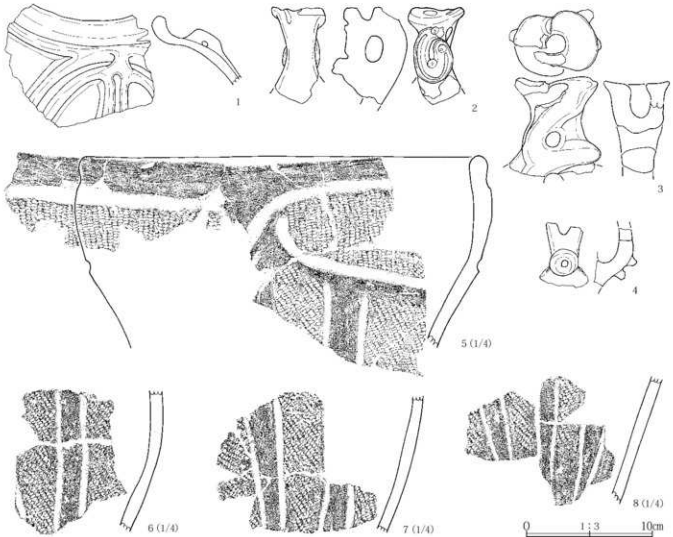




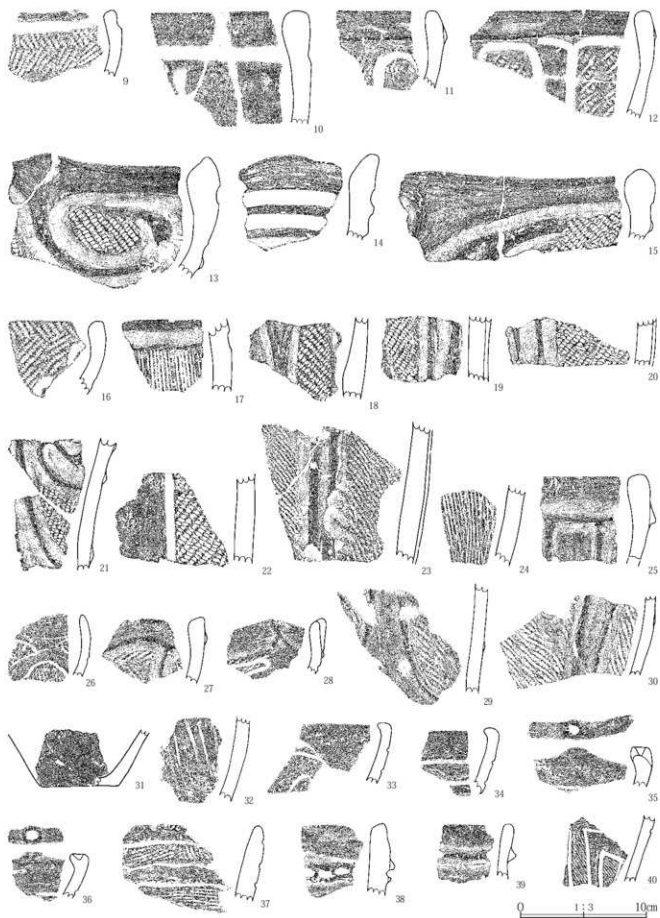
4号住居 部

- 1 暗褐色土 10YR3/3 VIIa層に類似する。締まりなし。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 VIIb層に類似する。焼土粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 VIIb層に主体。
- 4 暗褐色土 10YR3/2 VIIb層にローム粒を少量混入する。

0 1:20 1m



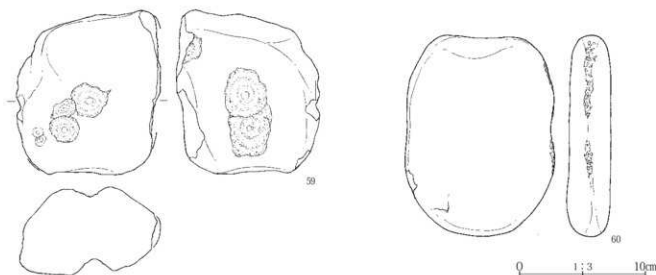
第9図 4区 4号住居及び出土遺物(1)



第10図 4区 4号住居出土遺物(2)



第11図 4区 4号住居出土遺物(3)



第12図 4区 4号住居出土遺物(4)

第3表 4区 4号住居遺物観察表(土器)

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第9区 PL.47	1	埋没土	鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふつう	口縁が短く外反。2条の隆帯により逆U字状モチーフを施す。小形の楕状把手を付し、そのまま隆帯を垂下させる。	加曾利E3式
第9区 PL.47	2	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふつう	波頂部の楕状突起。内面に葎文連繫文を伴う捻転状隆帯を貼付。頂部に円孔を穿つ。	称名寺式
第9区 PL.47	3	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	明黄褐	ふつう	波頂部の突起。捻転状隆帯を貼付、円孔を穿つ。	称名寺式
第9区 PL.47	4	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	良好	波頂部の楕状突起。環状の貼付を付す。	称名寺式
第9区 PL.47	5	下層	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	推定口径41.0cm。沈線により口縁部楕円状区画、胴部懸垂文を施し、L・Rを充填施文する。	加曾利E3式
第9区 PL.47	6	下層	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	No. 5と同一個体。	加曾利E3式
第9区 PL.47	7	下層	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	No. 5と同一個体。	加曾利E3式
第9区 PL.47	8	下層	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	No. 5と同一個体。	加曾利E3式
第10区 PL.47	9	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂	にふい 橙	ふつう	横位沈線をめぐらせて幅広い口縁部無文帯を区画、沈線下にR・Lを充填施文する。	加曾利E3式
第10区 PL.47	10	下層	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	横位沈線をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線による懸垂文を施す。	加曾利E3式
第10区 PL.47	11	下層	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線による逆U字状モチーフを描き、R・Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第10区 PL.47	12	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線による逆U字状モチーフを描き、異段R(L・L・L)を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第10区 PL.47	13	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	明赤褐	ふつう	波状口縁。隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R・Lを充填施文する。	加曾利E3式
第10区 PL.47	14	床直	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつう	波状口縁。横位3条の沈線を施す。	加曾利E3式
第10区 PL.47	15	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふつう	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R・Lを充填施文する。	加曾利E3式
第10区 PL.47	16	埋没土	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつう	R・Lを地文とし、沈線による逆U字状モチーフを描く。	加曾利E3式
第10区 PL.47	17	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	横位沈線をめぐらし、沈線下に縦位条線を充填施文する。	加曾利E3式
第10区 PL.47	18	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	沈線により逆U字状モチーフを描き、L・Rを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第10区 PL.47	19	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	浅黄橙	ふつう	2条の隆帯による懸垂文を施し、R・Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第10区 PL.47	20	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふつう	2条の隆帯による懸垂文を施し、R・Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式

第2節 縄文時代の遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第108区 PL.48	21	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	ふっつ	2条の隆帯による渦巻状モチーフを施し、LRを充填施文する。	加曾利E3式
第108区 PL.48	22	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にふい 橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、LRを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第108区 PL.48	23	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	中央を凹ませた幅広い隆帯を垂下させ、無節LRを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第108区 PL.48	24	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっつ	縦位条線を充填施文する。	加曾利E3式
第108区 PL.48	25	埋没土	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯による懸垂文を施す。	加曾利E4式
第108区 PL.48	26	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	良好	沈線により玉指状モチーフを描き、LRを充填施文する。	加曾利E4式
第108区 PL.48	27	埋没土	深鉢	口縁部 破片	細砂、細礫、白 色粒、黒色粒	にふい 橙	ふっつ	波状口縁。隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯を垂下させ、LRを充填施文する。	加曾利E4式
第108区 PL.48	28	埋没土	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	黄橙	ふっつ	波状口縁。隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線により玉指状モチーフを描き、LRを充填施文する。	加曾利E4式
第108区 PL.48	29	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	明黄褐	ふっつ	隆帯によるU字状モチーフを施し、LRを充填施文する。	加曾利E4式
第108区 PL.48	30	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にふい 橙	ふっつ	2条の隆帯を斜位に施し、LRを充填施文する。	加曾利E4式
第108区 PL.48	31	埋没土	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっつ	推定径約6.0cm。残存部は無文。	加曾利E5式
第108区 PL.48	32	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	縦位沈線を充填施文する。	曾利系
第108区 PL.48	33	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にふい 橙	ふっつ	口縁内面肥厚。帯状沈線により逆U字状モチーフを描く。	称名寺式
第108区 PL.48	34	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にふい 橙	ふっつ	口縁内面肥厚。横位帯状沈線を施す。	称名寺式
第108区 PL.48	35	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	口縁内面肥厚。小突起を付し、円形刺突を施す。横位沈線を施す。	称名寺式
第108区 PL.48	36	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	No. 35と同一個体。	称名寺式
第108区 PL.48	37	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふっつ	横位帯状沈線を施し、LRを充填施文する。	称名寺式
第108区 PL.48	38	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄	ふっつ	口縁下に竹管状工具による刺突を施した隆帯をめぐらす。	称名寺式
第108区 PL.48	39	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	良好	口縁下に横位隆帯をめぐらす。	称名寺式
第108区 PL.48	40	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺式
第118区 PL.48	41	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 赤褐	良好	帯状沈線により円状モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺式
第118区 PL.48	42	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	帯状沈線によりJ字状モチーフを描く。	称名寺式
第118区 PL.48	43	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	にふい 黄橙	ふっつ	帯状沈線により弧状モチーフを描く。	称名寺式
第118区 PL.48	44	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	帯状沈線によりU字状モチーフを描く。	称名寺式
第118区 PL.48	45	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にふい 黄橙	良好	横位隆帯をめぐらし、隆帯下に帯状沈線による逆U字状モチーフを描く。	称名寺式
第118区 PL.48	46	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふっつ	斜位に刻みを付した隆帯をめぐらす。	称名寺式
第118区 PL.48	47	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。一部沈線に刺突を施す。	称名寺式
第118区 PL.48	48	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	No. 50と同一個体。	称名寺式
第118区 PL.48	49	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	斜位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式
第118区 PL.48	50	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	縦位沈線を施す。	称名寺式
第118区 PL.48	51	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	にふい 黄橙	良好	縦位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式

第3章 検出された遺構と遺物

第4表 4区 4号住居遺物観察表（石器・石製品）

検出番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石 材
第118図 PL.48	52	石鏃 凹基無茎鏃	埋没上	(4.9)	(4.0)	2.1	未成品。左辺側の返し部を欠損。	黒色玄山岩
第118図 PL.48	53	石核 板状	埋没上	1.8	2.0	3.6	作業面を固定、小型刮片を剥離。左辺側から破損。	黒曜石
第118図 PL.48	54	打製石斧 短冊型	埋没上	(8.4)	4.6	73.9	完成状態？剥離面は比較的新鮮だが、側縁に強い磨耗痕。器体下半を欠損。	粗粒輝石安山岩
第118図 PL.49	55	敲石 棒状礫	埋没上	13.5	6.0	364.9	左側縁・上下両端の小口部に打痕。	砂岩
第118図 PL.49	56	凹石 楕円礫	埋没上	(10.1)	10.6	715.6	表裏面とも摩耗、集合打痕。右側縁は敲打・摩耗して稜形成。中央下半を欠損。	粗粒輝石安山岩
第118図 PL.49	57	凹石 楕円礫	埋没上	(13.5)	8.2	621.6	表裏面とも顕著に摩耗、中央付近に集合打痕。左側縁は敲打・摩耗して稜形成。下半側を欠損。	粗粒輝石安山岩
第118図 PL.49	58	多孔石 不定形垂角礫	埋没上	13.0	11.5	978.8	表裏面に漏斗状の孔を穿つ。	粗粒輝石安山岩
第128図 PL.49	59	多孔石 不定形垂角礫	埋没上	12.4	10.6	4360.0	表裏面に孔を穿つ。裏面に破損面だが、この破損面にも孔が穿たれている。	粗粒輝石安山岩
第128図 PL.49	60	敲石 扁平礫	埋没上	15.8	11.8	1160.4	右側縁に打痕。	変質玄武岩

柱穴、周溝などは検出できなかった。埴土器や床直上の土器がなく、出土土器も加曾利E3・4式や称名寺式が埋没土中から数多く出土している。明確な時期を判断できる資料に乏しいが、下層部に加曾利E3式が集中して出土することから中期後半に帰属すると考えられる。

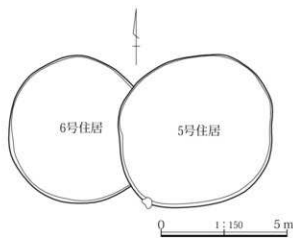
住居出土礫について

4号住居からは自然礫が約30点出土している。これらの自然礫は住居平面確認時にはすでに幾つかは確認されていた。住居検出時においても埋没土中からも出土したが、どれも出土位置は床面より約10~15cmと高く、床面直上のもは見られなかった。このためこの住居に伴うものではなく住居廃棄後の埋没途中での投棄と考えられる。また、石器や石製品となるものも出土していない。このような礫の形状は垂角礫が殆どで、数点角礫や円礫が見られる。石材は角閃石や粗粒輝石安山岩が大半を占めている。このような礫の投棄は5、6号住にも見られる。

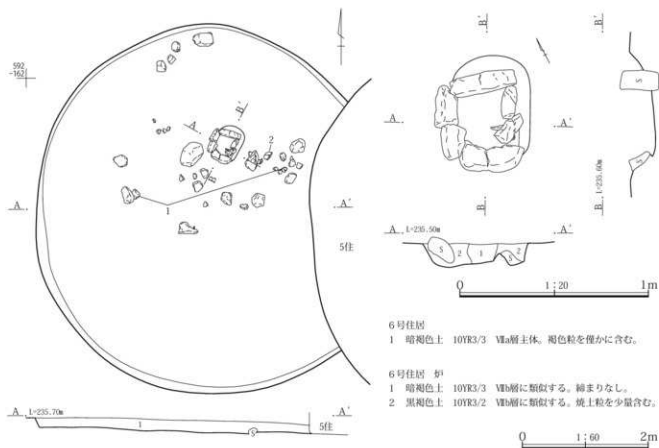
4区6号住居（第14・15図、PL.3~5・49）

調査区中央部、座標値587-152に位置する。東側が5号住と重複し切られる。住居平面形状は楕円形を呈す。規模は長軸5.88m、短軸(4.36)m、壁高13cmを測り、面積は(26.0)m²である。床面はほぼ平坦で炉周辺でやや踏み締まるが、全体的に締まりは軟弱である。埋土はⅦa層に褐色土粒を混入する暗褐色土を主体とする自然埋没土である。炉は住居北寄りに付設され20cmから40cm

ほどの垂角礫を6個用いた方形の石囲炉である。炉の規模は長軸53cm、短軸42cm、深15cmを測る。主軸方位はN-30°-Eを示す。明確な火床面は確認できなかったが、埋没土中に焼土粒や塊が散見する。埴土器は確認されなかった。柱穴、周溝などは検出できなかった。上面及び埋没土中に数多くの礫が出土したが、これらの礫には石製品となり得るものはなく、住居廃棄後に投棄されたものと考えられる。出土遺物は加曾利E3・E4式の土器片や石皿が出土している。床面や下層部からは加曾利E3式が出土していることから中期後半に帰属すると考えられる。



第13図 4区 5・6号住居重複状況



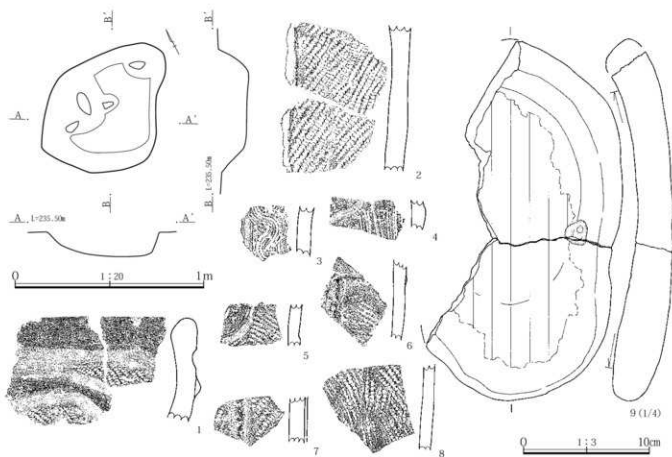
6号住居

1 暗褐色土 10YR3/3 M6a層主体。褐色粒を僅かに含む。

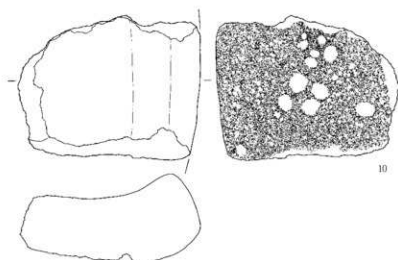
6号住居 炉

1 暗褐色土 10YR3/3 M6b層に類似する。締まりなし。

2 黒褐色土 10YR3/2 M6b層に類似する。焼土粒を少量含む。



第14図 4区 6号住居と出土遺物(1)



第15図 4区 6号住居出土遺物(2)

第5表 4区 6号住居遺物観察表(土器)

神回番号 P.L.番号	No	出土位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第14回 PL.49	1	床直	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 白色粒	浅黄橙	ふつう	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.49	2	床直	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰黄褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.49	3	掘り方	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、蛇行する条線を垂下させる。	加曾利E3式
第14回 PL.49	4	床直	深鉢	胴部破片	細粒、白色粒	黒褐	良好	沈線による横位楕円状モチーフを施し、沈線下に縦位条線を充填施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.49	5	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、細礫、 白色粒	橙	良好	沈線によりU字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E4式
第14回 PL.49	6	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰黄褐	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E4式
第14回 PL.49	7	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふつう	隆帯による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E4式
第14回 PL.49	8	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙褐	ふつう	L.Rを充填施文する。	加曾利E系

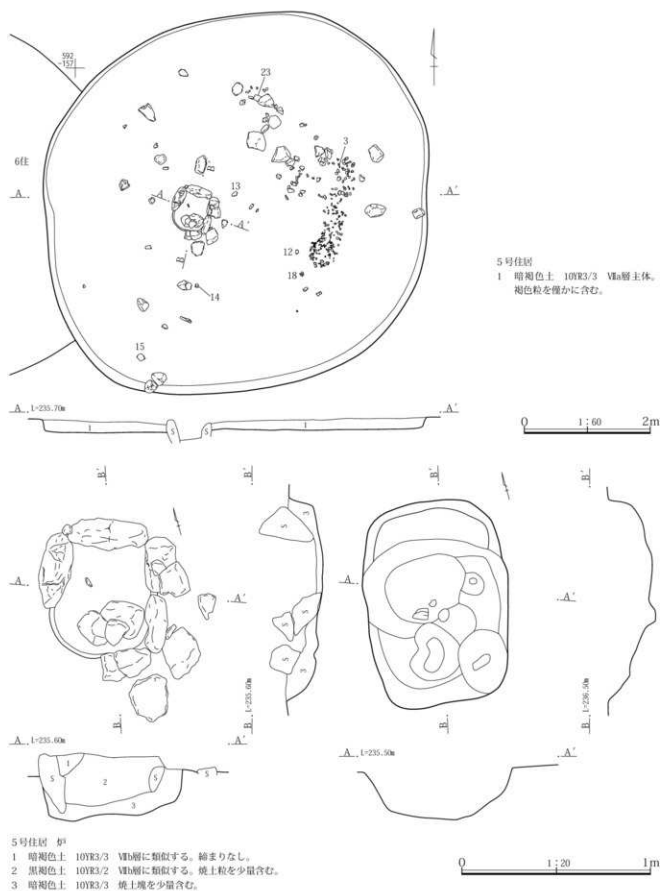
第6表 4区 6号住居遺物観察表(石器・石製品)

神回番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	形成・整形の特徴	石材
第14回 PL.49	9	石皿 有縁	埋没土	38.0	19.0	4996.2	被熱して破損する。破損面にはスズ付着。 炉石	粗粒輝石安山岩
第15回 PL.49	10	石皿 有縁	埋没土	(15.2)	(19.2)	2378.9	側縁破片。裏面側にロート状の孔を穿つ。	粗粒輝石安山岩

4区5号住居跡(第16～17図、PL.4～6・50)

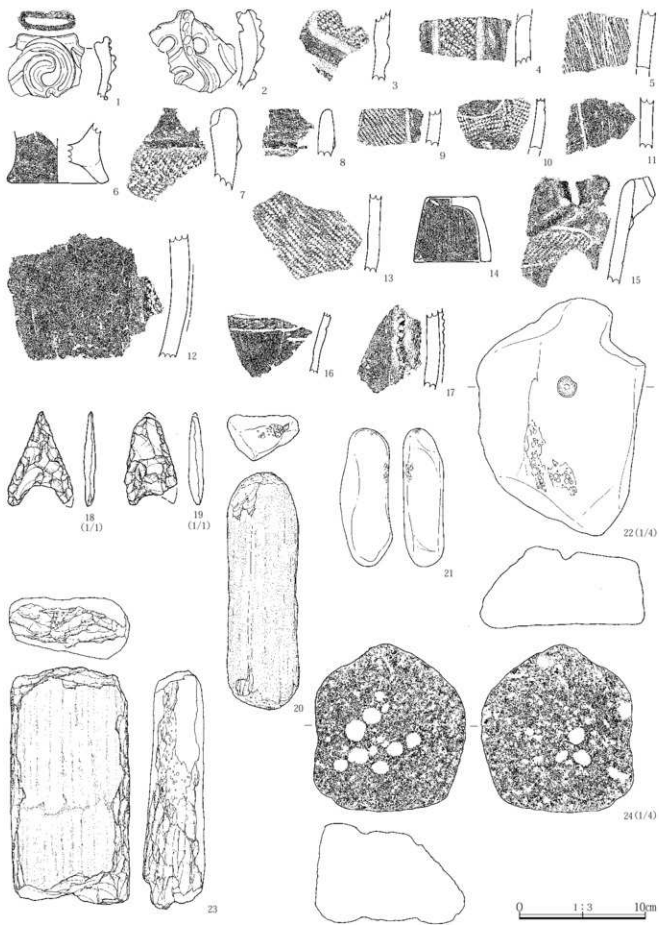
調査区ほぼ中央部、587-152座標値に位置する。西側で6号住と重複しこれを切る。平面形状は楕円形を呈す。規模は長軸6.13m、短軸5.98m、壁高13cmを測り、面積は31.3㎡である。床面はほぼ平坦であるが、炉に向かって僅かに傾斜し、炉周辺は踏み締まるが全体的にはやや軟弱である。埋没土はⅦa、b層に褐色土粒を混入する暗褐色土を主体とする。炉は住居西寄りに位置し、15cmから30cmほどの垂角礫を6、7個用いた長方形の石囲炉である。南西側の石は内側に崩落する。規模は長軸75cm、

短軸68cm、深33cmを測る。長軸方位はN-27°-Eを示す。明確な火床面は確認できなかったが、埋没土中に焼土粒や塊が散見する。炉体土器は確認されなかった。柱穴、周溝などは検出できなかった。床面から20cmまでの埋没土中から多量の角礫や垂角礫が出土している。これらの礫は埋没途中で投棄されたものと考えられる。出土遺物は加曾利E3・4式や称名寺式が出土している。床面や下層部には称名寺式の土器が見られるが、加曾利E3・4式土器が主体のため、中期後半から後期初頭に帰属するものと考えられる。



第16図 4区 5号住居・炉・炉掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



第17図 4区 5号住居出土遺物

第7表 4区 5号住居遺物観察表(土器)

検出番号 P.L.番号	No	出土位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第178区 PL.50	1	床直	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	橙	良好	口縁を台形状に突出させ、頂部に沈線を施文。沈線、円形 剣先を伴う渦巻状隆帯を貼付する。	称名寺式
第178区 PL.50	2	床直	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	橙	良好	N. 1 と同一個体。波状口縁。波頂部から陥降帯を垂下、 捻転させ、沈線を伴う J 字状隆帯を貼付、左右対に穿孔する。 沈線により楕円状モチーフを描き、L R を充填施文する。	称名寺式
第178区 PL.50	3	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	明赤褐	ふつつ	沈線による懸垂文を施し、L R を縦位充填施文する。	加曾利 E 3 式
第178区 PL.50	4	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	良好	沈線による懸垂文を施し、L R を縦位充填施文する。	加曾利 E 3 式
第178区 PL.50	5	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂	にぶい 橙	良好	縦位条線を充填施文する。	加曾利 E 3 式
第178区 PL.50	6	埋没土	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	推定口径8.0cm。付付き。沈線による懸垂文を施す。	加曾利 E 3 式
第178区 PL.50	7	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	浅黄	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下に L を充填施文する。	加曾利 E 4 式
第178区 PL.50	8	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	口縁下に横位隆帯をめぐらす。	加曾利 E 4 式
第178区 PL.50	9	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	浅黄	ふつつ	沈線により弧状モチーフを描き、L R を充填施文する。	加曾利 E 4 式
第178区 PL.50	10	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	沈線により U 字状モチーフを描き、L R を充填施文する。	加曾利 E 4 式
第178区 PL.50	11	下層	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつつ	沈線による懸垂文を施し、無筋 L r を充填施文する。	加曾利 E 4 式
第178区 PL.50	12	下層	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰黄	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、L R を縦位充填施文する。	加曾利 E 4 式
第178区 PL.50	13	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	L R を縦位充填施文する。	加曾利 E 4 式
第178区 PL.50	14	埋没土	器台	台 - 脚部 2/3	細砂	にぶい 橙	ふつつ	上面径3.8cm、底径6.0cm、器高5.1cm、側面縦位のミガキ痕 顯著。	加曾利 E 式
第178区 PL.50	15	下層	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	波状口縁で、波頂部に沈線を伴う逆 U 字状隆帯を貼付して いたようだ。口縁に沿って隆帯をめぐらせて口縁部無文帯 を区画、沈線による楕円状モチーフを描き、L R を充填施 文する。	後期加曾利 E 系
第178区 PL.50	16	下層	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	にぶい 橙	ふつつ	横位帯状沈線を施し、L R を充填施文する。	称名寺式
第178区 PL.50	17	床直	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 赤褐	良好	頸状隆帯を垂下、L R を施す。	称名寺式

第8表 4区 5号住居遺物観察表(石器・石製品)

検出番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	形成・整形の特徴	石材
第178区 PL.50	18	石鏃 凹基無芽莖	掘り方	2.5	1.7	0.9	完成状態。比較的長身で、加工は丁寧。石器基部を大きく抉る。	黒色安山岩
第178区 PL.51	19	石鏃 凹基無芽莖	埋没土	(2.3)	1.4	1.2	未完成品。先端破損部から無縁加工する。右辺側の返し部を欠く。	黒色安山岩
第178区 PL.50	20	敲石? 棒状鏃	床直	18.7	5.6	526.8	鏃の小口部に打痕。下端側小口部には平滑な礫面があり、状 端部には平滑面がなく、平滑面が従来の礫面であるとなると、 小口部全体が使用されたことになる。叩石。	黒色片岩
第178区 PL.50	21	敲石 棒状鏃	埋没土	10.9	4.0	238.4	小口部・側縁に打痕。	変質玄武岩
第178区 PL.50	22	多孔石 不定形歪角礫	掘り方	25.0	17.8	5074.6	背面側に孔1を穿つ。背面側エッジに打痕あり。	粗粒輝石安山岩
第178区 PL.50	23	石製品 板状	床直	18.7	9.4	1455.6	板状に分割後、両側縁を打撃調整。上下両端の分割面には敲打、 摩耗がある。使用・加工目的は不明。	雲母石英片岩
第178区 PL.50	24	多孔石 不定形歪角礫	床直	16.4	16.0	3707.4	表裏面に孔を穿つ。背面側は敲打してスス付着。	粗粒輝石安山岩

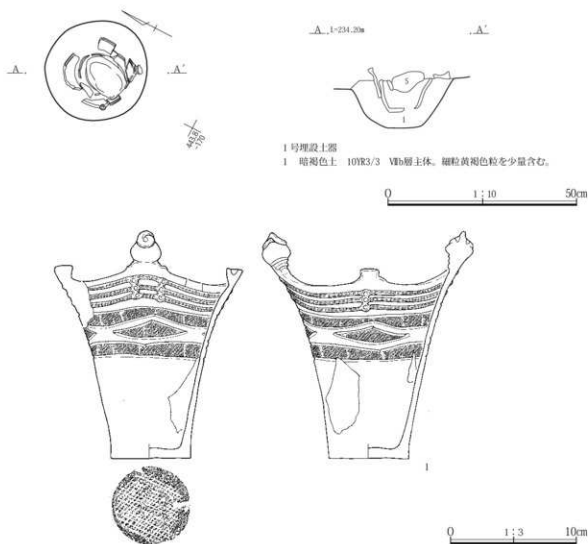
第2項 埋設土器

埋設土器は3基検出されている。4区の2基は集落に関係するものと考えられるが、2区の埋設土器周辺には同時期の遺構はみられない。

2区1号埋設土器 (第18図、PL. 6・51)

調査区中央東部、444-170座標値に位置する。Ⅶ層包含層精査中に確認された。掘り方の平面は楕円形を呈す

る。規模は径27cm、短軸15cm、深14cmを測る。埋設土はⅦb層に細粒黄褐色土を混入する暗褐色土を主体とする単層である。土器は正位に埋設され、ほぼ完形である。土器内側からは長径10cm、短径5cmほどの楕円扁平礫が出土している。この礫は蓋の重石と考えられ、再葬墓と思われる。土器は堀之内2式で、周辺には同時期の関連遺構は確認されていない。



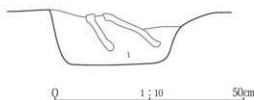
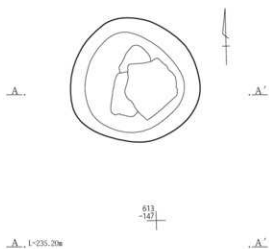
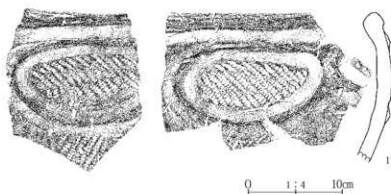
第18図 2区 1号埋設土器

第9表 2区 1号埋設土器遺物観察表 (土器)

種別番号 PL.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第18図 PL.51	1	埋設土	深鉢	ほぼ完形	細砂、黒色粒	黒褐	良好	口径15.1cm、底径6.4cm、器高17.8cm。4単位波状口縁で、共に2種別の突起を付す。口縁部に3条の隆線をめぐらせ、L.Rを充填施文した帯状沈線を2条めぐらす。間に波頂部下を頂点とした菱形モチーフを配置。文様帯下、内面は丁寧に磨かれる。底面に刷代痕。	堀之内2式

4区2号埋設土器 (第19図, PL. 6・51)

調査区中央東部、613-147座標値に位置する。Ⅶ層包含層精査中に確認された。平面形状は円形を呈する。規模は長軸35cm、短軸33cm、深さ15cmを測る。埋設土はⅦb層に黄褐色粒を混入する黒褐色土を主体とする。土器は加曾利E 3式深鉢の口縁部片のみが見つづれたような状態で出土している。当初、土坑やピットの可能性も考えられたが、土器を正位に埋設した様相が窺えるため埋設土器とした。15~20mほど離れた南側には同時期の竪穴住居や埋設土器、土坑等が検出されているため、本遺構はこれらの集落に属するものと考えられる。



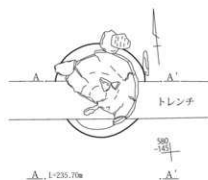
2号埋設土器
1 黒褐色土 10YR2/2 Ⅶa層主体、
Ⅶb層、黄褐色粒を少量含む。

第10表 2区 2号埋設土器遺物観察表(土器)

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第19図 PL.51	1	埋設上	深鉢	口縁部破 片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	に深い 褐色	ふつう	胴部による口縁部楕円状モチーフ、沈線による胴部懸垂文を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式

4区3号埋設土器 (第20図, PL. 6・51)

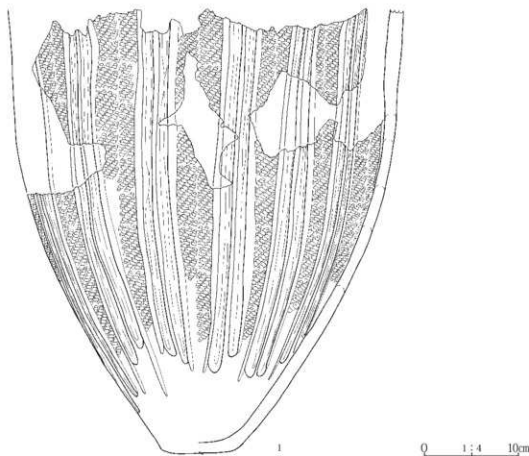
調査区南部、580-145座標値に位置する。Ⅶ層包含層精査中に確認された。平面形状は不明瞭であるため明確ではないが、断面からほぼ土器周辺を掘り込んだ楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸43cm、短軸30cm、深35cmを測る。埋設土はⅦ層にローム塊・粒を混入する締まりある土を主体とする。土器は加曾利E 3式で、口縁から胴上半を欠いた状態で正位に埋設されている。本遺構から北西に10~15mほど離れた周辺には同時期の竪穴住居や土坑等が存在することから、これらの集落に関連するものと考えられる。



3号埋設土器
1 黒褐色土 10YR2/2 Ⅶa 主体、黄褐色粒を少量含む。



第19図 4区 2号埋設土器と3号埋設土器



第20図 4区 3号埋設土器・出土遺物

第11表 4区 3号埋設土器遺物観察表（土器）

探検番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第20図 PL.51	1	底面	深鉢	胴～底部 1/3	粗砂、細礫、白 色粒、黒色粒	白	ふつう	底径7.5cm。2条の隆帯による懸垂文を施し、R.L.を縦位充填施文する。	加曾利E3式

4区3号埋設土器、3号掘立柱建物について

VII層包含層精査中に出土した3号埋設土器は、周辺から竪穴住居が検出されているため、竪穴住居内の遺物の可能性も考えられたため、住居を想定し調査をおこなった。しかし、土器片は出土したものの、他の住居に見られる石囲かなどは検出されず、明確な平面形態も確認できなかった。また、埋設土器周辺も踏み締まった床面の様相は見られなかった。そのため単独の埋設土器とした。しかし、その後、VII層上面まで掘り下げた包含層調査において、直線上に並ぶピットが4基検出された。東側が調査区外になるため、全容は不明であるが、調査段階では、4本柱または調査区外にまだピットが並ぶ可能性をもつ掘立柱建物とし3号掘立柱建物として調査を行っ

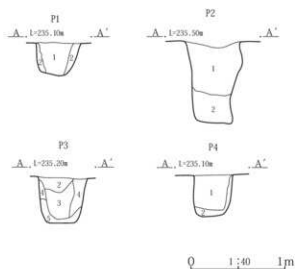
た。しかし、整理段階において別々の遺構として考えていた両遺構の出土位置を、平面上で確認すると21図のような4基のピットのほぼ中央に埋設土器が位置することが確認された。これらのピットは南東隅の壁際で検出されている2号ピットの断面から縄文時代の遺構であることは確実であり、埋設土器と同時期のものである。また、遺構確認面の比高差も約20cm程度であったため、一つの遺構である可能性も考えられた。しかし、本報告書ではこれらが関連する一つの遺構とするには資料が乏しいため、個々の遺構として掲載をした。しかし、竪穴住居もしくは掘立柱建物内のある同一の遺構となる可能性も否めない。

第3項 掘立柱建物

出土遺物がないため縄文時代の遺構とする確証を欠くが、P2の断面からVII層中よりの掘り込みが確認できたため縄文時代の遺構として扱う。

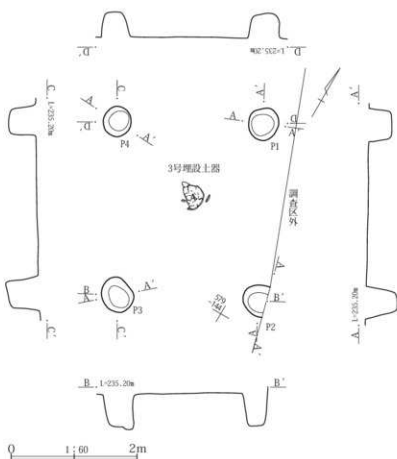
4区3号掘立柱建物(第21図、PL. 7・8)

調査区境東隅部、575-140に位置する。東側は調査区外のため全容は不明である。柱穴残存状態は深度も深く良好である。形態は長方形を呈すと考えられる。規模は柱間寸法はP1-P4が2.35m、P1-P2が2.75m、P2-P3が2.30m、P3-P4が2.75mを測る。長軸方位はN-29°-Eを示す。柱穴平面は円形または楕円形を呈し、規模は最小のP4で45cm×45cm、最大のP3で50cm×48cm、底面標高は234.6m前後揃う。P3断面を見る限り、柱を埋置して柱穴を埋め戻したと想定できる。4本柱の可能性も否めないが、東側の調査区外へ柱穴列が延びる可能性も考えられる。柱穴埋土はローム塊・粒を多量に含む人為的埋没土と考えられる。



3号掘立柱建物 P1からP4

- 1 ぶい黄褐色 10YR4/3 VIIb層、VIIc層上の混合したローム塊を少量含む。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 VIIa層、VIIb層、VIIc層上を含む。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 2に類似する。ローム塊を僅かに含む。
- 4 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒とAs-YPを少量含む。ローム塊を多量に含む。
- 5 ぶい黄褐色 10YR5/4 ローム粒を多量に含む。As-YPを少量含む。

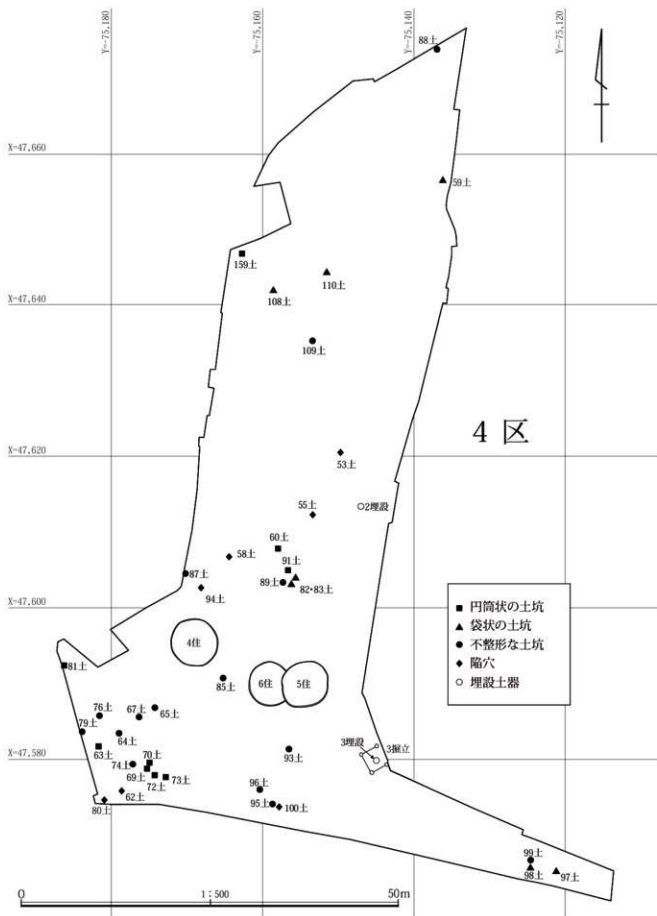


第12表 4区 3号掘立柱建物計測表

PNa	長径	短径	深度
1	48	45	35
2	45	(35)	85
3	50	48	49
4	45	45	48

単位 cm

第21図 4区 3号掘立柱建物



第22図 4区 縄文土坑位置図

第4項 土坑

縄文時代遺構検出を主眼とした調査第2面からは81基の土坑が検出されている。調査区別で見ると1区1基、2区27基、3区なし、4区38基、5区15基であり、ほとんどが2区と4区に集中する。土坑として特に遺物が伴うものや、定型的な形態を持つ土坑はすべて4区から検出されている。このように4区に土坑が数多く分布するのは、この地点が堅穴住居を主体とする生活の場であったことと関連づけられよう。ここでは検出された土坑を調査区、付番号に関係なく、形態で分類し掲載をした。また、当初、土坑として調査を行ったうち陥穴については土坑とは別途に掲載をした。なお、遺構番号についてはそのままの土坑番号を使用している。

1. 円筒状の土坑

60、63、69、70、72、73、81、91、159号の9基の土坑は人為的に構築されたと考えられる平坦な底部をもち、壁面に段差を持たず、壁が底面から垂直またはそれに近い形状で上面へ立ち上がる形状をもつものである。

これらの土坑は形状のほか埋没土にも特色を持ち、3cmから5cmほどの大きさのローム塊を多量に混在する黒褐色土主体での非常に固く締った土を埋没土としているものが多い。この埋没状況は長い時間をかけての自然埋没というよりは、短期間で埋没、または人為的に埋め戻されたと考えられる。出土遺物は加曽利E3・E4式の土器や称名寺式土器、打製石斧等の遺物が出土している。

2. 袋状の土坑

59、82、83、97、98、108、110号の7基の土坑は底部より10cmから20cmほどの上壁付近が抉れ、袋状の形状を持つものである。それぞれの抉れ部分は自然崩落ではない掘り込みが見られる。土坑の底部平面はほぼ平坦であり、人為的に構築された様相を呈す。埋没土はローム塊・粒を多く含み、硬く締まったものが多い。円筒状の土坑埋没土に見られるような人為的に埋め戻したと考えられる堆積状況を示すものもある。出土遺物は加曽利E3・E4式の土器や石鏃等の遺物が出土している。

3. 不整形の土坑

検出された土坑81基のうち58基はこの形状のものである。これらは特定な形状を持たず出土遺物が無い。また規模も小さく形状が不整形で、人為的に構築されたものであるかの判断が難しいものである。しかし、Ⅶ層で埋没して

いるものや自然的な形状でないものを不整形な土坑として掲載した。

4. 陥穴

53、55、58、62、80、94、100号土坑は陥穴である。陥穴の調査例については遺物の出土が希少であったり、地山と埋没土との相違が困難な事が多く、正確な構築面での平面形プラン確認は難しいことが多い。そのため構築面より掘り下げた状態での検出例もあるため、上端平面形状や深さは構築時のものと相違する可能性も否めない。本遺跡の陥穴を見ても深さが1mを越えるものは2基しかなく、最も深いもので58号土坑の1.25mほどである。

この深さから考えると本来の開口レベルは検出面より上位であった可能性が高い。このように陥穴においては、時期判断をするための資料が少ないため、確認面の層位や検出断面形状や埋没土中に混入するテフラなどの資料を参考にして時期を判断せざるを得ない。本遺跡においても上面には古代の遺構が存在し、古代からの構築の可能性も考えられた。しかし、調査区西境で検出された80号土坑断面からⅦ層aとⅦ層bの境付近からの掘り込みが確認でき、上面のA s - C混土面(Ⅵ層)からの掘り込みは見られないため縄文時代に構築されたものと想定した。陥穴第7図、22図、付図に示したように東側谷への傾斜と平行するように北東-南西に並ぶような分布状況が見られる。検出された陥穴を平面及び断面形状別から見ると、80号土坑は南側が調査区外のため全容は不明であるが、平面形状は上面すべてが楕円形を呈している。底部形状は上面と同じ楕円形を呈するものと隅丸長方形を呈するものの2種類である。断面形状はそれぞれ傾きの大きさは違いますが、底部から垂直またはそれに近い形状で立ち上がり、中段付近で抉れ上面に向かい、反対するものが多い。底部施設においては、すべての陥穴から逆茂木を付設していたと考えられるビットが検出されている。特に58、94号土坑からはビット周辺や内部から小礫が数点出土している。これらの礫は検出状況から投棄されたものや、自然の流れ込みではなく、人為的に小穴周辺に設置された可能性が高い。同様の例は意外に少なく、少なくとも県内では沼田市の「下宿浦遺跡」からの検出例があるだけである。これらの石が逆茂木を固定または支えるために使用されていたものであるならば、今後の陥穴の付帯施設構造を解明する上で貴重な資料となるものであろう。

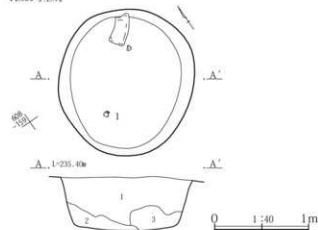
1. 円筒状の土坑

4区60、63、69、70、72、73、81、91、159号土坑は壁面に段差を持たず、上面部分大きく外反せず比較的垂直に近い形状で立ち上がり、底面も平坦な形状を持つものである。また、これらの土坑の多くは硬く締まったローム塊を多量に混入させる土で埋没している特徴を持つ。

4区60号土坑 (第23図、PL. 8・52)

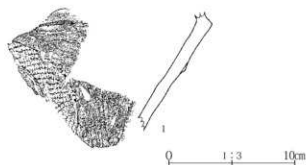
調査区座標値578-175に位置する。平面形状は上面、下面とも楕円形を呈する。規模は長軸1.6m、短軸1.45m、深0.58mを測り、主軸方向はN-48°-Eを示す。埋没土は締まりの強い灰黄褐色土主体で、φ3~5cmのローム塊を多量に混入する。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物は後期加曽利E系土器が出土している。

4区60号土坑



60号土坑

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 VIIa層主体、VIIa層、ローム粒・塊を少量含む。焼土粒、炭化物を含む。締り強い。
- 2 灰黄褐色土 10YR4/2 1に類似。1よりローム塊を多く含む。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 1に類似。ローム粒・塊を少量含む。

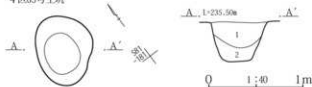


第23図 4区 60号土坑と出土遺物・63号土坑

4区63号土坑 (第23図、PL. 8)

調査区座標値581-181に位置する。平面形状は上面は不整形であるが、上下面とも楕円形を呈する。規模は長軸0.75m、短軸0.63m、深0.45mを測る。埋没土は締まりの強い灰黄褐色土主体で、φ3~5cmのローム塊を多量に混入する。僅かではあるが炭化物粒が散見され、底面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。遺物は検出されなかった。

4区63号土坑



63号土坑

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム塊を含む。焼土粒、炭化物を含む。締り強い。
- 2 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム塊を含む。焼土粒、炭化物を少量含む。

4区69号土坑 (第24図、PL. 9・52)

調査区座標値578-175に位置する。平面形状は上面、下面とも円形を呈する。規模は長軸0.9m、短軸0.8m、深0.4mを測る。重複円形は70号土坑と重複しこれより古い。埋没土はVIIa層に類似する黒褐色土を主体とする。底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。出土遺物は加曽利E 3・E 4式や称名寺式土器、石鏝、石斧等が出土している。

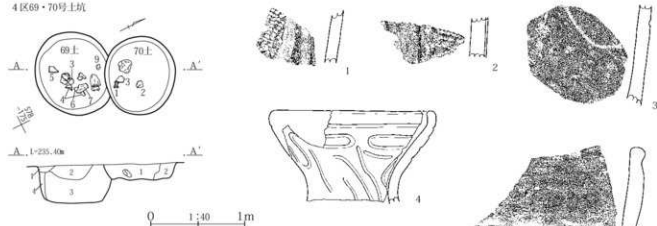
4区70号土坑 (第24図、PL. 9・52)

調査区座標値579-174に位置する。平面形状は上面、下面とも楕円形を呈する。規模は長軸0.95m、短軸0.75m、深0.33mを測り、主軸方向はN-50°-Eを示す。埋没土はロームを混入する黒褐色土を主体とする。底面は歪みをもち、壁は外傾して立ち上がる。遺物は称名寺式土器等後期の土器が出土している。

第13表 4区 60号土坑遺物観察表 (土器)

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第23図 PL.52	1	底面	深鉢	胴部破片	粗砂	にぶい 相	良好	くの字状に内屈する器形。2条の隆帯により弧状モチーフを描き、LRを充填施文する。	後期加曽利E系

4区69・70号土坑

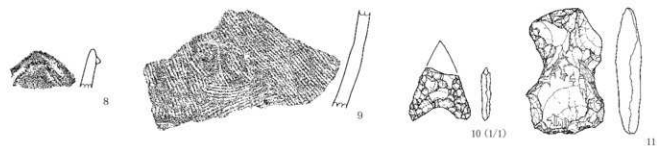


69号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/2 V/a層に類似。ロームを混入する。
- 2 黒褐色土 10YR2/2 V/a層に類似。褐色粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 10YR2/2 V/a層に類似。褐色粒を少量含む。
- 4 黒褐色土 10YR2/2 1に類似。1よりローム混入少ない。

70号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/2 V/a層に類似。ロームが少量混入。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 1に類似。ロームを混入。



第24図 4区 69号土坑・70号土坑と69号土坑出土遺物



第25図 4区 70号土坑出土遺物

第14表 4区 69号土坑遺物観察表(土器)

神岡番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第24区 PL.52	1	下層	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	にぶい 褐	ふつう	隆帯により格円状モチーフを施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第24区 PL.52	2	下層	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	2条の隆帯により弧状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第24区 PL.52	3	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	沈線によりU字状モチーフを描く。	加曾利E4式
第24区 PL.52	4	埋没土	深鉢	口縁～ 胴部破片	粗砂、白色粒	明黄褐	ふつう	推定口径16.5cm。帯状沈線により幾何学モチーフを描く。器面の磨滅著しい。	称名寺式

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第248回 PL.52	5	埋没上	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にふい 橙	ふつう	刺突を伴う隆帯をめぐらす。口縁に小突起を付すようだ。	称名寺式
第248回 PL.52	6	埋没上	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐色	ふつう	帯状沈線により弧状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	称名寺式
第248回 PL.52	7	埋没上	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふつう	帯状沈線により縦帯に展開するモチーフを描き、L.Rを充填施文する。	称名寺式
第248回 PL.52	8	埋没上	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	橙	良好	波状口縁、口縁に沿って隆帯を貼付する。	後期初頭
第248回 PL.52	9	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	橙	良好	L.Rを施文する。	後期初頭

第15表 4区 69号土坑遺物観察表（石器・石製品）

検出番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	完成状態、加工は丁寧で、浅く薄い刃部が前面を覆う。	石材
第248回 PL.52	10	石鏃 凹基無茎鏃	埋没上	(1.4)	1.5	0.4	完成状態。加工は丁寧で、浅く薄い刃部が前面を覆う。	黒曜石
第248回 PL.52	11	打製石斧 分銅型	埋没上	9.9	6.1	124.2	完成状態。刃部摩耗、播種痕あり。リダクションを大きく受け、器体形状は変形している。	珪質頁岩

第16表 4区 70号土坑遺物観察表（土器）

検出番号 P.L.番号	No	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考	
第258回 PL.52	1	底面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふつう	波状口縁。波頂部が筒状を呈し、両脇に貼付を付す。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	称名寺式
第258回 PL.52	2	底面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰黄褐色	ふつう	帯状沈線により弧状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	称名寺式
第258回 PL.52	3	底面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐色	良好	口縁下に横帯、逆U字状の沈線を施す。	後期前葉

4区72号土坑（第26図、PL. 9）

調査区座標値581-181に位置する。平面形状は上面、下面とも不整形な円形を呈する。規模は長軸0.9m、短軸0.8m、深0.45mを測る。埋没土は締まりの強い灰黄褐色土主体で、φ3～5cmのローム塊を多量に混入する人為的埋没土と思われる。僅かではあるが炭化物粒が散見する。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物は検出されなかった。

4区72号土坑



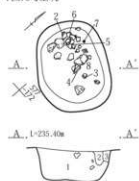
72号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2
Ⅴb層主体。
- 2 黒褐色土 10YR3/2
Iよりもローム粒、塊を多量に含み、粘質上で締りあり。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2
ローム粒・塊主体。

4区73号土坑（第26・27図、PL. 9・52）

調査区座標値578-172に位置する。平面形状は上面、下面とも楕円形を呈する。規模は長軸0.8m、短軸0.75m、深0.4mを測り、長軸方向はN-65°-Eを示す。埋没土はロームを混入する黒褐色土を主体とする。底面は歪みがあり、南西壁は垂直気味に立ち上がるが、北東壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物は称名寺式等後期初頭の土器や石鏃などの石器類が出土している。

4区73号土坑

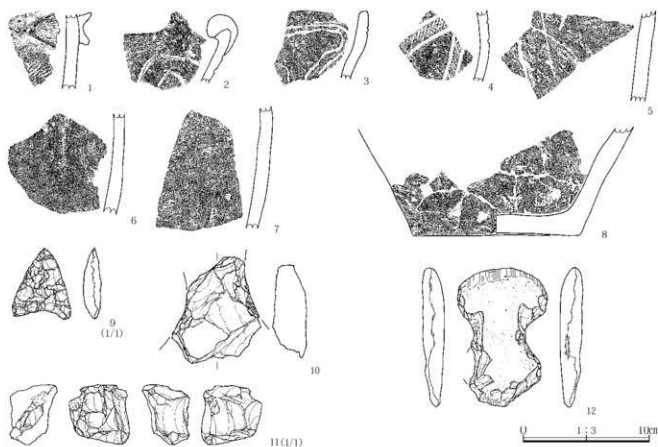


73号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/2
Ⅴa層と同様。
- 2 黒褐色土 10YR3/2
Ⅴa層に類似。ロームを少量含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/3
ローム塊を少量含む。

0 1:40 1m

第26図 4区 72・73号土坑



第27図 4区 73号土坑出土遺物

第17表 4区 73号土坑遺物観察表（土器）

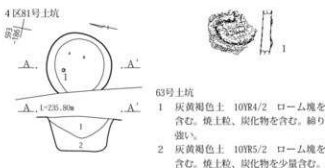
神宮番号 P.L.番号	No	出土位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第27図 PL.52	1	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	押捺を伴う隆帯をめぐらし、隆帯下に無節LRを施文する。	後期加曾利E系
第27図 PL.52	2	底面	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	口縁内面を肥厚させ、小突起を付す。帯状沈線により弧状モチーフを描く。	称名寺式
第27図 PL.52	3	埋没土	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第27図 PL.52	4	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺式
第27図 PL.52	5	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒、 石英	橙	良好	帯状沈線によりモチーフを描く。	称名寺式
第27図 PL.52	6	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白 色粒、黒色粒	橙	良好	無文。	後期前葉
第27図 PL.52	7	底面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	無文。	後期前葉
第27図 PL.52	8	底面	深鉢	底部破片	粗砂、細礫、白 色粒、黒色粒	橙	良好	推定底径13.0cm。残存部は無文。	後期前葉

第18表 4区 73号土坑遺物観察表（石器・石製品）

神宮番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	形成・整形の特徴	石材
第27図 PL.52	9	石鏝 凹基無茎鏝	底面	1.8	1.5	1.1	完成状態。浅く薄い刃離が前面を覆う。サイズ的には断面が厚い。	黒曜石
第27図 PL.52	10	打製石斧 分副型	埋没土	(7.5)	(7.8)	150.9	完成状態。左側縁は強く折れ、右側縁が弱く折れ、左右非対称である。背面側には被熱刃離がある。	細粒輝石安山岩
第27図 PL.52	11	石核 齶子状	埋没土	2.1	2.1	2.8	傾斜な打面転移を行い小型割片を剥離。	黒曜石
第27図 PL.52	12	打製石斧 分副型	底面	11.0	7.1	165.2	完成状態。上下両端に刃部摩耗、挽柄痕あり。下端側形状がリダクションにより変形している。	灰色安山岩

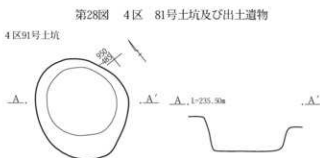
4区81号土坑 (第28図、PL. 9・53)

調査区座標値581-181に位置する。平面形状は上面、下面とも円形を呈する。規模は長軸0.7m、短軸(0.75)m、深0.45mを測り、長軸方向はN-10°-Wを示す。埋没土は63号土坑と類似する締まりの強い灰黄褐色土主体である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は加曾利E 4式胴部小片が出土している。



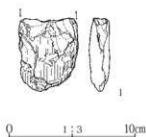
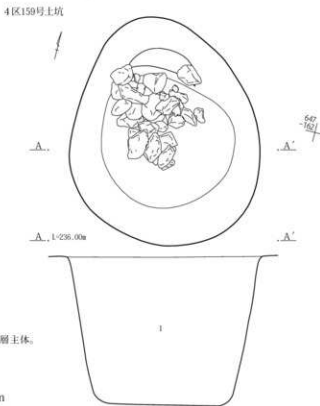
4区91号土坑 (第29図、PL. 10)

調査区座標値950-485に位置する。平面形状は上面楕円形、下面円形を呈する。規模は長軸1.15m、短軸1.1m、深0.28mを測る。埋没土はロームを混入する黒褐色土を主体とする。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は検出されなかった。



159号土坑 (第29図、PL. 10・53)

調査区座標値647-162に位置する。平面形状は上面、下面とも楕円形を呈する。規模は長軸1.22m、短軸1.0m、深1.55mを測り、主軸方向はN-20°-Wを示す。地山礫が上層から下層にかけて出土している。当初、墓坑などの特別な性格を持つ遺構とも考えられたが、意図的な構造は見られず投棄された礫と判断した。埋没土は粘質性を伴う黒褐色土を主体とする。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直に上がる。出土遺物は打製石斧が出土している。分層できず一気に埋没したと考えたい。



159号土坑
1 黒褐色土 10YR3/2 VII層主体、
やや粘質性を帯びる。

第29図 4区 91・159号土坑と159号土坑出土遺物

第19表 4区 81号土坑遺物観察表 (土器)

種別番号 P.L.番号	No	出土位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第28図 PL.53	1	底面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐	ふつう	隆帯によりJ字状モチーフを描き、LRを充填施文する。	加曾利E 4式

第20表 4区 159号土坑遺物観察表 (石器・石製品)

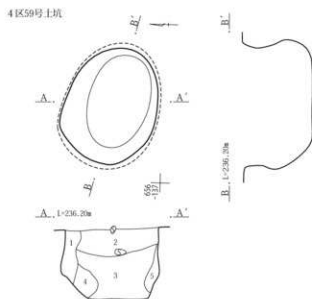
種別番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	形成・整形の特徴	石材
第29図 PL.53	1	打製石斧 短冊型	埋没土	(5.8)	4.7	60.2	刃部摩耗が顕著。摩耗部位からみて刃部再生後の使用者も明らか。器体上半は欠損。	灰色安山岩

2. 袋状の土坑

4区59、82、83、97、98、108、110号土坑は壁面部分が自然崩落ではない抉れを持ち、断面形状が袋状になるものである。これらの土坑は底面近くが抉れるもの、中段部分に抉れを持つものがある。底面は円筒状の土坑同様に平坦で人為的に構築している様相を呈す。

4区59号土坑 (第30図、PL. 10)

調査区座標値656-137に位置する。平面形状は上面、下面とも楕円形を呈する。規模は長軸1.43m、短軸1.1m、深0.75mを測り、主軸方向はN-71°-Wを示す。埋没土は締まりの強いAs-Ypを混入する黒褐色土を主体とする。底面は平坦で、壁は底部から約30cm上部で10~15cm程外側へ抉れる。遺物は検出されなかった。



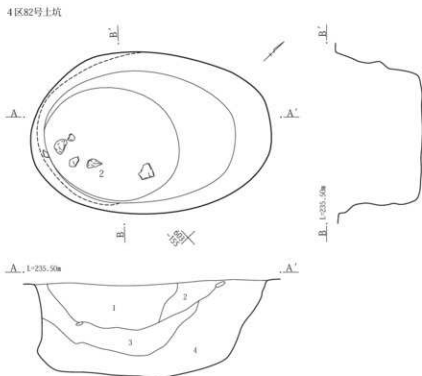
59号土坑

- | | | | |
|---|-------|---------|-------------------------|
| 1 | 明黄褐色土 | 2.5Y6/6 | 壁ロームの崩落土。 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | VIIa層に類似。As-Ypを少量含む。 |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | As-Ypを少量含む。締りあり。 |
| 4 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | VIIc層に類似。As-Ypを塊状に少量含む。 |
| 5 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 3より濃い色調。As-Ypを塊状に少量含む。 |

4区82号土坑

(第30・31図、PL. 10・53)

調査区座標値602-157に位置する。平面形状は上面、下面とも楕円形を呈する。規模は長軸1.5m、短軸1.35m、深0.95mを測り、主軸方向はN-45°-Eを示す。重複関係は83号土坑と重複し、これより新しい。埋没土は灰黄褐色土主体で、φ5~10cmの硬く締まったローム塊を多量に混入する。底面は平坦で、壁は西壁から南壁にかけて底部が10cm程外側へ抉れる。遺物は加曽利E 4式土器が出土している。



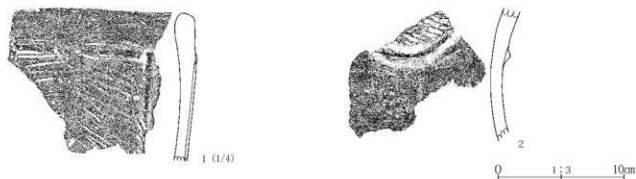
82号土坑

- | | | | |
|---|-------|---------|---------------------|
| 1 | 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | VIIb層に類似。ローム塊を少量含む。 |
| 2 | 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 1に類似。1よりローム塊を多量に含む。 |
| 3 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 1に類似。ローム塊を少量含む。 |
| 4 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 3よりやや濃い色調。 |

0 1:40 1m

第30図 4区 59・82号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第31図 4区 82号土坑出土遺物

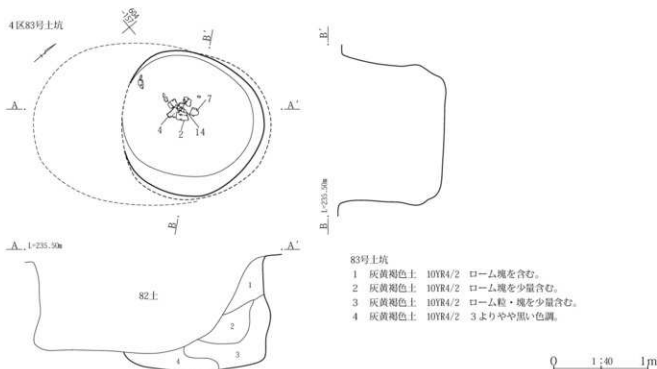
第21表 4区 82号土坑遺物観察表(土器)

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第31図 PL.53	1	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐色	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯による懸垂文を施し、羽状沈線を充填施文する。	加曾利E 4式
第31図 PL.53	2	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	隆帯によりU字状モチーフを施し、無節Lrを縦位充填施文する。	加曾利E 4式

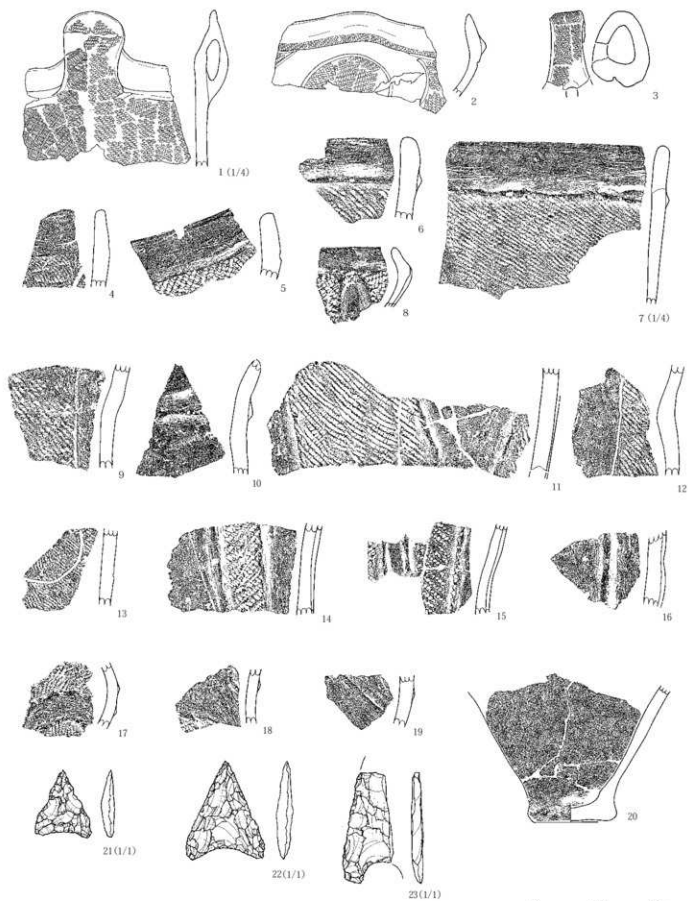
4区83号土坑 (第32・33図、PL.10・53)

調査区座標値605-155に位置する。平面形状は上面、下面とも不整な円形を呈する。規模は長軸1.45m、短軸1.35m、深1.25mを測り、主軸方向はN-45°-Eを示す。重複関係は83号土坑と重複し、これより古い。断面切り合い状況から新旧関係を判断したが、出土遺物も同

時期のものであり、大きな時期差は見られないと考えられる。遺構埋没土は82号土坑と同質の灰黄褐色土主体で、ローム塊を多量に混入する土である。検出範囲底面は平坦で、壁残存部分は底部から約15cm付近で10cm程外側へ抜れる。遺物は加曾利E 4式土器や石礫が出土している。



第32図 4区 83号土坑



第33図 4区 83号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

第22表 4区 83号土坑遺物観察表（土器）

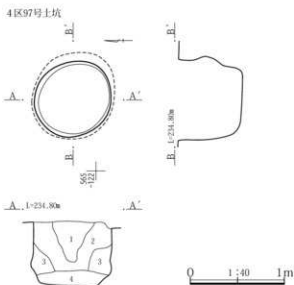
種別番号 P.L.番号	No	出土位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第338号 PL.53	1	埋没上	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐色	ふつう	口縁に横状突起を付す。隆帯をめくらせて口縁部無文帯を区画、突起を境に右にL R、左に附加条2種L r + rを充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	2	埋没上	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	柑	ふつう	縦い波状口縁。くの字状に内屈させて口縁部無文帯を区画、沈線により玉粒状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	3	埋没上	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	柑	ふつう	波頂部の横状突起。L Rを縦位施文する。口縁との境を穿孔する。	加曾利E 4式
第288号 PL.53	4	埋没上	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	黄褐色	ふつう	ナ字により微隆帯を作出し口縁部無文帯を区画、沈線により逆U字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	5	埋没上	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	黄褐色	ふつう	N. 0、4と同一個体。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	6	埋没上	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	にぶい 黄褐色	ふつう	横位隆帯をめくらせて口縁部無文帯を区画。隆帯下に無節L rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	7	埋没上	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	明赤褐色	ふつう	横位隆帯をめくらせて口縁部無文帯を区画。隆帯下にL Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	8	埋没上	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	柑	良好	くの字状に内屈させて口縁部無文帯を区画。隆帯による逆U字状モチーフを施し、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	9	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	柑	ふつう	沈線による懸垂文を施し、無節L rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	10	埋没上	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 石英	明赤褐色	良好	横位隆帯をめくらす。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	11	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	柑	良好	隆帯によるU字状モチーフを施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.54	12	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	明黄褐色	ふつう	沈線によりU字状モチーフを描き、無節L rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	13	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	柑	ふつう	沈線によりU字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	14	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐色	良好	隆帯による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	15	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 石英	灰黄褐色	ふつう	隆帯による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	16	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	柑	ふつう	隆帯による懸垂文を施す。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	17	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐色	ふつう	2条の隆帯により逆U字状モチーフを施し、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	18	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	にぶい 柑	ふつう	隆帯によりU字状、逆U字状モチーフを施し、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	19	埋没上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	柑	良好	隆帯により弧状モチーフを施す。	加曾利E 4式
第338号 PL.53	20	埋没上	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐色	ふつう	底径8.0cm、残部は無文。	加曾利E 5式

第23表 4区 83号土坑遺物観察表（石器・石製品）

種別番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石 材
第338号 PL.53	21	石鏃 凹基無茎鏃	埋没上	1.8	1.5	0.5	完成状態。やや剥離が粗く、優品とはいえない。内側縁がノッチ状に抉れる。	黒曜石
第338号 PL.53	22	石鏃 凹基無茎鏃	埋没上	2.6	2.1	1.6	完成状態。左側縁が割れ、やや対称性に欠ける。	黒色火山岩
第338号 PL.53	23	石鏃 凹基無茎鏃	埋没上	(2.9)	(1.3)	1.2	未成品？器内が薄く加工も丁寧だが、返し部の作出が甘く、完成間隙で破損した可能性が高い。	チャート

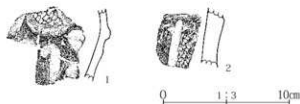
4区97号土坑 (第34図, PL. 11・54)

調査区座標値565-122に位置する。平面形状は上面、下面とも円形を呈する。規模は長軸0.85m、短軸0.85m、深0.68mを測る。埋没土はローム粒を多量に混入する締まり強い暗褐色土で、底面付近は人為的埋没土の様相が窺える。底面は平坦で、壁は底部から約10～15cm付近で10～15cm程外側へ括れる。括れ部分は壁面を全周する。遺物は加曾利E3式土器が出土している。



97号土坑

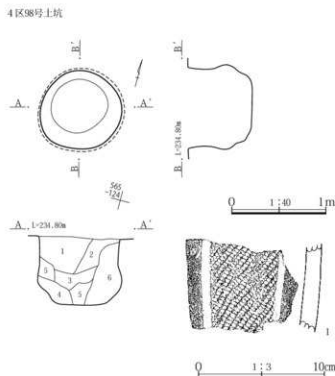
- 1 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒と黄褐色軽石を含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 10YR3/2 ローム粒と黄褐色軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/2 ローム粒を多量に含む。締まり強い。
- 4 暗褐色土 10YR3/2 ローム粒・塊を多量に含む。



第34図 4区 97号土坑と出土遺物

4区98号土坑 (第35図, PL. 11・54)

調査区座標値565-122に位置する。平面形状は上面、下面とも円形を呈する。規模は長軸0.85m、短軸0.85m、深0.78mを測る。埋没土ローム粒を多量に混入する締まりの強い暗褐色土主体である。底面は平坦で、壁は底部から約10～15cm付近で10～20cm程外側へ括れる。括れ部分は壁面を全周する。遺物は加曾利E3式土器が出土している。



98号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒と黄褐色軽石を含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 10YR3/2 ローム粒と黄褐色軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/2 ローム粒を多量に含む。締まり強い。
- 4 にぶ・黄褐色土 10R5/4 ローム粒、As-YPを含む。
- 5 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒を含む。締まりあり。
- 6 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・塊、As-YPを含む。

第35図 4区 98号土坑と出土遺物

第24表 4区 97号土坑遺物観察表 (土器)

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第34図 PL.54	1	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐色	ふつう	沈線による楕円状モチーフ、ワラビ手状懸垂文を施し、R Lを充填施文する。	加曾利E3式
第34図 PL.54	2	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐色	良好	沈線による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式

第25表 4区 98号土坑遺物観察表 (土器)

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第35図 PL.54	1	埋没土	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	暗	良好	沈線による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式

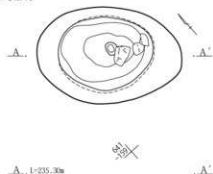
4区108号土坑 (第36図、PL.11)

調査区座標値641-159に位置する。平面形状は上面、下面とも楕円形を呈する。規模は長軸1.55m、短軸1.01m、深1.32mを測り、主軸方向はN-50°-Wを示す。埋没土はローム塊を少量混入する黒褐色土を主体とする。底面は不整形である。壁は底部から60cm付近で約10cm程外側へ括れる。中央に小穴があり、礫も出土していることから陥穴の可能性も考えられたが、他の陥穴と底面形状が異なり、礫は人為的に配置されたというより、自然崩落した様相を呈するため袋状の土坑とした。遺物は検出されなかった。

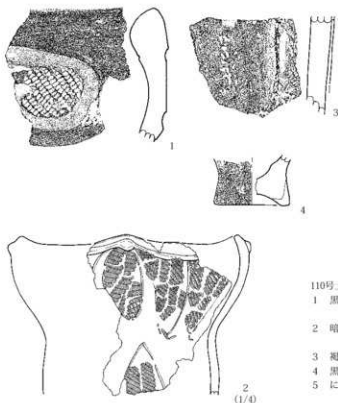
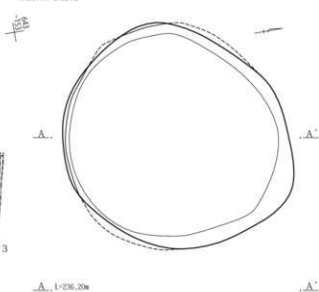
4区110号土坑 (第36図、PL.11・54)

調査区座標値643-153に位置する。平面形状は上面、下面とも楕円形を呈する。規模は長軸2.45m、短軸2.4m、深0.88mを測り、埋没土は角礫やAs-YPを混入する締まりの強い土である。底面は東に向かい緩やかに傾斜するがほぼ平坦である。壁は東壁と西壁の一部が底面付近で約10~15cm程外側へ括れる。出土遺物は加曾利E3・4式土器が出土している。

4区108号土坑



4区110号土坑



110号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/3 VIIa層に類似。褐色粒とφ5~10cmの角礫を少量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 10YR3/4 VIIb層に類似。φ5~10cm角礫とAs-YPを僅かに含む。締まりあり。
- 3 褐色土 10YR4/4 細粒白色軽石を少量含む。
- 4 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色軽石を全体に含む。VIIc層主体。
- 5 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム粒を少量含む。



第36図 4区 108・110号土坑と110号土坑出土遺物

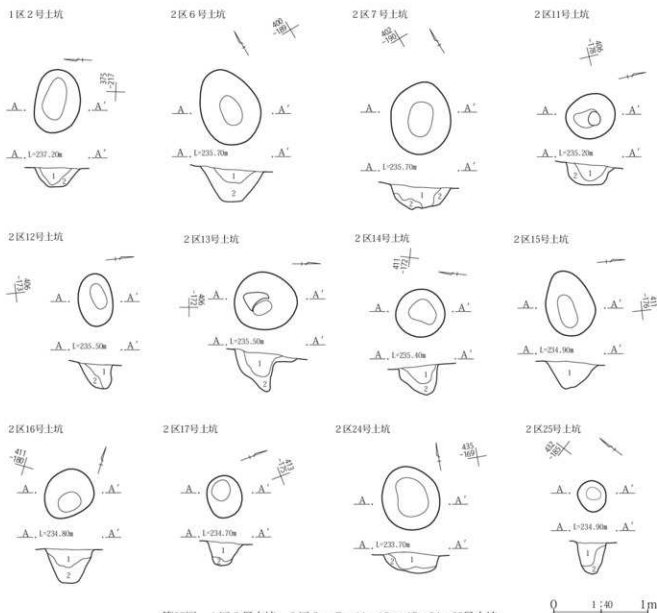
第26表 4区 110号土坑遺物観察表(土器)

検出番号 PL番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第36図 PL.54	1	埋没土	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐色	ふつう	沈線による楕円状モチーフを描き、RLを充填施文する。	加曾利E3式
第36図 PL.54	2	埋没土	深鉢	口縁～ 胴部片	粗砂、白色粒、 黒色粒		ふつう	推定口径22.8cm。緩い波状口縁を呈す。隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。沈線による玉粒文。逆U字状モチーフを描き、無部LRを縦位充填施文する。	加曾利E4式
第36図 PL.54	3	埋没土	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		ふつう	隆帯による懸垂文を施し、LRを縦位充填施文する。	加曾利E4式
第36図 PL.54	4	埋没土	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 褐色	ふつう	推定底径5.6cm。台付き。	加曾利E3式

3. 不整形の土坑(第37～40図、PL.11～25)

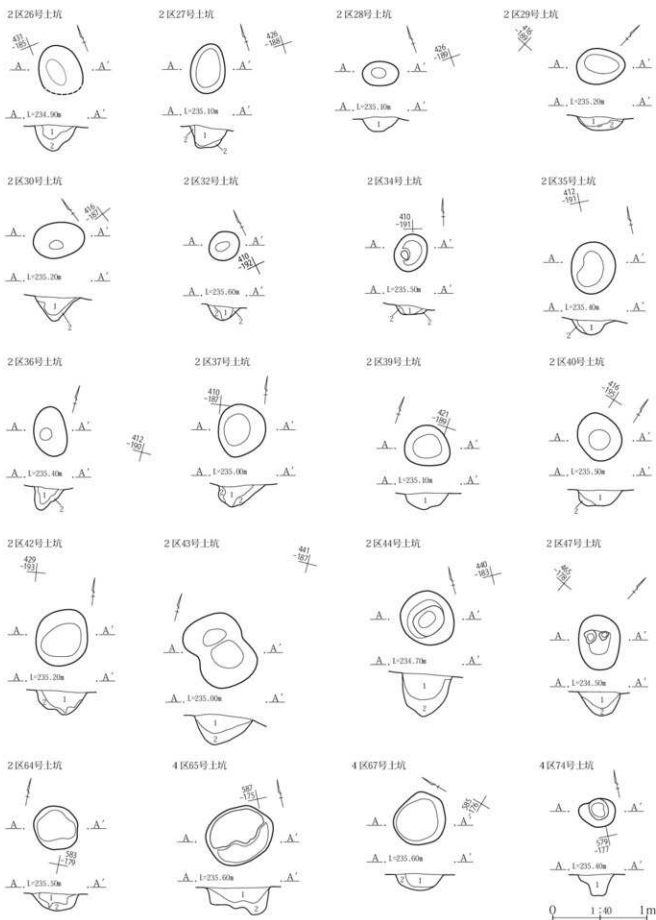
大半は出土する遺物がなく、一定の形状を持たないものである。前記した土坑には属さないが、断面形状や埋没状況から人為的な構築の可能性があり、同一面で検出

されたものをここで扱うこととした。規模や傾きなどの数値は一覧表に掲載した。

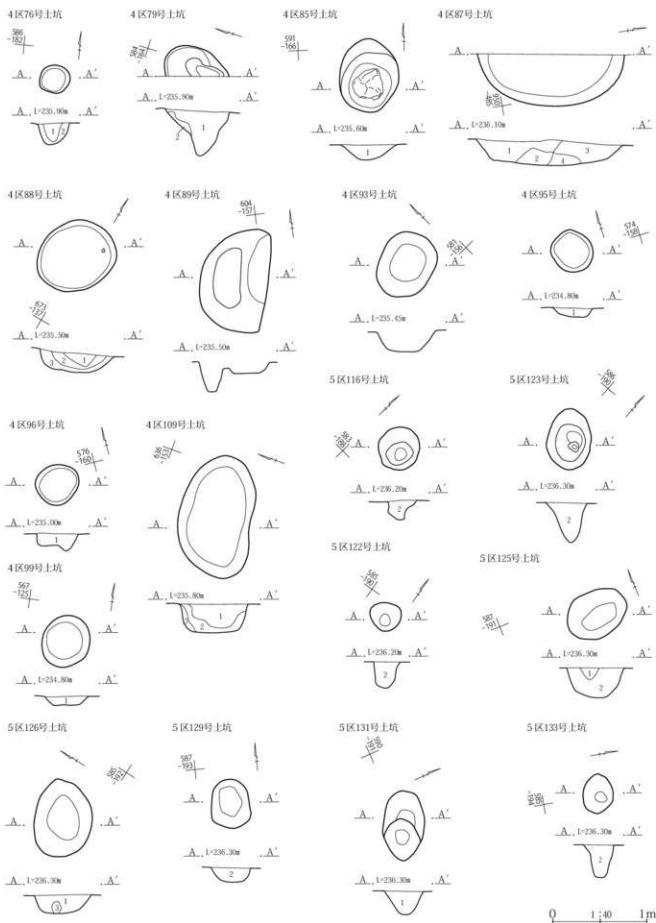


第37図 1区2号土坑、2区6・7・11・12～17・24・25号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



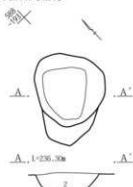
第38図 2区 26～30・32・34・35～37・39・40・42～44・47・64、4区 65・67・74号土坑



第39図 4区 76・79・85・87～89・93・95・96・99・109 5区 116・122・123・125・129・131・133号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

5区135号土坑



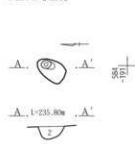
5区137号土坑



5区140号土坑



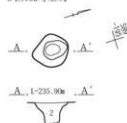
5区143号土坑



5区151号土坑



5区152号土坑



5区153号土坑



2・7号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒を少量含む。黒色粘質土。
- 2 褐色土 10YR4/4 ローム粒を多量に含む。

6号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 黒色粘質土。VIIa層主体。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色軽石を全体に含む。VIIc層主体。

11号土坑～25号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色軽石を全体に含む。VIIc層主体。
- 2 褐色土 10YR4/4 ローム粒を多量に含む。締りあり。

26号土坑～47号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色軽石を全体に含む。VIIc層主体。
- 2 褐色土 10YR4/4 ローム粒を多量に含む。締りあり。

64号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 VIIb層主体。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 1よりもローム粒、塊を多量に含み、粘質上で締りあり。

65号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 VIIb層主体。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 1よりもローム粒、塊を多量に含み、粘質上で締りあり。

67号土坑

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2ローム粒、焼土粒を含む。
- 2 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム粒を多量に含む。締りあり。

74号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 VIIb層主体。

76号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 VIIb層主体。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 1よりもローム粒、塊を多量に含み、粘質上で締りあり。

79号土坑

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム塊を含む。焼土粒、炭化物を含む。締り強い。
- 2 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム塊を含む。焼土粒、炭化物を少量含む。

85号土坑

- 1 黒色土 10YR3/2 VIIa層主体。

87号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 VIIb層主体。VIIa層を少量含む。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 1に類似。VIIa層を少量含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 1に類似。VIIa層僅かに含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/4 VIIb層に類似。VIIa層を少量含む。

88号土坑

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム塊を含む。焼土粒、炭化物を含む。締り強い。
- 2 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム塊を含む。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム粒を多量に含む。締りあり。

95・96・99号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒と黄褐色軽石を含む。締りあり。

109号土坑

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒、塊を含む。締り強い。
- 2 に近い黄褐色 10YR5/4 ローム粒、塊を多量に含む。締り強い。
- 3 に近い黄褐色 10YR5/4 ローム主体。締り強い。

116号土坑～153号土坑

- 1 褐色土 10YR4/4 細粒白色軽石を少量含む。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色軽石を全体に含む。VIIc層主体。
- 3 に近い黄褐色土 10YR5/4 ローム粒を少量含む。



第40図 5区 135・137・140・143・151・152・153号土坑

第27表 土坑計測表

調査区	調査面	名称	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	方位	形状
1	2	2土坑	375-217	0.68	0.50	0.20	N-90°-W	楕円形
2	2	6土坑	400-191	0.85	0.63	0.37	N-S	楕円形
2	2	7土坑	402-190	0.80	0.65	0.28	N-38°-W	楕円形
2	2	11土坑	406-178	0.55	0.50	0.23	N-16°-E	楕円形
2	2	12土坑	406-173	0.56	0.37	0.25	N-90°-E	楕円形
2	2	13土坑	406-173	0.70	0.63	0.40	N-S	楕円形
2	2	14土坑	411-173	0.53	0.50	0.40	N-5°-E	円形
2	2	15土坑	410-177	0.70	0.55	0.30	N-72°-E	楕円形
2	2	16土坑	411-180	0.55	0.50	0.36	N-70°-E	楕円形
2	2	17土坑	413-175	0.45	0.38	0.25	N-90°-E	楕円形
2	2	24土坑	434-170	0.70	0.60	0.22	N-S	楕円形
2	2	25土坑	432-185	0.35	0.30	0.32	N-S	楕円形
2	2	26土坑	430-185	(0.58)	0.45	0.26	N-S	楕円形
2	2	27土坑	426-188	0.55	0.38	0.23	N-27°-E	楕円形
2	2	28土坑	426-190	0.40	0.27	0.15	N-70°-W	楕円形
2	2	29土坑	416-189	0.53	0.40	0.15	N-48°-E	楕円形
2	2	30土坑	416-188	0.55	0.38	0.25	N-51°-W	楕円形
2	2	32土坑	410-192	0.33	0.30	0.15	N-90°-W	楕円形
2	2	34土坑	410-191	0.40	0.35	0.10	N-32°-E	楕円形
2	2	35土坑	411-191	0.60	0.48	0.15	N-S	楕円形
2	2	36土坑	412-192	0.50	0.35	0.25	N-27°-W	楕円形
2	2	37土坑	410-187	0.58	0.50	0.20	N-18°-E	楕円形
2	2	39土坑	421-190	0.50	0.45	0.18	N-72°-E	楕円形
2	2	40土坑	416-195	0.55	0.45	0.18	N-48°-W	楕円形
2	2	42土坑	428-193	0.60	0.55	0.25	N-S	楕円形
2	2	43土坑	440-189	0.60	0.45	0.30	N-47°-E	楕円形
2	2	44土坑	439-184	0.60	0.55	0.45	N-12°-W	楕円形
2	2	47土坑	465-178	0.58	0.43	0.25	N-46°-W	楕円形
4	2	64土坑	583-179	0.45	0.45	0.18	N-S	楕円形
4	2	65土坑	587-175	0.70	0.60	0.30	N-55°-E	楕円形
4	2	67土坑	585-176	0.55	0.55	0.18	N-S	楕円形
4	2	74土坑	579-178	0.40	0.30	0.23	N-72°-W	楕円形
4	2	76土坑	586-182	0.30	0.30	0.23	N-S	楕円形
4	2	79土坑	584-184	(0.65)	(0.3)	0.45	N-S	楕円形
4	2	85土坑	590-166	0.75	0.60	0.15	N-S	楕円形
4	2	87土坑	604-170	1.55	(0.55)	0.28	N-12°-E	楕円形
4	2	88土坑	673-137	0.85	0.72	0.20	N-62°-E	楕円形
4	2	89土坑	604-157	1.05	(0.6)	0.25	N-9°-E	楕円形
4	2	93土坑	580-155	0.80	0.60	0.20	N-63°-E	楕円形
4	2	95土坑	574-159	0.45	0.45	0.13	N-S	楕円形
4	2	96土坑	576-160	0.45	0.45	0.20	N-S	楕円形
4	2	99土坑	567-125	0.50	0.50	0.10	N-S	楕円形
4	2	109土坑	636-153	1.27	0.75	0.30	N-86°-E	楕円形

調査区	調査面	名称	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	方位	形状
5	2	116土坑	583-188	0.48	0.45	0.29	N-S	楕円形
5	2	122土坑	585-190	0.35	0.30	0.17	N-55°-E	楕円形
5	2	123土坑	586-190	0.65	0.48	0.43	N-43°-W	楕円形
5	2	125土坑	587-191	0.68	0.50	0.32	N-90°-E	楕円形
5	2	126土坑	585-192	0.72	0.62	0.19	N-50°-E	楕円形
5	2	129土坑	587-193	0.35	0.38	0.15	N-S	楕円形
5	2	131土坑	590-191	0.73	0.42	0.36	N-65°-W	楕円形
5	2	133土坑	585-199	0.40	0.33	0.36	N-63°-W	楕円形
5	2	135土坑	588-193	0.95	0.70	0.25	N-43°-E	楕円形
5	2	137土坑	588-191	0.63	0.53	0.11	N-90°-E	楕円形
5	2	140土坑	583-189	0.56	(0.52)	0.19	N-46°-E	楕円形
5	2	143土坑	584-191	0.33	0.20	0.22	N-24°-E	楕円形
5	2	151土坑	588-195	0.35	0.33	0.33	N-38°-W	楕円形
5	2	152土坑	589-195	0.33	0.28	0.26	N-40°-W	楕円形
5	2	153土坑	593-195	0.28	0.28	0.10	N-S	楕円形

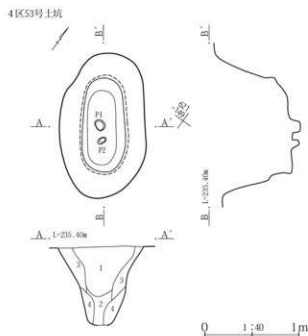
4. 陥穴

53、55、58、62、80、94、100号土坑は陥穴である。出土遺物がないため、詳細な時期は明確にはできない。しかし、調査区境出土の80号土坑断面を見ると、基本土層のⅦ層a（黒色粘質土で縄文時代後期に相当）とⅦ層b（淡色黒ボク土で縄文時代中期に相当）の境付近からの掘り込みが確認できる。このため縄文時代の遺構であると判断した。すべての陥穴の底部には逆茂木痕と考えられるピットが検出されている。中でも58、94号土坑からはピット周辺に礫が数点出土している

4区53号土坑（第41図、PL.25）

調査区座標値621-149に位置する。主軸方位を等高線にほぼ直交して構築している。平面形状は上面、底面とも楕円形を呈する。規模は上面長軸1.55m、短軸0.93m、深0.85m、底部長軸0.8m、短軸0.38mを測る。主軸方向はN-36°-Wを示す。埋没土はローム粒が僅かに混入する粘質性を帯びる黒褐色土を主体とする。底面は平坦で、底部ほぼ中央にピットが2基検出されている。規模はP1が長軸10cm、短軸9cm、深さ10cm、P2が長軸8cm、短軸4cm、深さ9cmを測る。P1、P2間は約10cm程である。壁面形状は全体に底面からほぼ垂直に立ち上がり、中段で外傾してそのまま上方に開く。遺物がな

いたため詳細な時期や集落との関係は不明である。



53号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/1 Ⅶa層と同様。褐色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 Ⅶa層主体。ローム土が混入。
- 3 暗褐色土 10YR3/3 Ⅶa層の崩落土、ロームが少量混入。
- 4 暗褐色土 10YR3/4 3に類似。3よりロームを多量に含む。

第41図 4区 53号土坑

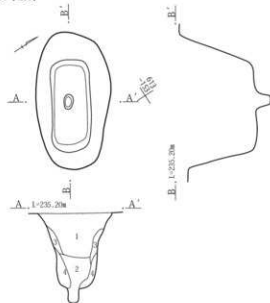
4区55号土坑 (第42図, PL. 25)

調査区座標値613-153に位置する。主軸方位を等高線に直交して構築している。平面形状は上面楕円形、底面長方形を呈する。規模は上面長軸1.55m、短軸0.93m、深さ0.85m、底部長軸0.8m、短軸0.38mを測る。長軸方向はN-59°-Wを示す。埋没土はローム粒が僅かに混入する粘質性を帯びる黒褐色土を主体とする。底面は平坦で、底部中央にピットが1基検出されている。規模は長軸18cm、短軸12cm、深さ14cmを測る。壁面形状は底面からほぼ垂直に立ち上がり、上方に向けて外反する。遺物がないため詳細な時期や集落との関係は不明である。

4区58号土坑 (第42図, PL. 25)

調査区座標値607-163に位置する。主軸方位を等高線に直交して構築している。平面形状は上面、底面とも楕円形を呈する。規模は上面長軸1.85m、短軸1.25m、深さ1.03m、底部長軸1.12m、短軸0.58mを測る。長軸方向はN-60°-Wを示す。埋没土はローム粒が僅かに混入する粘質性を伴う黒褐色土を主体とするが、底部5、6層はローム塊を多量に混入し、自然堆積的な埋没の状況とは異なる様相を呈し、人為的に埋戻しまたは再構築時に人為的に底材として埋填した可能性がある。底部からほぼ中央にピットが1基検出されている。規模は長軸14cm、短軸12cm、深さ16cmを測る。ピット上面及び内側にはφ18~20cm程の礫が検出されている。ピット内の礫はピットの壁に沿って立てかけた状態で他の2個はピットを塞ぐような状態で出土している。これら礫の用途は明確ではないが、出土状態から投棄された可能性はないため、底部ピットに関連するものであると考えられる。壁面形状は長辺壁で底面から中段に向かい緩やかに立ち上がり、中段で挟れその後垂直に立ち上がりながら上面に向かい緩やかに外反する。短辺壁は中段で僅かに挟れ上方に緩やかに立ち上がる。遺物がないため詳細な時期や集落との関係は不明である。

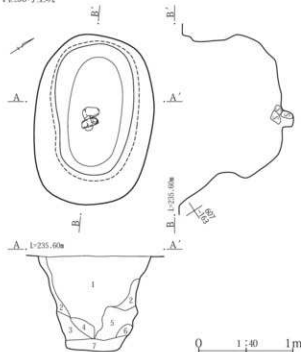
4区55号土坑



55号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/2 VIIa層と同様。ローム塊を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 10YR2/3 1に類似。1よりやや淡い色調。ローム塊を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/3 VIIb層の崩落土。ロームが少量混入。
- 4 暗褐色土 10YR3/4 3に類似。3よりロームを多量に含む。

4区58号土坑



58号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/2 VIIa層と同様。ローム塊を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 10YR4/2 VIIc層とのローム塊の混合土。
- 3 灰黄褐色土 10YR5/2 2と類似。2よりローム塊大。
- 4 明黄褐色土 2.5YR6/6 ローム塊主体。
- 5 暗褐色土 10YR4/3 VIIb層に類似のローム塊を多量に含む。
- 6 明黄褐色土 2.5Y6/6 ローム塊主体。VIIa層が塊間に流入。
- 7 黒褐色土 10YR3/2 VIIa層主体。ローム塊を少量含む。

4区62号土坑 (第43図, PL.26)

調査区座標値575-178に位置する。主軸方位を等高線に直交して構築している。平面形状は上面楕円形、下面長方形を呈する。規模は上面長軸1.6m、短軸0.95m、深さ0.95m、底部長軸0.92m、短軸0.45mを測る。主軸方向はN-54°-Wを示す。埋没土はローム粒が僅かに混入する粘質性を伴う黒褐色土を主体とする。底面は平坦で、底部中央にピットが1基検出されている。規模は長軸20cm、短軸18cm、深さ20cmを測る。壁面形状は長・短軸とも底面からほぼ垂直に立ち上がり、中段で僅かに挟れその後上方に向けて大きく外反する。遺物がないため詳細な時期や集落との関係は不明である。

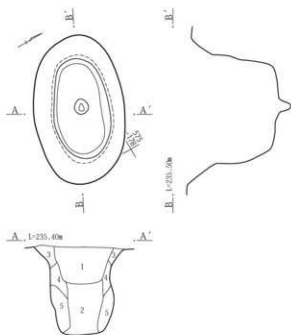
4区80号土坑 (第43図, PL.26)

調査区座標値575-180に位置する。主軸方位を等高線に直交して構築している。東側に検出された62号土坑と平行して配置されている。南側は調査範囲外になるため全容は明確にはできない。平面形状は推定上面楕円形、底面長方形を呈する。規模は確認範囲上面長軸(2.15m)、短軸(1.0m)、深1.25m、底部長軸1.18m、短軸(0.65m)を測る。主軸方向はN-71°-Wを示す。埋没土はローム塊を混入する黒褐色土を主体とする。底部1層は小礫を少量混入する黒褐色粘質土で、58号土坑底部堆積層同様に構築時または再構築時に人為的に底材として埋填した可能性がある。上面2、4、5層はローム塊を混入させ、自然堆積の様相が見られず人為的な埋め戻しによるものと考えられる。底面は平坦で、ほぼ中央にピットが1基検出されている。規模は長軸24cm、短軸12cm、深さ14cmを測る。壁面形状は長・短辺とも底面からほぼ垂直に立ち上がり上方に向けて緩やかに外反する。出土遺物がないため詳細な時期や集落との関係は不明である。

80号土坑

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 VIIc層に類似、ローム塊を少量含む。
- 2 明褐色土 2.5Y6/6 ローム塊主体、VIIb層を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 VIIc層崩落土、ローム塊を僅かに含む。
- 4 黒褐色土 10YR2/3 VIIb層とVIIc層混合土、ローム塊を多量に含む。
- 5 黒褐色土 10YR3/2 4と同様、4よりやや濃い色調。
- 6 黒褐色土 10YR2/2 VIIa層とVIIb層を僅かに含む。
- 7 灰黄褐色土 10YR4/2 VIIb層に類似、ローム塊を多量に含む。
- 8 黒褐色土 10YR2/3 VIIa層とVIIb層の混合土、ローム塊を少量含む。
- 9 灰黄褐色土 10YR4/2 VIIb層に類似、ローム塊を多量に含む。
- 10 灰黄褐色土 10YR4/2 VIIc層に類似、ローム塊を少量含む。
- 11 黒褐色土 10YR2/3 VIIa層、VIIb層、ローム塊を少量含む。

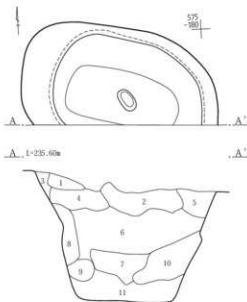
4区62号土坑



62号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/2 VIIa層に類似、褐色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 10YR2/2 1に類似、As-YPとローム塊を少量含む。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム塊・ローム粒を少量含む。
- 4 黒褐色土 10YR2/2 1より薄い色調、ローム粒を僅かに含む。
- 5 黒褐色土 10YR3/2 壁際にAs-YP少量とローム塊を少量含む。

4区80号土坑



0 1:40 1m

第43図 4区 62・80号土坑

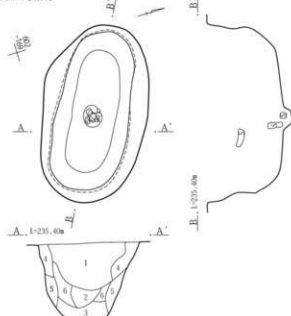
4区94号土坑 (第44図, PL.26)

調査区座標値602-169に位置する。主軸方位を等高線に直交して構築している。平面形状は上面、底面とも楕円形を呈する。規模は上面長軸1.9m、短軸1.13m、深0.8m、底部長軸1.3m、短軸0.48mを測る。主軸方向は $N-62^{\circ}-W$ を示す。埋没土はローム塊、粒を混入する粘質性を帯びる黒褐色土を主体とする。底部から中央にピットが1基検出されている。規模は長軸25cm、短軸11cm、深12cmを測る。ピット上面縁及び内側には $\phi 4\sim 10$ cm程の礫が8点出土している。礫の大きさや配置状況は58号土坑とは異なるが、これら礫の性格は同じものである考えられる。出土状態から投棄や廃棄された可能性は低く、底部ピットに関連するものであると考えられる。壁面形状は長辺壁で底面から中段に向かい緩やかに外側へ立ち上がり、中段で外側に抉れその後垂直に上がる。短辺は中段で僅かに抉れるがほぼ底面から緩やかに立ち上がる。遺物がなため詳細な時期や集落との関係は不明である。

4区100号土坑 (第44図, PL.26)

調査区座標値578-157に位置する。主軸方位を等高線に直交して構築している。平面形状は上面、底面とも楕円形を呈する。規模は上面長軸1.35m、短軸0.6m、深0.65m、底部長軸0.22m、短軸0.16mを測る。長軸方向は $N-0^{\circ}$ を示す。埋没土はローム粒と黄褐色軽石を混入する粘質性を帯びる黒褐色土を主体とする自然堆積である。底部からほぼ中央にピットが1基検出されている。規模は長軸20cm、短軸16cm、深14cmを測る。壁面形状は長・短辺とも底面から中段に向かい緩やかに立ち上がり、その後上方に向けて垂直に立ち上がる。100号土坑は旧石器調査のためのローム上面調査時に検出されたための上面部分は削平されている。上面構築状態は他の土坑と同じように外反するものと考えられる。遺物がなため詳細な時期や集落との関係は不明である。

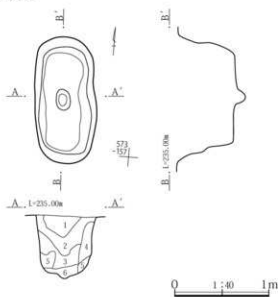
4区94号土坑



94号土坑

- 1 黒色土 10YR2/1 VIa層に類似。ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 10YR2/1 Iに類似。ローム塊を僅かに含む。
- 3 黒褐色土 10YR2/2 Iに類似。ローム粒・塊を少量含む。
- 4 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・塊を含む。
- 5 黒褐色土 10YR2/2 VIa層に類似。ローム塊を少量含む。
- 6 黒褐色土 10YR2/2 4層に類似。ローム塊を多量含む。

4区100号土坑



100号土坑

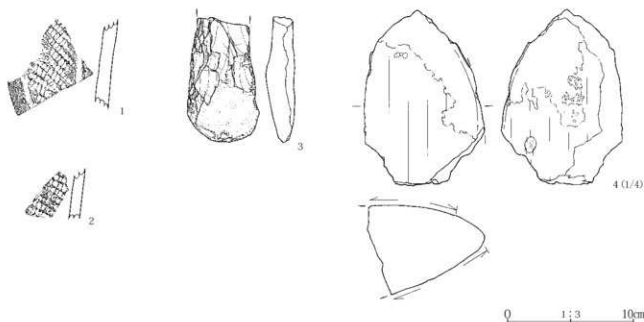
- 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒と黄褐色軽石を含む。礫あり。
- 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒と黄褐色軽石を含む。炭化物を少量含む。礫あり。
- 3 黒褐色土 10YR2/3 2と類似するが、炭化物を多く含む。
- 4 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム塊を多量に含む。
- 5 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム塊、As-YPを含む。
- 6 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム塊、As-YP主体。

第5項 遺構外出土遺物 (第45～71図、PL.27・54～74)

本遺跡からは縄文時代の中期から後期にかけての竪穴住居や埋設土器、土坑などの遺構は主に4区から検出されている。しかし、遺構外出土遺物については、数の違いはあるものの1区を除く調査区から出土している。ここではそれら遺構に伴わない縄文包含層から出土した遺物を掲載した。遺構外出土の縄文土器総数は12026点である。時期別で見ると早期から後期にかけての幅広い時期の土器が出土している。中でも竪穴住居などの遺構と同時期である中期から後期にかけての土器が多く出土しており、これらで全体の90%以上を占め、中期の土器だ

けで80%を占める。(詳細については第5章まとめを参照)

石器・石製品においては総数201点が出土している。内訳は打製石斧78点、加工痕のある剥片が46点、多孔石20点、石鎌15点、削器10点、砥石5点、磨石4点、敲石3点、磨製石斧2点、石棒2点、石皿1点、石槍1点、凹石2点、石錐1点、石製品1点である。石材は打製石斧や加工痕ある剥片においては黒色頁岩や細粒輝石安山岩などを使用しているものが多く、多孔石などは粗粒輝石安山岩を使用しているものが多い。これらの石材は遺跡東を流れる利根川周辺に多く見られるものである。



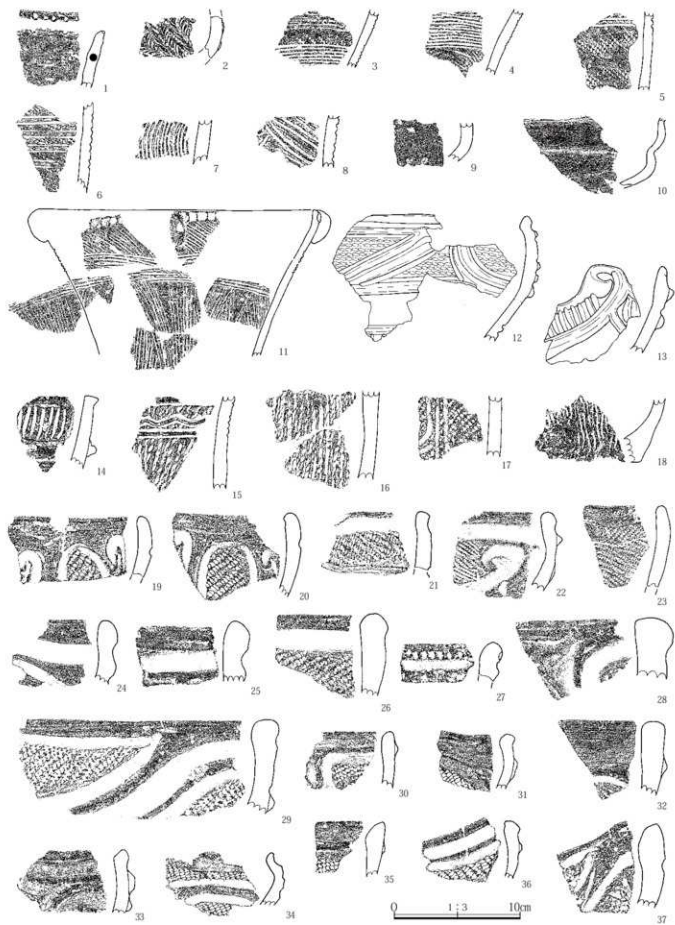
第45図 1区 遺構外出土遺物

第28表 1区 遺構外遺物観察表 (土器)

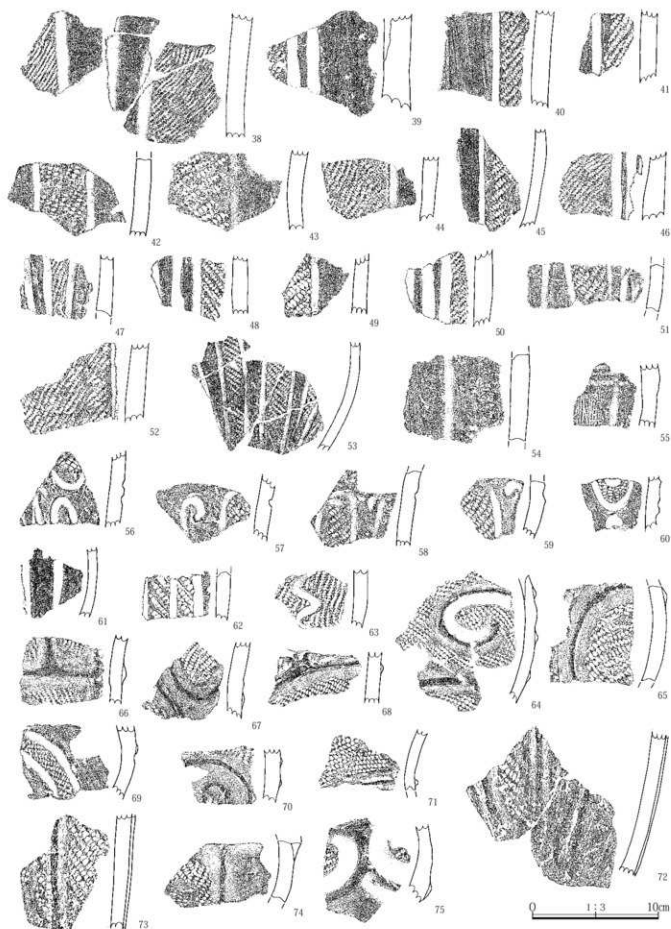
種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第45図 PL.54	1	350-150	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	沈線によりU字状モチーフを描き、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第45図 PL.54	2	350-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 石英	明黄褐	良好	L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 5式

第29表 1区 遺構外遺物観察表 (石器・石製品)

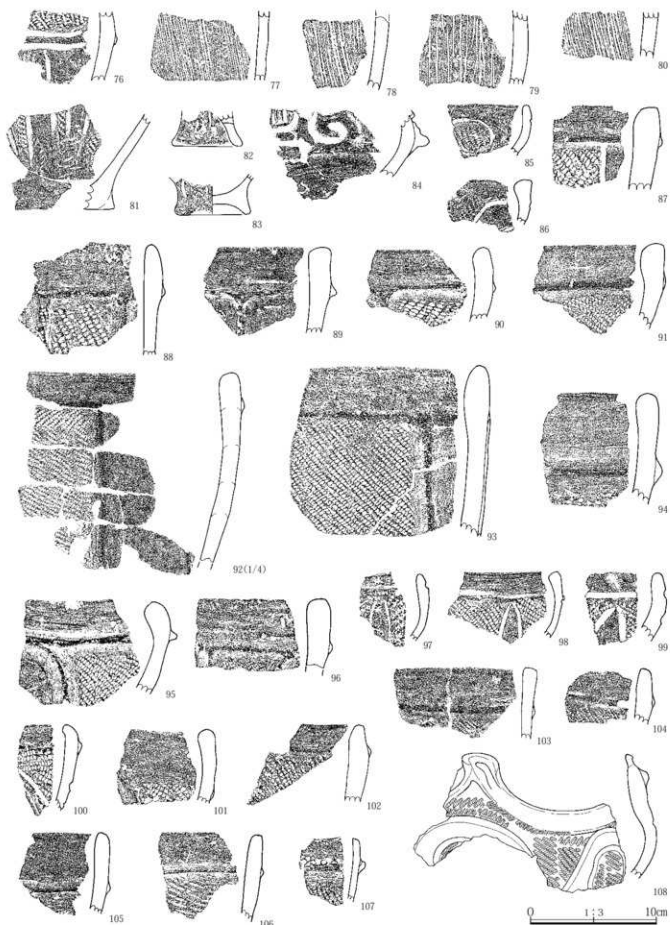
種別番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石 材
第45図 PL.54	3	打製石斧 短型型	360-170	(9.7)	5.7	138.8	完成状態。刃部摩耗が著しい。磨研痕は明らかでない。刃部再生の痕跡は見られない。器体上半を欠損。	灰色安山岩
第45図 PL.54	4	多孔石 楕円鑽	350-200	(8.6)	(12.8)	2542.6	裏面側に漏斗状の孔1を穿つ。表裏面とも砥面は摩耗する。	粗粒輝石安山岩



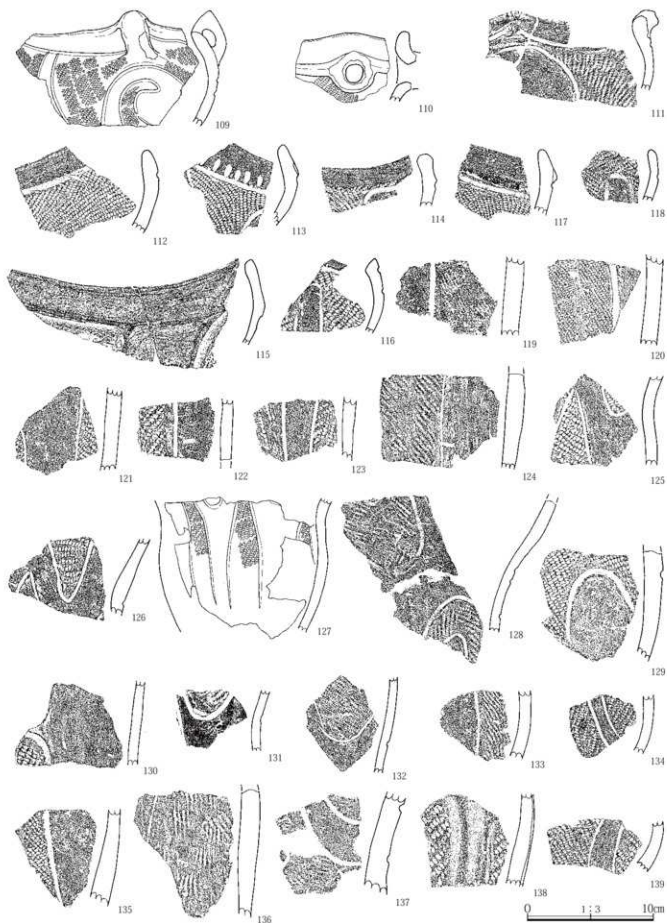
第46図 2区 遺構外出土遺物(1)



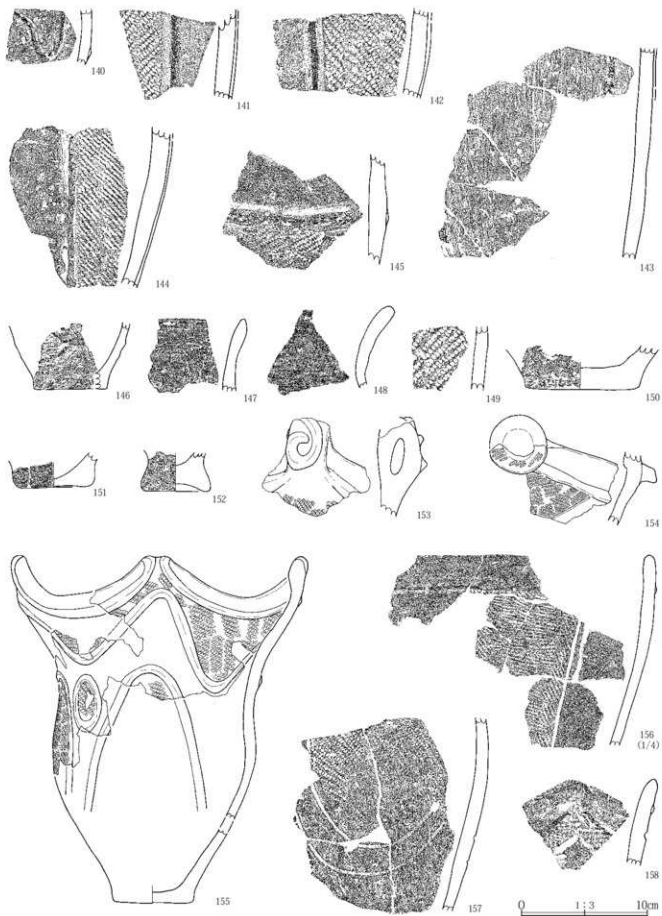
第47図 2区 遺構外出土遺物(2)



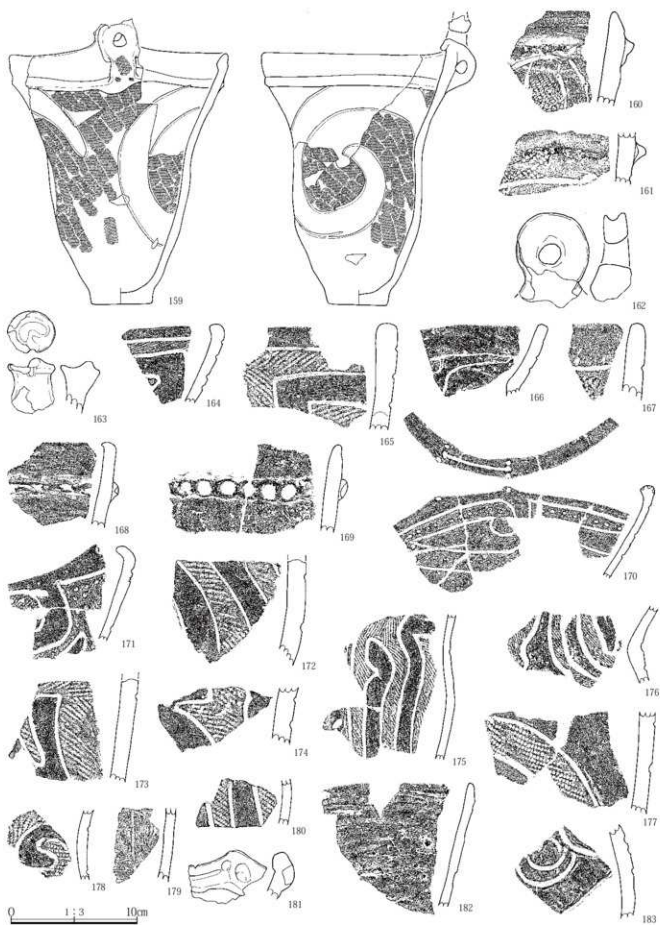
第48図 2区 遺構外出土遺物(3)



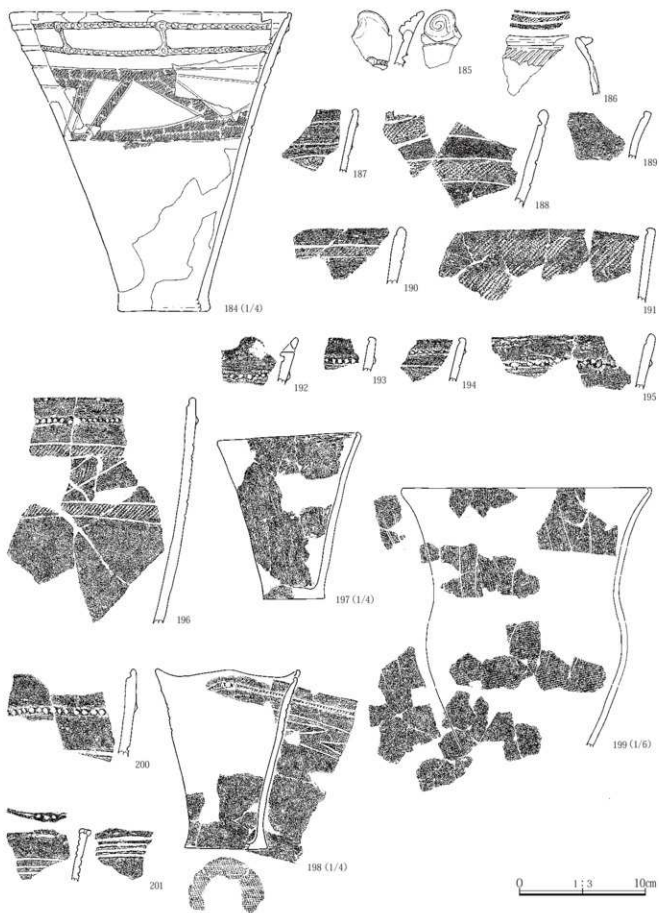
第49図 2区 遺構外出土遺物(4)



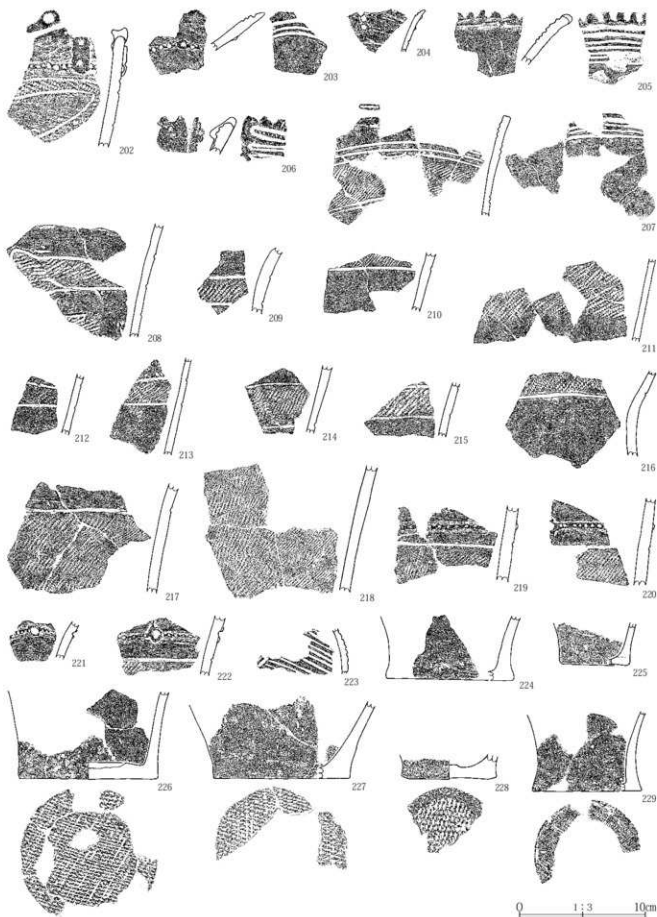
第50図 2区 遺構外出土遺物(5)



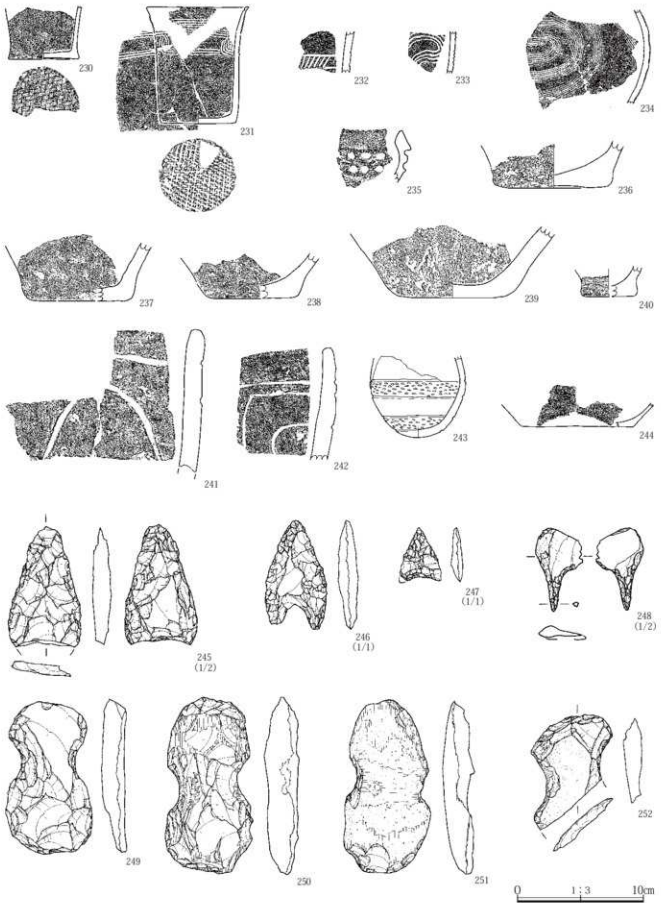
第51図 2区 遺構外出土遺物(6)



第52図 2区 遺構外出土遺物(7)

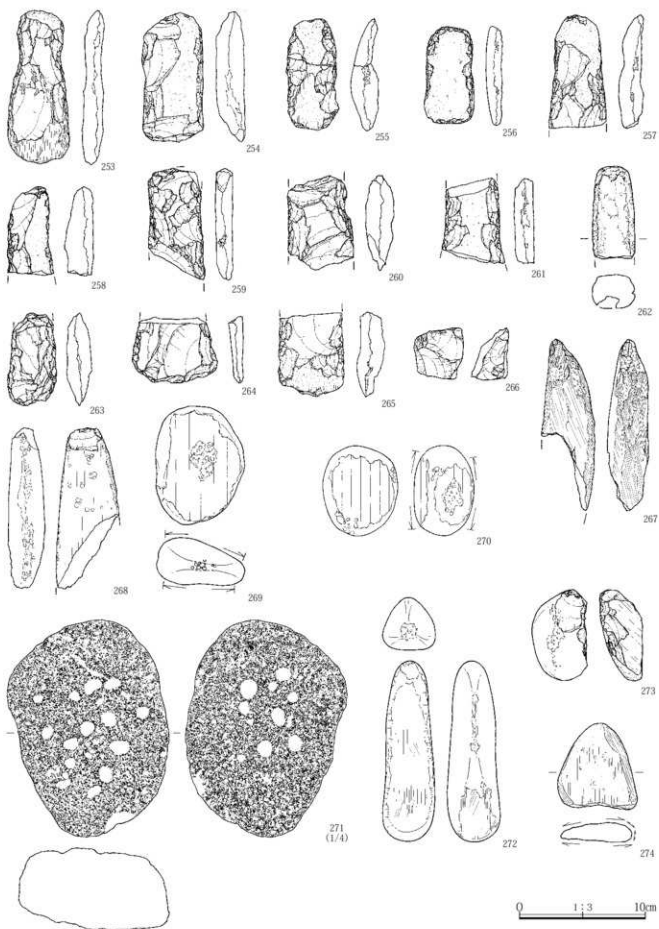


第53図 2区 遺構外出土遺物 (8)



第54図 2区 遺構外出土遺物(9)

第3章 検出された遺構と遺物



第55図 2区 遺構外出土遺物 (10)

第30表 2区 遺構外遺物観察表(土器)

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第46図 PL.54	1	370-210	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 黒色粒、繊維	明赤褐色	ふっつ	無文。実証状の口縁部に刻みを付す。	早期?
第46図 PL.54	2	252面	深鉢	胴部破片	粗砂	橙	良好	浮線により弧状モチーフを描く。地文にR.L横位施文。	諸磯b式
第46図 PL.54	3	450-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	集合沈線による横帯構成。地文にR.L横位施文。	諸磯b式
第46図 PL.54	4	475-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐色	ふっつ	集合沈線による横帯構成。地文にR.L横位施文。	諸磯b式
第46図 PL.54	5	405-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	集合沈線による横帯構成。地文にR.L横位施文。	諸磯b式
第46図 PL.54	6	395-195	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐色	良好	集合沈線による横帯構成。地文にR.L横位施文。	諸磯b式
第46図 PL.54	7	455-185	深鉢	胴部破片	粗砂	明黄褐色	ふっつ	集合沈線により弧状モチーフを描く。	諸磯b式
第46図 PL.54	8	400-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐色	良好	平行沈線によりレンズ状モチーフを描く。地文にR.L横位施文。	諸磯b式
第46図 PL.54	9	435-185	浅鉢	胴部破片	粗砂	橙	ふっつ	加曲部下の部位。	諸磯b式
第46図 PL.54	10	470-180	浅鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	良好	加曲部下の部位。段を有す。	諸磯b式
第46図 PL.54	11	415-185	深鉢	口縁～ 胴部破片	粗砂	にぶい 黄橙	ふっつ	口縁に向かって開きながら、口縁が緩く内湾。口縁下に刻み列を施す。横位集合沈線を施して幅狭な口縁部文様帯を区画、斜位の集合沈線を充填施文し、貼付文を付す。胴部文様帯は縦位に展開するモチーフを施す。	諸磯c式
第46図 PL.55	12	395-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫	にぶい 赤褐色	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部文様帯を区画。帯系紋Lを横位施文し、斜位、弧状の隆帯を貼付する。口縁部文様帯下は幅狭な無文帯を設け、平行沈線による胴部文様へと続く。	加曾利E1式
第46図 PL.55	13	440-190	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	波状口縁で波頂部に渦巻状隆帯を貼付。口縁に沿って隆帯を沿わせ、縦位沈線を充填施文する。	加曾利E1式
第46図 PL.55	14	440-190	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	No.13と同一個体。	加曾利E1式
第46図 PL.55	15	405-185	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	にぶい 赤褐色	良好	No.12と同一個体。帯系文L縦位施文を地文とし、横位、波状の平行沈線をめぐらす。	加曾利E1式
第46図 PL.55	16	300-185	深鉢	胴部破片	細砂、黒色粒	にぶい 赤褐色	良好	No.12と同一個体。	加曾利E1式
第46図 PL.55	17	415-180	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐色	良好	R.L縦位施文を地文とし、縦位、クランク状の沈線を施す。	加曾利E1式
第46図 PL.55	18	415-190	深鉢	底部破片	細砂、黒色粒	にぶい 赤褐色	良好	帯系文Lを縦位施紋する。	加曾利E1式
第46図 PL.55	19	500-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	ふっつ	沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを縦位充填施文。モチーフ間にワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第46図 PL.55	20	500-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを縦位充填施文。モチーフ間にワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第46図 PL.55	21	440-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂	橙	ふっつ	沈線による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第46図 PL.55	22	500-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂	橙	ふっつ	沈線による渦巻文、横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第46図 PL.55	23	2区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂	橙	良好	口縁が緩く内湾。幅狭な口縁部無文帯を設け、L.Rを充填施紋。沈線によるワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第46図 PL.55	24	500-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、石英	明赤褐色	良好	沈線による横位楕円状モチーフを施す。	加曾利E3式
第46図 PL.55	25	400-191	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	口縁下に横位沈線を施す。	加曾利E3式
第46図 PL.55	26	445-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	ふっつ	横位沈線を施し、L.Rを充填施文する。	加曾利E3式
第46図 PL.55	27	415-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	浅黄橙	良好	口縁下に斜交列、横位沈線をめぐらす。	加曾利E3式
第46図 PL.55	28	515-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 黄橙	ふっつ	隆帯による横位楕円状モチーフを施す。	加曾利E3式
第46図 PL.55	29	445-175	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 黄橙	ふっつ	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、複節L.R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第46図 PL.55	30	525-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫	橙	ふっつ	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、複節L.R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第46図 PL.55	31	405-185	深鉢	口縁部 破片	細砂	にぶい 黄橙	良好	隆帯により楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式

第3章 検出された遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第46図 PL.55	32	480-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	隆帯による楕円状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第46図 PL.55	33	400-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	橙	ふつう	隆帯により渦巻状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第46図 PL.55	34	385-200	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第46図 PL.55	35	420-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂	にぶい 黄橙	ふつう	横位隆帯を施し、複眼R.L.Rを充填施文する。	加曾利E 3式
第46図 PL.55	36	490-175	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつう	波状口縁、口縁に沿って隆帯を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第46図 PL.55	37	500-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	波状口縁、沈線による楕円状モチーフ、逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。逆U字状モチーフ内に懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	38	505-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	39	505-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 石英	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	40	500-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	41	445-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	良好	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	42	490-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	43	480-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	44	500-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	45	520-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	46	500-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	47	505-170	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	浅黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	48	505-165	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	49	2X2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	50	500-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	51	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	52	500-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	53	450-165	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒、 石英	明黄褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.55	54	480-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	55	520-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	沈線による横位区画、懸垂文を施し、縦位条線を充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	56	520-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文、U字状、逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	57	500-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文、モチーフ間にワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	58	505-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	No.57と同一個体。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	59	495-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文、モチーフ間にワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	60	415-185	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	にぶい 赤褐	ふつう	沈線によりU字状モチーフを描き、R.Lを充填施文、ワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	61	2X2面	深鉢	胴部破片	粗砂	橙	ふつう	沈線による懸垂文、ワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	62	500-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	沈線による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文、さらに中央に沈線を垂下させる。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	63	480-185	深鉢	胴部破片	粗砂、細砂、 白色粒	灰黄褐	ふつう	R.L縦位施文を地文とし、沈線による蛇行懸垂文を施す。	加曾利E 3式

第2節 縄文時代の遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第47図 PL.56	64	505-180	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	良好	1条の隆帯による渦巻状モチーフを施し、複節R L Rを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	65	505-165	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白色粒	白橙	良好	1条の隆帯による渦巻状モチーフを施し、R Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	66	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふつつ	1条の隆帯を縦位、横位に施し、R Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	67	500-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつつ	1条の隆帯によるU字状、弧状モチーフを施し、R Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	68	2区2面	深鉢	胴部破片	細砂	灰黄褐	良好	1条の隆帯により弧状モチーフを描き、R Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	69	395-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	2条の隆帯による弧状モチーフを施し、L Rを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	70	460-180	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	橙	良好	2条の隆帯による渦巻状モチーフを施し、R Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	71	2区2面	深鉢	胴部破片	粗砂	にぶい 黄橙	ふつつ	No.35と同一個体。隆帯による弧状モチーフを施し、複節R L Rを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	72	465-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	明赤褐	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	73	445-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	明赤褐	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	74	425-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、R Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第47図 PL.56	75	475-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	良好	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、L Rを充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	76	500-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふつつ	隆帯による口縁部楕円状モチーフ、沈線による胴部懸垂文を施し、異条R Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	77	500-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	明黄褐	ふつつ	縦位条線を充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	78	460-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	橙	ふつつ	縦位条線を充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	79	465-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふつつ	縦位条線を充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	80	515-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 赤褐	ふつつ	縦位条線を充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	81	440-170	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、石英	浅黄	ふつつ	沈線による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	82	495-180	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	橙	ふつつ	指定口径5.2cm。台付き。沈線による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	83	515-175	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 橙	良好	台部で径5.5cm。沈線による懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	84	475-180	浅鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	良好	屈曲部上位に隆帯による渦巻文、横位楕円状モチーフを施し、縦位沈線を充填施文する。	加曾利E 3式
第48図 PL.56	85	445-175	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	橙	ふつつ	沈線により逆U字状モチーフを描き、R Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.56	86	500-180	深鉢	口縁部破片	細砂、白色粒	橙	ふつつ	帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.56	87	480-185	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。沈線による懸垂文を施し、R Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.56	88	500-175	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	浅黄橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.56	89	2区2面	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯による懸垂文を施し、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.56	90	440-165	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯を垂下させ、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.56	91	435-185	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯下にR Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.56	92	430-195	深鉢	口縁部破片	粗砂	にぶい 黄橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯による懸垂文を施し、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.56	93	430-195	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	94	510-185	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯下にR Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	95	425-185	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯による弧状モチーフを施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	96	530-180	深鉢	口縁部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯による懸垂文、逆U字状モチーフを施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考	
第48図 PL.57	97	495-190	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楢	良好	横位沈線をめぐらせて幅状な口縁部無文帯を区画、沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	98	485-180	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線により逆U字状モチーフを描き、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式	
第48図 PL.57	99	500-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒		浅黄楢	ふつう	横位沈線をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線により逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	100	450-190	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式	
第48図 PL.57	101	475-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯による逆U字状モチーフを施し、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式	
第48図 PL.57	102	475-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂		楢	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にL.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	103	500-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒		楢	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にL.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	104	500-175	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒		楢	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にL.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	105	530-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楢	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。	加曾利E 4式
第48図 PL.57	106	440-175	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下に無節L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式	
第48図 PL.57	107	510-175	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にぶい 楢	ふつう	横位隆帯をめぐらせ、隆帯上端に円形刺突を施す。隆帯下に無節R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式	
第48図 PL.57	108	400-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	ふつう	波状口縁で波頂部に突起状の突起を付す。波頂部から連なる隆帯をめぐらせて幅状な口縁部無文帯を区画、沈線により玉飾状のモチーフを描き、前々段反照L.R.Rを充填施文する。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	109	410-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 赤褐	ふつう	波状口縁で波頂部に突起状突起を付す。沈線をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線による逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	110	400-190	注口付 深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒		黄橙	ふつう	縦い波状口縁を呈し、波頂部下に筒状の注口部を作出。隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にR.Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	111	400-185	深鉢	口縁部 破片	細砂、黒色粒	にぶい 赤褐	ふつう	No.109と同一個体。波頂部下に突起を付す。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	112	515-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		黒褐	良好	波状口縁。沈線をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線下にL.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	113	415-190	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 楢	ふつう	波状口縁。刻み列を沿わせた沈線をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線による逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	114	400-190	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒		楢	良好	波状口縁。隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線により逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	115	505-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂		灰褐	ふつう	波状口縁。横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯による逆U字状モチーフ、懸垂文を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	116	425-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	波状口縁。沈線をめぐらせて幅状な口縁部無文帯を区画、波頂部下に沈線による逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	117	500-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		灰黄褐	ふつう	波状口縁。口縁に沿った隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にL.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	118	515-180	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒		明赤褐	ふつう	波状口縁。波頂部下に沈線による逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	119	460-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楢	良好	沈線による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	120	455-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 楢	良好	沈線による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	121	435-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	沈線による懸垂文、弧状モチーフを施し、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	122	500-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 楢	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	123	500-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		明赤褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	124	475-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、無節L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式	
第49図 PL.57	125	405-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楢	良好	沈線によりU字状、逆V字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	126	445-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楢	ふつう	沈線によるU字状、逆V字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式

第2節 縄文時代の遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第49図 PL.57	127	410-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふっつ	沈線によるU字状モチーフ、懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	128	505-170	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	明赤褐	ふっつ	くびれ部を境に、沈線によるU字状、逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。幅は不揃いだが、沈線は帯状を呈す。	加曾利E 4式
第49図 PL.57	129	395-195	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	沈線によるU字状、逆U字状モチーフを描き、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	130	505-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	沈線による懸垂文、U字状モチーフを施し、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	131	455-170	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	橙	良好	沈線による懸垂文、U字状モチーフを施し、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	132	410-185	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふっつ	沈線によりU字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	133	515-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	沈線により弧状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	134	455-170	深鉢	胴部破片	粗砂	橙	ふっつ	沈線により弧状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	135	495-185	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	橙	ふっつ	沈線による弧状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	136	465-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	縦位沈線を施し、無節L.rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	137	395-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふっつ	帯状沈線によりU字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	138	505-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 赤褐	ふっつ	隆帯による逆U字状モチーフを施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第49図 PL.58	139	425-195	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 橙	ふっつ	帯状沈線により弧状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第50図 PL.58	140	520-175	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒、石英	にふい 黄橙	ふっつ	隆帯によりU字状モチーフを施す。	加曾利E 4式
第50図 PL.58	141	425-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	ふっつ	隆帯による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第50図 PL.58	142	490-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	浅黄橙	ふっつ	隆帯による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第50図 PL.58	143	505-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	隆帯による懸垂文を施す。	加曾利E 4式
第50図 PL.58	144	475-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰黄褐	ふっつ	隆帯による懸垂文を施し、無節L.rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第50図 PL.58	145	450-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯下にL.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第50図 PL.58	146	415-180	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にふい 赤褐	ふっつ	推定底径5.8cm。隆帯によりU字状モチーフを施し、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第50図 PL.58	147	425-180	内耳壺	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰褐	ふっつ	口縁の無文部。	加曾利E 5式
第50図 PL.58	148	525-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	ふっつ	口縁の無文部。	加曾利E 5式
第50図 PL.58	149	395-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にふい 黄橙	良好	R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 5式
第50図 PL.58	150	510-185	深鉢	底部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	にふい 黄橙	ふっつ	底径8.5cm。残存部は無文。	加曾利E 5式
第50図 PL.58	151	2区2面	深鉢	底部破片	粗砂	橙	良好	推定底径5.5cm。残存部は無文。	加曾利E 5式
第50図 PL.58	152	505-170	深鉢	底部破片	粗砂、黒色粒	橙	ふっつ	底径5.2cm。台付き。残存部は無文。	加曾利E 5式
第50図 PL.58	153	400-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にふい 黄橙	ふっつ	波状口の橋状突起。把手にJ字状の隆帯を貼付。隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯下にL.Rを充填施文する。	後期加曾利E系
第50図 PL.58	154	515-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	波状口縁で波状部に環状の貼付文を付す。隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。斜位の沈線を施してL.Rを充填施文する。	後期加曾利E系
第50図 PL.58	155	400-191	深鉢	口縁～底 部1/2	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐	ふっつ	口径29.2cm、底径8.4cm、推定器高36.7cm。波状口縁で縦位キヤリパー状。口縁に沿うように波頂部から左右に隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。くびれ部上位に漁丸状。下位に逆U字状や楕円状モチーフを隆帯により施し、L.Rを充填施文する。	後期加曾利E系
第50図 PL.58	156	505-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。沈線を斜位に垂下させ、L.Rを充填施文する。	後期加曾利E系

第3章 検出された遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考	
第508号 PL.58	157	465-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楕	ふつつ	帯状沈線によりU字状モチーフを描き、L Rを縦位充填施文する。	後期加曾利E系
第508号 PL.58	158	450-185	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 楕	ふつつ	波状口縁。口縁に沿った隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。隆帯に平行する沈線を施して帯状区画を作出し、L Rを充填施文する。	後期加曾利E系	
第514号 PL.59	159	464-187	深鉢	口縁～底 部2/3	粗砂、白色粒、 黒色粒		楕	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。沈線による逆U字状モチーフを描く。モチーフ内に縦位帯状沈線を施し、R Lを充填施文する。	後期加曾利E系
第514号 PL.59	160	475-190	深鉢	口縁部破片	粗砂、細礫、白 色粒、黒色粒	にぶい 赤褐	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画。沈線による逆U字状モチーフを描く。モチーフ内に縦位帯状沈線を施し、R Lを充填施文する。	後期加曾利E系	
第514号 PL.59	161	495-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楕	良好	横位隆帯をめぐらせ、一部を突出させる。沈線による弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	後期加曾利E系
第514号 PL.59	162	460-190	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄楕	ふつつ	波頂部の環状突起。	称名寺式	
第514号 PL.59	163	450-180	深鉢	口縁部破片	細砂、黒色粒、 石英	にぶい 黄楕	良好	波頂部の突起。頂部にの字状の隆帯を附付する。	称名寺式	
第514号 PL.50	164	500-160	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楕	ふつつ	口縁内面肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第514号 PL.59	165	395-193	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄楕	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、無脚L Rを充填施文する。	称名寺式	
第514号 PL.59	166	450-190	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	良好	くの字状に屈曲する器形。帯状沈線によるモチーフを描く。	称名寺式	
第514号 PL.59	167	400-185	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楕	ふつつ	横位沈線。無脚L Rを施す。	称名寺式
第514号 PL.59	168	490-185	深鉢	口縁部破片	粗砂、黒色粒、 石英	にぶい 赤褐	良好	刺突を付した隆帯を口縁下にめぐらす。	称名寺式	
第514号 PL.59	169	460-180	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒		楕	ふつつ	押捺を伴う隆帯をめぐらす。	称名寺式
第514号 PL.59	170	500-160	深鉢	口縁部破片	粗砂、細礫	にぶい 黄楕	ふつつ	口縁内面肥厚。口縁に小突起を付し、高文連繫文を施す。帯状沈線により横位に連なるJ字状などのモチーフを施し、L R、異点を充填施文する。	称名寺式	
第514号 PL.59	171	500-160	深鉢	口縁部破片	粗砂、細礫	にぶい 黄楕	ふつつ	No.165と同一個体。	称名寺式	
第514号 PL.59	172	395-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄楕	良好	No.165と同一個体。	称名寺式	
第514号 PL.59	173	395-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄楕	良好	No.165と同一個体。	称名寺式	
第514号 PL.59	174	395-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄楕	良好	No.165と同一個体。	称名寺式	
第514号 PL.59	175	455-175	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 赤褐	良好	筋状隆帯を垂下、帯状沈線により縦位に屈曲するモチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式	
第514号 PL.59	176	350-170	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	にぶい 赤褐	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式	
第514号 PL.59	177	400-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	ふつつ	帯状沈線により弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式	
第514号 PL.59	178	520-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒		楕	良好	帯状沈線により逆J字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第514号 PL.59	179	2区2面	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	にぶい 黄楕	良好	縦位沈線を施す。	称名寺式	
第514号 PL.59	180	465-190	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒		楕	良好	縦位帯状沈線を施し、L Rを充填施文する。	称名寺式
第514号 PL.50	181	410-200	深鉢	口縁部破片	細砂、黒色粒	明赤褐	良好	波状口縁で口縁が内折。波頂部下に円形刺突、内折部に高文連繫文を施す。	堀之内1式	
第514号 PL.59	182	480-170	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒		楕	ふつつ	無文だが、外面に横位の調整痕が顕著に残す。	堀之内1式
第514号 PL.59	183	430-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒		楕	ふつつ	帯状沈線により弧状モチーフを描く。	堀之内1式
第522号 PL.59	184	435-175	深鉢	口縁～底 部3/4	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	口縁29.4cm、推定底径9.2cm、推定器高31.7cm。刻みを付した横位2条の隆帯をめぐらし、部分的に隆帯で連結させて交点に円形刺突を施す。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	堀之内2式	

第2節 縄文時代の遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第52Ⅸ PL.60	185	450-175	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐色	ふつう	口縁に突起を付し、内面に沈線による渦巻文を描く。円形 刺突、刻みを伴う隆線をめぐらす。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	186	465-165	注口土 器	口縁部 破片	細砂、黒色粒	灰黄褐色	ふつう	斜位の沈線を施文。口縁外面を張り出させ、口唇部平坦面 を作出。L.Rを充填施文した帯状沈線をめぐらす。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	187	460-175	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	2条の隆線をめぐらす。横位沈線をめぐらし、L.Rを充填 施文する。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	188	440-175	深鉢	口縁部 破片	細砂、礫、 白色粒	橙	良好	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	189	460-185	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	口縁が緩く外反。無文。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	190	470-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 赤褐色	良好	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	191	440-175	深鉢	口縁部 破片	口縁部 破片	にぶい 赤褐色	良好	L.Rを横位施文する。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。 内面研磨。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	192	450-175	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐色	ふつう	口縁に瘤状の小突起を付し、口縁下に刻みを付した隆線を めぐらす。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	193	465-185	深鉢	口縁部 破片	細砂、黒色粒	明赤褐色	良好	口縁下に刻みを付した隆線をめぐらす。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	194	400-190	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐色	良好	刻みを付した隆線、沈線を施し、L.Rを充填施文する。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	195	495-175	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐色	良好	刻みを付した隆線をめぐらす。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	196	465-185	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐色	良好	口縁部に刻みを付した隆線を1条めぐらし、帯状沈線による 幾何学モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	197	460-190 465-190	深鉢	口縁～底 部2/3	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 赤褐色	良好	口径14.5cm、底径6.4cm、器高17.5cmのハケツ形。無文だが、 口縁は横位、胴部は縦位、斜位のナデ痕がみられる。口縁 内面に1条の沈線をめぐらす。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	198	450-175	深鉢	口縁～底 部1/3	粗砂、白色粒	赤褐色	良好	推定口径14.8cm、底径7.7cm、推定器高18.9cmのハケツ形。 緩やかな波状口縁を呈す。口縁部に隆線を1条めぐらし、 帯状沈線により幅広い幾何学モチーフを描き、L.Rを充填 施文する。無文部は磨かれ、光沢をもつ。底面に副代痕。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	199	425-190	深鉢	口縁～ 胴下位	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐色	ふつう	胴下位が膨らみ、胴中位でくびれて口縁が開く器形。口縁 が短く内折する。沈線を垂下させる構成だが、一部逆U字 状になるようだ。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	200	475-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	暗赤褐色	良好	刻みを付した隆線、沈線をめぐらす。	瓶之内2式
第52Ⅸ PL.60	201	465-190	深鉢	口縁部 破片	細砂、黒色粒	灰黄褐色	良好	口縁に小突起を付し、頂部に刺突を施す。3条の沈線、内 面に4条の沈線をめぐらす。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	202	530-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐色	良好	縦い波状口縁で波頂部を凹ませ。口縁下に刻みを付した隆 線を1条めぐらし、以下、帯状沈線による幾何学モチーフ を描き、R.Lを充填施文する。波頂部から隆線にかけて、 8の字陪付紋を付す。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	203	480-185	浅鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	暗赤褐色	良好	刻みを付した隆線をめぐらし、円形刺突を伴う陪付文を付 す。口縁内面に3条の沈線をめぐらす。口縁は山形状の連続 波状を呈す。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	204	410-200	深鉢	口縁部 破片	細砂、黒色粒	にぶい 黄褐色	良好	縦い波状口縁。円形刺突を伴う隆線を2条、横位沈線をめ ぐらし、L.Rを充填施文する。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	205	475-160	浅鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐色	良好	外面は無文。内面に7条の沈線をめぐらし、最上位の沈線 間ののみ刻みを付す。口縁に山形状の突起を連ねる。内面研磨。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	206	455-165	浅鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐色	良好	口縁内面を肥厚させ、弧状の隆線を陪付。肥厚部に帯状沈 線をめぐらし、内部に刻みを充填、肥厚部下は複数条の沈 線をめぐらす。口縁は山形状の連続波状を呈す。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	207	465-190	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐色	良好	No.196と同一個体。3条、2条の沈線をめぐらせて横帯を 区画、L.Rを充填施文する。口縁内面に4条、口唇部に1 条の沈線をめぐらす。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	208	415-195	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒、 石英	にぶい 赤褐色	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、無節L.Rを充填施 文する。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	209	450-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐色	良好	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	210	600-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	暗赤褐色	良好	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	211	440-175	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 赤褐色	良好	No.191と同一個体。縄文帯を両す横位沈線は施されない。 縄文帯下は磨き調整。	瓶之内2式
第53Ⅸ PL.60	212	440-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐色	良好	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	瓶之内2式

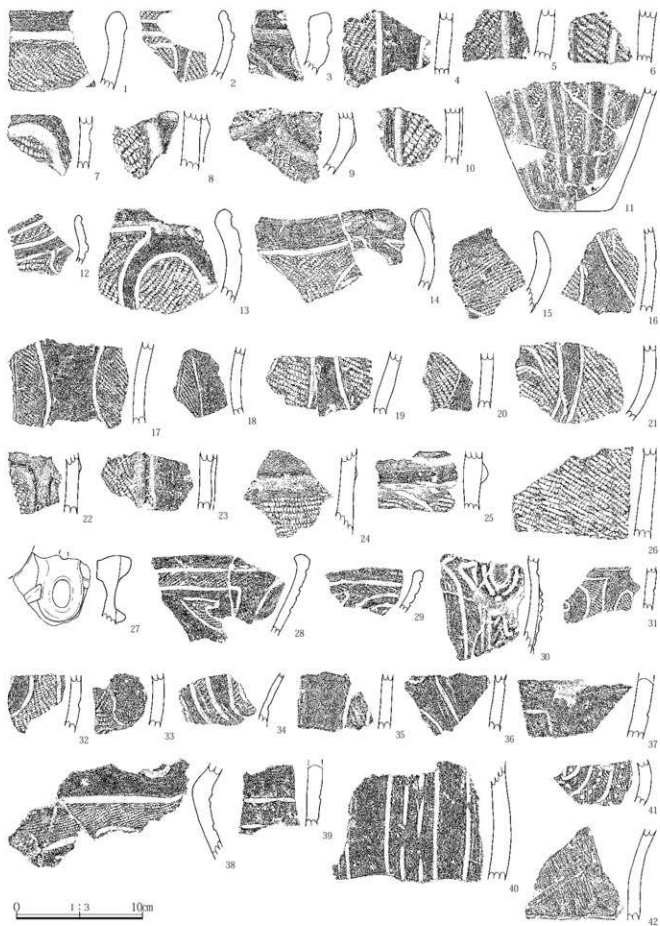
第3章 検出された遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第534区 PL.60	213	400-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 橙	良好	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	堀之内2式
第534区 PL.60	214	400-185	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	橙	ふつつ	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	堀之内2式
第534区 PL.60	215	460-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐	良好	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	堀之内2式
第534区 PL.60	216	500-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐	良好	横位帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。	堀之内2式
第534区 PL.61	217	450-185	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	横位沈線をめぐらし、沈線下にL.Rを充填施文する。	堀之内2式
第534区 PL.61	218	450-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	No.215と同一個体。	堀之内2式
第534区 PL.61	219	420-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	良好	円形刺突、刻みを伴う隆線、沈線をめぐらし、L.Rを充填施文する。	堀之内2式
第534区 PL.61	220	420-185	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	良好	No.217と同一個体。	堀之内2式
第534区 PL.61	221	450-175	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	ふつつ	刻み、円形刺突を伴う隆線をめぐらし。	堀之内2式
第534区 PL.61	222	495-190	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	刻みを付した隆線、沈線をめぐらし、L.Rを充填施文する。 隆線下に刺突を伴う貼付文を付す。	堀之内2式
第534区 PL.61	223	465-165	注口上 器	胴部破片	細砂、白色粒	橙	ふつつ	No.186と同一個体。	堀之内2式
第534区 PL.61	224	435-180	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	推定底径10.0cm。無文。	堀之内2式
第534区 PL.61	225	440-195	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつつ	推定底径5.1cm。残存部は無文。	堀之内2式
第534区 PL.61	226	440-185	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	底径11.0cm。無文。底面に副代痕。	堀之内2式
第534区 PL.61	227	460-185	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	推定底径10.6cm。残存部は無文。底面に副代痕。	堀之内2式
第534区 PL.61	228	400-185	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 石英	明赤褐	良好	推定底径7.5cm。底面に副代痕。	堀之内2式
第534区 PL.61	229	450-190	深鉢	底部破片	細砂、細礫、黒色粒	明赤褐	ふつつ	底径8.6cm。無文。底面に副代痕。	堀之内2式
第544区 PL.61	230	410-200	小形深 鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	底径5.3cm、器径2.5mm。無文。底面に副代痕。	堀之内2式
第544区 PL.61	231	465-190	小形深 鉢	口縁～ 底部	粗砂、白色粒、 黒色粒	黒褐	良好	推定口径8.0cm、底径5.9cm、推定器高9.1cm、器径3mmの円筒形。3条1単位位の沈線を上下で入り組ませながら、横位帯状に施す。口縁下は多条の沈線を施す。底面に副代痕。	加曾利B1式
第544区 PL.61	232	460-180	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	良好	横位帯状沈線を施し、斜位の沈線を充填施文する。	加曾利B1式
第544区 PL.61	233	455-185	深鉢	胴部破片	細砂、黒色粒	褐灰	ふつつ	4条の沈線により渦巻モチーフを描く。	加曾利B1式
第544区 PL.61	234	505-180	注口上 器	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	条線により渦巻文を描く。	加曾利B1式
第544区 PL.61	235	495-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	2条の隆帯をめぐらせ、隆帯間に2条の円形刺突列をめぐらす。	中期末葉～後 期初葉
第544区 PL.61	236	2区2面	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	底径9.0cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第544区 PL.61	237	395-185	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつつ	推定底径7.4cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第544区 PL.61	238	415-185	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	推定底径7.0cm。	中期末葉～後 期前葉
第544区 PL.61	239	420-180	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつつ	底径8.0cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第544区 PL.61	240	495-185	深鉢	底部破片	粗砂	にぶい 橙	ふつつ	推定底径4.2cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第544区 PL.61	241	340-190	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	浅黄	良好	口縁下に横位沈線を1条めぐらし、逆U字状の沈線を施す。	後期前葉
第544区 PL.61	242	495-190	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	ふつつ	口縁下に横位沈線を1条めぐらし、逆U字状の帯状沈線を施す。	後期前葉
第544区 PL.61	243	475-160	小形鉢	胴～底部	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	良好	丸底球胴形の小形鉢。列点を充填施文した帯状沈線を2帯めぐらす。	後期中葉
第544区 PL.61	244	465-180	鉢	底部破片	細砂、黒色粒	黒褐	良好	推定底径8.8cm。底部から開く器形。無文。	後期中葉

第31表 2区 遺構外遺物観察表(石器・石製品)

検出番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石 材
第54期 PL.62	245	石箱 木葉形	390-190	(6.4)	3.7	25.7	器体下半を脛の部分で欠損。背面側先端に鋭利な刃があるほか、裏面側にも同様の刃がある。単独出土だが、裏面側左辺の刃が粗く、対称性に欠け、磨削的転用も否定できない。	チャート
第54期 PL.62	246	石鏃 凹基無茎鏃	505-180	2.9	1.6	2.1	完成状態。長身で、基部側に最大幅を有する。	チャート
第54期 PL.62	247	石鏃 凹基無茎鏃	403-193	(1.4)	(1.2)	0.37	完成状態。裏面側に素材剥離面を残す。左辺側の返し部を欠損する。	黒曜石
第54期 PL.62	248	石鏃	410-200	4.4	(2.5)	3.5	鞘内刺離して厚い機能部を作出する。	黒色頁岩
第54期 PL.62	249	打製石斧 分銅型	455-177	12.1	6.8	172.8	完成状態? 対部摩耗等は風化して不明。装着部は上端側に偏る。	黒色頁岩
第54期 PL.62	250	打製石斧 分銅型	478-183	13.9	6.9	288.5	完成状態。対部摩耗、捲損痕あり。対部は上下両端とも摩耗、対部再生して使用。	黒色頁岩
第54期 PL.62	251	打製石斧 分銅型	464-184	13.6	6.9	230.5	完成状態。対部摩耗、捲損痕あり。裏面側は対部を除き摩耗が弱く、明らかに再生されている。挟り部は浅い。	黒色頁岩
第54期 PL.62	252	打製石斧 分銅型	472-181	(8.3)	(7.4)	78.8	完成状態。捲損痕あり。器体下半を大きく斜め欠損。	灰色安山岩
第55期 PL.62	253	打製石斧 短冊型	482-180	12.1	4.8	120.3	完成状態。対部摩耗、捲損痕あり。器体上半の挟れた装着部は対部再生に伴い装着部を後退させたもの。	黒色頁岩
第55期 PL.62	254	打製石斧 短冊型	498-187	10.1	4.9	162.1	完成状態。側縁は著しく摩耗。対部再生が明らかで、当初の対部位置から大きく後退している。	灰色安山岩
第55期 PL.62	255	打製石斧 短冊型	425-180	8.8	4.2	78.4	完成状態。対部摩耗あり。裏面側上半を被熱刺離。対部に近い側縁が潰れ、この部分が初期の装着部。	黒色頁岩
第55期 PL.62	256	打製石斧 短冊型	455-190	7.6	3.9	50.8	完成状態? 小形幅短冊片を側辺加工して器体を作成。器体上半・右側縁が若干摩耗する。対部摩耗なし。	細粒輝石安山岩
第55期 PL.62	257	打製石斧 短冊型	500-195	(8.9)	4.5	92.7	完成状態。側縁は著しい摩耗。器体下半を大きく欠損。	細粒輝石安山岩
第55期 PL.62	258	打製石斧 短冊型	400-191	(5.9)	(3.8)	60.6	未完成? 器体幅に比べ断面が厚い。製作時の偶発的事故により生じた素材を便宜的に再利用したもの?	黒色頁岩
第55期 PL.62	259	打製石斧 短冊型	400-190	(8.6)	(4.4)	73.8	完成状態? 側縁は潰れ、装着を明らかに意図しており、少なくとも加工の最終段階にある。器体下半を欠損。	黒色頁岩
第55期 PL.62	260	打製石斧 短冊型	363-190	(7.5)	5.2	92.8	完成状態。風化して不明瞭だが、装着部は弱く摩耗しているように見える。上下両端を欠損。	灰色安山岩
第55期 PL.62	261	打製石斧 短冊型	455-170	(6.7)	(5.0)	77.4	完成状態。捲損痕あり。器体の上下両端を欠損。	細粒輝石安山岩
第55期 PL.62	262	石棒? 無頭	460-190	(7.3)	3.4	101.4	断面四角形状。敲打主体で、研磨痕は見られない。	雲母石英片岩
第55期 PL.62	263	打製石斧 短冊型	490-185	(7.4)	3.9	66.4	完成状態? 対部摩耗等は風化して不明。上下両端が著しく変形している。	ホルンフェルス
第55期 PL.62	264	打製石斧 短冊型	475-185	(5.2)	6.7	49.4	完成状態。対部側平坦面に摩耗あり。対部は聞き気味で、器型に近い。	黒色頁岩
第55期 PL.62	265	打製石斧 短冊型	420-180	(6.6)	5.3	85.4	完成状態。対部摩耗は著しい。器体上半部を欠損する。	細粒輝石安山岩
第55期 PL.62	266	石核 角柱状	465-175	2.7	2.1	13.0	刺離面を固定、小型幅短冊片を刺離。	玉髓
第55期 PL.62	267	磨製石斧 乳房状	461-178	(13.5)	(4.2)	182.0	器体全面を敲打後研磨。対部側を欠損する。	変玄武岩
第55期 PL.62	268	磨製石斧 乳房状	426-194	(12.7)	(5.0)	222.3	器体全面を敲打後研磨。対部側を欠損する。頭部側の表裏面は粗く刺離され、器種転用を試みている可能性がある。	変はんれい岩
第55期 PL.62	269	凹石 不定形	397-185	9.2	7.0	311.5	表面側中央に集合打痕、摩耗痕。小口部に打痕。	粗粒輝石安山岩
第55期 PL.62	270	磨石 楕円盤	490-180	7.1	5.9	275.4	表裏面に摩耗痕。右側面に打痕、摩耗痕。	粗粒輝石安山岩
第55期 PL.62	271	多孔石 不定形角礫	457-188	23.0	17.0	4185.9	表裏面に漏斗状の孔を穿つ。	粗粒輝石安山岩
第55期 PL.62	272	磨石? 楕円盤	475-185	14.2	4.1	335.6	上端側小口部に打痕。背面側縁部・裏面側平坦部は弱く摩耗している。	ひん岩
第55期 PL.62	273	敲石 不定形	500-180	7.2	4.3	128.4	背面側と左側面に顕著な敲打痕。頭部面に意図不明の加工。	砂岩
第55期 PL.62	274	砥石 扁平盤	500-165	6.9	6.2	78.6	表裏面とも先端側内側縁に顕著な摩耗痕。平坦部の摩耗は弱い。	凝灰質砂岩

第3章 検出された遺構と遺物



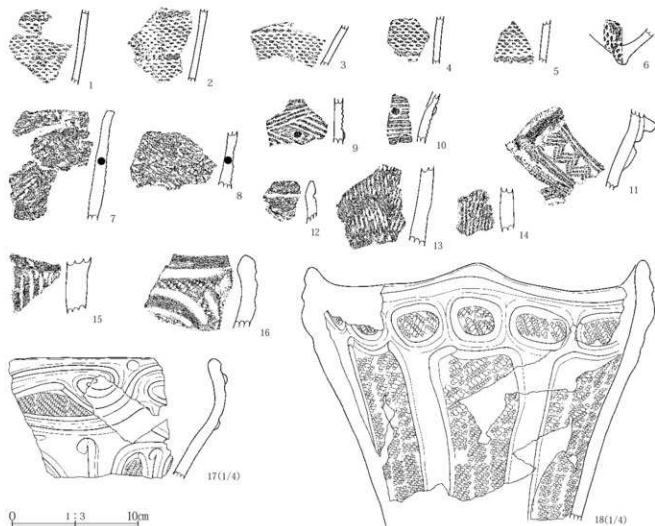
第56図 3区 遺構外出土遺物

第32表 3区 遺構外遺物観察表(土器)

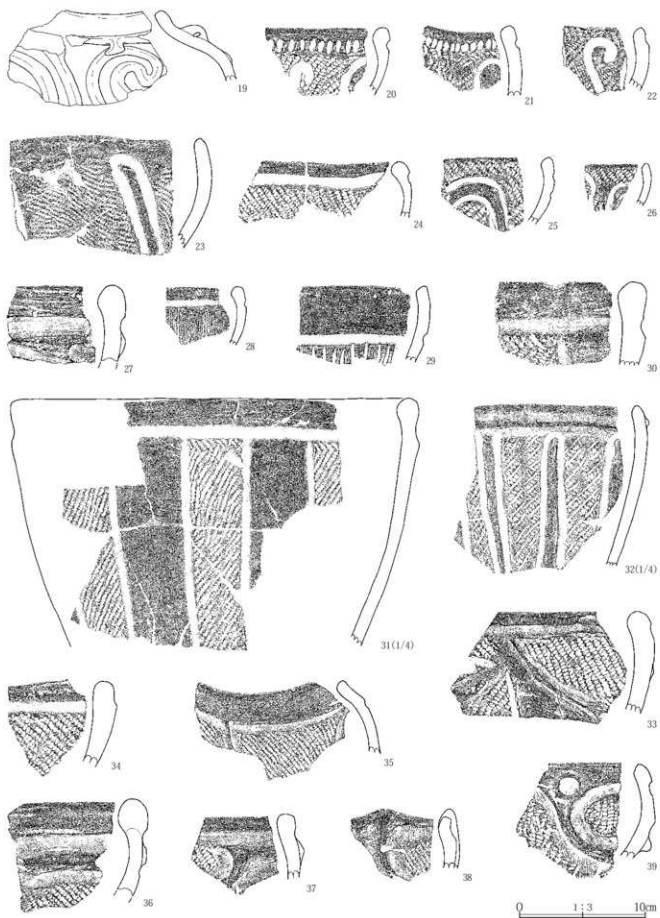
調査番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第56図 PL.63	1	350-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線により横位楕円状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	2	550-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	口縁下に横位2条の沈線をめぐらし、逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	3	555-145	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	隆帯により横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	4	545-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	5	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	6	555-145	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	7	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	8	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	隆帯による懸垂文を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	9	555-145	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	隆帯により横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	10	555-145	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	隆帯による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	11	545-150	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	底径5.8cm。沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第56図 PL.63	12	545-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	口縁を内屈させて文様帯を区画、帯状沈線を施し、L.Rを充填施文する。屈曲部下は沈線による玉粒状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	13	555-145	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	横位沈線をめぐらせて幅狭な口縁部無文帯を区画、沈線により玉粒文を描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	14	545-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 石英	にぶい 赤褐	ふつう	波状口縁。隆帯をめぐらせて幅狭な口縁部無文帯を区画、沈線により玉粒状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	15	3区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	波状口縁。沈線により逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	16	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	沈線により弧状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	17	555-145	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線により弧状モチーフを描き、無節L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	18	550-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	ふつう	沈線により逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	19	550-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 橙	良好	沈線によりU字状、逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	20	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	沈線によりU字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	21	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 黄橙	ふつう	帯状沈線により渦巻状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	22	555-145	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	隆帯により逆U字状モチーフを施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	23	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	隆帯による懸垂文を施し、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	24	555-145	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	明赤褐	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にR.Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	25	555-145	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白 色粒、石英	にぶい 黄橙	良好	横位隆帯をめぐらし、隆帯下に斜位沈線、無節L.Rを施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	26	550-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第56図 PL.63	27	545-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 石英	にぶい 黄橙	良好	波状口縁。波頂部下に8の字状隆帯を貼付し、上位は穿孔させる。口縁に沿って隆帯を施す。	後期加曾利E系
第56図 PL.63	28	555-145	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	口縁内面肥厚。帯状沈線により弧状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	29	545-170	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	橙	ふつう	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	30	555-145	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	灰黄褐	ふつう	沈線を伴う対置隆帯を貼付し、鎖状隆帯を重下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	31	3区2面	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	称名寺式

第3章 検出された遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第56図 PL.63	32	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	帯状沈線により弧状モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	33	555-145	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	ふつつ	帯状沈線によりJ字モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	34	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 褐	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、RLを充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	35	545-170	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	帯状沈線により弧状モチーフを描き、無彫LRを充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	36	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰黄褐	ふつつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第56図 PL.63	37	3X2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第56図 PL.63	38	550-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	ふつつ	帯状沈線により横位に連なるモチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	39	550-170	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	横位帯状沈線を施す。	称名寺式
第56図 PL.63	40	550-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	縦位帯状沈線を施し、2条1単位の列点を充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	41	545-170	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	明赤褐	ふつつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、LR、列点を充填施文する。	称名寺式
第56図 PL.63	42	3X2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	ふつつ	横位沈線をめぐらす。斜位の調整痕顕著。	後期前葉

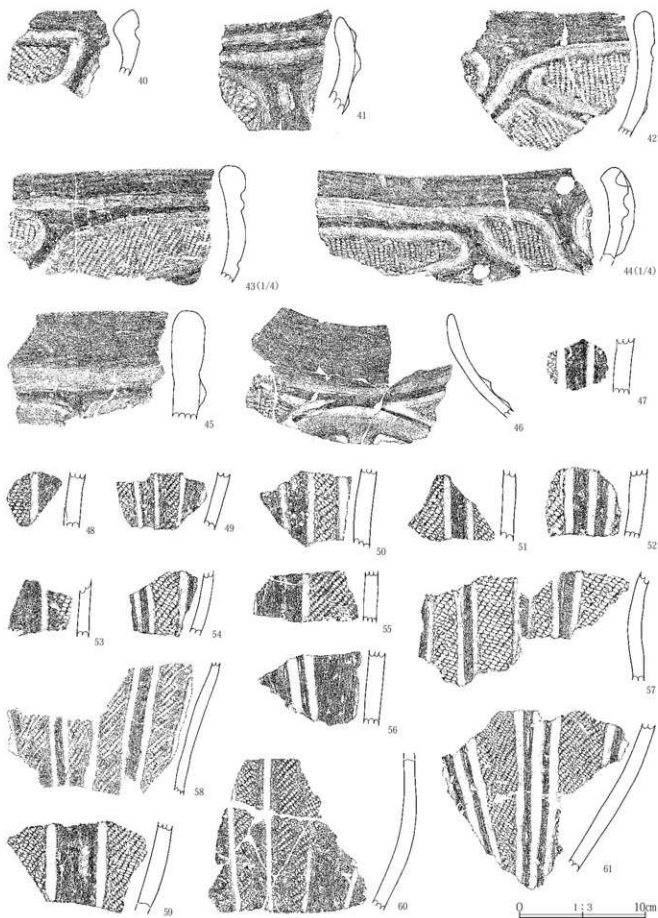


第57図 4区 遺構外出土遺物(1)

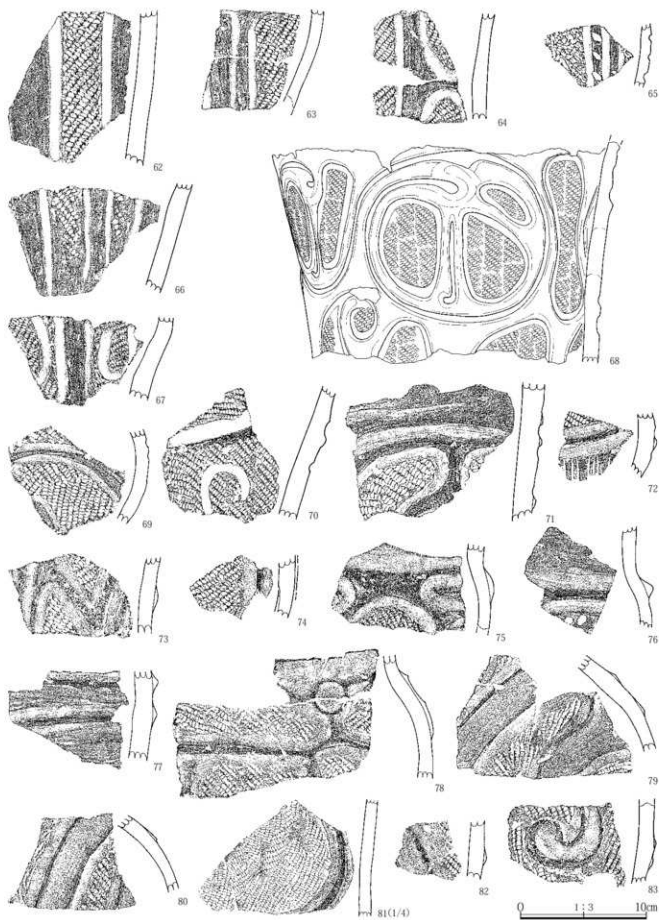


第58図 4区 遺構外出土遺物(2)

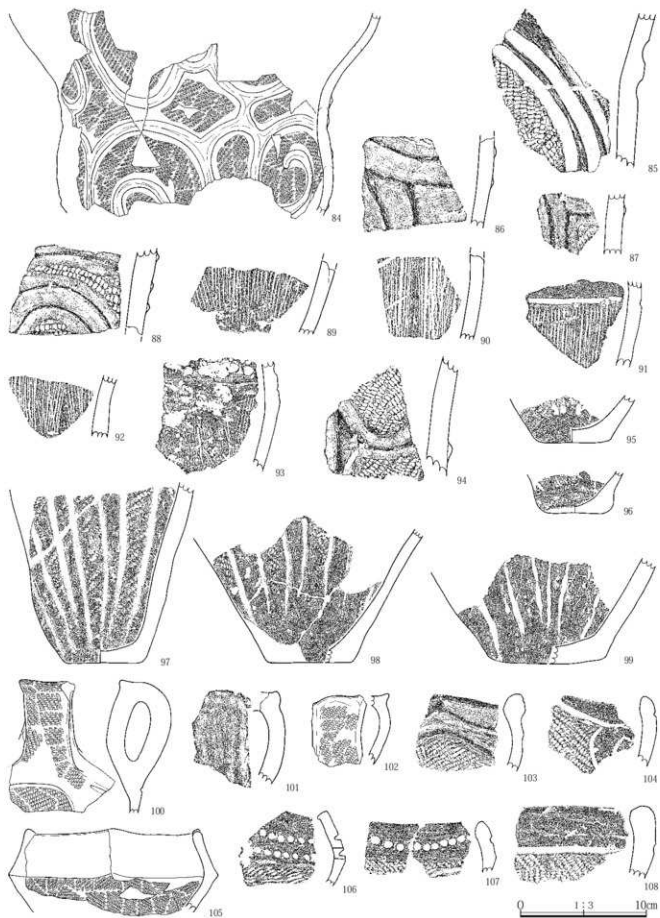
第3章 検出された遺構と遺物



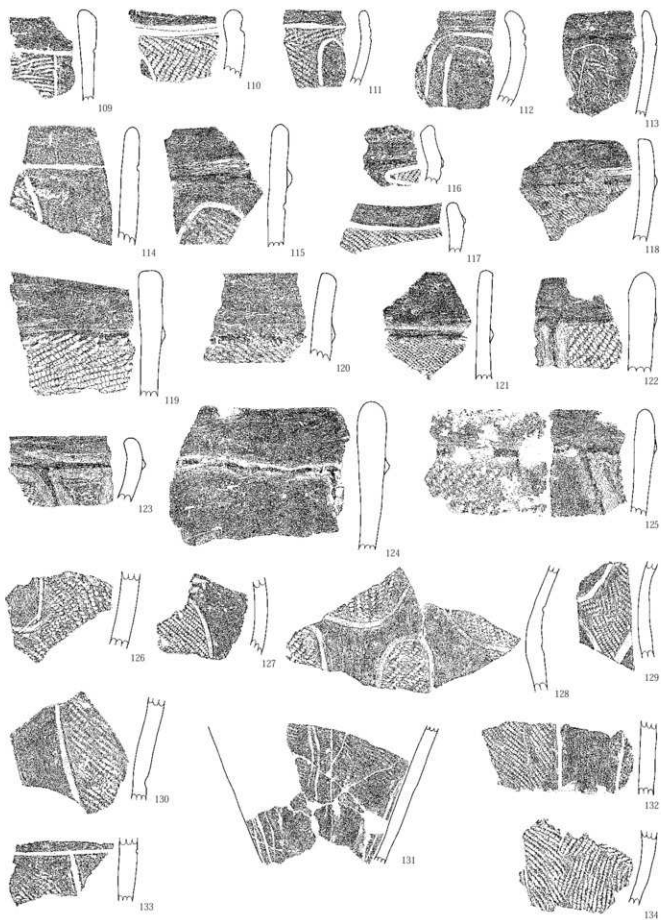
第59図 4区 遺構外出土遺物(3)



第60图 4区 遺構外出土遺物(4)

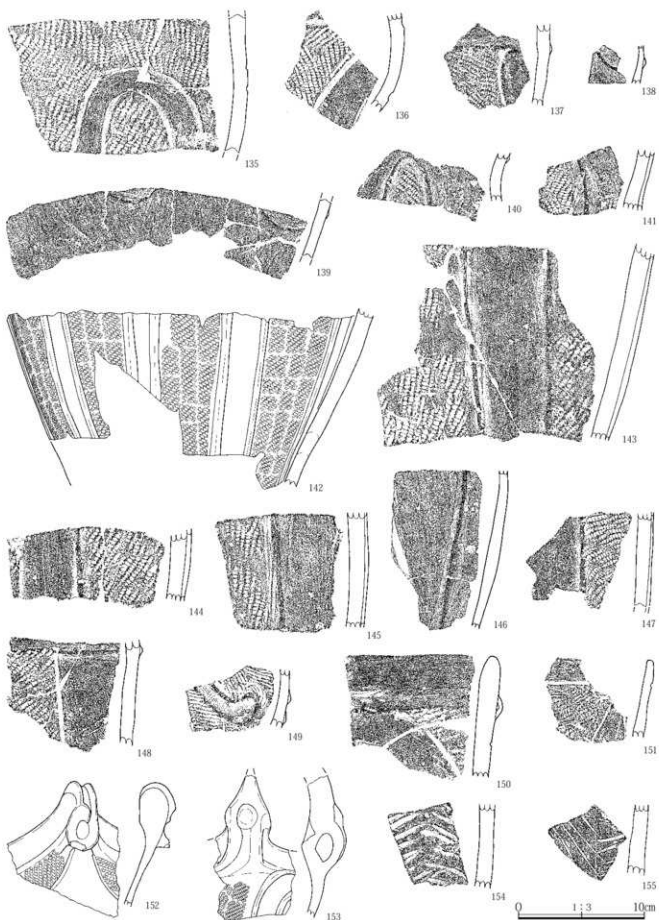


第61图 4区 遺構外出土遺物(5)



第62図 4区 遺構外出土遺物(6)

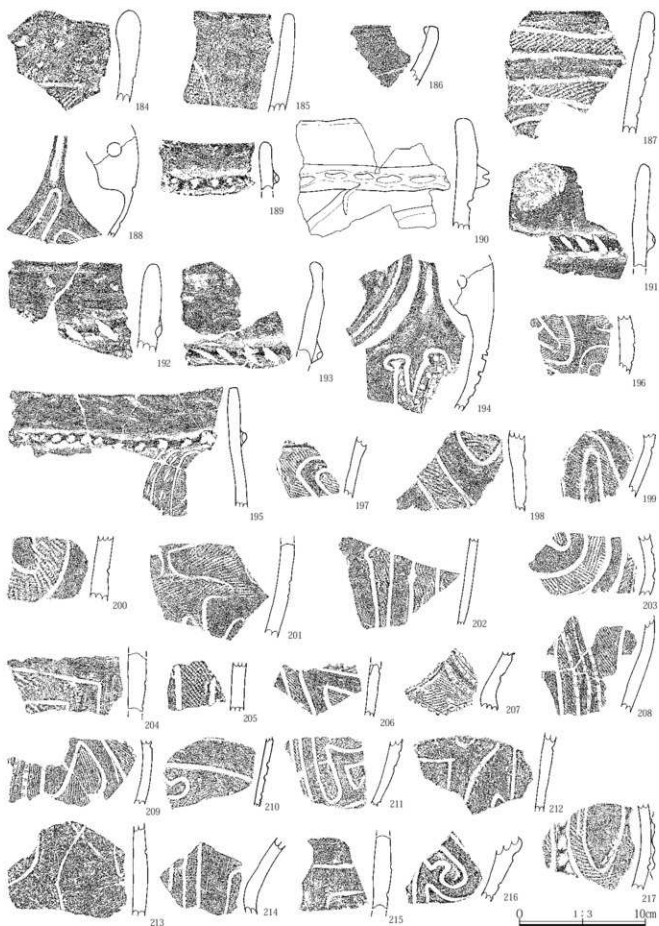
0 1:3 10cm



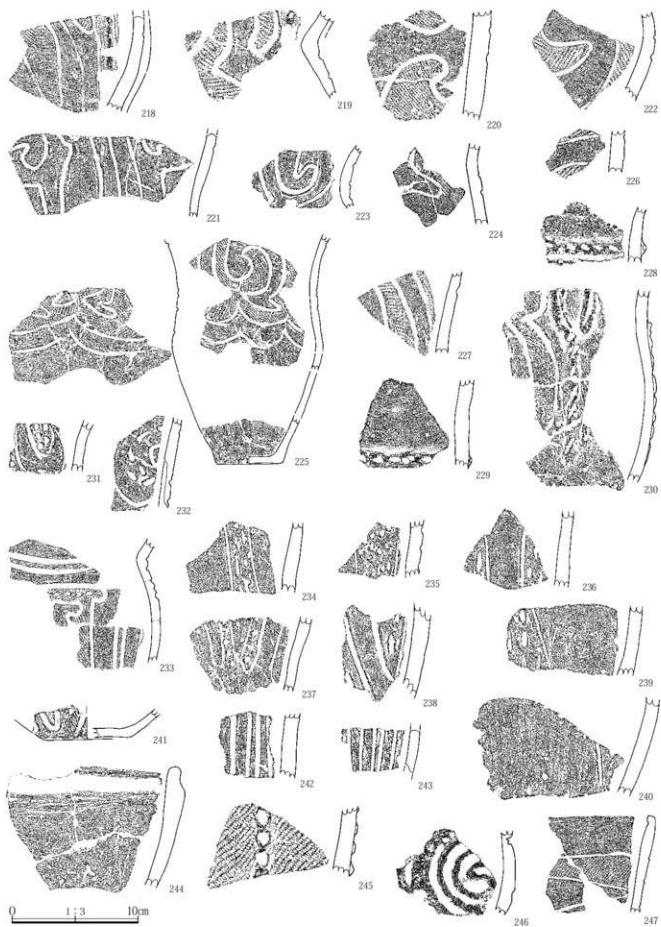
第63図 4区 遺構外出土遺物(7)



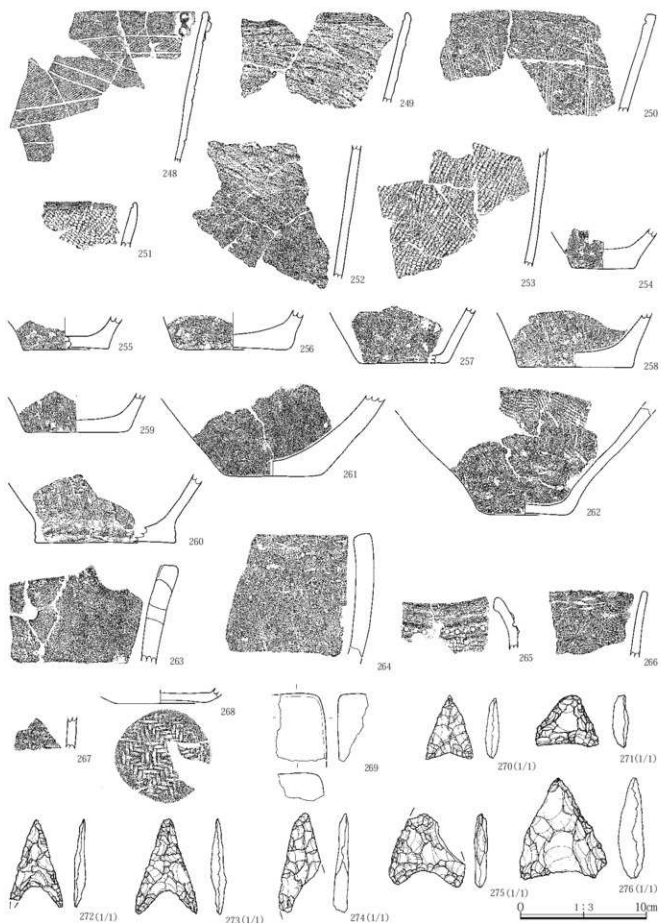
第64図 4区 遺構外出土遺物(8)



第65図 4区 遺構外出土遺物(9)



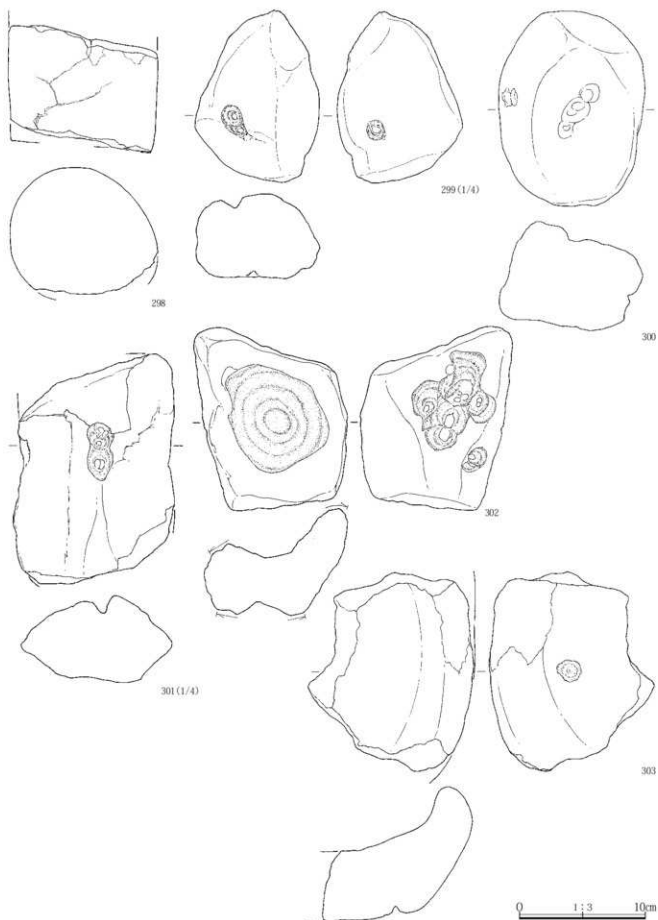
第66図 4区 遺構外出土遺物(10)



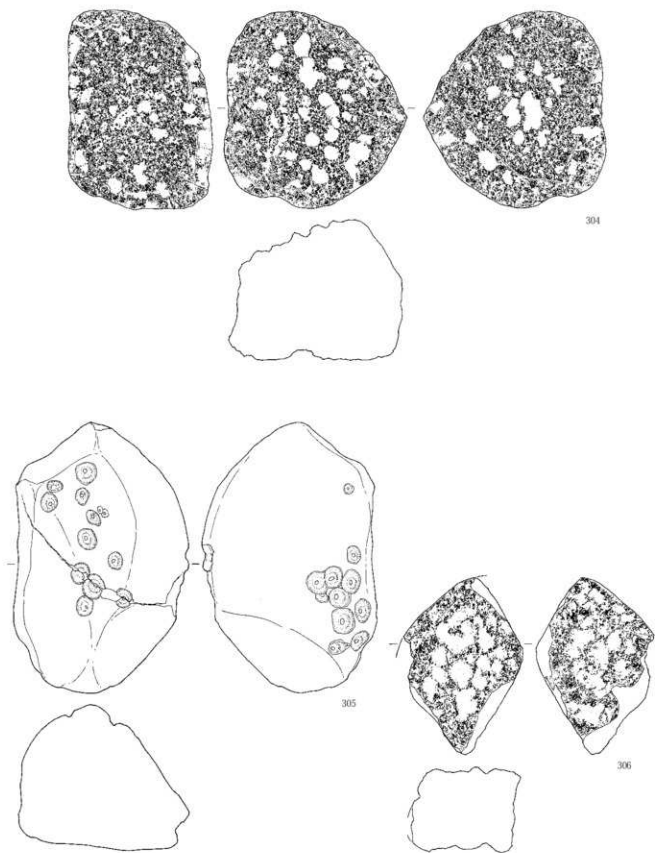
第67図 4区 遺構外出土遺物(11)



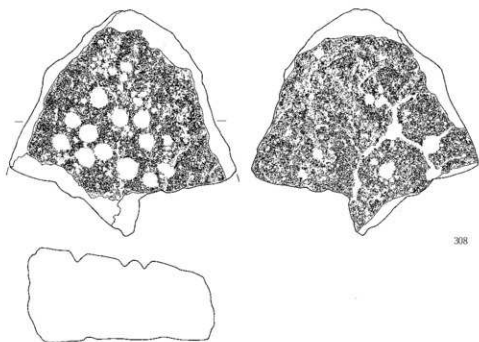
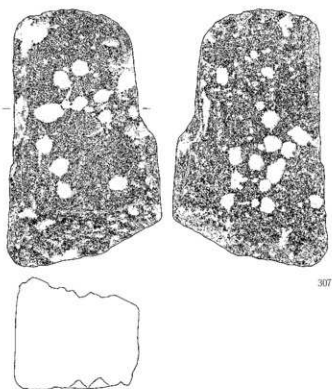
第68図 4区 遺構外出土遺物 (12)



第69図 4区 遺構外出土遺物 (13)



第70図 4区 遺構外出土遺物 (14)



0 1:4 10cm

第71図 4区 遺構外出土遺物 (15)

第33表 4区 遺構外遺物観察表(土器)

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第57図 PL.64	1	590-150	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	楕円押型文を横位密接施文するが、一部5mm程の間隔を空ける部分がある。原体長3.0cm。	早期押型文系
第57図 PL.64	2	500-160	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	No.1と同一個体。5mm程の無文帯に縦位楕円文が見られる。楕円押型文を縦位帯状施文したのち、重ねて横位施文していることが分かる。	早期押型文系
第57図 PL.64	3	590-150	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	No.1と同一個体。	早期押型文系
第57図 PL.64	4	590-150	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	No.1と同一個体。	早期押型文系
第57図 PL.64	5	590-150	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	No.1と同一個体。	早期押型文系
第57図 PL.64	6	590-150	深鉢	底部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	No.1と同一個体。乳房状の突起、楕円押型文を縦位施紋する。	早期押型文系
第57図 PL.64	7	595-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 黒色粒、繊維	明赤褐	ふつつ	無彫Lr、Rlを羽状施文する。	黒浜式
第57図 PL.64	8	565-185	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 繊維	赤褐	ふつつ	無彫Lrを横位施文する。	黒浜式
第57図 PL.64	9	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐	良好	集合沈線によりモチーフを描き、貼付文を付す。	諸磯c式
第57図 PL.64	10	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄	ふつつ	横位集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
第57図 PL.64	11	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒、 石英	橙	良好	トロフィー形の口縁部。口縁部に肥厚帯を成形し、三角形の印刻を互い違いに施すことによって鋸歯状文を作出、楕円沈線を充填する。肥厚帯をまたぐように貼付文を付す。肥厚帯下は印刻を施し、結節凹線を充填する。	晴ヶ峰式土器
第57図 PL.64	12	560-120	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 褐	ふつつ	口縁下に押引文をめぐらす。	五瀬ヶ台式
第57図 PL.64	13	590-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	良好	明赤褐	燃系紋Lを縦位施紋する。	加曾利E1式
第57図 PL.64	14	590-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつつ	燃系紋Lを縦位施紋する。	加曾利E1式
第57図 PL.64	15	590-165	深鉢	胴部破片	細砂、黒色粒	明赤褐	良好	縦位沈線を施す。	加曾利E1式
第57図 PL.64	16	580-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	ふつつ	縦位沈線をめぐらせて幅狭な口縁部無文帯を区画、帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、Rlを充填施文、ワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第57図 PL.64	17	605-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつつ	口縁部に隆帯による渦巻文、楕円文を施し、Rlを充填施文。胴部は沈線による逆U字状モチーフを描き、内部に楕円状モチーフ、ワラビ手状懸垂文を施し、Rlを縦位充填施文する。逆U字状モチーフ間にワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第57図 PL.64	18	630-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐	ふつつ	推定口径35.0cm。波状口縁。口縁部文様部に沈線による楕円文を横位に配し、胴部は沈線による懸垂文を施すが、上部を連結させて閉じている。充填縄文は上位に異条Rl、下位にRlと2種用いている。	加曾利E3式
第58図 PL.64	19	595-165	鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	2条の隆帯により渦巻状、弧状モチーフを施し、小形の橋状把手を付す。	加曾利E3式
第58図 PL.64	20	590-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐	ふつつ	点列を加えた横位沈線をめぐらせて幅狭な口縁部無文帯を区画、沈線による逆U字状モチーフを描き、Rlを縦位施文、ワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第58図 PL.64	21	595-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐	ふつつ	口縁下に点列を配し、幅狭な口縁部無文帯を区画、沈線による逆U字状モチーフを描き、Rlを充填施文する。	加曾利E3式
第58図 PL.64	22	580-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	明赤褐	良好	沈線による逆U字状モチーフを描いてRlを充填施文、ワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第58図 PL.64	23	595-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐	ふつつ	沈線により逆U字状モチーフを描き、Lrを充填施文する。	加曾利E3式
第58図 PL.64	24	580-150	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	明赤褐	良好	沈線による横位楕円モチーフを施し、Rlを充填施文する。	加曾利E3式
第58図 PL.64	25	605-155	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつつ	帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、Rlを充填施文する。	加曾利E3式
第58図 PL.64	26	580-160	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、Rlを充填施文、ワラビ手状沈線を垂下させる。	加曾利E3式
第58図 PL.64	27	500-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	ふつつ	横位、ワラビ手状沈線を施す。	加曾利E3式

第3章 検出された遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第588図 PL.64	28	565-125	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	横位沈線をめぐるせて幅広い口縁部無文帯を区画、沈線下に縦位条線を充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.64	29	580-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	黒褐	ふっつ	横位沈線をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線下に縦位沈線を充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.64	30	595-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 石英	橙	良好	横位沈線をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線を垂下させ、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.64	31	595-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	帯定口径41.0cm、横位沈線をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線による懸垂文を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.64	32	595-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	横位隆帯をめぐるせて幅広い口縁部無文帯を区画、沈線による懸垂文、逆U字状モチーフを描き、異段R(L.L・L)を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.64	33	580-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	浅黄	ふっつ	隆帯による口縁部横位楕円状モチーフ、沈線により胴部懸垂文を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.65	34	580-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	浅黄	ふっつ	No.33と同一個体。	加曾利E3式
第588図 PL.65	35	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	横位隆帯をめぐるせて口縁部無文帯を区画、隆帯を垂下させ、L.Rを充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.65	36	625-175	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	橙	ふっつ	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.65	37	580-140	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 黄褐	ふっつ	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.65	38	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 赤褐	良好	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第588図 PL.65	39	562-120	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	40	570-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐	ふっつ	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	41	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 白色粒	明赤褐	良好	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	42	580-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 白色粒	橙	良好	隆帯による横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	43	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒、 石英	橙	ふっつ	隆帯により横位楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	44	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒、 石英	にぶい 黄橙	ふっつ	No.43と同一個体。	加曾利E3式
第589図 PL.65	45	640-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	口縁部に無文帯を残し、隆帯により横位楕円状モチーフを施す。	加曾利E3式
第589図 PL.65	46	580-175	深鉢	口縁部 破片	細砂、黒色粒	にぶい 黄褐	ふっつ	口縁が内傾。隆帯をめぐるせて口縁部無文帯を区画、2条の隆帯により張状モチーフを施し、L.Rを充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	47	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 石英	明赤褐	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	48	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	良好	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	49	580-143	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	良好	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	50	620-145	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐	良好	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	51	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	52	580-120	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒	明赤褐	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	53	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 石英	橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	54	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	55	560-110	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第589図 PL.65	56	580-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっつ	沈線による懸垂文を施す。	加曾利E3式
第589図 PL.65	57	630-160	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒、 石英	明赤褐	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式

第2節 縄文時代の遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第59図 PL.65	58	595-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	No.32と同一個体。	加曾利E3式
第59図 PL.65	59	580-148	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第59図 PL.65	60	590-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第59図 PL.65	61	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	62	562-120	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	63	560-110	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	良好	沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	64	580-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	ふっつ	沈線による懸垂文、U字状、逆U字状モチーフを施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	65	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒、 石英	橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、複節L.R.Lを縦位充填施文する。懸垂文間に刺突を加える。	加曾利E3式
第60図 PL.66	66	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	ふっつ	No.98と同一個体。	加曾利E3式
第60図 PL.66	67	580-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文、蛇行懸垂文、J字状沈線を施す。	加曾利E3式
第60図 PL.66	68	585-145	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	胴部隆帯文。楕円状モチーフを基本とし、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	69	590-150	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっつ	沈線により弧状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	70	560-120	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	橙	ふっつ	沈線による口縁部楕円状モチーフを描き、R.Lを充填施文、胴部ワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第60図 PL.66	71	590-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 白色粒、黒色粒	にぶい 赤褐	良好	隆帯により楕円状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	72	570-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	ふっつ	隆帯による口縁部楕円状モチーフを描き、R.Lを充填施文、胴部は縦位条線を施す。	加曾利E3式
第60図 PL.66	73	580-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	隆帯によりU字状、逆U字状が連結したモチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	74	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	隆帯による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	75	500-160	鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯による逆U字状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	76	585-145	鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰黄褐	ふっつ	隆帯による楕円状モチーフを施し、列点を充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	77	545-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	黒褐	ふっつ	横位隆帯を施す。	加曾利E3式
第60図 PL.66	78	595-160	鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	隆帯による横位楕円状モチーフ、小円文、懸垂文を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	79	580-175	深鉢	胴部破片	細砂、黒色粒	にぶい 黄褐	ふっつ	No.46と同一個体。	加曾利E3式
第60図 PL.66	80	580-175	深鉢	胴部破片	細砂、黒色粒	にぶい 黄褐	ふっつ	No.46と同一個体。	加曾利E3式
第60図 PL.66	81	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	1条の隆帯により弧状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	82	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	ふっつ	2条の隆帯により弧状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第60図 PL.66	83	580-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	浅黄橙	ふっつ	2条の隆帯により渦巻状モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第61図 PL.66	84	590-160	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	1条の隆帯により渦巻文などのモチーフを描き、複節L.R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第61図 PL.67	85	590-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	2条の隆帯により弧状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第61図 PL.67	86	595-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっつ	2条の隆帯により幾何学モチーフを施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第61図 PL.67	87	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 石英	橙	良好	2条の隆帯により弧状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E3式
第61図 PL.67	88	580-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふっつ	2条の隆帯により渦巻状モチーフを施し、L.Rを充填施文する。	加曾利E3式
第61図 PL.67	89	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふっつ	条線を縦位施紋する。	加曾利E3式

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第61図 PL.67	90	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	条線を縦位施紋する。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	91	4区2面	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	明赤褐	ふっつ	横位沈線をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線下に縦位 条線を充填施文する。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	92	595-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふっつ	条線を縦位施紋する。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	93	500-110	深鉢	胴部破片	粗砂、礫、 白色粒、 黒色粒	赤褐	ふっつ	円形刺突を横位に配し、以下、縦位条線を充填施文する。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	94	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	黒褐	ふっつ	縦位、U字状の隆帯を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	95	630-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	底径5.8cm、沈線による懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	96	595-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	底径4.6cm、沈線による懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	97	630-160	胴～底部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	黄橙	ふっつ	底径5.8cm、沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文 する。	加曾利E 3式	
第61図 PL.67	98	590-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	橙	良好	No.66と同一個体、推定底径8.7cm、沈線による懸垂文を施し、 L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	99	580-148	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 赤褐	ふっつ	底径9.0cm、沈線による懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第61図 PL.67	100	610-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	波頂部の横状突起、突起から連なる隆帯をめぐるせて口縁 部無文帯を区画、沈線による逆U字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第61図 PL.67	101	605-155	両耳壺	把手	細砂、白色粒	橙	良好	無文。	加曾利E 4式
第61図 PL.67	102	595-165	両耳壺	把手	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	R.Lを縦位施紋する。	加曾利E 4式
第61図 PL.67	103	595-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	黄灰	良好	波状口縁、隆帯をめぐるせて幅狭な口縁部無文帯を区画、 隆帯により逆U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第61図 PL.67	104	570-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	波状口縁、沈線をめぐるせて幅狭な口縁部無文帯を区画、 おそらく波底部と思われる位置に帯状沈線による渦巻状モ チーフを描き、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第61図 PL.67	105	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	推定口径18.0cm、縦い波状口縁、くの字状に屈曲させて口 縁部無文帯を区画、屈曲部下にL.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第61図 PL.67	106	580-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂	にぶい 橙	良好	くの字状に内屈させて口縁部無文帯を区画、無文帯に円形 刺突列を2条めぐるし、屈曲部下にL.Rを充填施文する。 おそらく波底部と思われる屈曲部に円孔を穿つ。	加曾利E 4式
第61図 PL.67	107	570-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	わずかな屈曲を作出して口縁部無文帯を区画、無文帯に円 形刺突を波状にめぐらす。屈曲部下は沈線により逆U字状 モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第61図 PL.67	108	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 黄橙	ふっつ	横位沈線をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線下にR.L を充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	109	610-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 褐	良好	横位沈線をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線を垂下さ せ、無断L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	110	590-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	横位沈線をめぐるせて幅狭な口縁部無文帯を区画、沈線 により逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	111	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、礫、 白色粒、 黒色粒	灰黄褐	ふっつ	横位沈線をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線による逆 U字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	112	560-120	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	ふっつ	帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、R.Lを充填施文 する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	113	600-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	わずかな屈曲を作出して口縁部無文帯を区画、帯状沈線に より逆U字状モチーフを描き、無断L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	114	570-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にぶい 褐	ふっつ	口縁下に横位沈線をめぐるせて、弧状沈線を垂下させる。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	115	595-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	良好	横位隆帯をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線により逆 U字状モチーフを描き、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	116	600-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	横位隆帯をめぐるせて口縁部無文帯を区画、沈線によりU 字状モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	117	595-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっつ	横位隆帯をめぐるせて幅狭な口縁部無文帯を区画、隆帯下 に沈線を沿わせ、L.Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	118	570-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	横位隆帯をめぐるせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にL.R を充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.67	119	590-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	横位隆帯をめぐるせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にL.R を充填施文する。	加曾利E 4式

第2節 縄文時代の遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第62図 PL.68	120	500-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にL Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	121	570-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にL Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	122	570-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯を垂下させ、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	123	4K2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂	にぶい 橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、斜位の隆帯を垂下させ、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	124	605-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯を垂下させる。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	125	500-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、斜位の隆帯を垂下させ、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	126	610-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	良好	沈線によりU字状モチーフを描き、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	127	610-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	沈線により逆U字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	128	595-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	沈線によりU字状、逆U字状モチーフを描き、R Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	129	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	明黄褐	良好	沈線によりU字状、逆U字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	130	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	沈線により弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	131	580-175	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	ふつつ	沈線による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	132	500-150	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	明黄褐	良好	沈線による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	133	580-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	横位沈線をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線を斜位に垂下させ、無彫L rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第62図 PL.68	134	600-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	沈線による懸垂文を施し、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	135	595-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、R Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	136	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	137	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線による弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	138	4K2面	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	良好	隆帯によりU字状モチーフを施す。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	139	580-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	ふつつ	隆帯によりU字状モチーフを施す。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	140	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	隆帯により逆U字状モチーフを施し、L Rを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	141	4K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	橙	良好	隆帯により弧状モチーフを施し、R Lを充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	142	595-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.68	143	595-160	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	橙	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.69	144	595-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.69	145	590-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.69	146	590-150	深鉢	胴部破片	細砂、細礫、 白色粒、黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	隆帯、沈線を垂下させる。赤色色彩の痕跡あり。	加曾利E 4式
第63図 PL.69	147	590-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつつ	隆帯による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.69	148	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつつ	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.69	149	585-145	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	2条の隆帯によりJ字状モチーフを施し、無彫L rを充填施文する。	加曾利E 4式
第63図 PL.69	150	595-170	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。逆U字状モチーフと隆帯の接点突出させる。	後期加曾利E系
第63図 PL.69	151	500-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐	良好	横位沈線をめぐらせて口縁部無文帯を区画、沈線を斜位に垂下させ、L Rを充填施文する。	後期加曾利E系

第3章 検出された遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第63図 PL.69	152	600-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄緑	良好	波状口縁で波頂部に捻転状の隆帯を貼付。そこから連なる隆帯を施して口縁部無文帯を区画、左右に弧状に斜行する沈線を施し、L Rを充填施文する。口縁内面肥厚。	後期加曾利E系か
第63図 PL.69	153	595-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	円形押捺、内面にも刺突を加えた橋状突起を付す。横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、2条の隆帯による逆U字状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	後期加曾利E系か
第63図 PL.69	154	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	明黄褐	良好	羽状の沈線を施文する。	曾利系
第63図 PL.69	155	600-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	羽状の沈線を施文する。	曾利系
第64図 PL.69	156	580-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	沈線による懸垂文を施し、羽状沈線を充填施文する。	曾利系
第64図 PL.69	157	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	にぶい 黄緑	ふつつ	沈線による懸垂文を施し、斜位の沈線を充填施文する。	曾利系
第64図 PL.69	158	580-120	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	灰黄褐	ふつつ	斜位の沈線を充填施文する。	曾利系
第64図 PL.69	159	560-120	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	ふつつ	2条の隆帯によりモチーフを描き、縦位沈線を充填施文する。	曾利系
第64図 PL.69	160	562-120	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	ふつつ	No.159と同一個体。	曾利系
第64図 PL.69	161	560-110	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	隆帯、矢羽根状沈線を横位にめぐらす。	曾利系
第64図 PL.69	162	570-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄緑	ふつつ	波頂部に捻転状の突起を付し、そのまま連ねた8の字状の隆帯を波頂部下に貼付、両端に円形刺突を伴う沈線を施す。口縁を内折させ、内折部に沈線区画と内部に円形刺突を充填。内折部下は帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.69	163	605-155	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	波頂部の突起。頂部に8の字状の隆帯を貼付。円孔を穿つ。	称名寺式
第64図 PL.69	164	575-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒、 石英	赤褐	良好	波頂部の橋状突起。側面に高文連繋文を施す。	称名寺式
第64図 PL.69	165	610-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	波頂部の橋状突起。捻転状の隆帯を貼付し、8の字状を呈す。	称名寺式
第64図 PL.69	166	595-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	ふつつ	波頂部に人組み状の隆帯を貼付する。	称名寺式
第64図 PL.69	167	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄緑	良好	波状口縁で波頂部下に逆C字状の隆帯を貼付、そこから連なる隆帯を口縁下に施し、隆帯上に円形刺突を加える。隆帯下にも同様の刺突を施す。	称名寺式
第64図 PL.69	168	600-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	良好	波状口縁で波頂部下にC字状の隆帯を貼付、円孔を穿つ。そこから連なる隆帯を口縁下に施し、刺突を沿わせる。沈線による弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.69	169	570-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	橙	ふつつ	波頂部の突起。橋状か。頂部を凹ませ、側面に列点を施す。	称名寺式
第64図 PL.69	170	595-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	にぶい 橙	良好	波状口縁で波頂部に沈線を伴う対弧状隆帯を貼付、そのまま垂下させる。口縁に沿って帯状沈線を施し、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.69	171	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	ふつつ	波状口縁で、波頂部から額状隆帯を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.69	172	590-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	波状口縁で口縁内面肥厚。波頂部下に円孔を入れ、沈線を伴う対弧状隆帯を縦に連ねる。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.69	173	580-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつつ	波状口縁で口縁内面肥厚。口縁に沿って帯状沈線を2条施し、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.69	174	590-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつつ	波状口縁で口縁内面肥厚。波頂部下に捻転状隆帯を貼付、そのまま垂下させる。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.70	175	570-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄緑	ふつつ	波頂部に捻転状の突起を付し、そのまま連ねた8の字状の隆帯を波頂部下に貼付、両端に円形刺突を伴う沈線を施す。口縁を内折させ、内折部に沈線区画と内部に円形刺突を充填。内折部下は帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.70	176	580-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	ふつつ	口縁内面肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、モチーフ内外にL Rを施文する。	称名寺式

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第64図 PL.70	177	580-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふっつ	No.176と同一個体。波状口縁。	称名寺式
第64図 PL.70	178	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂	橙	良好	口縁内面肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.70	179	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	口縁内面肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.70	180	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	赤褐	良好	口縁内面肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、R Lを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.70	181	545-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	ふっつ	口縁内面肥厚。横位帯状沈線を施し、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.70	182	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	横位帯状沈線を施し、L Rを充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.70	183	590-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	橙	ふっつ	横位帯状沈線を施し、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	184	580-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	明黄褐	ふっつ	口縁を肥厚させ、口縁に小突起を付す。横位帯状沈線を施し、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	185	595-175	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	帯状沈線により弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	186	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっつ	口縁内面肥厚。横位沈線を施す。	称名寺式
第65図 PL.70	187	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	良好	帯状沈線により横位、弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	188	575-180	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	赤褐	良好	波頂部に横状突起を付す。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	189	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	良好	刺突を施した隆帯を口縁部にめぐらす。	称名寺式
第65図 PL.70	190	580-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっつ	刺突を施した隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下に沈線によるモチーフを描く。	称名寺式
第65図 PL.70	191	570-170	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	ふっつ	斜位の刻みを付した隆帯をめぐらす。	称名寺式
第65図 PL.70	192	610-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	明黄褐	良好	斜位の刻みを付した隆帯をめぐらす。	称名寺式
第65図 PL.70	193	580-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	斜位の刻みを付した隆帯をめぐらす。	称名寺式
第65図 PL.70	194	4区2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂	にぶい 赤褐	良好	波状口縁の波頂部。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施文する。突起は横状を呈し、左側のみ沈線を施す。	称名寺式
第65図 PL.70	195	575-180	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 赤褐	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	196	595-165	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒	明黄褐	ふっつ	踏状隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、帯状沈線により逆U字状モチーフを描き、列点を充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	197	4区2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	198	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、黒曜、 白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	199	590-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	200	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	201	580-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	202	590-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	203	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、R Lを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	204	580-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、R Lを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	205	604-170	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	206	590-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。一部沈線下に円形刺突を施す。	称名寺式
第65図 PL.70	207	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	No.206と同一個体。	称名寺式
第65図 PL.70	208	590-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっつ	No.206と同一個体。	称名寺式

第3章 検出された遺構と遺物

種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第65図 PL.70	209	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっとう	No.206と同一個体。	称名寺式
第65図 PL.70	210	580-150	深鉢	胴部破片	粗砂	にぶい 黄橙	ふっとう	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L R、列点を充填 施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	211	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	浅黄	ふっとう	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L R、列点を充填 施文する。	称名寺式
第65図 PL.70	212	505-165	深鉢	胴部破片	粗砂、石英	橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第65図 PL.70	213	580-155	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄褐	良好	沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第65図 PL.70	214	580-150	深鉢	胴部破片	粗砂	にぶい 黄褐	ふっとう	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第65図 PL.70	215	570-160	深鉢	胴部破片	粗砂	にぶい 黄橙	ふっとう	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第65図 PL.70	216	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂	暗灰黄	ふっとう	波状口縁の口縁下の部位。帯状沈線により幾何学モチーフ を描く。	称名寺式
第65図 PL.71	217	500-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふっとう	頸状隆帯を垂下、帯状沈線により幾何学モチーフを描き、 L Rを充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	218	580-150	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふっとう	隆帯を垂下、帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L R を充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	219	505-175	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	加曲する器形。頸状隆帯を垂下、帯状沈線により幾何学モ チーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	220	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂、礫、 白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふっとう	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、L Rを充填施文す る。	称名寺式
第66図 PL.71	221	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂	にぶい 橙	良好	帯状沈線によりJ字状など幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第66図 PL.71	222	505-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふっとう	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、L Rを充填施文す る。	称名寺式
第66図 PL.71	223	580-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっとう	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、L Rを充填施文す る。	称名寺式
第66図 PL.71	224	4K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふっとう	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、無飾L rを充填施 文する。	称名寺式
第66図 PL.71	225	580-160	深鉢	胴 - 底部 破片	粗砂、黒色粒	暗赤褐	良好	底径7.1cm。帯状沈線によりJ字状、幾何学モチーフを描き、 L Rを充填施文。モチーフの下端で横位に連繋させ、さら に下位に1条の沈線を並行させる。	称名寺式
第66図 PL.71	226	4K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	浅黄	ふっとう	帯状沈線により弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	227	580-150	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	良好	帯状沈線により弧状モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	228	595-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	良好	刺突を施した隆帯をめくらす。	称名寺式
第66図 PL.71	229	500-160	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明黄褐	ふっとう	刺突を施した隆帯をめくらす。	称名寺式
第66図 PL.71	230	505-165	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふっとう	沈線を伴う対弧状隆帯を貼付、そのまま下させる。帯状 沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	231	505-165	深鉢	胴部破片	細砂	黄褐	良好	帯状沈線によりU字状モチーフを描き、列点を充填施文す る。	称名寺式
第66図 PL.71	232	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂	橙	良好	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、列点を充填施文す る。	称名寺式
第66図 PL.71	233	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふっとう	加曲する器形。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L R、 列点を充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	234	560-143	深鉢	胴部破片	粗砂、石英	浅黄	良好	縦位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	235	570-160	深鉢	胴部破片	粗砂、石英	浅黄	良好	縦位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	236	610-160	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふっとう	縦位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	237	505-170	深鉢	胴部破片	細砂、黒色粒	にぶい 橙	良好	縦位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	238	500-160	深鉢	胴部破片	粗砂	橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施文す る。	称名寺式
第66図 PL.71	239	500-150	深鉢	胴部破片	粗砂	にぶい 黄橙	良好	斜位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式
第66図 PL.71	240	610-160	深鉢	胴部破片	粗砂、石英	橙	ふっとう	縦位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式

第2節 縄文時代の遺構と遺物

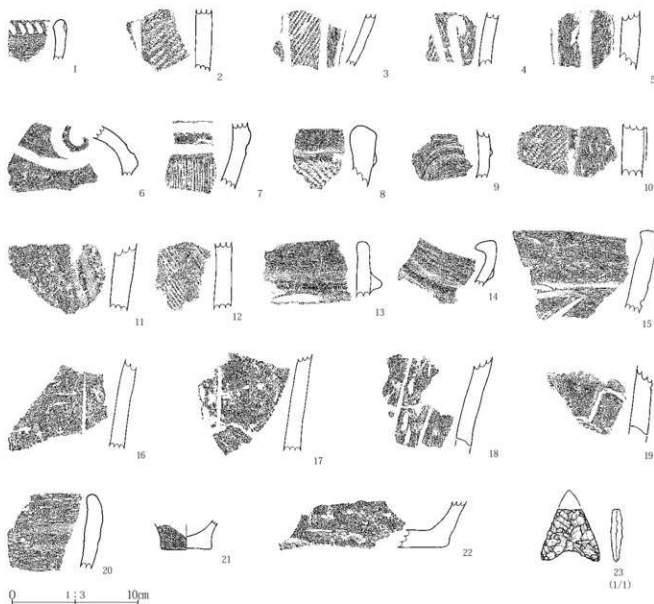
種別番号 P.L.番号	No	出土 位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第66図 PL.71	241	590-150	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	黒褐	良好	底径6.4cm。沈線による縦位展開するモチーフを描く。	株名寺式
第66図 PL.71	242	580-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	口縁下に沈線をめぐらす。	堀之内1式
第66図 PL.71	243	560-120	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	縦位沈線を施す。	堀之内1式
第66図 PL.71	244	560-120	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	縦位沈線を施す。	堀之内1式
第66図 PL.71	245	630-160	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒	橙	ふつう	指頭押捺を伴う隆帯を垂下させ、R.Lを縦位充填施文する。	堀之内1式
第66図 PL.71	246	580-148	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文、渦巻状モチーフを描き、円形刺突を施す。	堀之内1式
第66図 PL.71	247	590-150	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L.Rを充填施文する。	堀之内2式
第67図 PL.71	248	590-160	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L.Rを充填施文する。口縁下に8の字貼付文を付す。	堀之内2式
第67図 PL.71	249	580-143	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	無文だが斜位の調整痕により凹凸顕著。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。口料部、内面研磨。	堀之内2式
第67図 PL.71	250	590-160	深鉢	口縁部 破片	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	縦位の条線を帯状に施す。	堀之内2式
第67図 PL.71	251	610-160	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	良好	L.Rを横位施文する。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	堀之内2式
第67図 PL.72	252	580-145	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	No.249と同一体。胴下半はミガキ調整。	堀之内2式
第67図 PL.72	253	590-160	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	L.Rを横位施文する。	堀之内2式
第67図 PL.72	254	570-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	赤褐	ふつう	底径5.0cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第67図 PL.72	255	595-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	推定底径6.7cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第67図 PL.72	256	600-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	推定底径9.0cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第67図 PL.72	257	590-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	推定底径7.0cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第67図 PL.72	258	595-165	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	底径9.0cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第67図 PL.72	259	590-150	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒	黄橙	良好	底径8.0cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第67図 PL.72	260	590-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	推定底径11.0cm。残存部は無文。外面縦位、内面横位のナ 子痕顕著。	中期末葉～後 期前葉
第67図 PL.72	261	560-120	深鉢	底部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	ふつう	底径7.6cm。残存部は無文。	中期末葉～後 期前葉
第67図 PL.72	262	605-160	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	底径7.0cm。R.Lを施文。底部付近は無文だが、縦位、横位 のナ子痕顕著。	後期初頭
第67図 PL.72	263	600-150	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	口縁部に狭く、小突起を付す。無文。補修孔あり。	後期前葉
第67図 PL.72	264	590-160	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒	橙	良好	無文。	後期前葉
第67図 PL.72	265	600-160	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	口縁内面肥厚。隆帯を2条めぐらせて口縁部無文帯を区画、 隆帯間に円形刺突をめぐらす。隆帯下はR.Lを充填施文する。	後期初頭か
第67図 PL.72	266	635-160	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 赤褐	にぶい 赤褐	ふつう	無文。	後期前葉
第67図 PL.72	267	643-163	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒、 石英	赤褐	良好	細沈線による斜格子目文を施す。	後期?
第67図 PL.72	268	580-175	浅鉢	底部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	良好	底径7.3cm。底部から開く器形。底面に網代痕。	後期中葉
第67図 PL.72	269	580-160	上製品	破片	粗砂、白色粒	浅黄	ふつう	長方形状の上製品?現存長5.4cm、現存幅4.0cm、現存厚 2.2cm。	時期不明

第3章 検出された遺構と遺物

第34表 4区 遺構外遺物観察表(石器・石製品)

検出番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石 材
第678区 PL.72	270	石鏃 凹基無芽莖	570-160	1.6	1.2	0.6	完成状態。浅く薄い剥離が全面を覆う。石器基部を浅く、直線的に抉る。	チャート
第678区 PL.72	271	石鏃 凹基無芽莖	595-165	1.4	1.7	0.8	完成状態?左辺側の返し部を欠く。加工が周辺部に止まり、未成品とすることも考えてみたが、左側縁のエッジが刃部として使用・摩耗しており、転用が明らかである。	黒曜石
第678区 PL.72	272	石鏃 凹基無芽莖	2区2面	2.1	1.4	0.5	完成状態。長身で、石器基部を大きく抉る。右辺側の返し部を欠く。	黒色火山岩
第678区 PL.72	273	石鏃 凹基無芽莖	595-165	2.5	1.6	0.8	完成状態。浅く薄い剥離が全面を覆う。	黒曜石
第678区 PL.72	274	石鏃 不明	550-170	(2.8)	(1.1)	0.8	完成状態。先端部破片として回収したもののだが、欠損部は下端から斜め上方に抜け、また、左側側先端が内湾気味で、返し部の破片にも見える。この場合、器体長は約4cm程度となる。	チャート
第678区 PL.72	275	石鏃 凹基無芽莖	595-160	(2.0)	2.0	1.0	完成状態。大型で、器体上半部を大きく欠損。	黒曜石
第678区 PL.72	276	石鏃 凹基無芽莖	590-150	2.7	2.3	3.4	未成品。加工は粗く、対称性に欠ける。	黒色火山岩
第688区 PL.72	277	打製石斧 分削型	580-150	9.8	5.9	117.3	完成状態。刃部摩耗、摺痕あり。上下両端とも刃部のリタクションは明らか。	黒色頁岩
第688区 PL.72	278	打製石斧 分削型	590-160	9.7	7.6	189.7	完成状態。上下両端とも刃部摩耗、摺痕あり。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.72	279	打製石斧 短冊型	570-160	8.8	4.1	79.3	完成状態。摺痕あり。刃部再生が明らかで、大きく刃部は後退している。	黒色頁岩
第688区 PL.72	280	打製石斧 短冊型	560-110	10.0	4.0	91.3	完成状態。刃部摩耗、摺痕は不明。側縁は潰れ、刃部を再生している可能性が高い。	黒色頁岩
第688区 PL.72	281	打製石斧 短冊型	590-170	12.4	4.1	120.7	完成状態。剥離面は新鮮、未使用?	ホルンフェルス
第688区 PL.72	282	打製石斧 短冊型	565-120	14.0	5.1	113.2	完成状態。剥離面は新鮮、未使用?	黒色頁岩
第688区 PL.72	283	打製石斧 短冊型	590-180	(9.4)	4.9	98.5	完成状態?裏面側上下両端の剥離面を除き、全面が赤化。赤化が被熱によるものならば、被熱後の剥離ということになる。	黒色頁岩
第688区 PL.72	284	打製石斧 短冊型	595-170	8.3	4.2	75.8	完成状態。刃部は使用できないほどその刃部角を逸し、敲打具として使用されている可能性がある。被熱。	黒色頁岩
第688区 PL.72	285	磨製石斧	590-170	(2.1)	1.8	3.2	左側縁側面に剥離面を残す他、全面研磨。ミニチュアタイプ。	変質蛇紋岩
第688区 PL.72	286	打製石斧 短冊型	560-120	(10.0)	5.9	73.6	完成状態。刃部摩耗あり。部分的に抉れる側縁加工が装着を意図しているものか不明。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.72	287	打製石斧 分削型	595-160	(8.9)	9.0	200.5	完成状態。刃部摩耗あり。上半部を欠損。下部側の刃部再生は明らかである。	灰色火山岩
第688区 PL.72	288	磨製石斧 定格式	595-165	(9.0)	5.8	220.7	被熱?で研磨面が部分的に割れている。上半部欠損。	変質玄武岩
第688区 PL.72	289	敲石 不明	590-160	(5.4)	2.5	26.8	小口部・縁縁部に打痕・摩耗痕があるほか、平坦面にも打痕あり。	変質玄武岩
第688区 PL.72	290	敲石 棒状塊	595-170	(10.7)	5.0	242.3	小口部に打痕。衝撃剥離。端面は被熱して剥落。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.72	291	敲石 角柱状	590-150	12.1	3.6	300.6	小口部・側縁に打痕。	変質玄武岩
第688区 PL.73	292	凹石 楕円盤	595-165	(8.2)	6.9	316.1	表裏面とも扇状の凹部。摩耗痕。両側縁・小口部は打痕が顕著。下半部を欠損。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.73	293	磨石 楕円盤	580-150	9.1	7.8	500.7	表裏面とも摩耗痕。側縁に打痕。被熱してスス付着。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.73	294	砥石 偏平盤	595-170	(5.5)	5.0	41.2	表裏面とも顕著に摩耗。	砂岩
第688区 PL.73	295	砥石 偏平盤	595-170	(2.3)	(2.6)	7.1	表裏面とも顕著に摩耗。左側縁の摩耗が著しく、側縁に稜が生じている。	凝灰質砂岩
第688区 PL.73	296	磨石 楕円盤	590-150	8.5	8.5	769.6	表裏面とも摩耗痕。円硬化した環縁線に打痕を有する。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.73	297	石棒 不明	590-150	(6.6)	4.8	27.9	表裏面とも顕著に摩耗。左側縁の摩耗が著しく、エッジが尖る。	砂岩
第688区 PL.73	298	石棒 不明	580-150	(10.0)	11.8	1501.2	基部破片。被熱して体部がヒビ割れている。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.73	299	多孔石 不定形垂角礫	560-110	18.2	13.2	2596.6	表裏面に孔1を穿つ。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.73	300	多孔石 不定形垂角礫	2区2面	15.4	11.5	1863.6	背面側・側面側に漏斗状の凹部を穿つ。	粗粒輝石火山岩
第688区 PL.73	301	多孔石 不定形垂角礫	2区2面	24.4	17.0	4954.0	背面側に漏斗状の凹部2を穿つ。	粗粒輝石火山岩

種別番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石 材
第69図 PL.73	302	多孔石 不定形垂角礫	550-170	14.5	12.1	1071.5	背面側に径8cmの孔を穿つ。他、裏面側・側面に漏斗状の孔を穿つ。左右の側面は礫面だが、上下両端の側面は平坦で、意図的整形とすることができる。	粗粒輝石安山岩
第70図 PL.73	303	石皿 有縁	580-150	(15.6)	(13.1)	1585.3	側縁部破片。裏面側平坦面は摩耗して平滑。同平坦面の際に漏斗状の孔1を穿つ。被熱破損。	粗粒輝石安山岩
第70図 PL.73	304	多孔石 不定形垂角礫	580-140	20.6	19.2	7360.0	表裏面・側面に漏斗状の孔を穿つ。	粗粒輝石安山岩
第70図 PL.73	305	多孔石 不定形垂角礫	610-160	28.6	18.4	9013.0	表裏面とも漏斗状の孔を穿つ。	粗粒輝石安山岩
第70図 PL.73	306	多孔石 不定形垂角礫	580-150	(18.8)	(12.8)	2407.3	表裏面・側面に漏斗状の孔を穿つ。	粗粒輝石安山岩
第70図 PL.74	307	多孔石 不定形垂角礫	575-165	27.2	16.2	8000.0	表裏面とも漏斗状の孔を穿つ。	粗粒輝石安山岩
第70図 PL.74	308	多孔石 不定形垂角礫	595-165	(24.0)	(24.0)	5930.0	表裏面とも漏斗状の孔を穿つ。被熱破損。	粗粒輝石安山岩



第72図 5区 遺構外出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

第35表 5区 遺構外遺物観察表（土器）

検出番号 P.L.番号	No	出土位置	器種	部位	胎土	色調	焼成	形成・整形の特徴	備考
第728号 PL.74	1	5K2面	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	口縁下に刻み列を施す。	加曾利E3式
第728号 PL.74	2	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白 色粒、黒色粒	明赤褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、前々段反照R.L.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第728号 PL.74	3	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E3式
第728号 PL.74	4	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	沈線による懸垂文、ワラビ手状懸垂文を施し、R.Lを充填施文する。	加曾利E3式
第728号 PL.74	5	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒石英	にぶい 赤褐	ふつう	沈線による懸垂文を施す。	加曾利E3式
第728号 PL.74	6	5K2面	浅鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒石英	にぶい 黄橙	ふつう	隆帯、沈線により渦巻状モチーフを施す。	加曾利E3式
第728号 PL.74	7	5K2面	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	2条の横位沈線をめぐらせ、沈線下に縦位条線を充填施文する。	加曾利E3式
第728号 PL.74	8	5K2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	横位隆帯をめぐらせて口縁部無文帯を区画、隆帯下にR.Lを充填施文する。	加曾利E4式
第728号 PL.74	9	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	隆帯により逆U字状モチーフを施す。	加曾利E4式
第728号 PL.74	10	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	隆帯による懸垂文を施し、R.Lを縦位充填施文する。	加曾利E4式
第728号 PL.74	11	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	No.10と同一個体。	加曾利E4式
第728号 PL.74	12	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	良好	L.Rを縦位施紋する。	加曾利E5式
第728号 PL.74	13	5K2面	深鉢	口縁部 破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	口縁下に横位隆帯をめぐらす。	称名寺式
第728号 PL.74	14	5K2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	皮状口縁で口縁内折。口縁に沿って隆帯をめぐらす。	称名寺式
第728号 PL.74	15	5K2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	口縁内面肥厚。横位、斜位の沈線を施す。	称名寺式
第728号 PL.74	16	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	No.15と同一個体。	称名寺式
第728号 PL.74	17	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	No.15と同一個体。	称名寺式
第728号 PL.74	18	5K2面	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	No.15と同一個体。斜位の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺式
第728号 PL.74	19	5K2面	深鉢	胴部破片	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺式
第728号 PL.74	20	5K2面	深鉢	口縁部 破片	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	無文。横位の調整痕が見られ、凹凸残る。	後期前葉
第728号 PL.74	21	5K2面	深鉢	底部破片	細砂	にぶい 橙	ふつう	底径3.8cm。残存部は無文。	後期前葉
第728号 PL.74	22	5K2面	深鉢	底部破片	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	にぶい 橙	良好	残存部は無文。	後期前葉

第36表 5区 遺構外遺物観察表（石器・石製品）

検出番号 P.L.番号	No	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	完成状態。浅く薄い剥離が全面を覆う。先端部欠損。	形成・整形の特徴	石材
第728号 PL.74	23	石器 凹基無芽蓋	埋没上	(1.3)	1.5	0.5	完成状態。浅く薄い剥離が全面を覆う。先端部欠損。		黒曜石

第3節 古墳時代～奈良・平安時代の遺構と遺物

本遺跡の古墳時代から奈良・平安時代の遺構は2区から竪穴住居2軒、竪穴状遺構1基、土坑3基、3区、4区から畠が検出されている。

3、4区から検出された畠は上面からの削平の影響を受け畠の高まりは検出されなかったが、サクの掘り込み部には6世紀初頭に降下したとされる榛名山二ツ岳火山灰（以下Hr-FA）の一次堆積層が埋没しており、Hr-FA降下以前の畠であることは明確である。しかし、吉岡町の平石遺跡で見ついているような整然とした区画は持っておらず、区画はサクの主軸方向を基準にして区画した（3区4区画、4区3区画）。また、サクは等高線に対して直交するものが多く、概ね南北方向にサクを切っている。工具痕や作物痕などは見つかっておらず畠の詳細な性格については不明である。

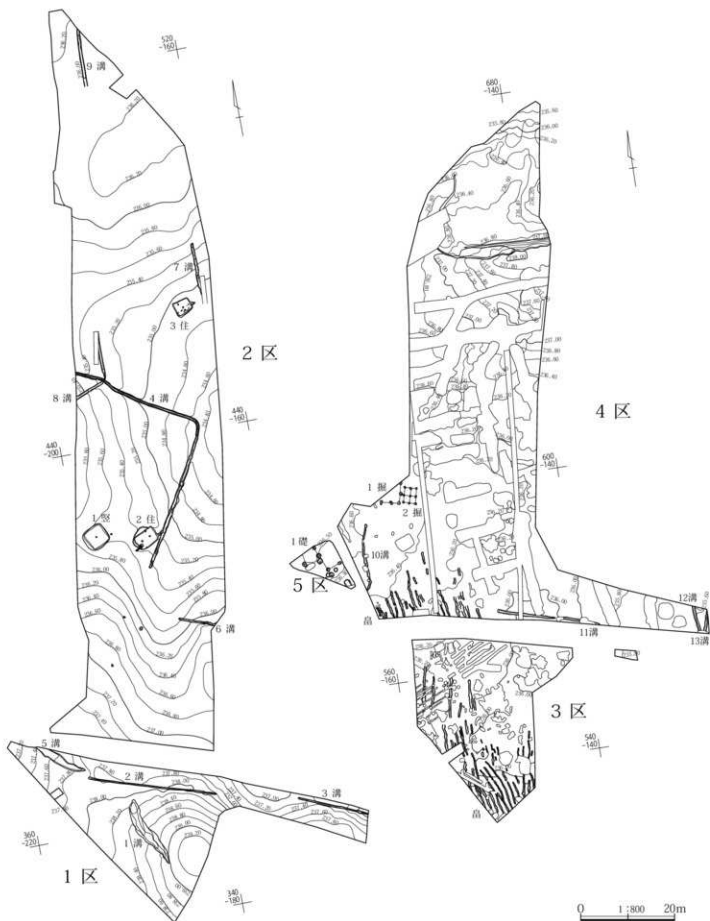
2区から検出された竪穴住居、竪穴状遺構、土坑などの遺構はHr-FAの一次堆積層面を掘り込んで構築している。これらの遺構で明確な時期を判断できるものは遺物が出土している2号住居と3号住居である。2号住居からは古墳時代後半の土師器2点が出土し、3号竪穴住居からは奈良時代の須恵器が出土している。1号竪穴状遺構は2号住居の東側5m離れた所から検出されている。出土遺物など遺構に伴う資料が少ないため性格や時期は不明である。しかし、埋没土が2号住居類似していることや、主軸方位もほぼ同じことから同時代の遺構と想定した。また、竈がないため竪穴状遺構としたが硬く踏みしめた平坦な床面をもつことや、壁の形状も住居と変わらないことから炊飯施設をもたない住居である可能性が高い。土坑3基は供伴遺物がないため時期は明確にはできないが、埋没土からこの時代の遺構とした。遺構外からは土師器2点、須恵器片が1点出土している。須恵器は10世紀代のものであるが、遺跡からはこの時代の遺構は検出されていない。この時代の遺構検出数や遺構外出土遺物の状況から、これらの住居周辺に集落密度濃く展開する様相は窺えない。

第1項 竪穴住居

竪穴住居は2件検出されている。1号竪穴住居は竪穴状遺構に変更したため欠番とした。検出された2軒の竪穴住居は出土遺物から古墳時代と奈良時代に帰属するものと考えられる。

2区2号竪穴住居（第74～76図、PL.29・30・74）

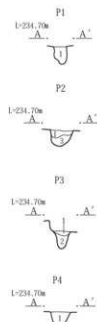
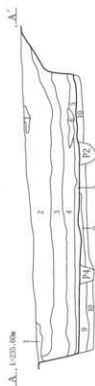
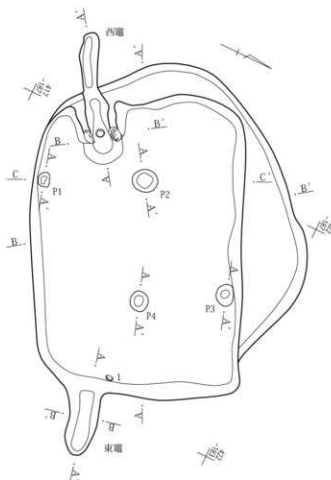
調査区南側、座標値417-188に位置する。住居確認面はHr-FA（IV層）面で確認。平面形状は南西-北東方向に長軸をもつ長方形を呈する。規模は長軸5.25m、短軸3.35m、壁高81cmを測り、床面積は16.8㎡である。長軸方位はN-60°-Eを示す。北側壁から西壁付設の竈周辺にかけて浅い落ち込み部が検出された。断面状の切り合いや住居埋没土との相違は見られないため、壁の崩落や住居に伴う段状施設とも考えられるが、形状が不明瞭であるため明確な性格は不明である。住居埋没土は、ローム粒や白色軽石を混入する暗褐色土主体である。床面は中央に向かい緩やかに傾斜するがほぼ平坦である。踏み締まりは良好で硬く締まる。掘り方土土床土はローム粒、白色軽石を混入する締まりある土である。竈は東壁、西壁にそれぞれ付設されている。検出状況からこれらの竈は東竈から西竈に作り替えたものと考えられる。西竈は住居西壁南寄りに付設されている。燃焼部付近からは、天井部や袖部構築の補強材として使用されたと考えられる礫や完形の土師器杯などが出土している。規模は袖部長さ約75cm、焚き口部幅は約30cmである。燃焼部は住居内にあり、幅20～25cmの煙道は屋外に90cmほど突出する。構築状態は灰白色粘質土を用いて礫に覆層構築している。東竈は東壁南寄りにより付設されている。残存は煙道部のみで袖部や燃焼部は検出されなかった。平面的に見ると、この竈が北壁周辺を巡る段上施設に伴うものであることも想定されたが、それぞれの出土標高が異なることから可能性は低いと思われる。規模は幅50cmほどの煙道が屋外に1.0mほど突出する。住居内形状は不明である。小穴は4基検出されている。P1からP4の規模はP1は長径25cm、底径10cm、深30cmを測る。P2は長径38cm、底径28cm、深33cmを測る。P3は上径35cm、



第73図 遺跡全体図 (1面)

底径12cm、深28cmを測る。P 4は長径34cm、底径21cm、深24cmを測る。この内主軸方位に沿うP 2とP 4間1.8mを測る。遺物は6世紀後半の土師器杯完形品が東壁下床面と西竈内から出土しているため、8世紀代の土師器小

片が埋没土中より出土しているが、本住居は6世紀後半の古墳時代後期に帰属すると考えられる。

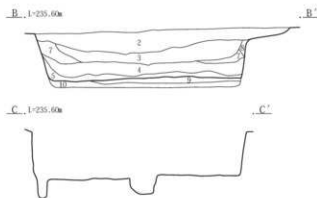


2号住ビツ

- 1 暗褐色土 10YR3/3 白色軽石、ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 1と類似、炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 全体にローム粒を含む。

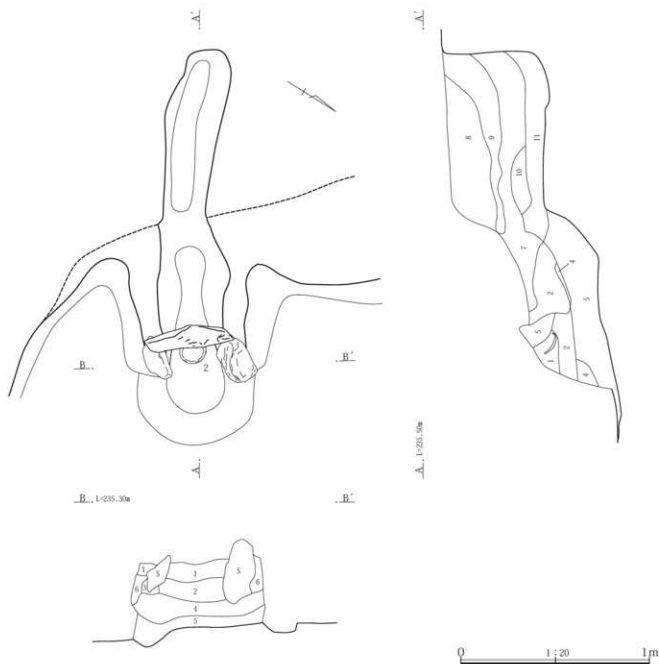
2号住居

- 1 暗褐色土 10YR2/3 Hr-Fa粒、塊を多量に含む。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 細粒白色軽石を多量に含む。ローム粒を少量含む。締まり強い。
- 3 黒褐色土 10YR3/1 2に類似する。炭化粒、ローム塊を含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 炭化物、ローム塊を多量に含む。
- 5 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム粒を多量に含む。褐色土塊を少量含む。やや締まりあり。
- 6 暗褐色土 10YR3/3 白色粘質土を多量に含む。竈構築土か。
- 7 灰黄褐色土 10YR5/2 灰黄褐色土塊を多量に含む。
- 8 黒褐色土 10YR3/1 As-Cを多量に含む。地山崩れ。
- 9 褐色土 10YR4/4 ローム粒を含む。白色軽石と黄褐色軽石を少量含む。締りあり。
- 10 褐色土 10YR4/4 ローム粒と、ローム塊を多量に含む。締まり強い。



第74図 2区 2号住居

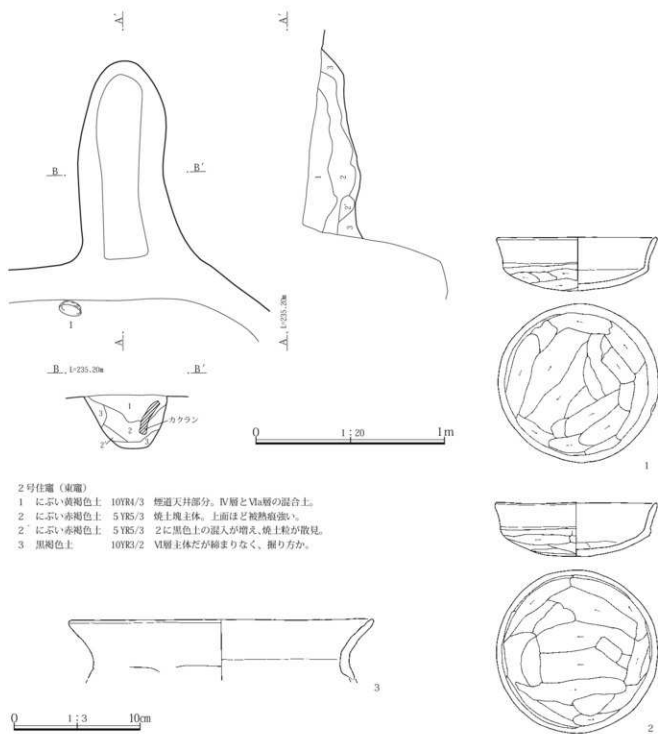
0 1:60 2m



2号住蔵 (西蔵)

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| 1 灰黄褐色土 | 10YR5/2 灰黄褐色土塊を多量に含む。 |
| 2 にぶい赤褐色土 | 5YR5/4 焼土粒を多量に含む。 |
| 3 灰白色土 | 10YR8/2 粘質性を伴う灰白色土を主体とする。焼土粒を少量含む。 |
| 4 黒褐色土 | 10YR3/1 2に類似。炭化粒、ローム塊を含む。締まりあり。 |
| 5 暗褐色土 | 10YR3/3 炭化物、ローム塊を多量に含む。 |
| 6 灰白色土 | 10YR8/2 粘質性を伴う灰白色土を多量に含む。 |
| 7 黒褐色土 | 10YR3/2 細粒白色軽石とローム粒を少量含む。 |
| 8 黒褐色土 | 10YR2/2 黑色土主体。締まり弱い。 |
| 9 にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 Hr-FAを多量に含む。 |
| 10 黒褐色土 | 10YR3/1 Ⅲ層主体。 |
| 11 黒褐色土 | 10YR3/2 焼土粒を少量含む。 |

第75図 2区 2号住居西蔵



2号住壺(東壺)

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼道天井部分。IV層とVIa層の混合土。
 2 にぶい赤褐色土 5YR5/3 焼土塊主体。上面ほど被熱面強い。
 2' にぶい赤褐色土 5YR5/3 2に黒色土の混入が増え、焼土粒が散見。
 3 黒褐色土 10YR3/2 VI層主体だが締まりなく、握り方か。

第76図 2区 2号住居東壺及び2号住居出土遺物

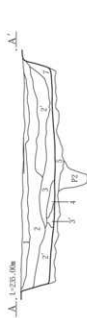
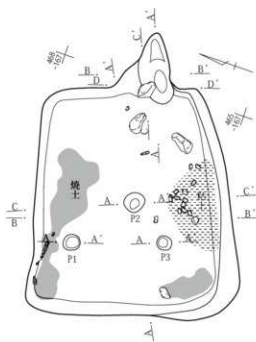
第37表 2区 2号竪穴住居遺物観察表(土器)

挿図番号 P.L.番号	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第76図 PL.74	1	土師器 杯	床直	□112.6	横12.0 高4.2	細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は 手持ちヘラ削り。	6世紀後半代
第76図 PL.74	2	土師器 杯	西端燃焼部	□112.6	横12.0 高4.3	細砂粒・褐色粒/ 良好/灰黄褐色	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は 手持ちヘラ削り。	6世紀後半代
第76図 PL.74	3	土師器 甕	埋没上	□123.7	—	細砂粒/良好/ にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	8世紀代

2区3号竪穴住居 (第77・78図、PL.31・32・74)

調査区北側座標値464-172に位置する。Hr-FA(IV層)面で掘り込みを確認。平面形状は東-西方向に主軸をもつ長方形を呈する。規模は長軸3.65m、短軸3.1m、壁高72cmを測り、床面積は8.4㎡である。主軸方位はN-60°-Eを示す。住居埋没土は、Hr-FA塊や白色軽石を混入する黒褐色土主体である。床面はほぼ平坦で全体に硬く締まっている。西壁周辺には焼土が散見するが、掘り方埋土床土はAs-Cを混入する暗褐色土である。北西隅部周辺からは炭化材や焼土塊が出土しているが、床面より10cmから15cm上位であり、住居埋没過程での流れ込みが想定される。この状況は南壁脇で検出されている粘土や小礫も床面より5cmから7cmほど上位であるため同様

であると思われる。竈は東壁南寄りに付設されている。焚き口が住居の東壁延長上にあり、本体は住居外に張り出す。規模は袖部長さ約75cm、焚き口幅は約30cmである。燃焼部は住居外にあり、長さ50cm、幅40cm強を測る。煙道はほぼ垂直に立ち上がった奥壁から大きく外傾して伸びる。焚き口部は灰白色粘質土を礫に被覆し構築している。竈手前には竈焚き口構築に使用したと考えられる20cmから30cmほど礫が散乱している。ピットは4基検出されている。P1は径25cm、底径15cm、深さ11cmを測る。P2は径32cm、底径12cm、深さ31cmを測る。P3は径32cm、底径12cm、深さ12cmを測る。埋没土中から須恵器杯蓋が2点出土しており、このことから本住居は奈良時代前半に帰属すると考えられる。



3号住居ピット

- 1 黒褐色土 10YR3/2
As-C, ローム粒を少量含む。
締り強い。
- 2 暗褐色土 10YR3/4
ローム主体。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 黄褐色
軽石、ローム粒を少量含む。
締まりあり。

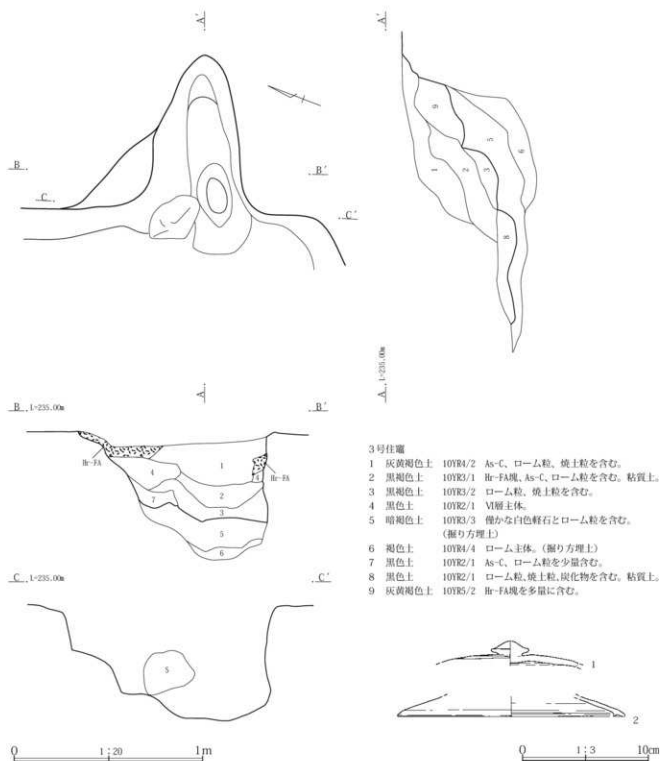


3号住

- 1 黒褐色土 10YR3/1 As-C, ローム粒を含む。締りあり。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 As-C, ローム粒、塊を含む。やや締りあり。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 2よりもローム粒、塊を多量に含む。
- 2 暗褐色土 10YR3/1 As-C, ローム粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/1 3よりも粘質性強い。
- 4 黒色土 10YR2/1 黒色土主体。粘質性強い。
- 5 黒色土 10YR2/1 黒色土とローム粒の混合土。(掘り方埋土)
- 6 暗褐色土 10YR3/3 ローム土主体。
- 7 にぶい黄褐色土 10YR5/3 Hr-FA塊、As-C, ローム粒を多量に含む。締まりあり。
- 7 にぶい黄褐色土 10YR5/3 7よりHr-FA粒を多く含む。

0 1:60 2m

第77図 2区 3号住居



3号住竈

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 As-C、ローム粒、焼土粒を含む。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 Hr-FA塊、As-C、ローム粒を含む。粘質土。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒、焼土粒を含む。
- 4 黒色土 10YR2/1 VI層主体。
- 5 暗褐色土 10YR3/3 僅かな白色軽石とローム粒を含む。(掘り方理上)
- 6 褐色土 10YR4/4 ローム主体。(掘り方理上)
- 7 黒色土 10YR2/1 As-C、ローム粒を少量含む。
- 8 黒色土 10YR2/1 ローム粒、焼土粒、炭化物を含む。粘質土。
- 9 灰黄褐色土 10YR5/2 Hr-FA塊を多量に含む。

第78図 2区 3号住居竈及び3号住居出土遺物

第38表 2区 3号住居遺物観察表(土器)

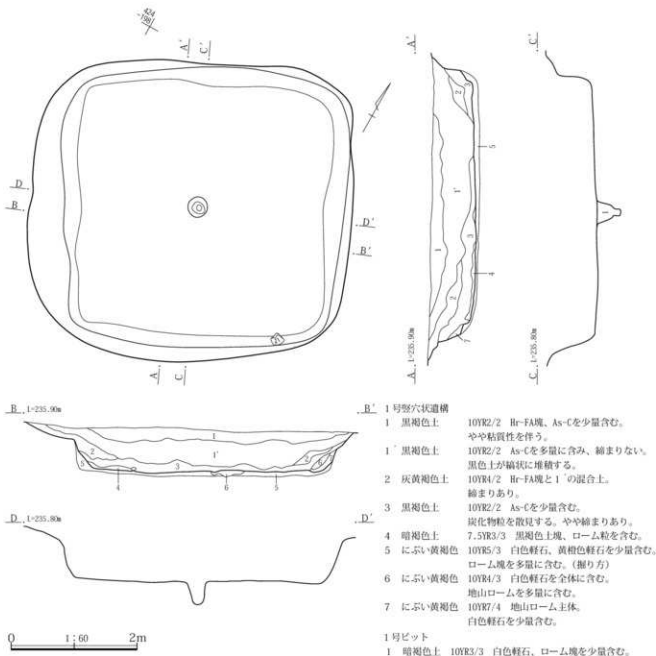
挿入番号 P.L.番号	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第78図 PL.74	1	須恵器 杯蓋	埋没上 天井部片	幅2.9	—	—	微砂粒/還元焰/灰 口クワ整形、回転右回り。摘みは貼付、 天井部中央は回転へう削り。	2と同一個体か。7世紀後半～8世紀初頭
第78図 PL.74	2	須恵器 杯蓋	埋没上 口縁部片	口17.9	—	—	細砂粒/還元焰/灰 口クワ整形、回転右回り。外面の一部に へう削り痕がかすかに残る。蓋受けの力 エリあり。	1と同一個体か。7世紀後半～8世紀初頭

第2項 竪穴状遺構

2区1号竪穴状遺構 (第79図、PL.33)

調査区南側、座標値419-199西部調査区域に位置する。Hr-FA (IV層) 面で確認した。東側には2号竪穴住居が検出されている。当初平面プランから1号竪穴住居として調査を始めたが、竈を付設していないことや遺物の出土が見られないことなどから竪穴状遺構とした。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸5.15m、短軸4.75m、壁高83cmを測り、床面積は14.1㎡である。主軸方位はN-63°-Eを示す。住居埋没土は、Hr-FA塊や白色軽石を混入する黒褐色土を主体とする。床面は平坦で全体に

硬く締まっている。掘り方を埋める床土はローム塊、黄褐色軽石を混入する黄褐色土である。竈は確認されなかった。ピットは中央部から1基検出されている。規模は長径28cm、底径12cm、深さ34cmを測る。断面から柱穴痕と考えられる。遺物は出土していない。埋没土の特徴と2号竪穴住居との位置関係から2号住居と同時期か前後する段階で理解しておきたい。また、踏み締まった床面をもつ上屋構造であるため、炊飯施設をもたない住居ともいえよう。



第79図 2区 1号竪穴状遺構

第3項 畠

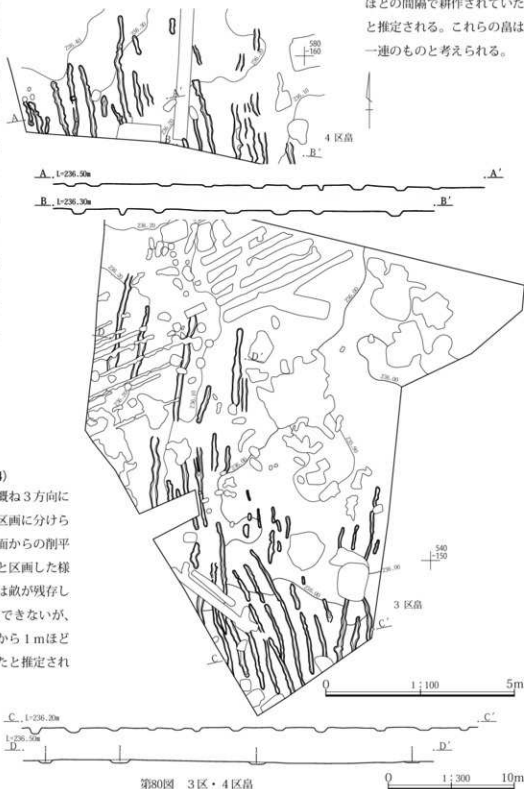
調査区3、4区からHr-FA (IV層) によって覆われた畠が検出された。畠は後世の攪乱などにより削平され残存部はなく不明瞭である。古墳時代の2号住居はHr-FA面を掘り込んで構築している。畠はHr-FA下埋没しているため、畠の方が古く、年代は6世紀初頭以前ということになる。耕作状況を見ると、3、4区の畠も多少のずれはあるものの南北方向にサクを切っている。また等高線に直交して区画しているものが多い。検出面積は3区が約50㎡、4区が約20㎡である。サクの一部が重複する部分も見られるが、これらは古い畠のサクの残存と考えられる。サクには明瞭な跡などの工具使用痕は見られなかった。

3区畠 (第80図、PL. 34)

サク切りの方向が、概ね3方向に軸をもつため区画は3区画に分けられると考えられる。上面からの削平の影響もあるが、整然と区画した様相は見られない。畠間は畠が残存していないため明確にはできないが、サクの間隔から約70cmから1mほどの間隔で耕作されていたと推定される。

4区畠 (第80図、PL. 34)

4区は南側の調査区域周辺から検出されている。サク切りの方向が、概ね4方向に軸をもつため、区画は4区画に分けられると考えられる。3区畠同様に整然と区画した様相は見られない。畠間は畠が残存していないため明確にはできないが、サクの間隔から推定すると約1mほどの間隔で耕作されていたと推定される。これらの畠は一連のものと考えられる。



第80図 3区・4区畠

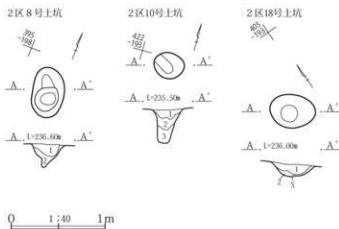
第3章 検出された遺構と遺物

第4項 土坑 (第81図、PL.35)

2区 8・10・18号土坑 (第81図、PL.35)

古墳時代の土坑は2区から3基検出されている。出土遺物がないため明確な時期判断できないが、検出面や埋

没土の特徴などから古墳時代の遺構とした。8号土坑、18号土坑はAs-C混合土を主体とし、10号土坑はBr-FA塊を多量に含む黄橙色土主体の土で埋没している。



第81図 2区 8・10・18号土坑

- 8号土坑
1 黒色土 10YR3/2 白色軽石、ローム粒・塊を含む。
2 褐色土 10YR4/4 ローム粒を多量に含む。締り弱い。

- 10号土坑
1 にぶい黄橙色土 10YR7/4 Br-FAを含む。黄橙色軽石を多量に含む。粘質性強い。
2 にぶい黄橙色土 10YR6/4 Br-FAを含む。黄橙色軽石を少量含む。やや粘質性を帯びる。
3 にぶい黄橙色土 10YR5/3 Br-FAを含む。やや締まる。

- 18号土坑
1 黒色土 10YR3/2 白色軽石を僅かに含む。ローム粒を少量含む。
2 褐色土 10YR4/4 ローム粒を多量に含む。締まりあり。

第39表 2区 土坑計測表

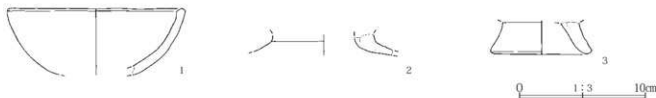
調査区	面	No.	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	形状
2	1	8土坑	394-192	0.56	0.34	0.34	N-30°W	楕円形
2	1	10土坑	421-192	0.33	0.28	0.28	N-70°W	楕円形
2	1	18土坑	404-193	0.5	0.33	0.33	N-61°W	楕円形

第5項 遺構外出土遺物 (第82図)

古墳時代から奈良・平安時代の遺構外出土遺物をここで扱う。古墳時代の遺構外出土遺物は全調査区から土師器裏片が2点出土している。これらの土器は古墳時代後期に位置付けられるもので、2号住居や1号竪穴状遺構

との関連性が強いと考えられる。

須恵器碗の高台片が出土したが、10世紀代のものであり、近辺には関連する遺構は検出されなかった。



第40表 2・4区 遺構外出土物観察表 (土器)

検出番号 P.L.番号	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第82図	1	土師器 碗	450-165 クラフF 口縁部-体部片	□13.6	—	細砂粒/良好/灰黄 口縁部横ナデ、体部へラナデか。単位不規。内部口縁部は平坦面をつくる。	外面に煤が付着。古墳時代後期
第82図	2	土師器 壺	590-160 クラフD 胴部上位片	—	—	細砂粒/良好/明黄 胴部に輪積み痕が残る。外面はナデ。内面はへラナデか。	古墳時代後期
第82図	3	須恵器 碗	450-165 クラフD 高台片	台 7.6	—	細砂粒/酸化塩/明黄褐 ロク口整形。回転方向不明。高台は貼付。	10世紀代

第82図 2区・4区 遺構外出土遺物

第4節 中近世の遺構と遺物

中近世の遺構は掘立柱建物2棟、礎石建物1棟、土坑5基、溝13条が検出されている。出土遺物がない遺構については、検出面や埋没土から時期を判断した。

第1項 掘立柱建物

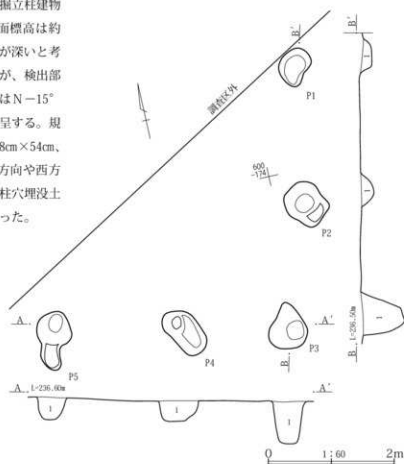
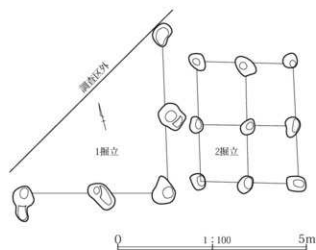
掘立柱建物は4区西側から2棟が検出されている。当初、これら2棟の建物は一連のものであるとも考えられたが、柱穴規模や間隔からそれぞれ独立した2棟の建物とした。

4区1号掘立柱建物（第83図、PL.36）

調査区西側、座標値600-175に位置する。西側は調査区外のため全容は不明である。東側には2号掘立柱建物が並ぶ。柱穴残存状態はP3を除いては底面標高は約236.2m前後で揃う。P3は隅柱のため深度が深いと考えられる。桁梁とも3間以上の規模となるだろうが、検出部で、東辺4.5m、南辺4.0mを測り、主軸方位はN-15°-Wを示す。柱穴平面形状は不整形楕円形を呈する。規模は最小のP1で55cm×45cm、最大のP5で88cm×54cm、深度は18cm～65cmである。柱穴はさらに北方向や西方向の調査区外に延びる可能性も考えられる。柱穴埋没土から、柱痕や抜き取り痕などは確認できなかった。

1号掘立柱建物

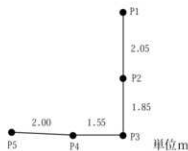
- 1 褐色土（10YR4/1）上位はAs-Bを多く含む、中位はφ1～2cmの崩-F丸を含む。
下位は灰色が強い、締まり弱い。



第41表 4区 1号掘立柱建物計測表

PN	長径	短径	深さ
1	55	45	18
2	65	55	65
3	70	57	63
4	78	43	29
5	88	54	35

単位 cm

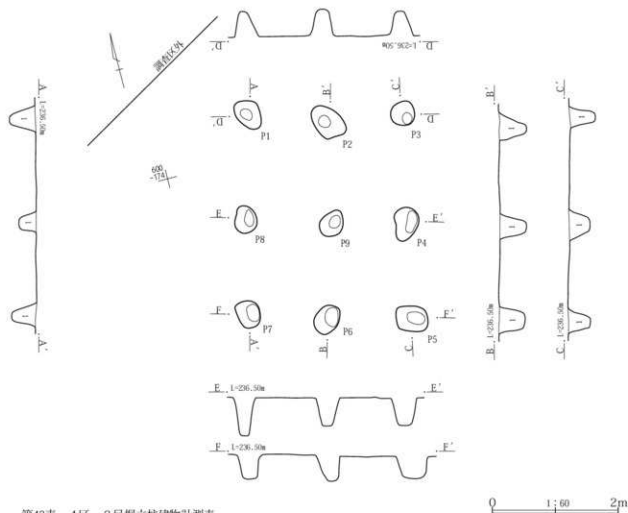


第83図 4区 1号掘立柱建物と1・2号掘立柱建物位置関係

4区2号掘立柱建物 (第84図、PL. 37-38)

調査区境西隅部、595-174に位置する。西側に1号掘立柱建物が隣接する。平面形態は長方形を呈す。規模は梁行2間、桁行2間の総柱建物である。規模は北辺2.4m、東辺2.95m、南辺2.45m、西辺2.9mを測る。桁行方位はN-14°-Wを示す。柱穴は不整形な楕円形を呈し、規模は最小のP8で43cm×35cm、最大のP2で59cm×34cm、深さは34cm～56cmである。底面標高は

236.0m前後で揃う。柱穴は1108年降下火山灰のAs-Bを多量に混入する褐灰色土で埋没しており、中世以降であることが明らかである。一边が3m弱の小規模総柱であることから倉庫的な貯蔵施設であると考えられる。隣接する2号掘立との関係においては側柱列方位が一致していることから同時期のものである可能性が考えられる。



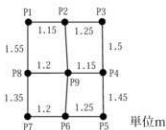
第42表 4区 2号掘立柱建物計測表

PNa	長径	短径	深さ
1	50	36	39
2	59	34	42
3	35	33	30
4	50	29	38
5	49	45	35
6	47	34	38
7	45	31	35
8	43	35	56
9	45	34	42

単位 cm

2号掘立柱建物

P1からP9まで、1号掘立柱建物の柱穴覆土と同じである褐灰色土(10YR4/1)の単一土層で埋没している。



単位m

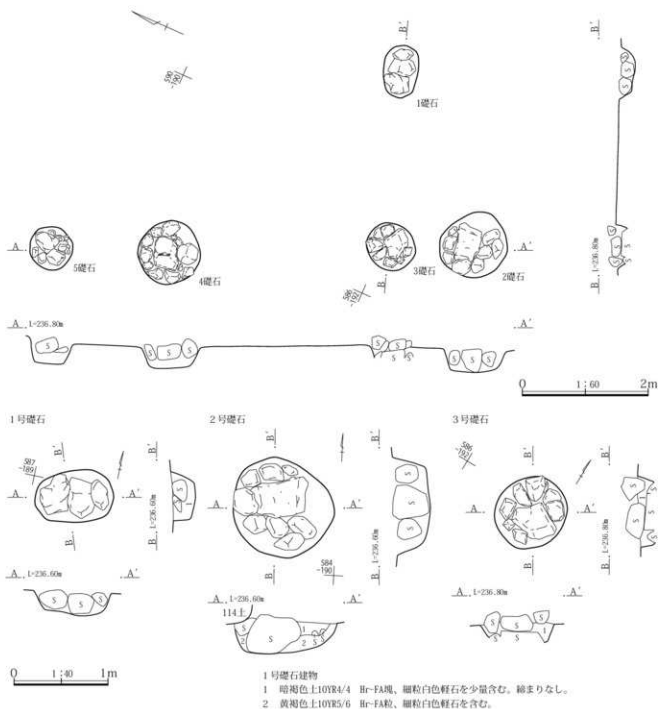
第84図 4区 2号掘立柱建物

第2項 礎石建物

5区 1号礎石建物 (第85・86図、PL. 38・39)

調査区中央部、座標値585-185に位置する。5区は調査範囲が狭く、建物の一部の検出にとどまったため、建物の全容は不明である。検出された礎石は5基で2号礎石から5号礎石は主軸方位 $N-28^{\circ}-W$ を示す。礎石規模は最小の5号礎石が直径65cm、最大の2号礎石で100cm \times 90cmを測る。掘り方は20cmから45cmである。

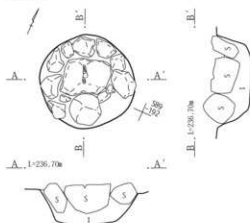
1号礎石以外は中央に大きい平坦石を置きその周辺に小さな石を巡らしている。それぞれの礎石間隔を見ると、やや規模の大きい2号礎石や4号礎石の脇に一回り小さい3号礎石や5号礎石が置かれている。礎石埋没土が近隣する111号土坑埋没土と類似することから、近代以降の可能性はある。



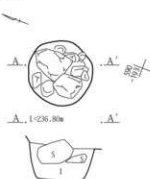
第85図 5区 1号礎石建物 (1~3号礎石)

第3章 検出された遺構と遺物

4号礎石



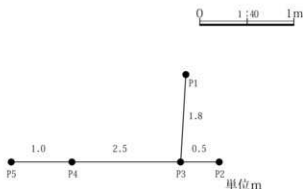
5号礎石



第43表 5区 1号礎石建物計測表

PN	長径	短径	深度
1	80	50	21
2	100	90	35
3	75	70	10
4	100	95	20
5	65	65	45

単位 cm



第86図 5区 1号礎石建物 (4・5号礎石)

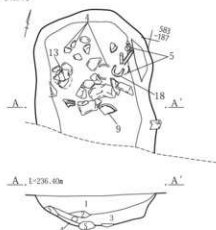
第3項 土坑

5区 111～115号土坑 (第87～91図、PL.40・74)

5区1面からは土坑5基が検出されている。111号土坑からは、陶磁器や砥石、蹄鉄など近現代の遺物が出土

している。他の土坑からは供伴する遺物は検出されないが、埋没土などから同時期のものと考えられ、礎石建物に関係するものと考えられる。

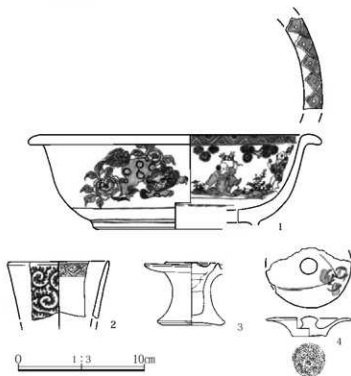
5区111号土坑



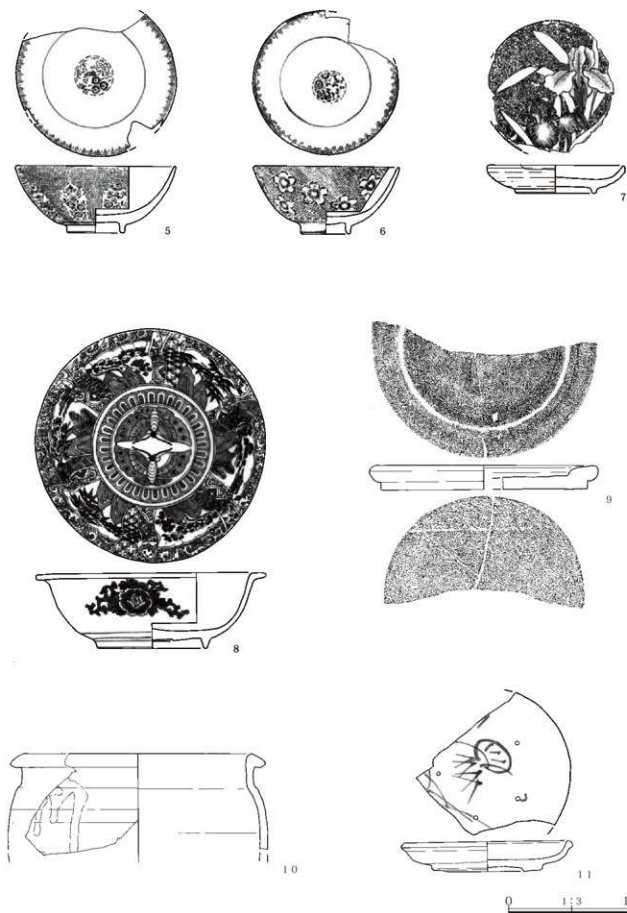
111号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 Hr-FA塊を少量含む。締まりなし。
- 2 黒色土塊
- 3 褐色土 10YR4/4 Hr-FA塊、黒色土塊の混合土。人為的埋没か。
- 4 黒褐色土 10YR3/1 Hr-FA塊、細粒白色軽石を少量含む。

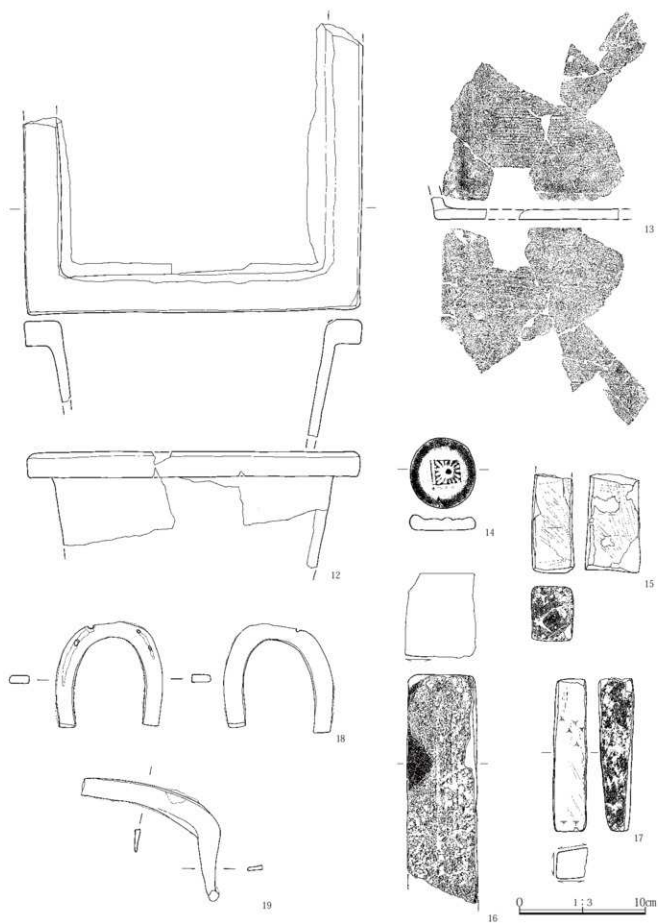
0 1:40 1m



第87図 5区 111号土坑及び出土遺物 (1)



第88図 5区 111号土坑出土遺物(2)



第89図 5区 111号土坑出土遺物(3)

第44表 5区 111号土坑遺物観察表(陶磁器類・土製品)

挿入番号 P.L.番号	No.	器種・形態 種類	出土位置 残存率	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	色調	成形・整形の特徴	備考
第878回	1	肥前磁器 筒型碗か	1/8	(7.9)	-	-	灰白	体部僅かに外反。口縁部内面、簡略化した四方禪文、外面、いわゆる唐唐唐文。	江戸時代
第878回	2	製作地不詳陶器 灯火受台	口縁部1/2 欠	7.4	4.6	4.9	灰白	脚台部外面無縁で回転器削り。台部外面から内部内面灰釉。細かき貫入。受け部、浅いU字状の挟り1か所。	江戸時代末から 近現代
第878回	3	益子・笠間系陶器 土瓶蓋	1/2	(6.7)	2.7	2.6	灰	天井部外面鉄粒具と白土で施文し、灰釉を施す。天井内面右面水系切無調整。	近現代
第878回	4	製作地不詳磁器 鉢	1/3	(23.1)	(12.5)	7.4	白	口縁部水平に開く。蛇の目凹型高台。内外面銅板転写。	近現代
第888回	5	製作地不詳磁器 碗	口縁部1/4 欠	12.4	4.3	5.3	白	底部内面周縁の縁線を除き型紙焼。	近現代
第888回	6	瀬戸・美濃磁器 碗	口縁部1/2 欠	11.4	3.7	5.4	白	底部内面周縁の縁線を除き型紙焼。	近現代
第888回	7	瀬戸・美濃磁器 皿	口縁部1/4、 底部完形	(13.1)	8.3	2.4	灰	内面銅板転写。	近現代
第888回	8	瀬戸・美濃磁器 鉢	ほぼ完形	18.1	8.5	5.9	白	口縁部水平に開く。蛇の目凹型高台。内外面銅板転写。	近現代
第888回	9	在地系土器 蓋釜火鉢	1/2	23	21.6	2.6	暗灰黄	蓋釜火鉢の底部中央をふさぐ蓋状の部位であろう。外面砂状状瓦。断面中央黒色。器表付近灰黄色。器表灰黄から明灰黄色。	近現代
第888回	10	益子・笠間系陶器 器蓋	1/3	(18.0)	-	-	灰黄	頸部段をなして括れ、口縁部外反して端部下がる。体部外面回転器削り。内外面錆色の鉄釉で残存部1か所黒色の鉄釉を施す。	近現代
第888回	11	益子・笠間系陶器 器皿	口縁部1/4、 底部完形	(13.1)	8.3	2.4	灰	内面から高台輪灰釉。細かき貫入。内面只須根。日直4箇所残存。	近現代
第898回	12	在地系土器 圓形が裏か火鉢	口縁部1/2	35.3	-	-	黒褐	平面形は正方形であろう。口縁部外面は面取りし、内面側角は擦れによる磨減と段状に並行する複数の整形痕が著しい。	近現代
第898回	13	在地系土器 不詳	底部片	-	-	-	黒褐	方形平底製品の底部。底部の角外面は面取りする。	近現代
第898回	14	玩具(泥面子)	完形	3.7	3.5	0.8		型押しで旭日旗状の文様を施す。	近現代

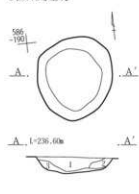
第45表 5区 111号土坑遺物観察表(石器・石製品)

挿入番号 P.L.番号	No.	器種・形態・ 素材	出土位置	長・高 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石材
第898回	15	砥石 手持ち砥石	埋没上	7.8	3.3	189.1	平面側に浅い縦位・斜位の線痕、右側面に引けキズが残る。四面使用。小口部は刃子様の刃物で整形?	流紋岩
第898回	16	砥石 手持ち砥石	埋没上	18.0	5.6	1147.5	使用面は図示した部分のみ残存。全面が被熱して剥落。右側面裏面の剥落面には長軸方向に並行する複数の整形痕が残る。	流紋岩
第898回	17	砥石 手持ち砥石	埋没上	12.0	2.6	141.8	表裏面の使用面は片削りが著しい。分割面を部分的に残す右側面を除く、3面を使用。	変質デイサイト

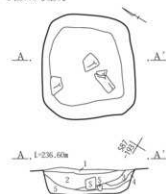
第46表 5区 111号土坑遺物観察表(鉄製品)

挿入番号 P.L.番号	No.	器種・形態・ 素材	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴
第898回	18	蹄鉄	埋没上	11.0	11.5	0.8	191.1	表面の内側に錐を施し内面に釘穴を設けている。
第898回	19	鎌	埋没上	15.3	2.4	0.8	87.2	先端部破損。錆化重しい。

5区112号土坑



5区113号土坑



112号土坑

- 1 暗褐色土 I0YR3/3 Br-FA塊を全体に含む。粘りなし。
- 2 に濃い黄褐色土 I0YR5/3 Br-FA粒、焼土粒を全体に含む。
- 3 褐色土 I0YR4/4 Br-FA塊、黒色土塊を少量含む。

113号土坑

- 1 に濃い黄褐色土 I0YR5/3 Br-FA粒、焼土粒を全体に含む。
- 2 に濃い黄褐色土 I0YR5/3 1に灰、炭化物が混入する。
- 3 灰白色土 I0YR8/1 灰層主体。炭化物少量含む。
- 4 褐色土 I0YR6/1 灰、炭化物粒を全体に含む。
- 5 灰白色土 I0YR7/1 灰、焼土粒を全体に含む。

0 1:40 1m

第90図 5区 112・113号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

5区114号土坑



5区115号土坑



第91図 5区 114・115号土坑

114号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 Hr-FA塊を少量含む。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 Hr-FA塊を全体に含む。
- 3 褐色土 10YR4/4 Hr-FA塊、黒色土塊を少量含む。

115号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 Hr-FA塊を全体に含む。



第47表 5区 土坑計測表

調査区	面	遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	方位	形状
5区	1面	111土坑	583-187	(1.15)	0.62	0.11	N-38°-W	楕円形
5区	1面	112土坑	586-190	0.9	0.8	0.18	N-17°-E	楕円形
5区	1面	113土坑	587-193	1.1	0.95	0.28	N-60°-E	楕円形
5区	1面	114土坑	584-191	0.95	(0.62)	0.7	N-8°-E	楕円形
5区	1面	115土坑	587-196	0.7	0.7	0.34	N-36°-E	楕円形

第4項 溝

溝は1区から4条、2区から5条、4区から4条の計13条の溝が検出されている。これらの溝は幅1m未満で深さが20cmに満たないものが多い。また、走向途中で立ち上がってしまい最終形状が不明瞭なものも多い。これは1面確認面ですでに底面に近い部分での検出である可能性が高い。これから考えるとこれらの溝は確認面より上面から掘り込まれたと考えられ、唯一近世遺物が出土した4号溝の埋没土(As-B混土主体)を基準にして考えるならば、4号溝と重複し、これより古い8号溝とこれと同じ土で埋没している9号溝以外は、近世遺構と考えられる。8号、9号溝はこれらの溝より古いと考えられるが、埋没土から中世から近世に位置付けられるものと考えられる。

1区1号溝(第92図、PL.41)

調査区中央部、座標値366-200から351-195に位置する。走向はN-30°-Wを示す。規模は長さ9m、幅0.62~2.64m、深さ12~23cmを測る。微高地上の斜面部から検出された。標高差70cmを測る。東南から北西へ走向する。埋没土には浅間As-B軽石が多量に混入する。形状は不整形であり、遺物も出していないため詳細な性格は不明である。埋没土から近世に位置づけられると

考えられる。

1区2号溝(第92図、PL.41)

調査区北側、座標値373-207から364-181に位置する。走向はN-70°-Wを示す。規模は長さ27.3m、幅30cm~32cm、深さ18cm~23cmを測る。標高差はほとんどなく、東から西へ直線的に走向する。埋没土には浅間As-B軽石が全体に混入する。中央部には掘削痕と思われる痕跡がある。現道とも平行することから畑の区画溝であると考えられる。埋没土から近世に位置づけられる。

1区3号溝(第92図、PL.41)

調査区東側、座標値360-165から354-150に位置する。走向はN-80°-Wを示す。規模は長さ15.2m、幅19cm~52cm、深さ10cm~18cmを測る。東から西へ直線的に走向する。埋没土には浅間As-B軽石が全体に混入する。底面は凹凸が見られるが掘削痕とは断定できない。2号溝と同じ区画溝であると考えられる。埋没土から近世に位置づけられる。

2区4号溝(第92図、PL.42・43)

調査区中央、座標値457-195から413-187に位置する。走向はN-55°-W、N-30°-Eを示す。西側は調査区外に出るため全容は不明。規模は長さ60.5m、幅0.51m~1.1m、深さ11cm~60cmを測る。南西から北東走向し、ほぼ直角に曲り北西方向へ走向する。西側端で8号溝と重複しこれを切る。埋没土には浅間As-B軽石や

Hr-FA 粒を混入する締まりの弱い土である。遺物は江戸時代の陶器碗が出土している。走向方向や形状から畑などの区画溝であると考えられる。遺物や埋没土から近世に位置づけられる。

1区5号溝 (第93図、PL. 42・43)

調査区西端、座標値 381-217 から 374-207 に位置する。走向は $N-53^{\circ}-W$ を示す。北西部は調査区外に出るため全容は不明。確認範囲規模は長さ 11.0 m、幅 0.54 m ~ 1.92 m、深さ 12cm ~ 54cm を測る。南東から北西へ走向する。埋没土には浅間 As-B 軽石や Hr-FA 粒が混入する。高低差は 30cm を測る。形状は不整形であり、遺物も出していないため詳細な性格は不明である。埋没土から近世に位置づけられる。

2区6号溝 (第93図、PL. 42・43)

調査区東南端境、座標値 401-182 から 398-175 に位置する。走向は $N-70^{\circ}-W$ を示す。東側は調査区外に出るため全容は不明。規模は長さ 7.8 m、幅 32cm ~ 60cm、深さ 7cm ~ 29cm を測る。西から東へ直線的に走向する。高低差は 40cm を測る。1区2、3号と平行に走向することから畑などの区画溝と考えられる。埋没土から近世に位置づけられる。

2区7号溝 (第93図、PL. 42・43)

調査区西端境、座標値 480-165 から 468-165 に位置する。走向は $N-S$ を示す。規模は長さ 11.2 m、幅 49cm ~ 70cm、深さ 8cm ~ 13cm を測る。北から南へ直線的に走向する。埋没土には浅間 As-B 軽石や Hr-FA 粒が混入する。標高差は 50cm を測る。底面は凹凸部が多くあるが、明確な掘削痕は確認できない。非常に浅く、形状も側壁面も不明瞭であるため詳細な性格は不明である。

2区8号溝 (第93図、PL. 43)

東側調査区北側、座標値 457-193 から 450-185 に位置する。走向は $N-S$ 、 $N-72^{\circ}-W$ を示す。西側は調査区外に出るため全容は不明。規模は長さ 17.3 m、幅 26cm ~ 62cm、深さ 10cm ~ 18cm を測る。南西から北東方向へ走向し、ほぼ直角に曲り、北方向へ走向する。西側端で4号溝と重複しこれに切られる。埋没土に As-B 軽石の混入が見られないことや、4号溝よりも古いことから、他の溝より多少の時期差が考えられる。西端と南端では標高差は見られないが、直角に曲る部分は 1m 低くなっている。このような形状から畑などの区画溝と考え

られる。埋没土から中近世に位置づけられる。

2区9号溝 (第93図、PL. 43)

調査区北側、座標値 529-180 から 561-180 に位置する。走向は $N-S$ を示す。規模は長さ 12.2 m、幅 60cm ~ 70cm、深さ 15cm ~ 30cm を測る。南から北へ直線的に走向する。標高差はみられない。底面はほぼ平坦で、壁も垂直に立ち上がる。主軸方位や形状から畑などの区画溝と考えられる。埋没土が8号溝と類似するため中近世に位置づけられる。

4区10号溝 (第94図、PL. 44)

調査区西端、座標値 572-157 から 567-136 に位置する。走向は $N-S$ を示す。規模は長さ 14.1 m、幅 30cm ~ 70cm、深さ 8cm ~ 15cm を測る。西側は調査区外に出るため全容は不明。北から南に緩やかに蛇行する。埋没土は浅間 As-B 軽石を全体に混入する。詳細な性格は不明である。

4区11号溝 (第94図、PL. 44)

調査区南側、座標値 572-157 から 567-136 に位置する。走向は $N-73^{\circ}-W$ を示す。規模は長さ 21.9 m、幅 47cm ~ 58cm、深さ 9cm ~ 12cm を測る。西から東へほぼ直線的に走向する。埋没土は浅間 As-B 軽石を全体に混入する。高低差はない。凹凸部が多くあるが、明確な掘削痕は確認できない。走向方向や形状から畑などの区画溝であると考えられる。埋没土から近世に位置づけられる。

4区12溝 (第94図、PL. 44)

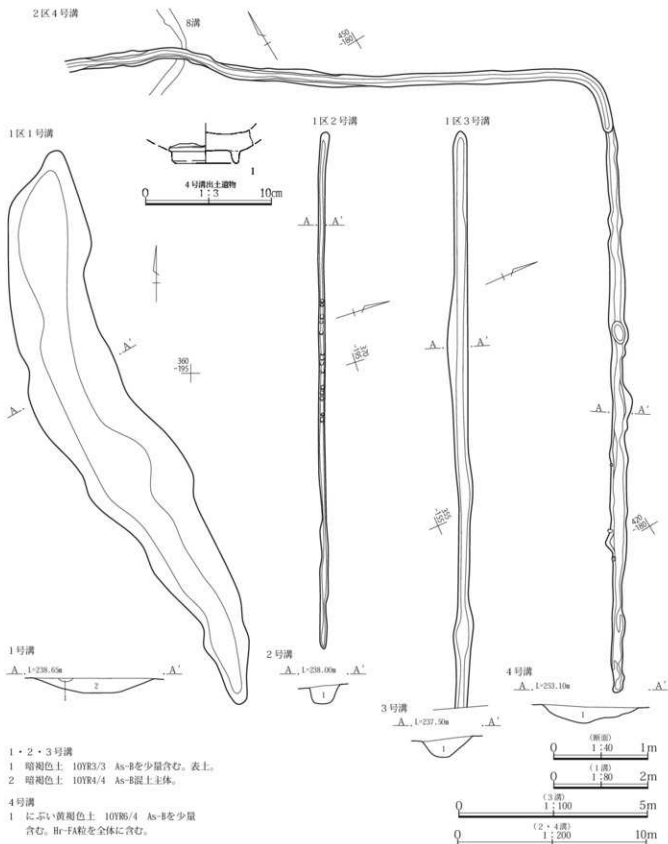
調査区東端、座標値 567-117 から 561-115 に位置する。走向は $N-6^{\circ}-W$ を示す。規模は長さ 5.5 m、幅 53cm ~ 72cm、深さ 5cm ~ 13cm を測る。北から南へ走向する。埋没土は浅間 As-B 軽石を全体に混入する。底面は平坦である。埋没土から近世に位置づけられる。

4区13溝 (第94図、PL. 44)

調査区東端、座標値 566-113 から 564-114 に位置する。走向は $N-13^{\circ}-E$ を示す。規模は長さ 4.3 m、幅 45cm ~ 68cm、深さ 5cm ~ 8cm を測る。北から南へ走向する。埋没土は浅間 As-B 軽石を全体に混入する。検出範囲が僅かであるため、詳細な性格は不明である。底面は凹凸部が多くあるが、明確な掘削痕は確認できない。掘り込みが浅く、側壁形状も不明瞭であるため詳細な性格は不明である。埋没土から近世に位置づけられる。

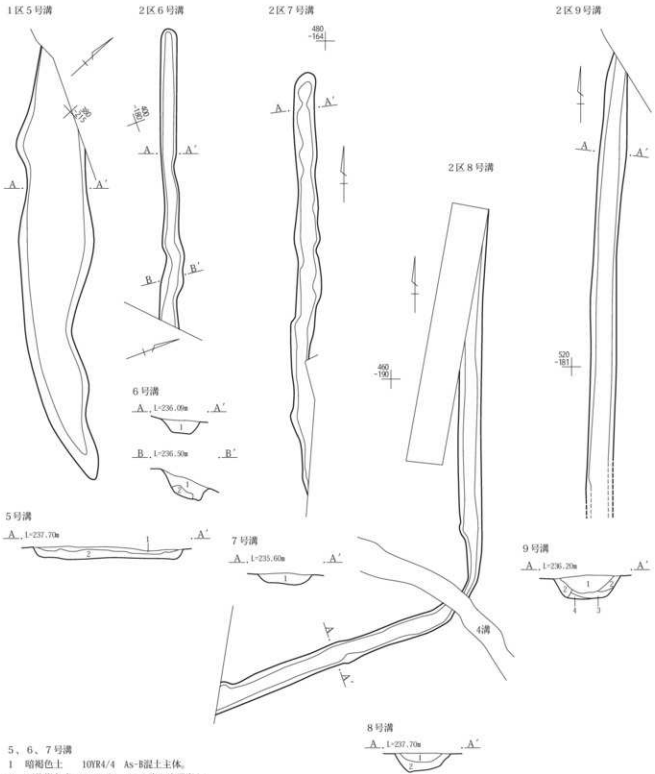
第3章 検出された遺構と遺物

2区4号溝



第48表 2区 4号溝遺物観察表 (陶磁器)

挿図番号 P.L.番号	No.	種類 器種	出土位置 残存率	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	色調	成形・整形の特徴	備考
第92図	1	肥前陶器 碗	底直	-	4.8	-	にぶい 黄粉	焼成不良の陶胎染付であろう。高台幅に1条の圈線。 高台端部欠損。	江戸時代



5、6、7号溝

- 1 暗褐色土 10YR4/4 As-B混土主体。
- 2 灰黄褐色土 10YR4/2 Hr-FA塊を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 Hr-FA塊を含む。下部にAs-Cを少量含む。

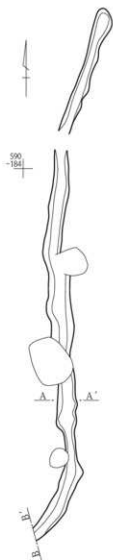
8、9号溝

- 1 暗褐色土 10YR4/4 細粒白色軽石を少量含む。やや粘質土。
- 2 暗褐色土 10YR4/4 Hr-FA粒、塊を全体に含む。
- 3 黒褐色土 10YR3/1 Hr-FA粒、塊を少量含む。下部部にAs-Cを混入する。
- 4 黒色土 10YR2/1 As-C混土主体。

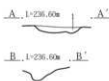
第93図 1区 5号溝 2区 6～9号溝

第3章 検出された遺構と遺物

4区10号溝



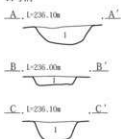
10号溝



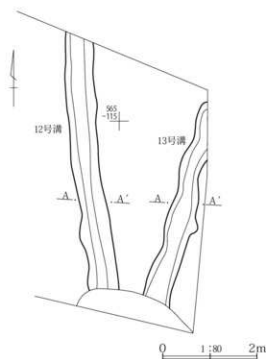
4区11号溝



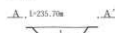
11号溝



4区12・13号溝



12号溝



13号溝



10号溝

1 灰黄褐色土 10YR4/2 As-B混土主体。I、II層の混合土。

11号溝

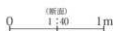
1 暗褐色土 10YR3/3 As-B混土主体。I、IIの混合土。
1 cm大のBr-FAM塊を少量含む。

12号溝

1 黒褐色土 10YR2/2 As-B混土主体。I、IIの混合土。
黒褐色土を僅かに含む。

13号溝

1 灰黄褐色土 10YR4/2 As-B混土主体。I、IIの混合土。
Br-FAM塊を少量含む。

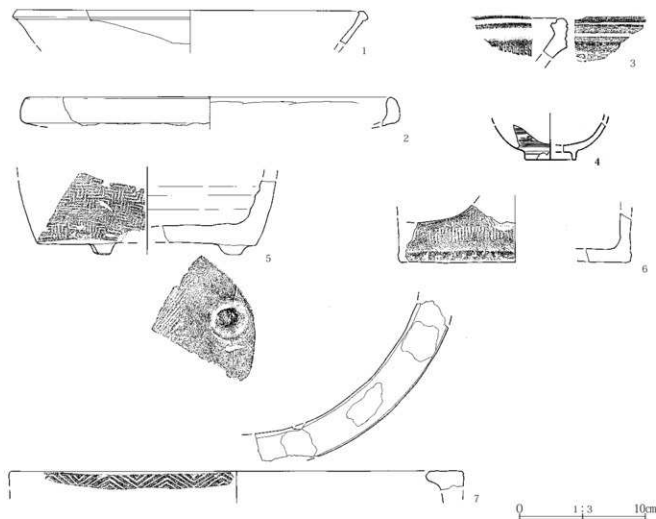


第94図 4区 10～13号溝

第5項 遺構外出土遺物 (第95図)

中近世以降の遺構外遺物は2、4、5区から出土している。中近世面は上面からの削平の影響で、遺物は僅かしか出土していない。遺物は陶器のすり鉢や甕や磁器の

椀、土器製の七輪や火鉢、焙烙片など近世以降のものである。



第95図 5区 遺構外出土遺物

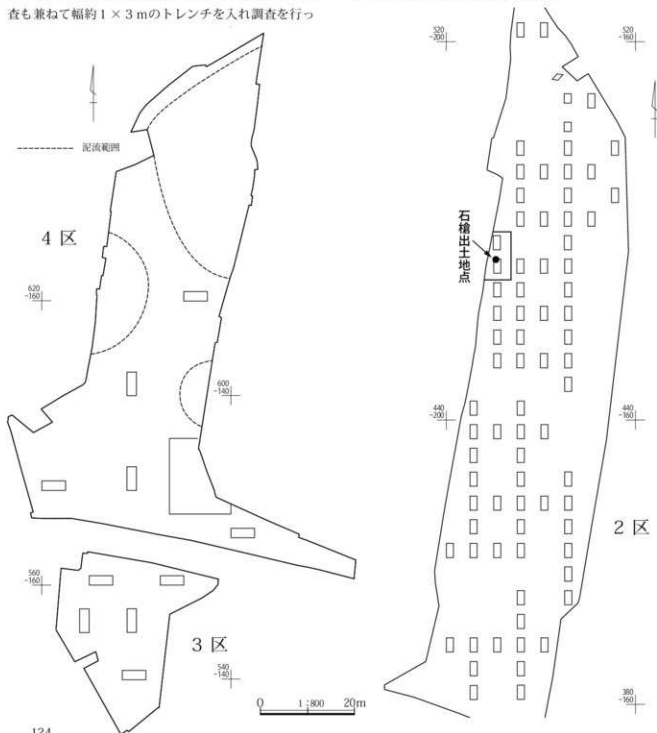
第49表 5区 遺構外遺物観察表 (土器・陶磁器)

挿図番号 P.L.番号	No.	種類 器種	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	色調	成形・整形の特徴	備考
第95図	1	埴・明石陶器 すり鉢	5区表探 口縁部片	-	-	-	明赤褐	無軸で、口縁部内面の突起明瞭。	江戸時代
第95図	2	肥前磁器 碗	4区表探 1/5	-	(4.0)	-	白	外面染付。残存部内面無文。	江戸時代
第95図	3	在地系土器 規が七輪	4区表探 底部片	-	(18.0)	-	黄灰	底部外面砂底。体部外面外型による平行沈線帯。底部付近に瓶口状の切り込み。切り込みは丁寧に撫でる。	江戸時代以降
第95図	4	在地系土器 鉢	5区表探 口縁部片	(36.4)	-	-	灰黄	器壁やや厚い。口縁端部内面に突き出し。外面は丸みを帯びる。断面黒色。器表付近から器表灰黄色。	近現代
第95図	5	在地系土器 焙烙	4区表探 1/8	(38.2)	-	-	橙	外型作りで丸底。体部内面内湾。	近現代
第95図	6	在地系土器 火鉢か風炉	2区表探	-	(17.0)	-	灰	丸く低い張り付け脚1か所残る。体部外面外型により施文し、表面を磨く。	近現代
第95図	7	常滑陶器 甕	4区表探 口縁部片	(40.0)	-	-	明赤灰	甕土にふい・橙色。器表明赤灰色。端部上面目痕3か所。	近現代

第5節 旧石器試掘調査

本遺跡が立地する相馬ヶ原扇状地には「陣場岩屑なだれ」と呼ばれる泥流層が堆積している。この泥流の堆積時期は1.4万年前と推定されている。旧石器の本格的な調査を行うとすればこの泥流層の除去が必要となるが、この泥流層は数十メートル以上も堆積しており事実上、この地域周辺での旧石器調査は不可能である。しかし、泥流層上面にも旧石器文化層が存在する可能性はあるため、トレンチを設定し調査を行った。2区では3面の調査も兼ねて幅約1×3mのトレンチを入れ調査を行っ

た。4区では3面の調査を行っていたため、旧石器の調査として陣馬泥流層隆起範囲部分を避けて2×5mのトレンチを入れ旧石器の調査を行った。調査の結果、2区の西側壁周辺から石楯が1点出土した。(54図-245・PL.27・62) このため周辺を拡張し調査を行ったが、遺構や遺物は検出されなかった。この石楯の出土層位は、火山灰分析から浅間板鼻黄色軽石 (As-YP 1.3～1.4) より上位で浅間総社軽石 (As-Sj約1.1万年) より下位であり、この遺物の出土は遺跡周辺に草創期の文化層の存在を示唆する貴重なものである。



第96図 旧石器試掘範囲図

第4章 自然科学分析

長谷津遺跡では発掘調査中に、①植物珪酸体分析と②火山灰分析の2種類の自然科学分析を行った。その目的は次のとおりである。

①発掘調査では包含層が形成された縄文時代以降、竪穴住居が見られる古墳時代後期まで遺構は確認できなかった。遺跡周辺には後期の古墳群が構築され、水田可耕地も広がっている。このような環境の中、調査地点の土地利用(主に畜などの生産域であった可能性について)を検討する資料を得るため植物珪酸体分析を行った。

②有舌尖頭器の出土地点を層位的に確認することを主目的とした。また榛名山南麓ではこれまで旧石器時代の調査が稀有で、今後の高波線調査に向けた層序指標を作るため、ローム層を含んだ火山灰分析を行った。

第1節 長谷津遺跡における火山灰分析

1. はじめに

榛名山の東麓から南東麓にかけては、約1.7万年前¹に榛名山頂部で発生した大規模崩壊に伴う陣場岩なだれ堆積物が分布している(早田,1990,2000など)。その上位には、榛名や浅間など北関東地方の火山、さらには九州地方などの火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、陣場岩層なだれで形成された微高地部に位置し、層位や年代が不明な土層が検出された榛東村長谷津遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、採取された試料についてテフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、1区のNo.1地点そして2区のNo.1～8の9地点である。

2. 土層層序(第98図)

(1) 1区No.1地点

1区No.1地点では、下位より黄褐色細粒軽石を含む暗



第97図 自然科学分析採取地点位置図

灰褐色土(層厚15cm以上,軽石の最大径2mm)、黄褐色細粒軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚14cm,軽石の最大径2mm)、黄色軽石を少量含む褐色土(層厚15cm,軽石の最大径3mm,いわゆる淡色黒ボク土,早田,1990)、暗灰褐色土(層厚12cm)、黄色軽石を少量含む黒灰褐色土(層厚16cm,軽石の最大径4mm)、黄色軽石層(層厚5cm,軽石の最大径25mm)、石質岩片の最大径3mm)、黄色軽石混じり黒色土(層厚7cm)、成層したテフラ層(層厚15.4cm)、黄色がかかった灰色土(層厚7cm)、暗灰色土(層厚16cm)、黄灰色粗粒火山灰に富む黒灰色土(層厚3cm以上)が認められる(98図)。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より褐色細粒火山灰層(層厚4cm)、成層した黄色がかかった灰色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)、白色細粒軽石混じり灰色粗粒火山灰層(層厚0.2cm,軽石の最大径2mm)、黄色がかかった灰色細粒火山灰層(層厚3cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚1.2cm)、白色軽石混じりで黄色がかかった灰色細粒火山灰層(層厚1cm,軽石の最大径11mm)、白色軽石混じり黄色細粒火山灰層(層厚3cm,軽石の最大径5mm)からなる。このテフラ層は、層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ッ岳流川テフラ層(Hr-FA,新井,1979,坂口,1986,早田,1989,町田・新井,2003)に同定される。また、その上位の黒灰色土中に多く含まれる黄灰色粗粒火山灰については、層位や岩相などから、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B,荒牧,1968,新井,1979)に由来すると考えられる。

(2) 2区No.1地点

2区No.1地点では、Hr-FAの層相をより詳細に観察できた(98図)。ここでHr-FAは、下位より褐色細粒火山灰層(層厚6cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚0.3cm)、灰色砂質細粒火山灰層(層厚2.8cm)、逆級化構造をもち上部に軽石や岩片を含む灰色粗粒火山灰層(層厚1.8cm,軽石の最大径8mm,石質岩片の最大径19mm)、灰色細粒火山灰層(層厚2cm)、白色軽石混じり灰色粗粒火山灰層(層厚0.3cm,軽石の最大径18mm,石質岩片の最大径3mm)、灰色細粒火山灰層(層厚1cm)、黄色砂質細粒火山灰層(層厚0.3cm)、黄灰色細粒火山灰層(層厚0.7cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚0.3cm)、黄灰色細粒火山灰層(層厚0.4cm)、若干色調が暗い灰色細粒火山灰層(層厚0.3cm)、気泡をもつ黄色がかかった灰色細粒火山灰層(層厚2cm)からな

る。

(3) 2区No.2地点

2区No.2地点(深掘トレンチ)では、下位より灰色砂礫層(層厚23cm,礫の最大径32mm)、褐色土(層厚11cm)、成層してテフラ層(層厚24cm)、黄色軽石混じり黄色砂質土(層厚17cm,軽石の最大径11mm)、黄色軽石や灰色岩片を含む灰色土(層厚18cm,軽石の最大径4mm,石質岩片の最大径2mm)が認められる(98図)。

このうち、成層したテフラ層は、下部の厚い黄色軽石層(層厚18cm,軽石の最大径3mm,石質岩片の最大径)と上部のかすかに成層した黄灰色砂質細粒火山灰層(層厚6cm)からなる。このテフラ層は、層相から約1.3~1.4万年^前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP,新井,1962,町田・新井,1992など)に同定される。

(4) 2区No.3地点

2区No.3地点では、下位より黒灰褐色土(層厚18cm)、黄色軽石を少量含む黒色土(層厚17cm,軽石の最大径13mm)、黄色軽石層(層厚3cm,軽石の最大径31mm,石質岩片の最大径3mm)、黄色軽石混じり黒色土(層厚8cm,軽石の最大径8mm)、褐色細粒火山灰層(層厚4cm)、黄色軽石混じり暗灰褐色土(層厚13cm,軽石の最大径3mm)、黄灰色粗粒火山灰を多く含む灰褐色土(層厚5cm)、黄灰色粗粒火山灰混じり灰褐色土(層厚22cm)、灰褐色表土(層厚11cm)が認められる(98図)。これらのうち、褐色細粒火山灰層は、層相からHr-FA最下部の火山灰層に同定される。また、上位の土層中に認められる黄灰色粗粒火山灰は、層位や岩相などからAs-Bに由来すると考えられる。

(5) 2区No.4地点

2区No.4地点では、下位より若干色調が暗い灰褐色土(層厚10cm以上)、黒灰褐色土(層厚20cm)、黄色軽石に富む黒色土(層厚4cm,軽石の最大径11mm)、黄色軽石混じり黒色土(層厚10cm,軽石の最大径9mm)、成層したテフラ層(層厚14.7cm)、黄色がかかった灰褐色土(層厚4cm)、黄色軽石混じり暗灰褐色土(層厚11cm,軽石の最大径4mm)、黄灰色粗粒火山灰混じり灰褐色土(層厚27cm)が認められる(98図)。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より褐色細粒火山灰層(層厚6cm)、黄色がかかった灰色細粒火山灰層(層厚5cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚0.7cm)、白色

軽石混じり黄色細粒火山灰層(層厚3cm, 軽石の最大径5mm)からなる。このテフラ層は、層相からHr-FAIに同定される。

(6) 2区No.5地点

2区No.5地点では、下位より黄色がかかった褐色土(層厚2cm以上)、黄色軽石混じり灰褐色土(層厚15cm, 軽石の最大径3mm)、黄色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚17cm, 軽石の最大径5mm)、わずかに灰色がかかった褐色土(層厚9cm)、暗灰色粘質土ブロックを含む褐色土(層厚10cm)、黄色軽石を少量含む灰褐色土(層厚15cm, 軽石の最大径3mm)、暗灰褐色土(層厚12cm)、黄色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚19cm, 軽石の最大径5mm)、暗灰褐色土(層厚7cm)、灰色がかかった褐色土(層厚7cm, いわゆる淡色黒ボク土)、暗灰褐色土(層厚5cm)、黄褐色軽石を少量含む黒灰褐色土(層厚10cm, 軽石の最大径3mm)、黄色軽石を少量含む黒色土(層厚13cm, 軽石の最大径7mm)、黄色軽石層(層厚4cm, 軽石の最大径23mm, 石質岩片の最大径3mm, パッチ状)、黄色軽石混じり黒色土(層厚9cm, 軽石の最大径8mm)、成層したテフラ層(層厚12.2cm)、暗灰褐色土(層厚6cm以上)が認められる(99図)。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より褐色細粒火山灰層(層厚4cm)、黄色がかかった灰色細粒火山灰層(層厚2cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚0.2cm)、黄色がかかった灰色細粒火山灰層(層厚3cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚0.8cm)、黄色がかかった灰色細粒火山灰層(層厚2cm)、白色軽石を含む黄色細粒火山灰層(層厚0.2cm, 軽石の最大径22mm)からなる。このテフラ層は、層相からHr-FAIに同定される。この地点では、発掘調査により、下位より2層目の灰褐色土中から縄文時代の尖頭器が検出されている。

(7) 2区No.6地点

2区No.6地点では、下位より成層したテフラ層(層厚11cm以上)、黄色砂質土(層厚23cm)、黄色がかかった灰褐色土(層厚26cm)、灰色がかかった褐色砂質土(層厚10cm)、黄灰褐色土(層厚6cm)、黄色がかってしまった灰色土(層厚7cm)、黄色がかかった灰褐色土(層厚14cm)が認められる(99図)。これらのうち成層したテフラ層は、下部の黄色軽石層(層厚3cm以上, 軽石の最大径13mm, 石質岩片の最大径2mm)と、上部の成層した灰色砂質細粒

火山灰層(層厚8cm)からなる。このテフラ層は、層相からAs-YPに同定される。

(8) 2区No.7地点

2区No.7地点(深掘トレンチ)では、下位より褐色土(層厚3cm以上)、黄色粗粒火山灰層(層厚1cm)、逆級化構造をもつ灰色砂層(層厚16cm以上)、垂角礫混じり黄灰色砂層(層厚22cm, 礫の最大径9mm)、褐色土(層厚16cm)、成層したテフラ層(層厚27cm)、灰色がかかった黄色砂質土(層厚10cm以上)が認められる(99図)。

これらのうち、成層したテフラ層は、下部の黄色軽石層(層厚21cm, 軽石の最大径21mm, 石質岩片の最大径8mm)と、成層した桃灰色砂質細粒火山灰層(層厚6cm)からなる。このテフラ層は、層相からAs-YPに同定される。

(9) 2区No.8地点

2区No.8地点(深掘トレンチ)では、下位より灰褐色土(層厚12cm)、褐色土(層厚12cm)、成層したテフラ層(層厚28cm)、灰色がかかった黄色土(層厚4cm以上)が認められる(99図)。これらのうち、成層したテフラ層は、下部の黄色軽石層(層厚22cm, 軽石の最大径20mm, 石質岩片の最大径3mm)と、成層した桃灰色砂質細粒火山灰層(層厚6cm)からなる。このテフラ層も層相からAs-YPに同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

土層から採取された火山灰分析試料のうち、1区No.1地点の黄色軽石層、尖頭器が検出された2区No.5地点の試料のうちの14点と、2区No.7地点の黄色粗粒火山灰層の合計16点を対象として、テフラ検出分析を行って、特徴的なテフラ粒子の産出状況に関する資料の収集を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料12gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴や量を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。1区No.1地点の試料1には、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石(最大径7.2mm)が多く含まれている。軽石の斑晶としては、

斜方輝石や単斜輝石が認められる。その細粒物であるスポンジ状に発泡した灰白色の軽石型ガラスも多く含まれている。

2区No.5地点では、いずれの試料からも、軽石型ガラスを多くまたは比較的多く検出した。試料28および試料27では、透明や白色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。試料13には、灰色や白色さらに透明の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。この試料より下位には透明の軽石型ガラスが比較的目的のもの、上位では灰色の軽石型ガラスが目立つようになる。試料5には、黄灰色の細流軽石(最大径2.1mm)がごく少量含まれており、その細粒物である灰色の軽石型ガラスも認められる。試料3には、上位の軽石層から混在したと思われる灰白色の軽石型ガラスが少量含まれている。

2区No.7地点の試料1には、透明や白色の軽石型ガラスが多く含まれている。また分厚い中間型も顕著である。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

土地利用に関する微化石分析を実施する層位に関係した1区No.1地点の黄色軽石層(試料1)に含まれる軽石のガラス部と、2区No.7地点のテフラ層(試料1)に含まれる火山ガラスの屈折率(n)の測定を行い、指標テフラとの同定精度の向上を図ることになった。屈折率測定に利用した機器は、古澤地質社製MA10Tである。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。1区No.1地点の試料1に含まれる軽石のガラス部(36粒子)の屈折率(n)は、1.514-1.518である。一方、2区No.7地点の試料1に含まれる火山ガラス(31粒子)の屈折率(n)は、1.500-1.502である。

5. 考察

屈折率測定の対象となった1区No.1地点の黄色軽石層(試料1)は、層相、軽石の岩相、さらに含まれる軽石のガラス部の屈折率などから、4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)に同定される。したがって、2区No.3地点の黄色軽石層、2区No.4地点の黒色土中にとくに多く含まれる黄色軽石、2区No.5地点の黄色軽石層についても、As-CまたはAs-Cに由来する軽石粒子と考えられる。

また、2区No.7地点のテフラ層は、層位や層相さらに含まれる火山ガラスの屈折率などから、約1.6~1.7万年前¹に浅間火山から噴出した浅間大窪沢テフラ群(As-0kk Group, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996など)のうちの1層に同定される。より東に近い方向に分布軸をもつ大窪沢大第1軽石(As-0k1)の可能性がより高いように思われる。

また、2区第5地点の試料23に含まれる火山ガラスについては、その層位や形態や色調など、約1.1万年前¹に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(As-Sj, 早田, 1990, 1996など)に由来する可能性が高い。より下位の褐色土中にはAs-YPの層位があることから、本地点で検出された尖頭器の層位については、As-YPより上位でAs-Sjより下位にあると考えられる。2区No.2地点において、As-YPの上位の黄色がかつた灰色土中に含まれる黄色軽石や灰色岩片についても、As-Sjに由来すると思われる。

なお、火山ガラスや斜方輝石の屈折率測定を実施していないことから同定精度はさほど高くはないものの、これらのことから、試料18付近およびいわゆる淡色黒ボク土の下位(試料12付近)に比較的多く含まれる細粒軽石などのテフラの一部については、それぞれ約8,200年前¹と約5,400年前¹に浅間火山から噴出した、浅間藤岡軽石(As-Fo, 早田, 1991, 1996など)と浅間六合軽石(As-Kn, 早田, 1991, 1996など)あるいはそれに関連したテフラに由来する可能性が考えられよう。一方、いわゆる淡色黒ボク土の上位の試料5付近で認められる細粒の黄灰色軽石やその細粒物については、約4,500年前¹に浅間火山から噴出した浅間D軽石(As-D, 荒牧, 1968, 早田, 1991, 1996など)に由来すると思われる。さらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定精度の向上が図られると良い。

6. まとめ

長谷津遺跡において地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、下位より、浅間大窪沢テフラ群(As-0kk Group, 約1.6~1.7万年前¹)のうちの1層、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前¹)、浅間総社軽石(As-Sj, 約1.1万年前¹)、浅間C軽石(As-C, 4世紀初頭)、榛名二ツ岳澗川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)などの指

標テフラを検出できた。また、さらにAs-SjとAs-Cの間に、縄文時代の浅間火山起源の複数のテフラの降灰層準があるらしいことも明らかになった。本遺跡で検出された尖頭器の層位については、As-YPより上位で、As-Sjより下位にあると推定される。

*1 放射性炭素(14C)年代。As-YPの暦年較正年代については、約1.5～1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79。

新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, No.157, p.41-52。

荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地研専報, No.45, 65p。

町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p。

町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p。

町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学-考古学研究に關係するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存化学人文・自然科学」, p.865-928。

中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山, 黒斑～前掛期のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨集, No.14, p.69-70。

坂口 一(1986)榛名ニツ岳起源FA・FP層下の土師器と

須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119。

早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312。

早田 勉(1990)群馬県の自然と風土。群馬県編さん委員会編「群馬県史通史編」, 1, p.37-129。

早田 勉(1991)浅間火山の生い立ち。佐久考古通信, No.23, p.2-7。

早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267。

早田 勉(2000)榛名火山-山頂部のカルデラと溶岩円頂丘群。貝塚爽平ほか編「日本の地形-伊豆・小笠原」, 東京大学出版会, p.61-64。

友廣哲也(1988)古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336。

若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く-古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43。

第50表 テフラ検出分析結果

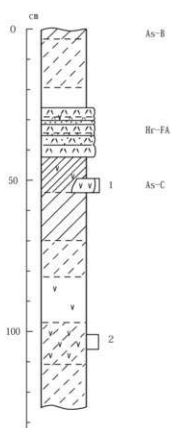
地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
1区No.1	1	+++	灰白	8.9	++	pe	灰白
2区No.5	5	-	-	-	++	pe	白, 透明
	11	-	-	-	++	pe	白, 透明
	15	-	-	-	++	pe	透明, 白
	17	-	-	-	++	pe	白, 透明
	19	-	-	-	++	pe	白, 透明
	21	-	-	-	++	pe	白, 透明
	23	-	-	-	+++	pe	灰白, 白, 透明
	27	-	-	-	+++	pe	透明, 白
2区No.7	1	-	-	-	+++	pe	白, 透明

+++ : とくに多い, ++ : 多い, + : 比較的多い, 〇 : 少ない, - : 認められない。
最大径の単位は, cm。

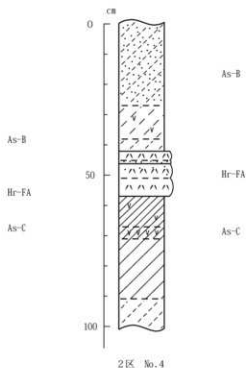
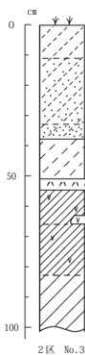
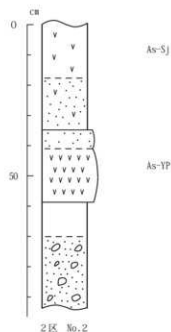
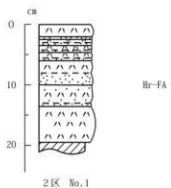
第51表 屈折率測定結果結果

地点	試料	火山ガラス (n)
1区No.1	1	1.614-1.620
2区No.5	23	1.601-1.607

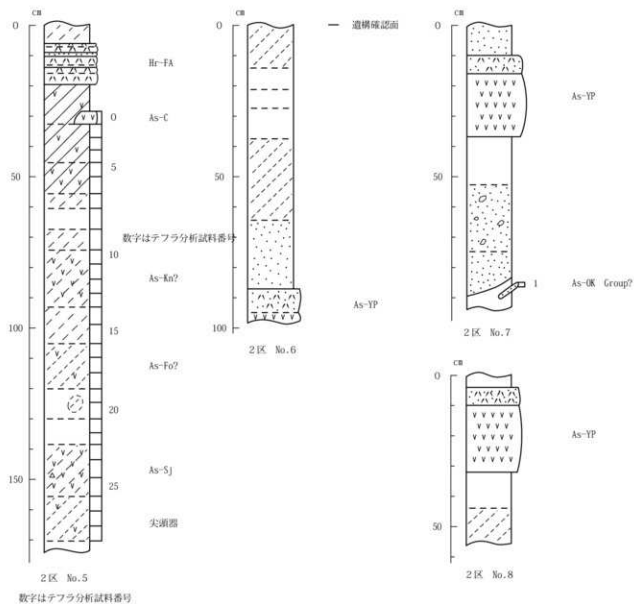
屈折率測定は、温度変化型屈折率測定装置(MA10T)による。



1区 No. 1
数字はテフラ分析試料番号



第98图 1区・2区 土層柱状图



第99図 2区 土層柱状図

第2節 長谷津遺跡における植物珪酸体(プラント・オパール)分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO₂)が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山,2000)。

2. 試料

分析試料は、1区No.1、2区No.3、2区No.4、2区No.5、2区No.8の5地点から採取された計11点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図(第100図~102図)に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法(藤原,1976)を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KH_z・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレバート作成
- 7) 鏡検・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレバート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁻⁵g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これに

より、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。ヨシ属(ヨシ)の換算係数は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、ネザサ節は0.48、チマキザサ節・チシマザサ節は0.75、ミヤコザサ節は0.30である(杉山,2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

(1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を52表および第100図~第102図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科] キビ族型、ジュズダマ属、ヨシ属、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)、ウシクサ族B(大型)、Aタイプ(くさび型)

[イネ科-タケ亜科] ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他] 表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木] はめ絵バズル状(ブナ科ブナ属など)、多角形板状(ブナ科コナラ属など)、その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

1) 1区No.1地点 Hr-FA直下層(試料3)では、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ヨシ属、イネ科Aタイプ、およびブナ属やコナラ属などの樹木起源も認められた。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある(杉山,1999)。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく落葉樹では形成されないものも多い(近藤・佐瀬,1986)。Hr-FA直上層(試料2)では、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

2) 2区No.3地点 Hr-FA直下層(試料2)では、ウシクサ族A、ネザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、および樹木(その他)も認められた。Hr-FA直上層(試料1)でも、おおむね同様の結果であり、ジュズダマ属、イネ科Aタイプなどが出現している。

3) 2区№4地点 Hr-FA直下層(試料3)では、ウシクサ族Aが比較的多く検出され、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、イネ科Aタイプ、ネザザ節型、および樹木(その他)も認められた。Hr-FA直上層(試料2)では、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザザ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

4) 2区№5地点 As-Sjの下層(試料12)では、ミヤコザサ節型が比較的多く検出され、ウシクサ族A、チマキザサ節型なども認められた。As-Sj混層(試料11)ではキビ族型、ヨシ属が出現している。As-Fo?の下層(試料9、9')でも、おおむね同様の結果であり、試料9'ではネザザ節型や樹木(その他)が出現している。

5) 2区№8地点 As-YP直下層(試料1)では、ミヤコザサ節型が比較的多く検出された。

5. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

浅間坂鼻黄色軽石(As-YP,約1.3~1.4万年前:C¹⁴年代)直下層および浅間総社軽石(As-Sj,約1.1万年前:C¹⁴年代)の下層の堆積当時は、ササ属ミヤコザサ節などの笹類を主体としたイネ科植生であったと考えられ、As-Sjの下層の時期にはウシクサ族やササ属チマキザサ節も見られたと推定される。

タケ亜科のうち、メダケ属は温暖、ササ属は寒冷の指標とされており、メダケ率(両者の推定生産量の比率)の変遷は、地球規模の水期-間水期サイクルの変動と一致することが知られている(杉山,2001)。また、ササ属のうちチマキザサ節やチマキザサ節は日本海側の寒冷地などに広く分布しており積雪に対する適応性が高いが、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ない比較的乾燥したところに分布している(室井,1960,鈴木,1996)。これらのことから、当時は冷涼-寒冷で積雪(降水量)の少ない比較的乾燥した環境であったと考えられ、As-Sjの下層の時期には積雪(降水量)がやや増加した可能性も示唆される。

As-Sj混層および浅間藤岡軽石?(As-Fo,約8,200年前:C¹⁴年代)の下層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはササ属(おもにミヤコザサ節)をはじめ、キビ族、ウシクサ族なども分布していたと推定される。As-Fo?の下層ではメダケ属ネザザ節が出現しており、後氷期における気候温暖化の影響が示唆される。

榛名二ツ岳浅川テフラ(Hr-FA,6世紀初頭)直下層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはススキ属やチガヤ属、キビ族、メダケ属ネザザ節などが分布していたと推定される。また、遺跡周辺にはブナ属やコナラ属などの樹木(落葉広葉樹)が分布していたと考えられる。その後、Hr-FAの堆積によって当時の植生は一時的に大きな影響を受けたと考えられるが、Hr-FAの堆積が薄い2区№3地点では比較的早い時期に植生が回復し、湿地性のジュズダマ属なども見られるようになったと推定される。

文献

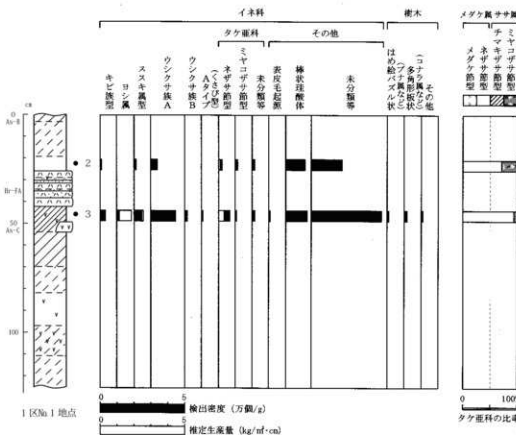
- 近藤謙三・佐瀬隆(1986)植物珪酸体,その特性と応用,第四紀研究,25,p.31-63.
- 杉山真二(1987)タケ亜科植物の機動細胞珪酸体,富士竹類植物園報告,第31号,p.70-83.
- 杉山真二(1999)植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史,第四紀研究,38(2),p.109-123.
- 杉山真二(1999)過去約3万年間におけるササ類の植生変遷と積雪量の変動-植物珪酸体分析からみた過去のミヤコザサ線-,日本植生史学会大会発表要旨集,p.29-30.
- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール),考古学と植物学,同成社,p.189-213.
- 杉山真二(2001)テフラと植物珪酸体分析,月刊地球,23,p.645-650.
- 鈴木貞雄(1996)タケ科植物の概説,日本タケ科植物園鑑,鑑海書林,p.8-27.
- 早田 勉(1991)浅間火山の生い立ち,佐久考古通信,no.53,p.2-7.
- 早田 勉(1996)関東地方~東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-,名古屋大学加速器質量分析計業績報告書,7,p.256-267.
- 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-,考古学と自然科学,9,p.15-29.
- 室井 紳(1960)竹笹の生態を中心とした分布,富士竹類植物園報告,5,p.103-121.

第52表 長谷津遺跡における植物珪酸体分析結果

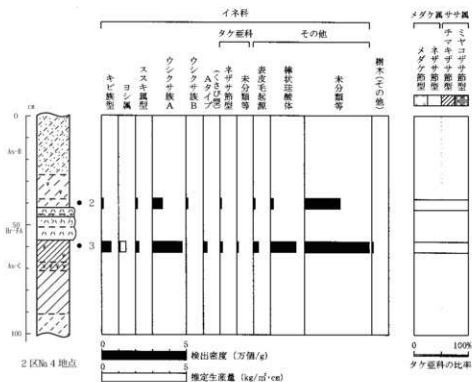
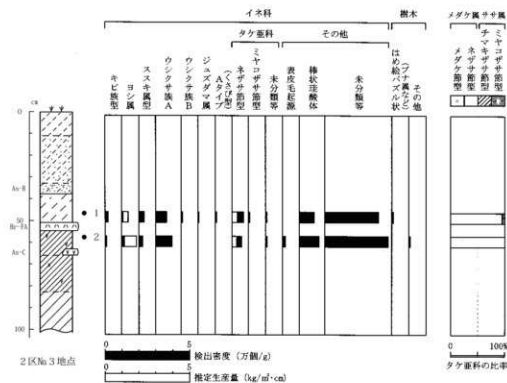
総出量 (単位: ×100個/g)		地点・試料		1区No.1地点		2区No.3地点		2区No.4地点		2区No.5地点		2区No.6
分類群	学名			1	2	1	2	3	9	9'	11	12
イネ科	Cerealiae											
キジコ型	Panicum type	7	29	17	7	7	33	7			7	
ヨシ属	Phragmites	14	6	31		7		22	7		14	
ススキ属型	Miscanthus type	7	43	23	14	7	13					
ウシクサ属A	Andropogoneae A type	35	144	82	93	38	174		65	28	29	30
ウシクサ属B	Andropogoneae B type		14	6		7						
ジュズダマ属	Cler		7	6								
Aタイプ(くさび型)	A type		7	6								
タケ類科	Bambusoideae											
ネギササ型	Phalodites sect. Neusa	21	85	66	57	7	13			7		
ヤマギササ型	Sasa sect. Sasa etc.								7	7	7	15
ミヤコザサ型	Sasa sect. Craspedi	14	7	6					86	141	121	144
未分類等	Others	14	14	6	7			7	43	35	29	45
その他のイネ科	Others											
表皮毛起源	Husk hair origin		7		14	7	27		14	13	29	15
棒状珪酸体	Rod-shaped	111	122	83	115	14	147		122	56	57	38
未分類等	Others	380	311	316	373	216	381		291	197	314	69
樹木起源	Arbores											
はめ絡バズル状(ブナ属など)	Isosaw puzzle shaped (Fagus etc.)		7	6								
多角形板状(コナク属など)	Polygonal plate shaped (Quercus etc.)		14									
その他	Others		7		7			7		7		
植物珪酸体総数	Total	388	309	610	704	319	849		567	507	658	348

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/af-cm) : 試料の収比を1.0と仮定して算出												
ヨシ属	Phragmites			0.91	0.30	0.91	0.42	1.36	0.51	0.90		
ススキ属型	Miscanthus type	0.59	0.54	0.28	0.18	0.99	0.17					
ネギササ型	Phalodites sect. Neusa	0.10	0.31	0.23	0.28	0.03	0.06					
ヤマギササ型	Sasa sect. Sasa etc.							0.95	0.05	0.46	0.11	
ミヤコザサ型	Sasa sect. Craspedi	0.31	0.02	0.02				0.26	0.42	0.36	0.53	

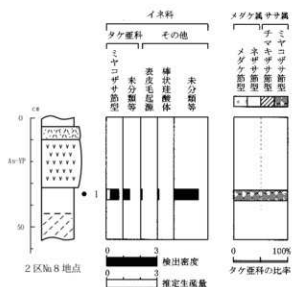
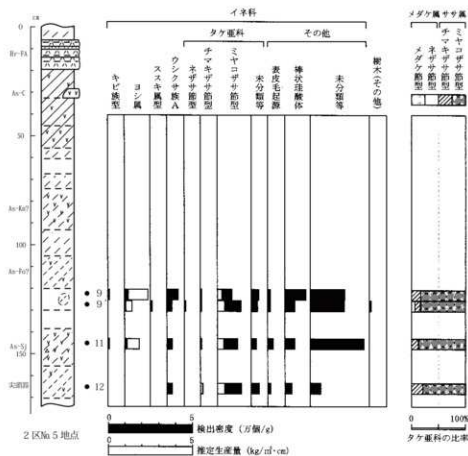
タケ類科の比率 (%)												
ネギササ型	Phalodites sect. Neusa	71	91	93	100	100	100			7		
ヤマギササ型	Sasa sect. Sasa etc.								17	10	13	21
ミヤコザサ型	Sasa sect. Craspedi	29	6	3					83	83	87	79



第100図 1区 No.1地点における植物珪酸体分析結果



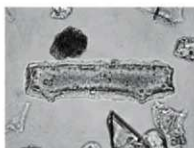
第101図 2区 No. 3、4地点における植物珪酸体分析結果



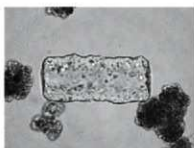
第102図 2区 No.5、8地点における植物珪酸体分析結果



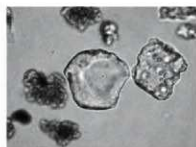
キビ族型



キビ族型



キビ族型



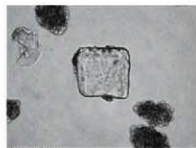
ジュズダマ属



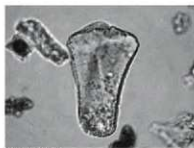
ヨシ属



ススキ属型



ウシクサ族A



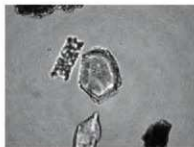
ウシクサ族B



イネ科Aタイプ



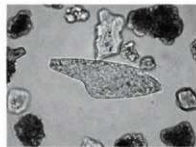
ネザサ節型



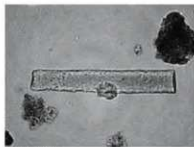
ミヤコザサ節型



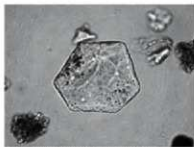
ミヤコザサ節型



表皮毛起源



棒状珪酸体



多角形板状(ブナ科コナラ属など)

50 μm

第5章 調査の成果とまとめ

第1節 古墳時代の遺構

遺跡が立地する榛名山南東麓周辺は県内でも有数な古墳集中地域である。昭和10年に発刊された「上毛古墳総覧」には榛東村内(桃井村、相馬村)には175基の古墳が、隣接する吉岡町(明治村、駒寄村)には474基の古墳が記載されている。しかし、このような古墳の数とは対照的に古墳時代の遺構は非常に希薄であり、榛東村に至ってはこの時代の遺構の検出例は報告されていなかった。

今回の調査から榛名二ツ岳火山灰(以下Hr-FA)で埋没した畠と6世紀後半の竪穴住居1軒、同時期に位置づけられる竪穴状遺構1棟、土坑3基が検出された。畠は上面からの削平により区画や畝高などは不明瞭であるが、サク状の掘り込み部分はHr-FAの一次堆積層によって埋没している。この畠の発見は少なくとも6世紀初頭時点にはこの地で農業生産活動が行われていたことを窺い知る事のできる貴重なものであると同時に、この時期の集落の存在の可能性を示唆することのできる発見である。この時期の畠は隣接する吉岡町の平石遺跡群(No.7)や大久保A遺跡(No.2)、長久保大畑Ⅱ遺跡(No.8)などから検出されている。竪穴住居、竪穴状遺構、土坑などの遺構はHr-FA面を掘り込んで構築しており、畠より新しい遺構である。このうち明確な時期が判断できるものは2号竪穴住居で、住居内からは古墳時代後半のほぼ完形の土師器杯2個体と甕口縁部小片が出土した。甕は西壁と東壁に2基付設されており、西甕は東甕付け替え前のものと考えられ、煙道部が残存していただけで、袖部や燃焼部の痕跡は見られなかった。竪穴状遺構は埋没土などから竪穴住居と同時期のものと考えられるが、遺物は検出されなかった。これら遺構や遺物の分布状況から見ると、周辺に濃密な竪穴住居群が存在する可能性は考えにくい。

しかし、今回の長谷津遺跡から検出された古墳時代の遺構だけでは、これまで不明であった居住域を推測せしめるにはまだ不十分なものである。このような調査結果を踏まえて、空白と言われてきた榛東村周辺の古墳時代の様相について隣接する吉岡町も含め考えてみたい。古墳以外の遺構は榛東村においては、今回の調査まで確認

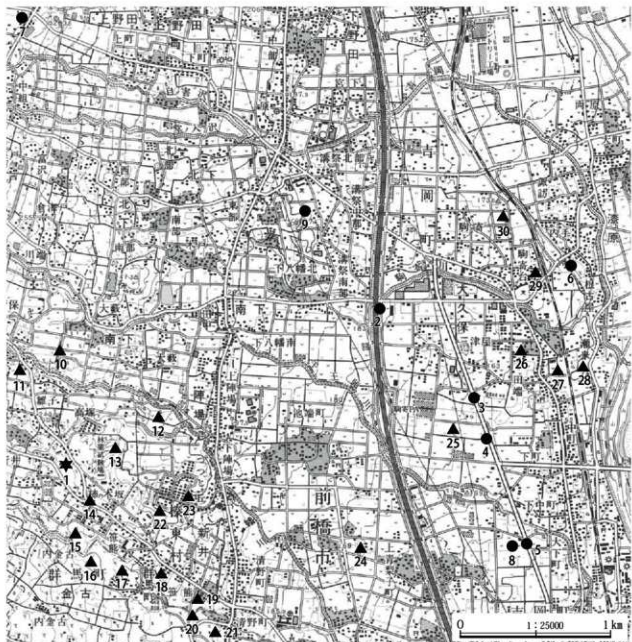
されておらず、今回見つかった遺構が初例であることはすでに前述した。しかし、周辺に集落群として展開する様相は見られず、周辺古墳群の集落域が大きく展開する可能性は低いと考えられる。地域における発掘調査は多くなく、古墳時代の遺跡が今後の調査で発見される可能性は否めないが、現在までの調査や散布地などの情報、及び発掘調査資料から考えると、少なくとも本遺跡周辺から北西域においては古墳時代の大きな集落が存在する可能性は非常に低いと考えられる。その大きな理由として以下のことが考えられる。ひとつは「水」の不在である。扇状地上に立地する榛東村には大きな河川が存在せず、昔から「水を恋う村」とされてきた。現在では多くの貯水池や水路などが人工用水施設に依存していることからわかる。いくつかの谷に湧水点が存在し、縄文時代の生活には十分足りてきたが、弥生時代以降の生活基盤である水田経営のための供給源には不十分であったのだろう。もうひとつは「自然災害」である。6世紀代に起きた2回の榛名山二ツ岳噴火を起因とする降灰や軽石、泥流などによる自然災害が大きく影響を及ぼしていると考えられる。このような環境下にあった本地域では、古墳時代の生産、生活の場として安定感を欠く地域として忌避されたのではないだろうか。

集落域、生産域、墓域の組み合わせからなるこの時代の集落の景観から三位一体となった遺構の存在を期待するが、榛東村や吉岡町では多くの古墳が群在する墓域のみが目立つ特異な地域である。高塚古墳をはじめ、長久保古墳群内の2基の前方後円墳から推測される突出した有力者層の存在に関わらず、地域経営を支えた在地集団の集落域や生産基盤となる水田等は多くは確認されていない。ただし、わずかだが吉岡町の南東部、前橋市境周辺の大久保A遺跡(No.2)、熊野遺跡(No.3)、金竹西遺跡(No.4)遺跡(No.5)、上ノ原Ⅰ・Ⅱ遺跡(No.6)、などから集落が検出されている。このうち長久保大畑遺跡の竪穴住居(4~5世紀代)以外は、6~7世紀代のものであり、榛名山南東麓に存在する古墳群と同時期のものである。また、大久保A遺跡からはFA下の水田も見つかった

ている。これらの遺跡南方には総社古墳群が存在し、
 西北には保渡田古墳群がある。これら周辺の墓域から考
 えると、吉岡町の南東部周辺で検出された集落周辺には、
 高塚古墳等の有力な豪族の居館を含め、樺東村や吉岡町
 の古墳群に關係の深い集落域が隠在する可能性が高いと
 考えられる。第104図に示したように、吉岡川、駒寄川、
 午王頭川、八幡川が流下する扇状地端部の地域を取りま
 くような遺構の分布状況から、この地域低地部を水田耕

地とした集落がいずれかの微高地上に立地していたもの
 と想定しておきたい。

今回、本遺跡から検出された古墳時代の遺構は、樺東
 村をはじめとする樺名山麓域における空白な古墳時代の
 様相を解明する上でひとつの手がかりになれば幸いで
 あり、今後の樺東村を含む樺名山東南麓域における発掘調査
 成果とあわせて再検討される機会に期待したい。



1.長谷津遺跡(6世紀末) 2.大久保A遺跡(7世紀) 3.熊野遺跡(7世紀前) 4.金竹西遺跡(7世紀) 5.長久保大畑遺跡(5世紀) 6.上ノ原遺跡(6世紀中～) 7.平石遺跡群 8.長久保大畑田遺跡 9.南下古墳群 10.庚申塚古墳 11.今井古墳群 12.鎌子古墳群 13.高塚古墳 14.柿ノ木坂古墳 15.樺東村31号墳 16.立畦古墳群 17.内金古墳 18.稲荷山古墳 19.観音山古墳 20.判塚古墳群 21.金古内林古墳群 22.北原古墳群 23.長久保古墳群 24.総社古墳群 25.源平古墳 26.三津屋古墳 27.久保田古墳 28.川原田古墳 29.茶ノ木古墳 30.長坂古墳
 ※1～6は古墳時代集落 8は古墳時代の墓が見つかっている遺跡 9～30は本遺跡周辺の主な古墳、古墳群

第104図 遺跡周辺の古墳時代遺跡と古墳位置図(国土地理院1:25,000「伊香保」平成14年9月1日発行使用
 「渋川」平成14年10月1日発行使用「下室田」平成14年5月1日発行使用「前鏡」平成22年12月1日発行使用)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

現在まで確認されている棟東村の縄文時代の遺跡を見てみると、大きく2箇所に集中していることが分かる。一つは村域の西部、標高300m～400mの場所に分布する。ここには国指定史跡にもなっている後・晩期を中心とした集落である茅野遺跡や中期から後期の土器が出土している台・小林沢遺跡、遺物の散布地である平塚遺跡などがある。

もう一つは本遺跡が所在する標高250m前後の台地上である。ここには加曾利E3式期を中心とした集落遺跡である十二前遺跡や、後晩期の集落・墓域などが見つかっている下新井遺跡がある。このように棟東村域の縄文遺跡は中期から後晩期にかけて形成、存続してきた様相が窺える。棟東村史によれば茅野遺跡周辺の地域にはいくつかの湧水点があり、山麓湧水による豊富な水があったとされ、茅野遺跡の調査からも当時の水場が見つかっている。また、本遺跡周辺においてもかつては「ヨシ」などの生息した湿地や池などが存在していたとされている。大きな河川を持たない棟東村における縄文集落の形成はこのような湧水点周辺を中心に発展したと考えられる。

本遺跡からは縄文時代加曾利E3式期から称名寺式期段階の竪穴住居3軒と、単独の埋設土器3基（加曾利E3式を埋設したもの2基、堀之内2式を埋設したもの1基）、掘立柱建物1棟及び土坑81基が検出されている。これらの遺構は4区の竪穴住居を中心としたその周辺に広がる様相を呈している。各遺構からは加曾利E3・E4式、称名寺式、堀之内2式などの土器が出土しており、縄文中期後半から後期前半を中心に形成されていた集落址であると位置づけられる。

次に本遺跡で検出された陥穴と包含層出土遺物について記述する。

遺跡からは7基の陥穴が検出されている。そのうちの2基（58号、94号土坑）から逆茂木痕と見られるピット周辺や内部から小礫が数点出土している。投棄されたものと考えがちだが、どちらもピットの上面部や内部から検出されており、人為的なものと考えてみたい。58号土坑底部からは直径約20cm、深さ約15cmほどのピットが1基検出されている。礫はそのピット長軸に直交し、ピットを塞ぐように出土している。また内部からもピット

ト壁面に沿って立てた状態で出土している。94号土坑からは58号同様に底部からピットが1基検出されている。

礫は10～15cmほどのものが6、7点ピット上面や内部から出土している。58号土坑のものとは異なり多くの礫が出土している。当初埋没過程で流入したものと思われたが、どれもピット縁辺や内部から出土しており、偶然ではなく出土状態から底部施設に関連する可能性が高いことが考えられる。陥穴はこれまでに県内をはじめ多くの発掘事例が報告されている。構築年代も縄文時代だけでなく古代や近世の事例も増加している。しかし、出土遺物が少ないことから時期が不明な例も多い。また、構築形態や逆茂木などの底部施設においてもいくつかの分類が行われている。しかし、本遺跡と同様なピット上面や内部などに礫が検出された陥穴についての報告例は、群馬県内では沼田市教育委員会が調査報告している「下宿浦遺跡」だけである。報告書では礫の性格については触れていないが、出土状態から底部施設に関係する可能性が高いものと思われる。これらの礫の性格を考えると、底面に杭を立垂させるための補強材と考えるのが妥当であろう。本遺跡は残丘上に立地しており調査段階から下面の泥流層が表面隆起している部分もある。このため杭を硬い泥流層に打ち込んだ場合に不安定になるのを補強した可能性を考えたい。94号土坑の底部下面層は泥流層になっており、ピット底部には小礫が混入する。現段階では陥穴構築地点の土層との関連による特徴の一つとして考え、今後の周辺の陥穴調査例を注目しておきたい。

包含層であるⅦ層からⅧc層中にかけて、約12,000点以上（2区3,257点、3区463点、4区8,284点、5区22点）の遺物が出土している。包含層から出土した土器の多くは中期段階のものであり、遺跡出土土器の80%以上を占める。特に4区の竪穴住居や土坑等の周辺に多くの土器が出土している傾向は顕著である。2区の出土状況を見ると、堀之内2式土器が多く、4区の同期出土量の約4倍の量が出土している（第105図）。これらの土器は調査区の西側に集中して出土している傾向がある。調査区全体を見て西側に集中して出土している。遺跡西側には同じ台地上に展開する加曾利E3式期の集落が確認された十二前遺跡があり、調査範囲や住居出土状況から考えると更に多くの住居が展開する様相を呈し

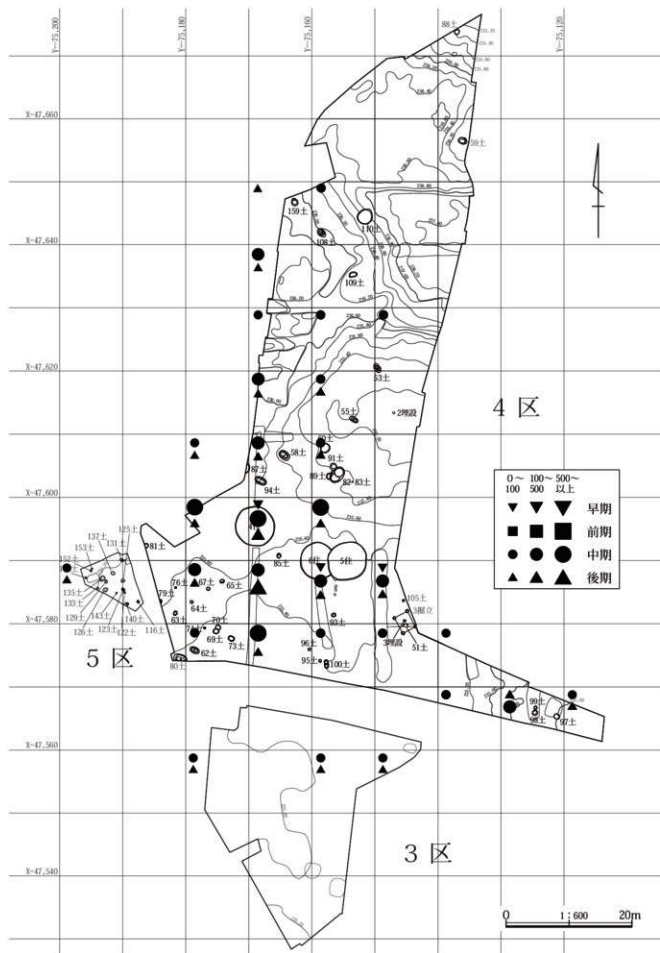
ている。また、十二前遺跡北側には後晩期の集落や墓域が検出された下新井遺跡がある。少なくともこの台地上の東南端に位置する本遺跡と西側に立地する2つの遺跡の範囲内には縄文中期から後晩期にかけての縄文遺跡群が連続して存在することが想定される。また、土器だけで見れば出土数は少ないが埴型土器や前期の土器も認められ、中期以前の遺跡が存在する可能性もある。

石器・石製品は、遺構埋没土から石器46点・剥片類32点が、包含層から石器201点・剥片類252点が出土している。同時期・同規模の集落遺跡から出土する石器類に比べ、製品類に対する剥片類の出土量が少ないことが本遺跡の特徴のひとつである。これは遺跡内の石器製作が低調であったということであるが、そこにはその必然的な理由があるはずである。その理由については個別遺跡毎に検討されなければならないが、生業・居住期間等を反映しているというのが一般的な理解であり、妥当な解釈である。出土石器は、打製石斧をはじめとする剥片系石器7種、礫石器類8種があり、石匙など通常なら組成する器種を欠いているが、土器片類の大部分が中期後半期のものであり、概ね、これに伴う石器とすることができよう。主な石器には打製石斧・石鎌・削器・磨石類・石皿・多孔石などがあり、ここでは製作・使用状況を踏まえた概要を記述する。

剥片系石器では、打製石斧の出土量が多い。形態別に見ると、短冊型62点・分銅型17点・形態不明7点で、黒色頁岩(39点)・細粒輝石安山岩(20点)・灰色安山岩(15点)ばかりを用いる。短冊型とした打製石斧の破損率(刃部破片15点・胴部破片5点・頭部破片12点・上半部欠損4点・上半部欠損2点)が高く、摩耗痕や捲縛痕が35点確認されている。未製品と見られるものは2点のみであり、刃部破片にも摩耗痕があることから集落内で再生・使用されたものが大部分であることが分かる。分銅型のそれも明らかな未製品は1点で、細粒輝石安山岩や灰色安山岩製の剥片類の占める割合(出土剥片類の5.2%)は低い。石材構成および剥片の出土量、破損率・摩耗痕等の出現率を考えると、遺跡内で石斧類を製作したとは考え難い状況にある。石材採取地で石斧の概形を作出、遺跡内では最終加工や補修(メンテナンス)等がおこなわれたと考えるのが妥当である。狩猟具としての石鎌は15点が出土、石斧・石鎌の出土量としては平

均的である。黒曜石製7点・チャート製3点とガラス質の石材を多用する。未製品は15点中2点に過ぎず、大部分は完成状態にあった。黒曜石を例に採れば、破片類が少なく、現象的には遺跡内製作した証左は得られていないが、中期段階では、拠点集落毎に黒曜石原石を入手していることが確認されており、本遺跡のような小規模な遺跡でも狩猟具については集落で自ら製作していたものとすべきである。その他、生業関連の石器に削器類がある。削器類は切截具として遺跡内で製作、使用されることの多い器種で、必要に応じて作られる便宜的石器とされている。こうした理解が妥当なら、削器類の多少は集落における諸活動(食料加工・道具の製作・補修など)の指標のひとつになる。46点が出土した加工痕ある剥片には、削器類の製作を志向したものもあるが、これを加えてなお削器の出土量は少なく、住居軒数や居住期間に削器類(加工具類)が連動するという予測は、蓋然性の高い予測と言えるだろう。

礫石器では磨石・石皿類の出土量が少なく、多孔石の出土量が多い。このうち、多孔石には粗粒輝石安山岩製の亜角礫が多用され、河床礫を用いるものは1点だけである。孔は角柱状を呈するものは平坦面に、礫中央に稜を有するものは礫稜部に穿たれていた。また、多孔石は廃棄物としての住居出土例が多く、注目しておきたい。通常、多孔石は呪術具として理解されるものであるが、これが本遺跡のような小規模集落にも量的に安定して存在するという意味を考える必要がある。県内縄文遺跡は、中期後半期に至り従来型の伝統集落である環状集落が衰退、これと歩調を併せるように敷石住居跡や環状配石が出現、社会再編期にあたとされている。その再編理由のひとつに気候変動(=食料資源の悪化)があったことが指摘されているが、この気候変動に伴う縄文人の文化的対応の詳細について、実態が明らかにはされていない。本遺跡住居が構築された加曾利E3式期は、厳密に言えば、上記再編期の前段ということになるだろうが、環状集落そのものの変質を詳細に明らかにしたうえで、両者の関係を問う必要がある。本遺跡は集落としては小規模であること、居住期間が短く、削器類の出土量もこれを支持すること、時期的にも変動期であるがゆえに呪術具(多孔石)が発達しただろうと考えた。今後、これらのことを踏まえ周辺遺跡の分析を進めていきたい。



第106図 3・4区遺構外遺物分布図

第5章 調査の成果とまとめ

第53表 2区縄文土器グリッド出土一覧表

	早期	諸磯b	諸磯c	勝坂	加曾利E1	加曾利E3	加曾利E4	中期末葉	称名寺	堀之内1	堀之内2	加曾利B	後期前葉	合計
360-170								2						2
360-200					2									4
375-180								5						5
380-200	1							3						4
380-205							1	2						3
380-200							2	1						3
390-180		1			1		2	15	6				2	27
390-190		3					6	6	7				4	26
390-200		4						4	1					9
400-170								4						4
400-180		7			1	6	4	13	1	1			2	35
400-190		2						8	2			1		13
400-200						1		1						2
410-180			14		1	5	9	54			2			85
410-190		4			2	6	10	26		1	6			55
410-200						3	1	19		1	10		1	35
410-170						1		3			1			5
420-170							2	2						4
420-180					2	24	22			1	4		2	55
420-190		1					3	22			3		1	30
420-200					2	1	5				3			11
430-160					1	3	8							12
430-170					1	5	8	1	1	6			2	24
430-180		1			6	12	42			6			1	68
430-190						3	7			2	27		15	54
440-160					7	1			1		31			40
440-170					5	8	62	16			44		1	136
440-180						17	43	99			10		1	170
440-190					2	3	8	130		1	15		2	161
450-160					8	11	64	6			5		3	97
450-170					3	2	74	5			38		1	123
450-180		2			16	11	47	2		24		1		103
450-190		1			1	3	8	17	1		8			39
460-160						5		12			3		1	21
460-170					10	6	32			1	7		1	57
460-180			1	1	16	5	67				72	1	5	168
460-190			1		12	11	48	2	3	36			1	114
470-160		1			7	3	11			1	12			35
470-170					10	9	26				9		2	56
470-180		1	1		13	20	43				9		3	90
470-190					1	1	2				1			5
480-160					2	1	4							7
480-170					9	4	25				1			39
480-180					13	14	49	1			10		4	91
480-190					4		12							16
490-170					8	9	24	1	1	10				53
490-180		1			24	12	61	1		3			2	104
495-160					4	3	3							10
500-170					20	25	98	1		4				148
500-180					55	42	212	3	1	2	1			316
510-170					1	6	11	58	1		1			78
510-180					13	11	34							58
510-190							1							1
520-170					8	5	32	1		1				47
520-180					15	13	139	4		5				176
520-160							1						1	2
530-180					6	8	81	2		4				101
合計	1	29	17	1	11	361	398	1863	66	15	433	4	58	3257

第54表 3区縄文土器グリッド出土一覧表

	加曾利E3	加曾利E4	中期末葉	称名寺	堀之内1	堀之内2	後期前葉	合計
530-170			10	2				12
530-140		1						1
540-170	9	28	244	13	2	2	17	315
550-150	1	6	32	3		4		46
550-160			6					6
550-170			10	2				12
550-140	5	9	44	7				65
550-160			4					4
560-155			2					2
合計	15	44	352	27	2	6	17	463

第55表 4区縄文土器グリッド出土一覧表

	押型文	認識c	曾利	阿玉台	加曾利E1	加曾利E3	加曾利E4	中期末葉	称名寺	堀之内1	堀之内2	加曾利B	後期前葉	合計
560-110			1			44	6	42		1				94
560-120			2			83	22	306	1				3	417
560-130								1						1
570-130						1	1	2						4
570-140						1	3	2						6
570-160						48	54	401	39	1	9		12	564
570-170						20	10		7	1			22	60
580-140						30	18	85	7		19		5	164
580-150	1				2	50	51	645	65	1	2		15	832
580-160			2	1		117	79	716	97	3	26		27	1068
580-170						11	6	90	7					114
580-180						2		3	1					6
590-140						2	4	36	1					43
590-150			1		2	99	85	726	38	1	2		24	978
590-160	5	1	1			182	212	1530	165	4	34	1	127	2262
590-170					3	34	60	646	73		5		7	828
595-155							10	71						81
600-150						10	8	38	3	1			4	64
600-160						13	39	252	16		1		4	325
610-160						16	19	152	12		9		8	216
615-155								2					1	3
620-140						1	1	4						6
620-150						3	1	23						27
620-160						1	2	1						4
625-175						1								1
630-160						30	2	75					2	109
640-150							5		1				1	7
	6	1	7	1	7	799	698	5849	533	13	107	1	262	8284

第56表 5区縄文土器グリッド出土一覧表

	加曾利E3	加曾利E4	中期末葉	称名寺	後期前葉	合計
580-190	7	4	1	7	3	22

第5章 調査の成果とまとめ

第57表 4号住居出土石器・石材一覧（4区）

	打製石斧	石鏃	石匙	削器	石核	加工皿	凹石	磨石	竈石	石皿	多孔石	石製品	計
黒頁	1					1							2
砂岩									1				1
黒安		1				1							2
黒曜石					1								1
灰安	1												1
黒安	1					1							2
黒安							2	1			6		9
虎斑玉									1				1
雲石片													
黒片					1								1
計	3	1			1	3	2	1	2		6		19

第58表 5号住居出土石器・石材一覧（4区）

	打製石斧	石鏃	石匙	削器	石核	加工皿	凹石	磨石	竈石	石皿	多孔石	石製品	計
黒頁													
砂岩													
黒安		2											2
黒曜石													
灰安											5		5
黒安													
黒安													
虎斑玉									1				1
雲石片												1	1
黒片									1				1
計		2							2		5	1	10

第59表 6号住居出土石器・石材一覧（4区）

	打製石斧	石鏃	石匙	削器	石核	加工皿	凹石	磨石	竈石	石皿	多孔石	石製品	計
黒頁													
砂岩													
黒安													
黒曜石													
灰安													
黒安													
黒安										2	2		4
虎斑玉													
雲石片													
黒片										2	2		4
計										2	2		4

第60表 69号土坑出土石器・石材一覧（4区）

器種\石材	打斧	石鏃	石核	加工皿	計
珪頁	1				1
黒安					
黒曜石		1			1
チャート					
灰安					
黒安					
計	1	1			2

第64表 97号土坑出土石器・石材一覧（4区）

器種\石材	打斧	石鏃	石核	加工皿	計
珪頁					
黒安		1		1	2
黒曜石		1			1
チャート		1			1
灰安					
黒安					
計		3		1	4

第61表 73号土坑出土石器・石材一覧（4区）

器種\石材	打斧	石鏃	石核	加工皿	計
珪頁					
黒安					
黒曜石		1	1		2
チャート					
灰安	1				1
黒安	1				1
計	2	1	1		4

第65表 遺構別剥片出土量

区	遺構名	石材	点数	重量 (g)
4	4号住居	黒色頁岩	4	25.5
		硬良泥岩	1	19.3
		黒色安山岩	1	1.4
		黒曜石	1	0.7
		細粒輝石安山岩	4	150.1
		黒色頁岩	6	62.9
	5号住居	珪頁頁岩	1	26.2
		黒色安山岩	1	6.0
		黒曜石	2	1.3
		細粒輝石安山岩	1	19.9
	6号住居	黒色安山岩	1	4.3
	69号土坑	黒色頁岩	2	9.3
	73号土坑	砂岩	1	4.7
	81号土坑	黒色頁岩	1	2.4
82号土坑	黒色頁岩	1	12.9	
90号土坑	黒色安山岩	1	3.1	
	黒色頁岩	2	8.6	
	110号土坑	チャート	1	2.2
総計			32	360.8

第62表 81号土坑出土石器・石材一覧（4区）

器種\石材	打斧	石鏃	石核	加工皿	計
珪頁					
黒安					
黒曜石			1		1
チャート					
灰安					
黒安					
計			1		1

第63表 82・83号土坑出土石器・石材一覧（4区）

器種\石材	打斧	石鏃	石核	加工皿	計
珪頁					
黒安					
黒曜石					
チャート					
灰安					
黒安	1				1
計	1				1

第66表 包含層出土石器・石材一覧（3区）

	打斧	磨斧	石槌	石鏃	石鏃	削器	石核	加工痕	凹石	磨石	敲石	石皿	多孔石	磨石	石棒	砥石	総計
黒色頁岩	39			2	1	6	3	30									81
珪質頁岩								2									2
砂岩	1										1						2
凝灰質砂岩																2	2
黒色安山岩				3		1	1	3									8
黒曜石				7			1	2									10
玉髓							1										1
チャート			1	3													4
ホルンフェルス	2							1								1	4
灰色安山岩	15					1		2									18
細粒石安山岩	20					1		5									27
粗粒輝石安山岩									2	3		1	20	1	1		28
ひん岩										1							1
変玄武岩		1															1
変質玄武岩	1	1								2							4
変質蛇文岩		1															1
珪質変質岩						1	1	1									3
変質斑		1															1
雲母石英片岩																1	1
	78	4	1	15	1	10	7	46	2	4	4	1	20	1	2	5	201

第67表 包含層出土剥片一覧

区	遺構名	石材	重量 (g)	点数		
1区	包含層	黒色頁岩	113.6	3		
2区	包含層	赤碧玉	1.1	1		
		角閃石安山岩	14.3	1		
		珪質頁岩	16.1	2		
		黒色頁岩	1358.5	73		
		粗粒輝石安山岩	110.9	6		
		灰色安山岩	95.3	5		
		変質玄武岩	29.9	1		
		ホルンフェルス	40.7	1		
3区	包含層	頁岩	9.2	1		
		黒色安山岩	17.5	1		
		黒色安山岩	31.3	1		
		4区	包含層	黒色安山岩	33.1	1
				珪質頁岩	68.0	6
				黒色頁岩	1725.5	108
				黒色安山岩	188.9	15
				黒曜石	11.2	10
				粗粒輝石安山岩	137.5	6
				チャート	5.0	2
灰色安山岩	81.1			2		
変質安山岩	55.7			2		
ホルンフェルス	8.5			1		
5区	包含層	黒色頁岩	22.9	1		
		黒色安山岩	11.5	1		
総計			4187.3	252		

参考文献

- ・「榛東村誌」1988
- ・「上毛古墳総覧」1938
- ・「榛東村古墳台帳」1980
- ・「十二前遺跡」榛東村教育委員会1999
- ・「下新井遺跡」榛東村教育委員会1985
- ・「史跡 茅野遺跡」榛東村教育委員会2005
- ・「霧ヶ丘 霧ヶ丘遺跡調査団1973
- ・「吉岡町の遺跡」榛東村教育委員会1993
- ・「下宿浦遺跡」沼田市教育委員会1996
- ・「平石遺跡群」吉岡町教育委員会 1988
- ・「長久保大畑Ⅱ遺跡」吉岡町教育委員会2003
- ・「大久保A遺跡」吉岡町教育委員会1986
- ・「熊野・辺玉遺跡」吉岡町教育委員会1995
- ・「金竹西遺跡」吉岡町教育委員会1994
- ・「上ノ原Ⅰ・Ⅱ遺跡」吉岡町教育委員会2011

写真図版



4区 2面全景 (南から)



2区 2面全景 (東から)



2区 2面全景 (南から)



3・4区2面全景 (北から)



5区 2面全景 (西から)



4区 4号住居遺物出土状況（南から）



4区 4号住居全景（南から）



4区 4号住居セクションB-B'（南から）



4区 4号住居遺物出土状況（北西から）



4区 4号住居遺物出土状況（南西から）



4区 4号住居炉全景 (北東から)



4区 4号住居炉セクションA-A' (東から)



4区 4号住居炉掘り方セクションA-A' (東から)



4区 4号住居掘り方全景 (南から)



4区 5・6号住居遺物出土状況全景 (南から)



4区 5・6号住居全景（南から）



4区 6号住居全景（南から）



4区 6号住居遺物出土近接



4区 6号住居炉全景（南東から）



4区 6号住居炉セクションA-A'（南西から）



4区 6号住居掘り方全景 (南から)



4区 6号住居掘り方全景 (南から)



4区 5号住居セクションA-A' (南東から)



4区 5号住居セクションB-B' (東から)



4区 5号住居全景 (南から)



4区 5号住居遺物出土近接



4区 5号住居炉全景 (南から)



4区 5号住居炉セクションA-A' (南から)



4区 5・6号住居掘り方全景 (南から)



4区 5号住居掘り方全景 (東から)



2区 1号埋設土器全景 (南西から)



2区 1号埋設土器出土状況近接



4区 2号埋設土器全景 (南から)



4区 2号埋設土器セクション (南西から)



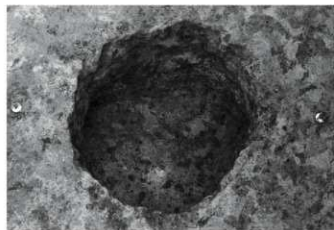
4区 3号埋設土器出土状況 (南東から)



4区 3号埋設土器セクション (東から)



4区 3号掘立柱建物全景 (南西から)



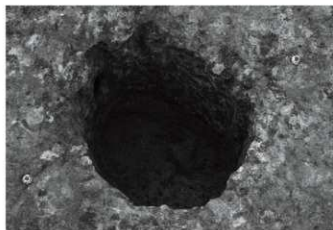
1号ピット全景 (南から)



1号ピットセクション (南東から)



2号ピットセクション (西から)



3号ピット全景 (南西から)



3号ピットセクション (南から)



4号ピット全景 (南西から)



4号ピットセクション (南西から)



4区 60号土坑全景 (南から)



4区 60号土坑セクション (南から)



4区 63号土坑全景 (南西から)



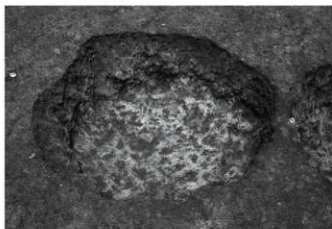
4区 63号土坑セクション (南西から)



4区69、70号土坑遺物出土状況 (南東から)



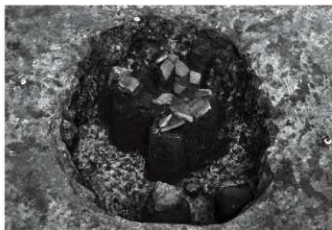
4区 69、70号土坑セクション (南東から)



4区 72号土坑全景 (南西から)



4区 72号土坑セクション (南から)



4区 73号土坑遺物出土遺物 (南から)



4区 73号土坑セクション (南東から)



4区 81号土坑全景 (東から)



4区 81号土坑セクション (東から)



4区 91号土坑全景 (南から)



4区 91号土坑セクション (南から)



4区 159号土坑全景 (北から)



4区 159号土坑セクション (北から)



4区 59号土坑全景 (東から)



4区 59号土坑セクション (東から)



4区 82・83号土坑遺物出土状況 (南東から)



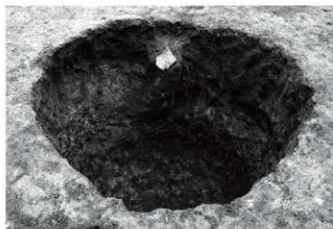
4区 82・83号土坑セクション (南東から)



4区 97号土坑全景 (東から)



4区 97号土坑セクション (東から)



4区 98号土坑全景 (北から)



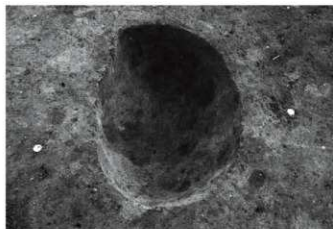
4区 98号土坑セクション (南から)



4区 108号土坑全景 (北西から)



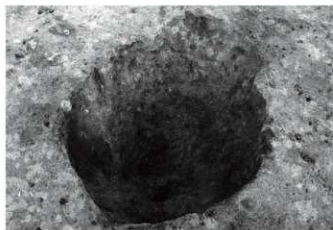
4区 110号土坑全景 (西から)



1区 2号土坑全景 (西から)



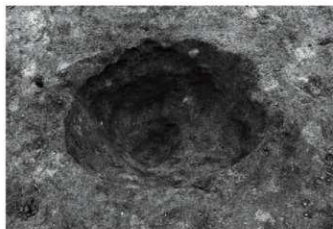
1区 2号土坑セクション (西から)



2区 6号土坑全景 (南から)



2区 6号土坑セクション (南西から)



2区 11号土坑全景 (西から)



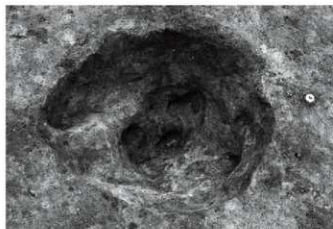
2区 11号土坑セクション (東から)



2区 12号土坑全景 (北東から)



2区 12号土坑セクション (東から)



2区 13号土坑全景 (西から)



2区 13号土坑セクション (東から)



2区 14号土坑全景 (西から)



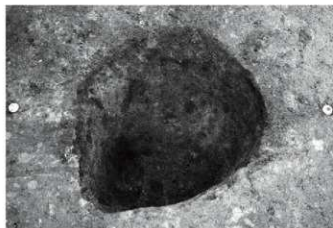
2区 14号土坑セクション (西から)



2区 15号土坑全景 (西から)



2区 15号土坑セクション (西から)



2区 16号土坑全景 (南から)



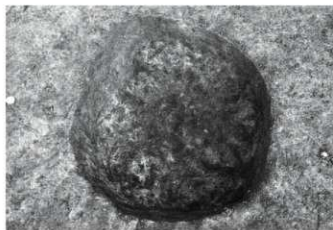
2区 16号土坑セクション (南から)



2区 17号土坑全景 (東から)



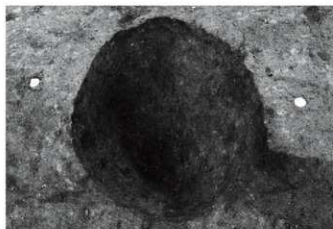
2区 17号土坑セクション (東から)



2区 24号土坑全景 (南から)



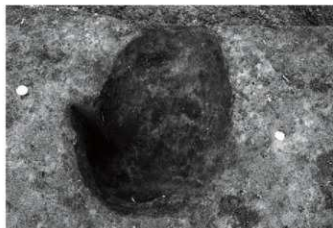
2区 24号土坑セクション (南から)



2区 26号土坑全景 (南から)



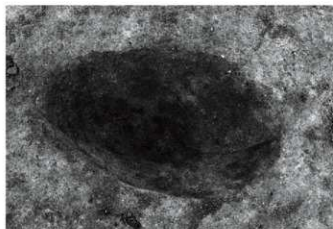
2区 26号土坑セクション (南から)



2区 27号土坑全景 (南から)



2区 27号土坑セクション (南から)



2区 28号土坑全景 (南から)



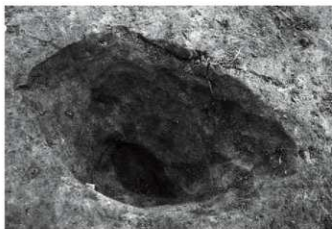
2区 28号土坑セクション (南から)



2区 29号土坑全景 (南東から)



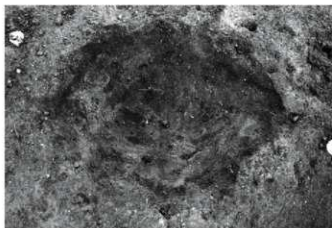
2区 29号土坑セクション (東から)



2区 30号土坑全景 (南西から)



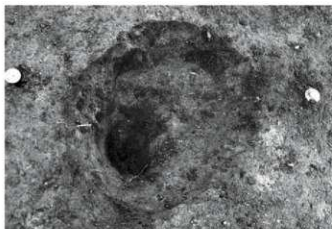
2区 30号土坑セクション (西から)



2区 32号土坑全景 (南から)



2区 32号土坑セクション (南西から)



2区 34号土坑全景 (南から)



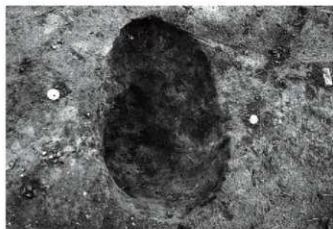
2区 34号土坑セクション (南から)



2区 35号土坑全景 (南から)



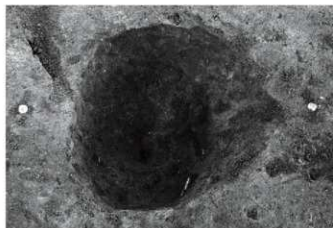
2区 35号土坑セクション (南から)



2区 36号土坑全景 (南から)



2区 36号土坑セクション (南から)



2区 37号土坑全景 (南から)



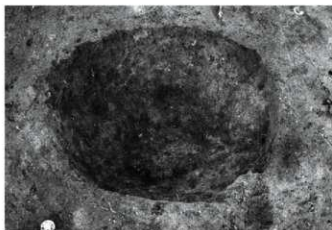
2区 37号土坑セクション (南から)



2区 39号土坑全景 (南から)



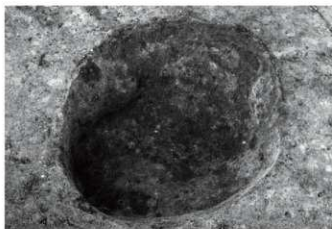
2区 39号土坑セクション (南から)



2区 40号土坑全景 (南から)



2区 40号土坑セクション (南東から)



2区 42号土坑全景 (南東から)



2区 42号土坑セクション (南から)



2区 43号土坑全景 (南から)



2区 43号土坑セクション (南から)



2区 44号土坑全景 (南から)



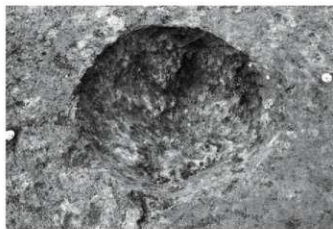
2区 44号土坑セクション (南から)



2区 47号土坑全景 (南東から)



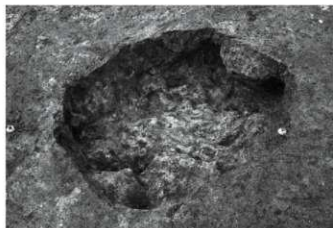
2区 47号土坑セクション (南東から)



4区 64号土坑全景 (南から)



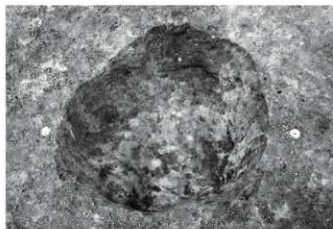
4区 64号土坑セクション (東から)



4区 65号土坑全景 (南から)



4区 65号土坑セクション (南から)



4区 67号土坑全景 (南西から)



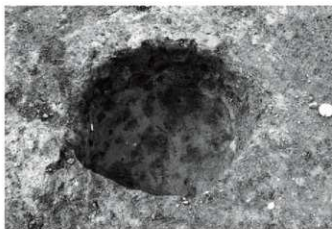
4区 67号土坑セクション (南西から)



4区 74号土坑全景 (南から)



4区 74号土坑セクション (南から)



4区 76号土坑全景 (南から)



4区 76号土坑セクション (南から)



4区 79号土坑全景 (東から)



4区 79号土坑セクション (東から)



4区 85号土坑セクション (南から)



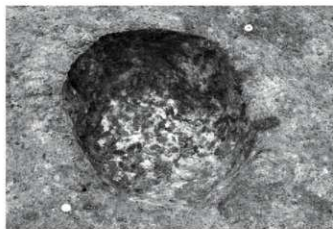
4区 87号土坑セクション (東から)



4区 88号土坑全景 (南東から)



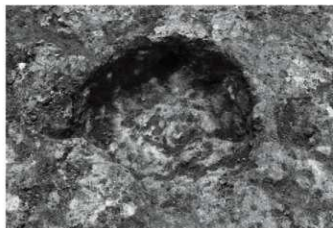
4区 88号土坑セクション (南東から)



4区 93号土坑全景 (南西から)



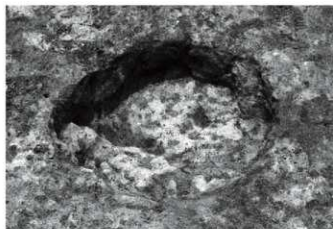
4区 93号土坑セクション (南から)



4区 95号土坑全景 (北から)



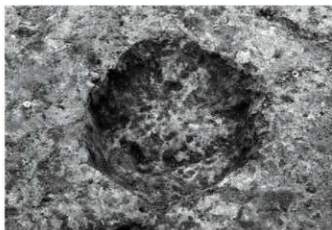
4区 95号土坑セクション (南から)



4区 96号土坑全景 (南東から)



4区 96号土坑セクション (南から)



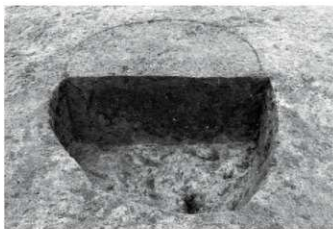
4区 99号土坑全景 (南から)



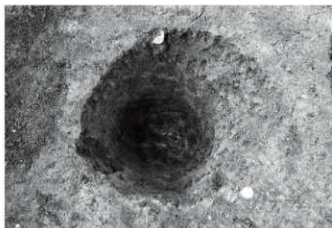
4区 99号土坑セクション (南から)



4区 109号土坑全景 (南西から)



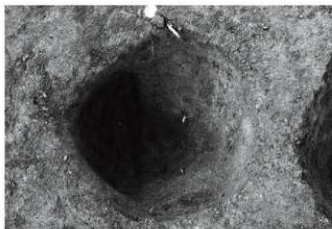
4区 109号土坑セクション (南西から)



5区 116号土坑全景 (南東から)



5区 116号土坑セクション (東から)



5区 122号土坑全景 (南東から)



5区 122号土坑セクション (南から)



5区 123号土坑全景 (南東から)



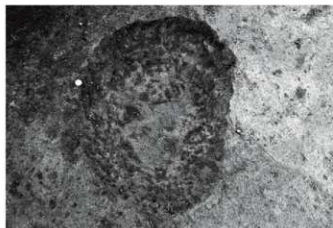
5区 123号土坑セクション (南から)



5区 125号土坑全景 (西から)



5区 125号土坑セクション (南から)



5区 126号土坑全景 (北東から)



5区 126号土坑セクション4 (北東から)



5区 129号土坑全景 (南から)



5区 129号土坑セクション (南から)



5区 131号土坑全景 (南東から)



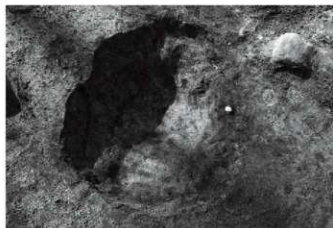
5区 131号土坑セクション (南東から)



5区 133号土坑全景 (東から)



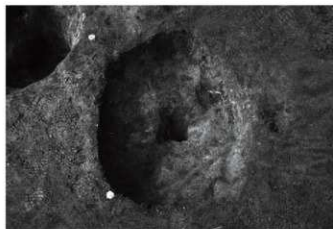
5区 133号土坑セクション (東から)



5区 135号土坑全景 (北東から)



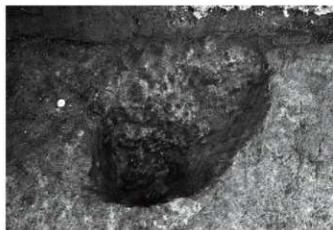
5区 135号土坑セクション(北から)



5区 137号土坑全景 (西から)



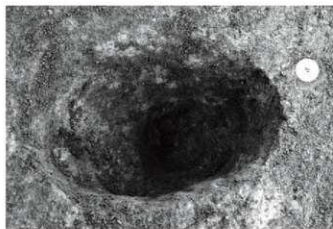
5区 137号土坑セクション (南から)



5区 140号土坑全景 (北東から)



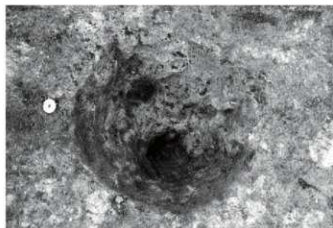
5区 140号土坑セクション (北東から)



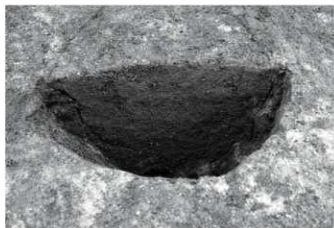
5区 143号土坑全景 (南東から)



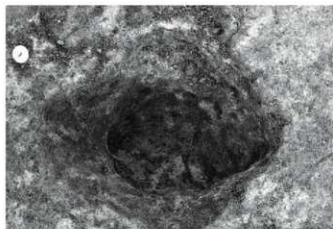
5区 143号土坑セクション (東から)



5区 151号土坑全景 (北東から)



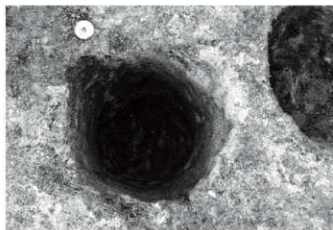
5区 151号土坑セクション (北東から)



5区 152号土坑全景 (東から)



5区 152号土坑セクション (南東から)



5区 153号土坑全景 (南東から)



5区 153号土坑セクション (南東から)



4区 53号土坑全景 (南東から)



4区 53号土坑セクション (南東から)



4区 55号土坑全景 (南東から)



4区 55号土坑セクション (南から)



4区 58号土坑全景 (南東から)



4区 58号土坑セクション (南東から)



4区 62号土坑全景 (北西から)



4区 62号土坑セクション (南東から)



4区 80号土坑全景 (西から)



4区 80号土坑セクション (北から)



4区 94号土坑全景 (東から)



4区 94号土坑セクション (東から)



4区 100号土坑全景 (南から)



4区 100号土坑セクション (南から)



2区 包含層遺物出土状況 (南から)



2区 包含層遺物出土状況 (西から)



2区 包含層遺物出土状況



2区 包含層遺物出土状況 (東から)



3区 包含層遺物出土状況 (西から)



3区 包含層遺物出土近接



4区 包含層礫出土近接



4区 包含層遺物出土近接



遺跡遠景（手前は高塚古墳）（東から）



3、4区 1面全景（南から）



2区 2号住居全景 (北東から)



2区 2号住居セクションA-A' (南東から)



2区 2号住居セクションB-B' (北東から)



2区 2号住居遺物出土近接



2区 2号住居西端全景 (北東から)



2区 2号住居西竈セクションA-A' (北東から)



2区 2号住居西竈セクションB-B' (南東から)



2区 2号住居西竈出土遺物近接



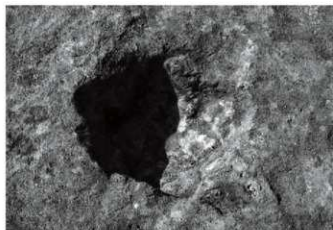
2区 2号住居掘り方全景 (北東から)



2区 2号住居西竈煙道部全景 (北東から)



2区 2号住居東竈煙道部セクションA-A' (南西から)



2区 2号住居1号ピット全景 (東から)



2区 2号住居4号ピット全景 (東から)



2区 3号住居全景 (西から)



2区 3号住居セクションA-A' (南から)



2区 3号住居セクションB-B' (西から)



2区 3号住居壙全景 (西から)



2区 3号住居壙セクションA-A' (西から)



2区 3号住居竈セクションB-B' (南から)



2区 3号住居炭化物出土状況 (南から)



2区 3号住居掘り方全景 (西から)



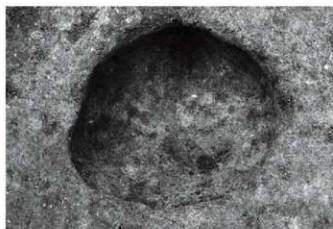
2区 3号住居掘り方セクションA-A' (西から)



2区 3号住居1号ピット全景 (西から)



2区 3号住居1号ピットセクション (西から)



2区 3号住居2号ピット全景 (西から)



2区 3号住居3号ピット全景 (西から)



2区 1号竪穴状遺構全景 (西から)



2区 1号竪穴状遺構セクションA-A' (西から)



2区 1号竪穴状遺構セクションB-B' (南から)



2区 1号ピット全景 (西から)



2区 1号ピットセクション (西から)



3.4区 1面畠全景 (北から)



3区 畠近接 (西から)



3区 畠セクション (北から)



4区 畠近接 (北から)



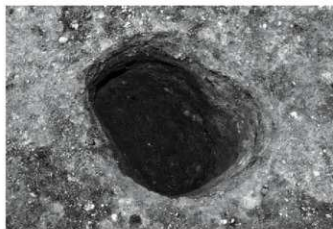
4区 畠セクション (北から)



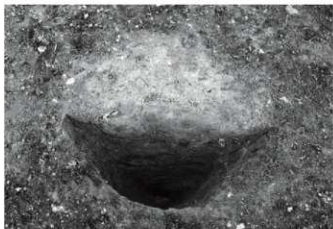
2区 8号土坑全景 (南から)



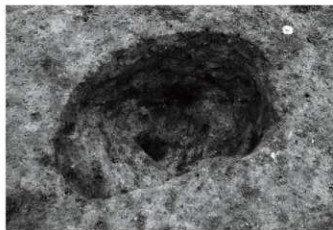
2区 8号土坑セクション (南から)



2区 10号土坑全景 (南から)



2区 10号土坑セクション (南から)



2区 18号土坑全景 (東から)



2区 18号土坑セクション (東から)



4区 1面遺構検出作業



2区 竪穴住居検出作業



4区 1号掘立柱建物全景 (南から)



2号ピットセクション (東から)



3号ピットセクション (東南から)



4号ピットセクション (南西から)



5号ピットセクション (南西から)



4区 2号獨立柱建物全景 (南西から)



1号ビットセクション (東から)



2号ビットセクション (東から)



4号ビットセクション (東から)



5号ビットセクション (東から)



6号ピットセクション (東から)



7号ピットセクション (東から)



8号ピットセクション (東から)



9号ピットセクション (東から)



5区 1号礎石建物全景 (南から)



1号礎石全景 (南から)



2号礎石全景 (南から)



2号礎石セクション (南から)



3号礎石下面全景 (東から)



3号礎石全景 (西から)



4号礎石全景 (南から)



5号礎石全景 (南から)



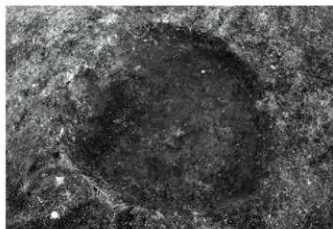
5号礎石セクション (南から)



5区 111号土坑遺物出土状況 (南から)



5区 111号土坑セクション (南から)



5区 112号土坑全景 (南から)



5区 112号土坑セクション (南から)



5区 113号土坑全景 (南西から)



5区 113号土坑セクション (南西から)



5区 114号土坑全景 (南から)



5区 115号土坑全景 (南西から)



1区 1号溝全景 (北から)



1区 1号溝セクション (南から)



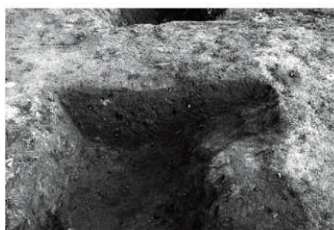
1区 2号溝全景 (南東から)



1区 3号溝全景 (北西から)



1区 2号溝セクション (南東から)



2区 3号溝セクション (北西から)



2区 4号溝全景 (東から)



1区 5号溝全景 (南東から)



2区 6号溝全景 (北西から)



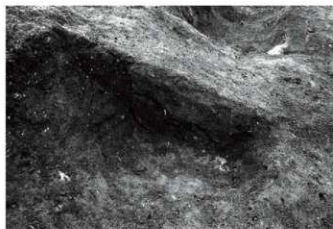
2区 7号溝全景 (東から)



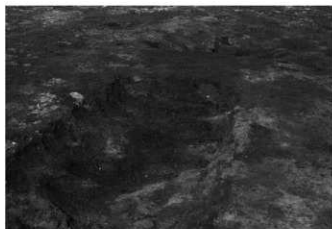
1区 4号溝セクション (南東から)



1区 5号溝セクション (北東から)



2区 6号溝セクション (東から)



2区 7号溝セクション (南から)



2区 8号溝全景 (南東から)



4区 9号溝全景 (南から)



2区 8号溝セクション (南から)



4区 9号溝セクション (南から)



4区 10号溝全景 (北から)



4区 11号溝全景 (西から)



4区 10号溝セクション (南から)



4区 11号溝セクション (南東から)



4区 12・13号溝全景 (北から)



4区 12号溝セクション (南から)



1区 旧石器試掘トレンチセクション (南から)



2区 旧石器試掘全景 (南から)



2区 旧石器試掘トレンチ断面調査



2区 旧石器試掘トレンチセクション (北から)



3区 旧石器トレンチ全景 (南東から)



3区 旧石器試掘トレンチ (西から)



4区 旧石器トレンチ (南から)



4区 旧石器試掘トレンチセクション (東から)



1区 基本土層 (北東から)



2区 基本土層 (西から)



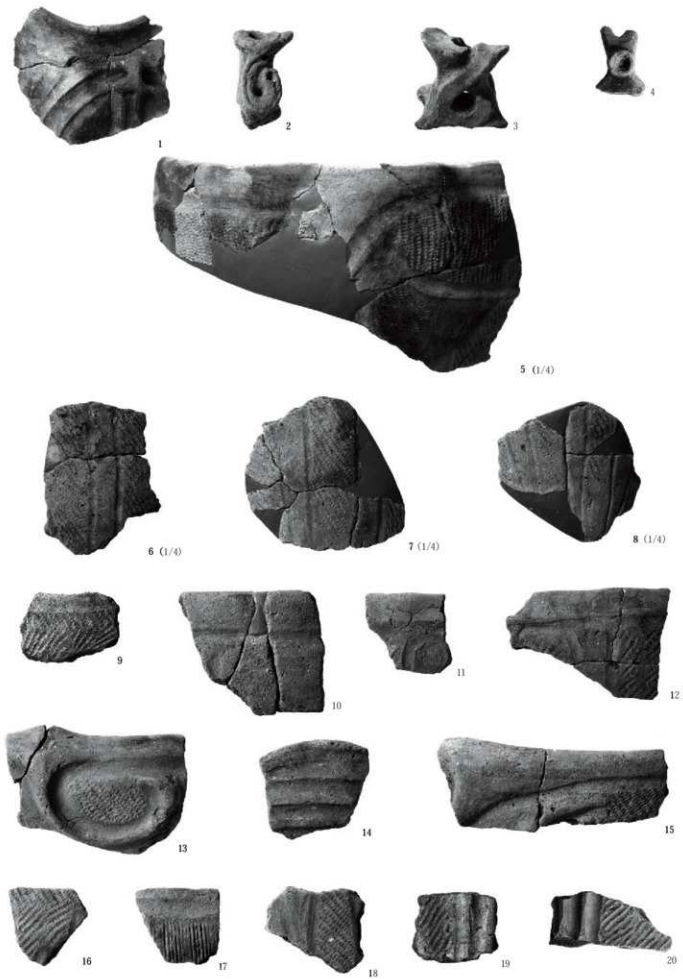
3区 基本土層 (西から)



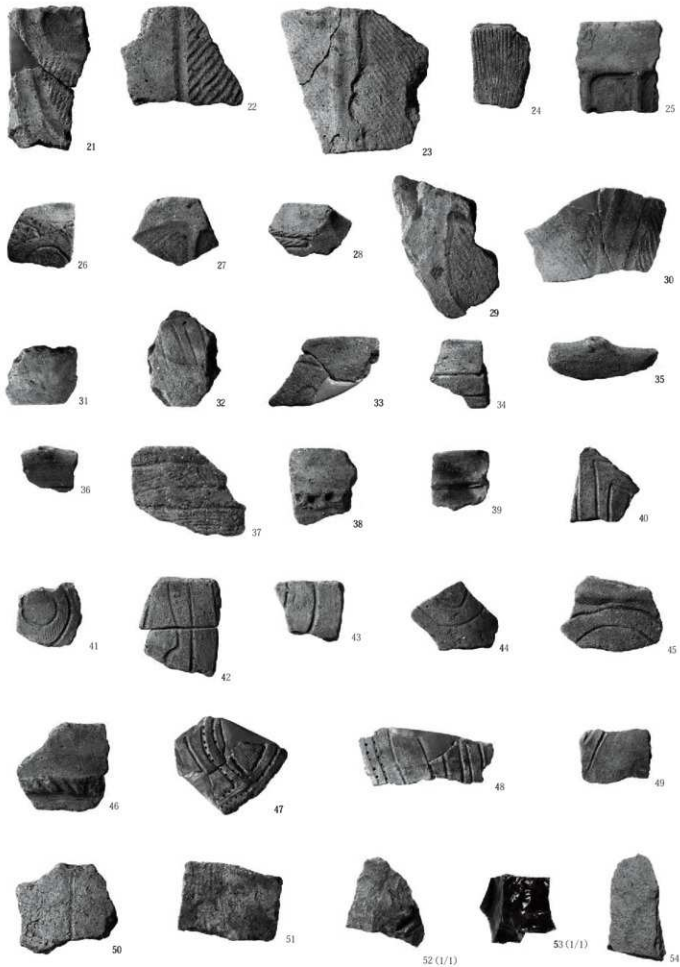
4区 基本土層 (西から)



5区 基本土層 (南東から)



4区4号住居出土遺物(1)





55



56



57



58 (1/4)



59



60

4区4号住居出土遺物(3)



1



2



3



4



5



6



7



8

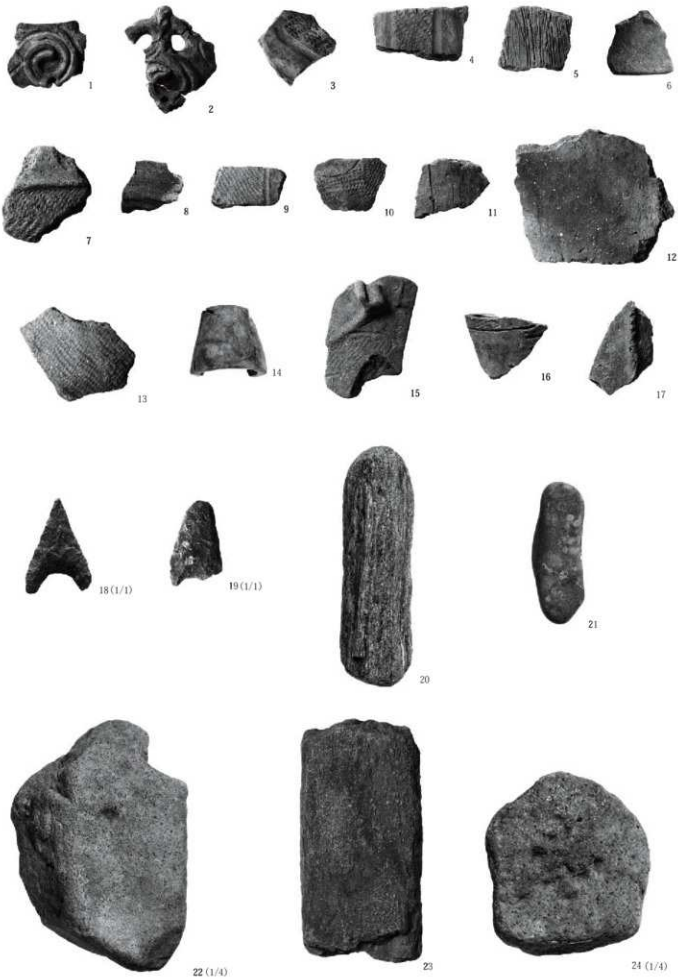


10 (1/4)



9 (1/4)

4区6号住居出土遺物





2区1号埋設土器

1



4区2号埋設土器

1(1/4)



4区3号埋設土器

1(1/4)



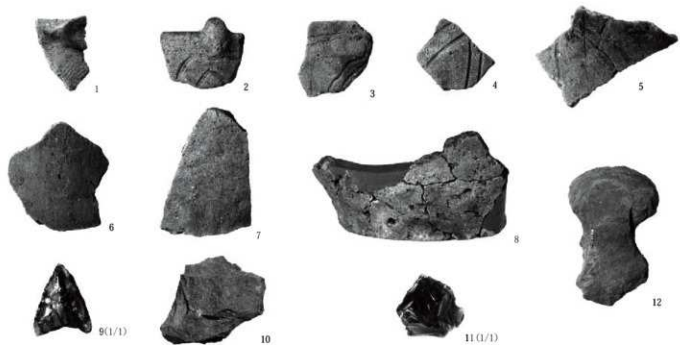
4区60号土坑出土遗物



4区69号土坑出土遗物



4区70号土坑出土遗物



4区73号土坑出土遗物



1

4区81号土坑出土遗物



1

4区159号土坑出土遗物



(1/4)



2

4区82号土坑出土遗物



1



2



3



4



5



6



7(1/4)



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20

4区83号土坑出土遗物



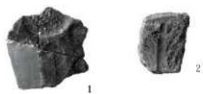
21(1/1)



22(1/1)



23(1/1)



4区97号土坑出土遗物



4区98号土坑出土遗物



2(1/4)



3



1



2



4



3



4(1/4)

4区110号土坑出土遗物

1区道槽外出土遗物



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

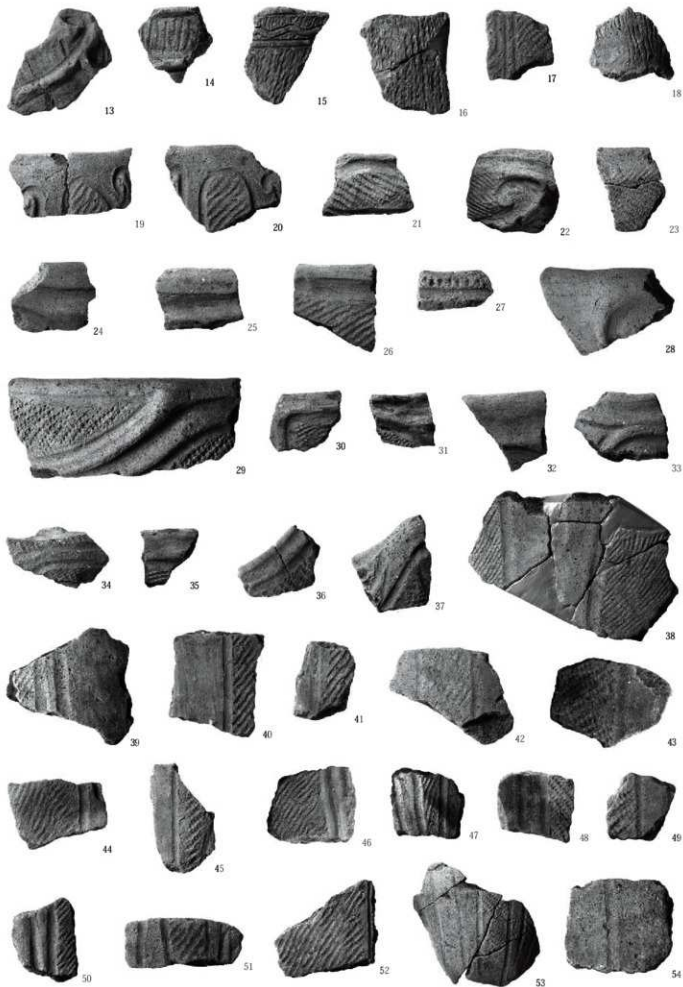


12

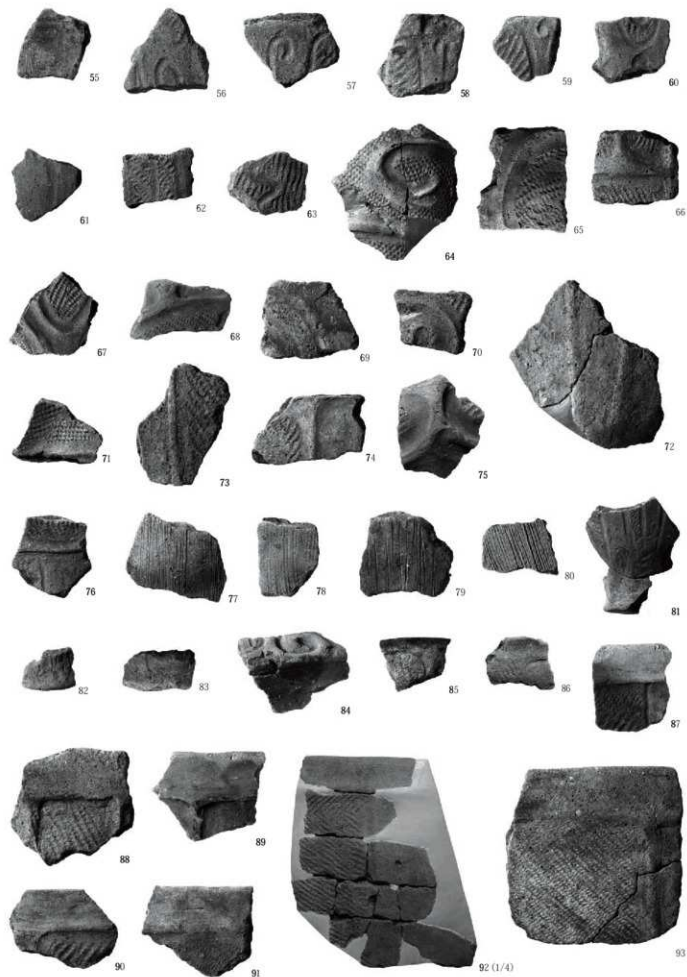


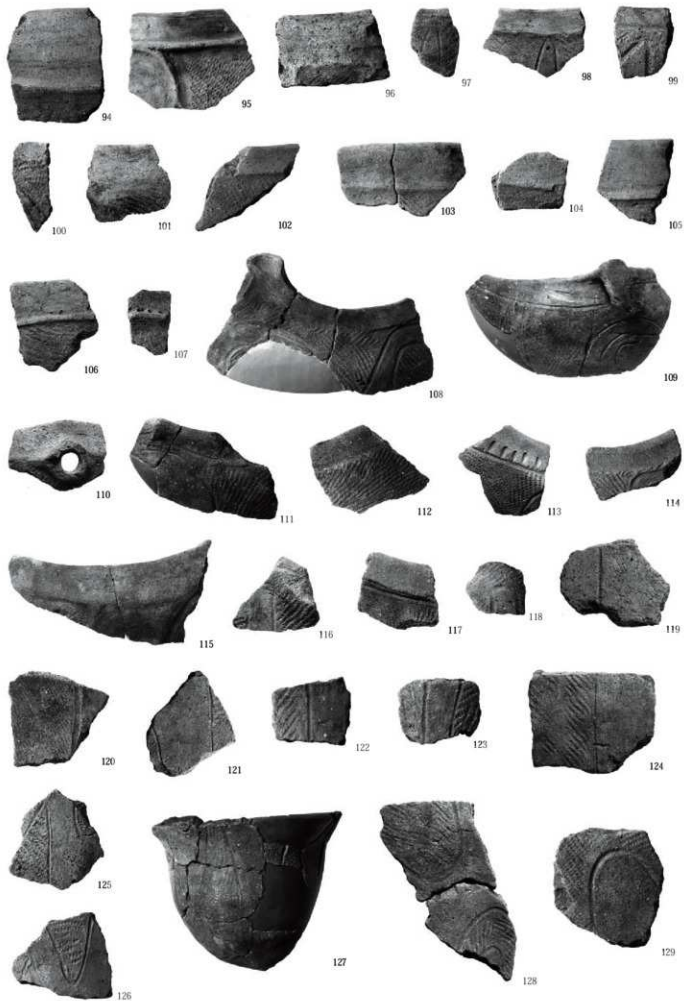
11

2区道槽外出土遗物(1)

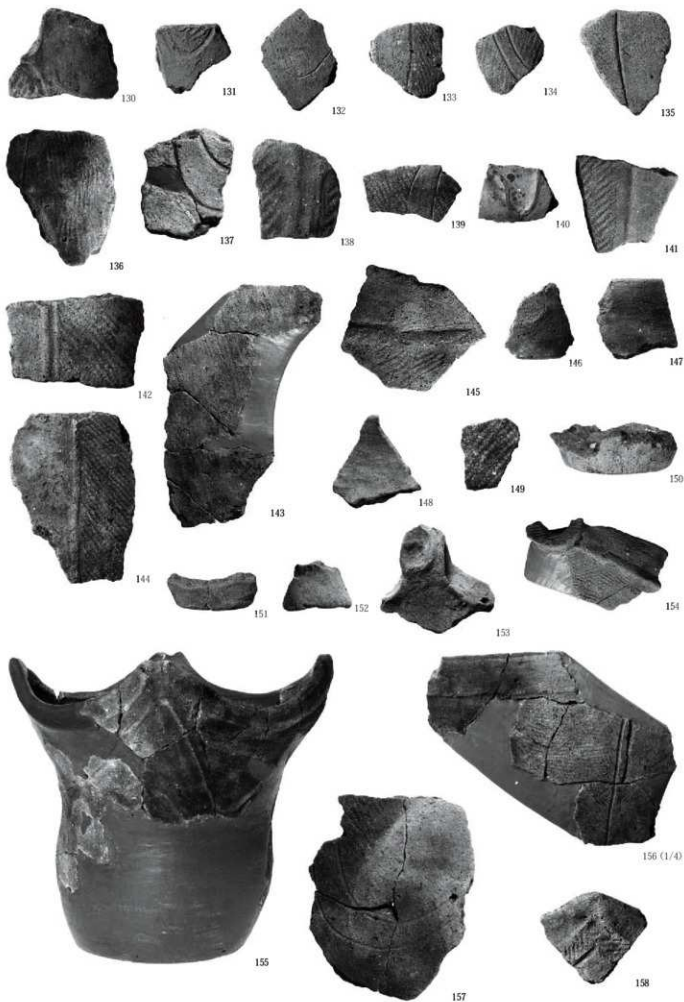


2区遺構外出土遺物(2)

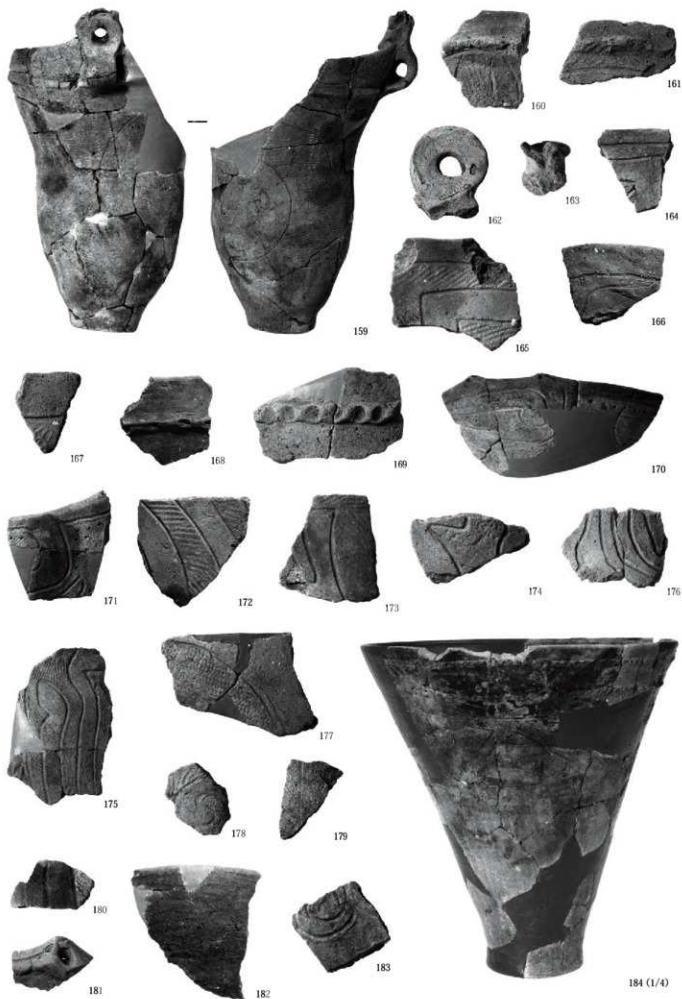




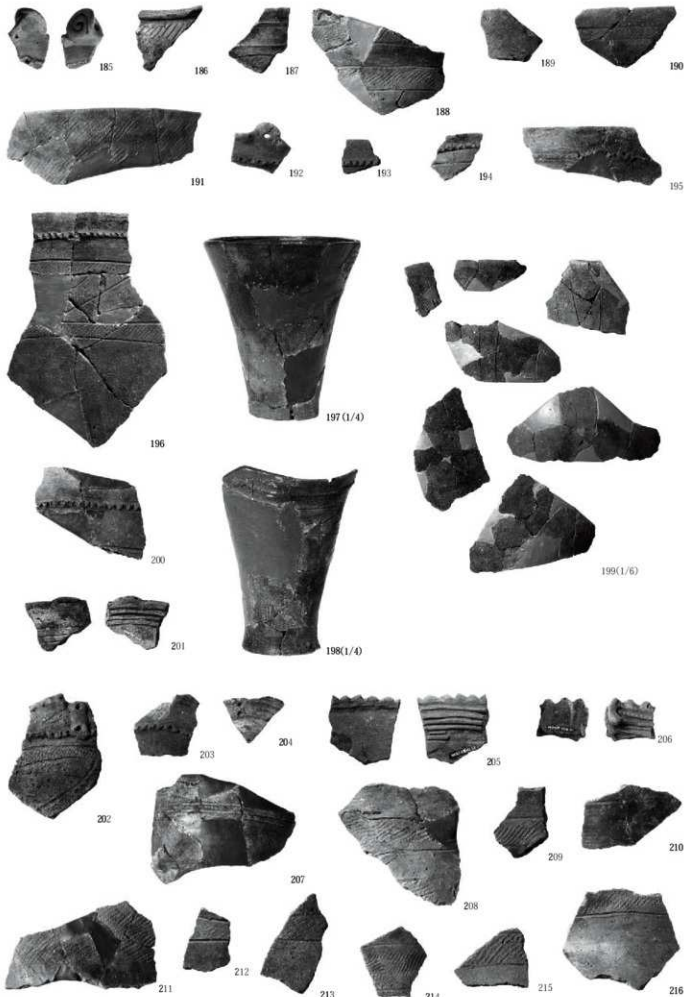
2区遺構外出土遺物(4)



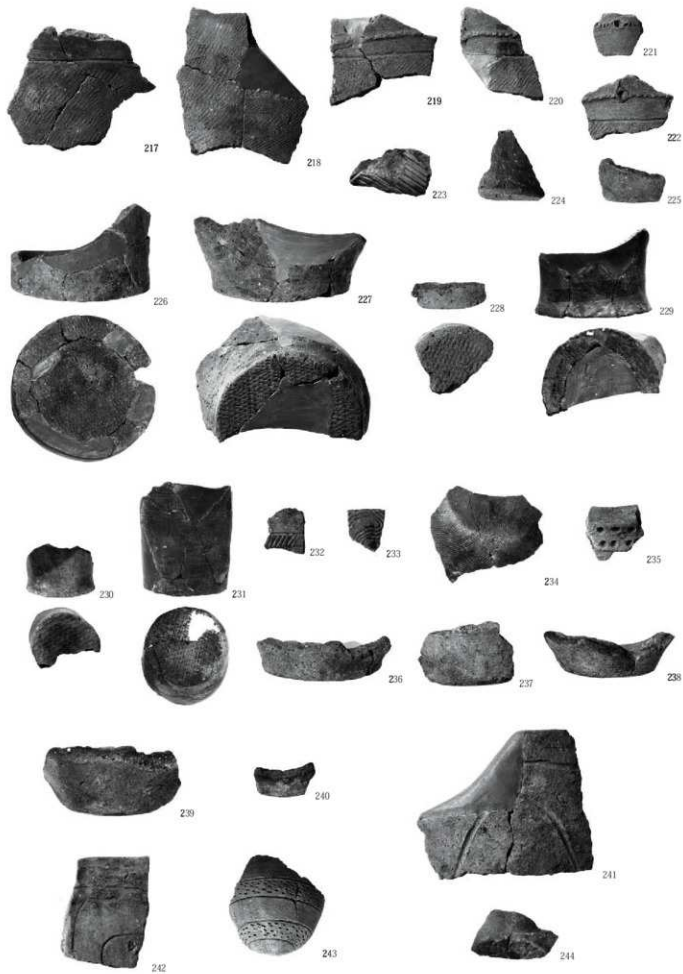
2区遺構外出土遺物(5)

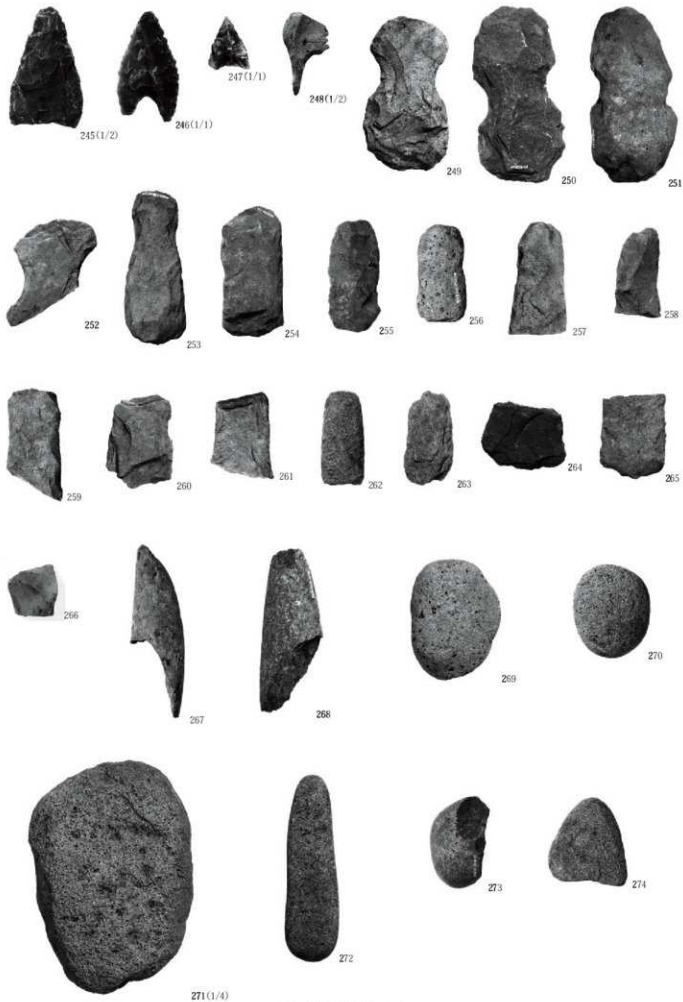


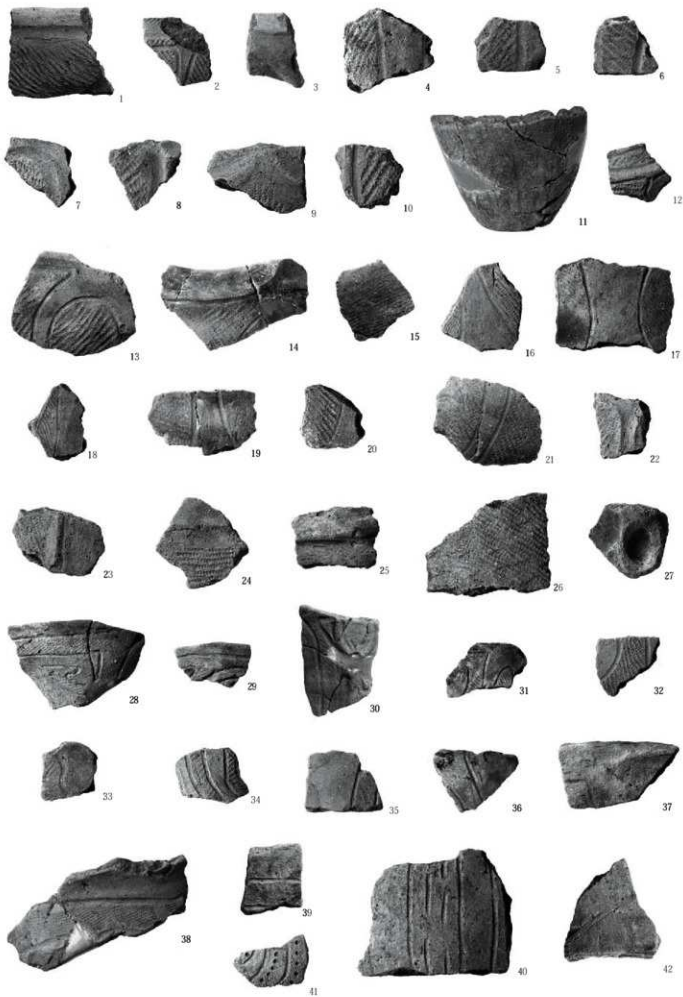
2区遺構外出土遺物(6)

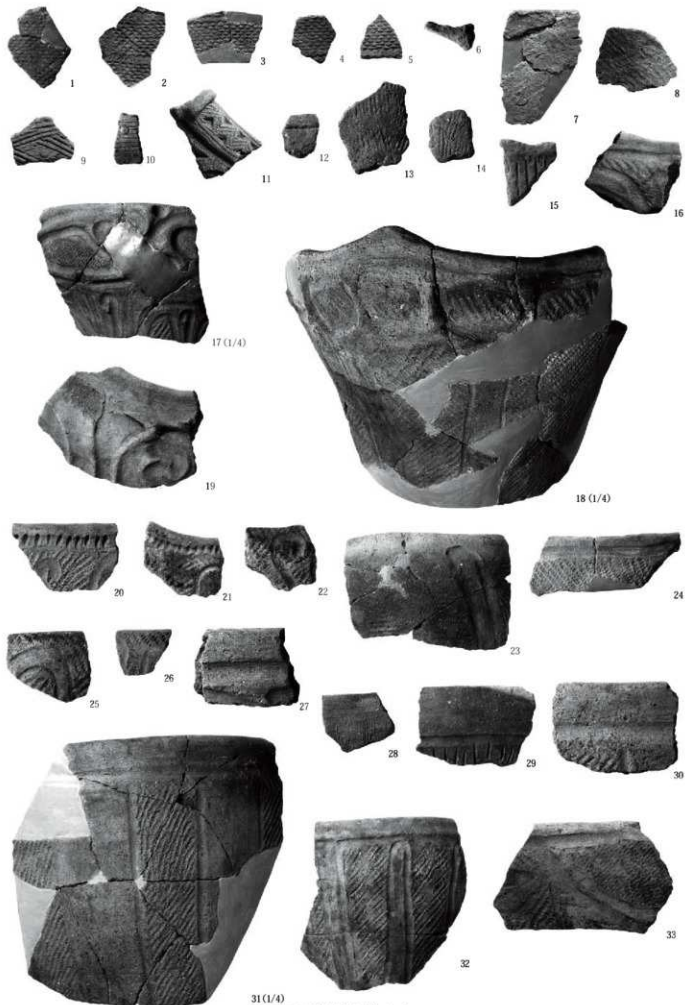


2区遺構外遺物出土遺物(7)

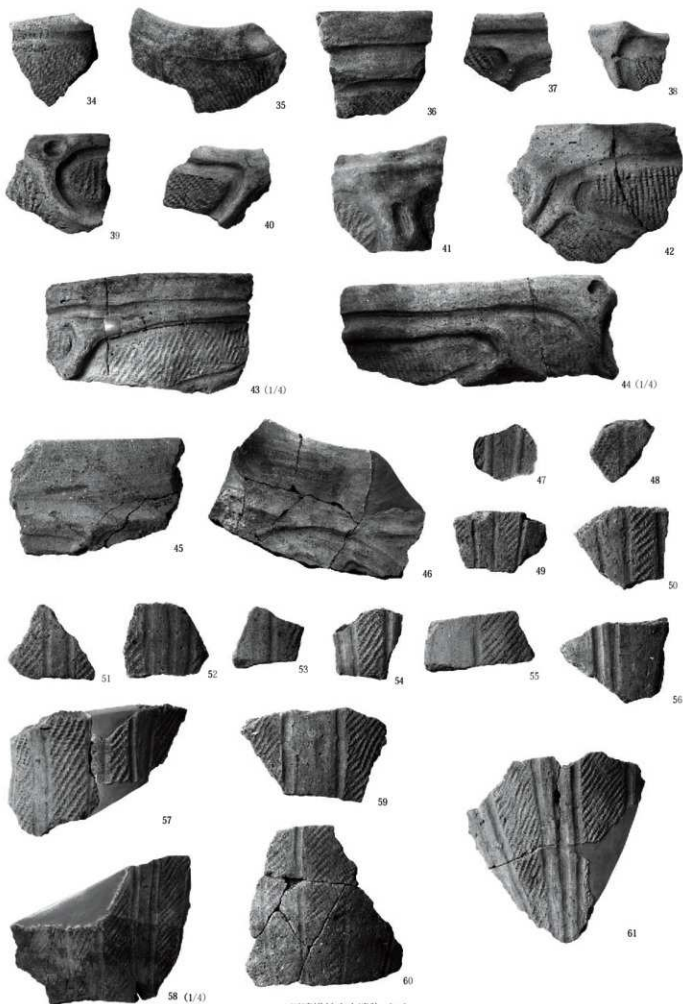








31(1/4)
4区遺構外出土遺物(1)



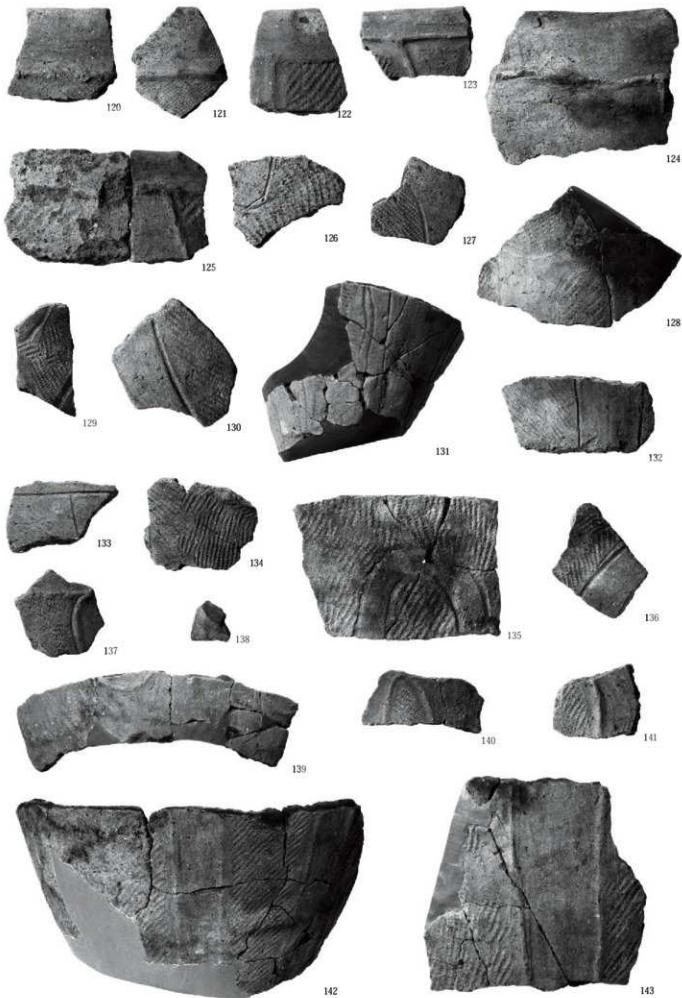
4区遺構外出土遺物(2)

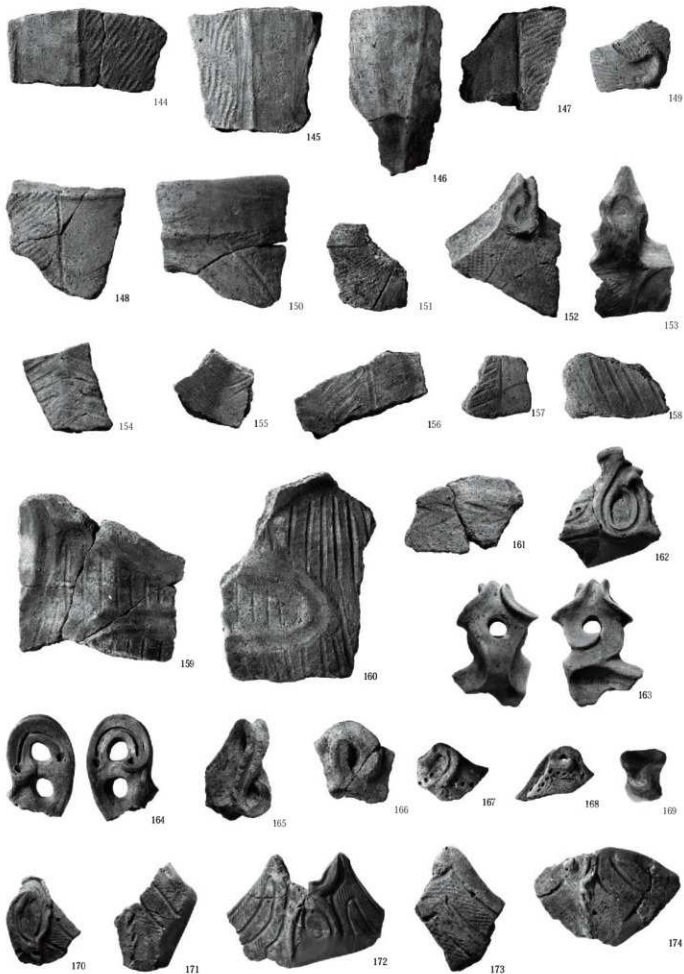


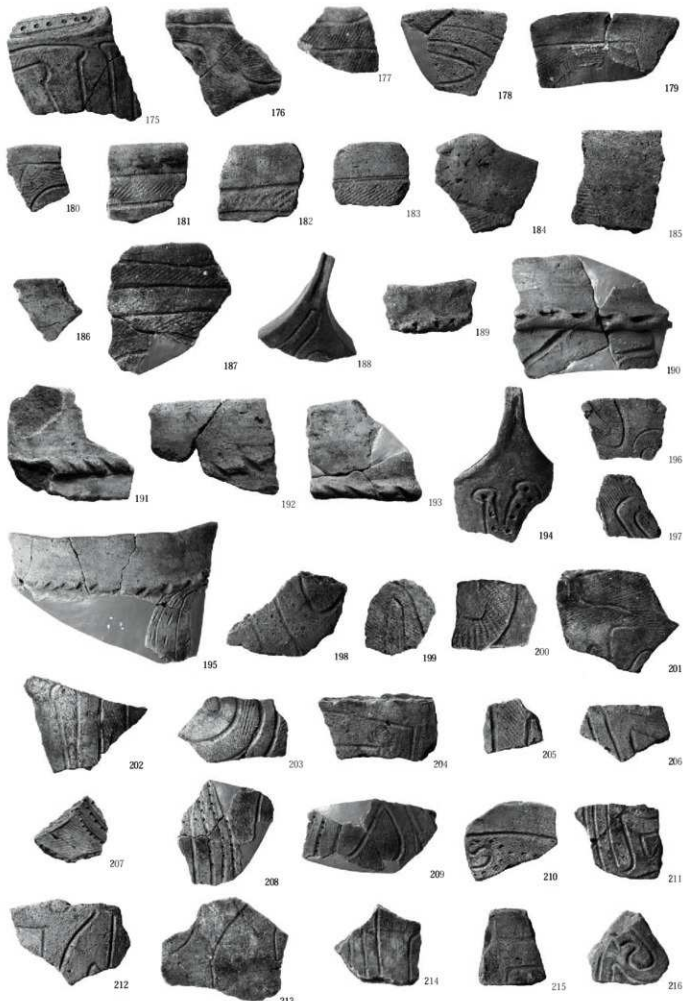
4区遺構外出土遺物(3)



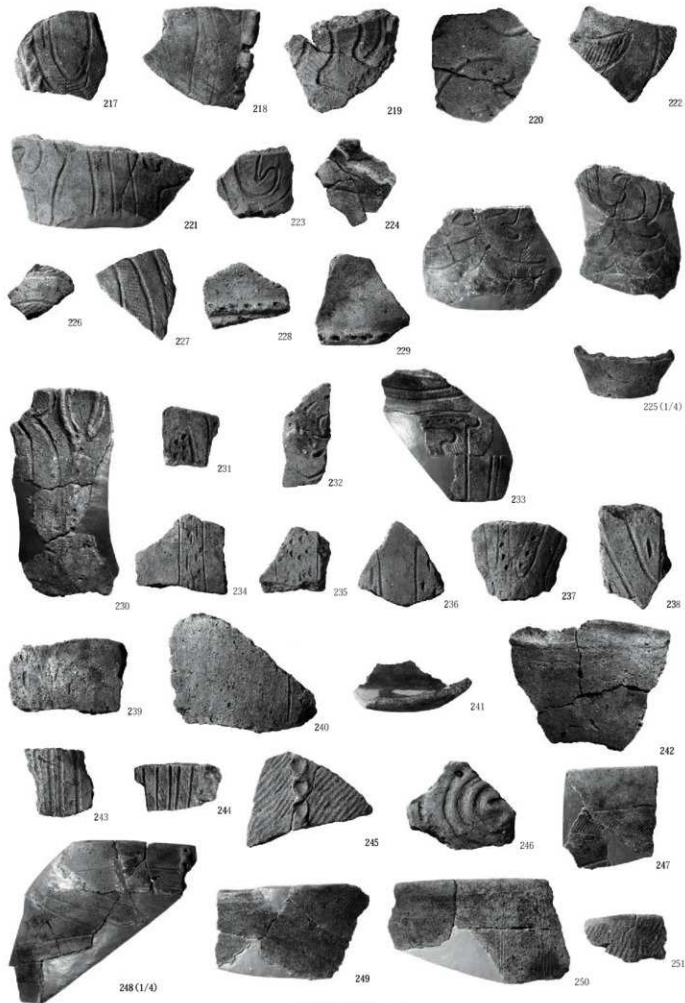
4区遺構外出土遺物(4)



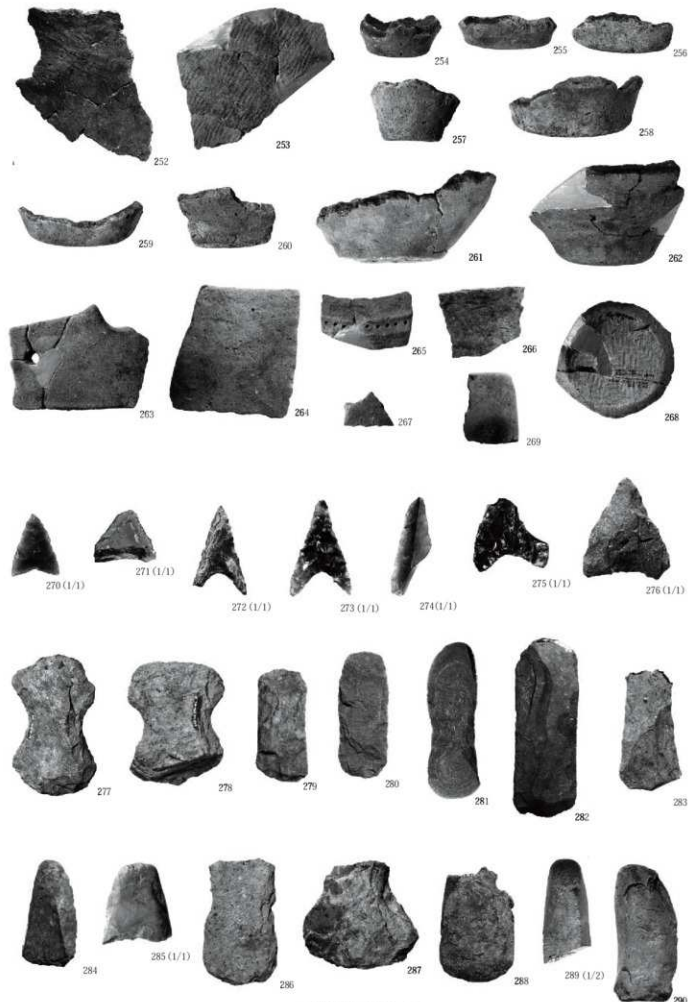




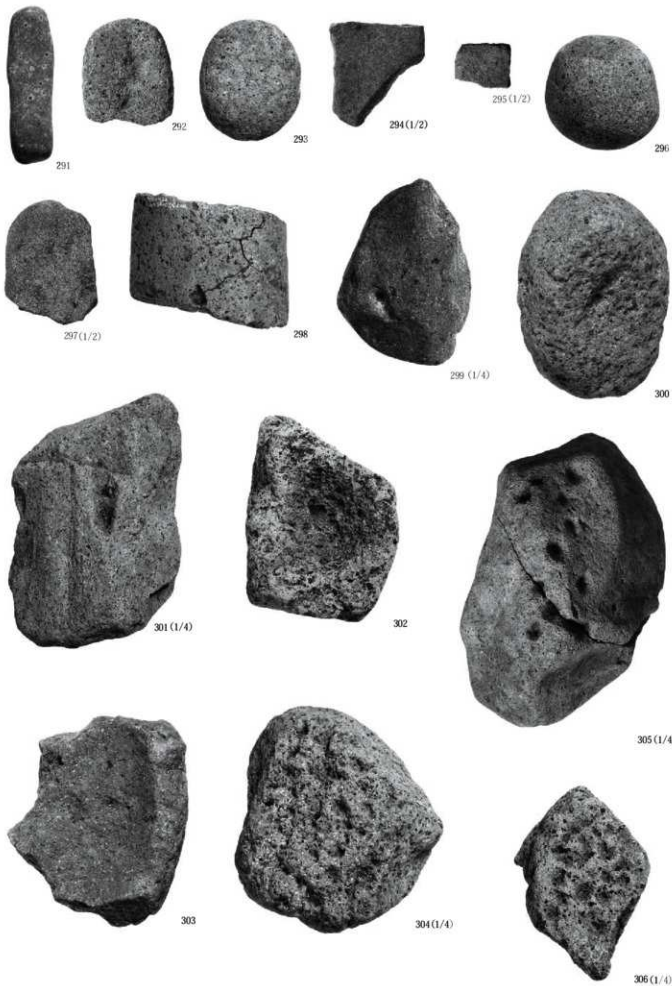
4区遺構外出土遺物(7)



4区遺構外出土遺物(8)



4区遺構外出土遺物(9)



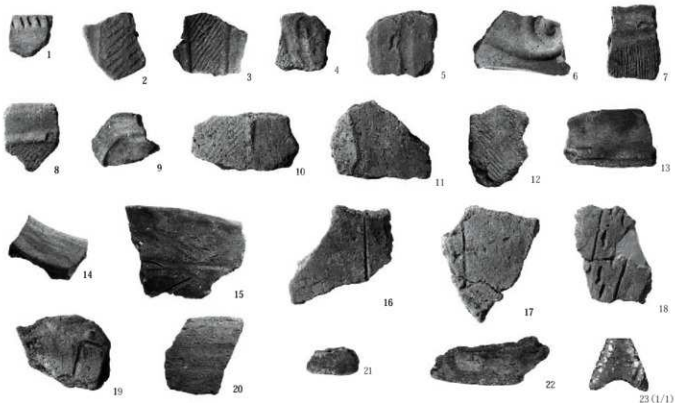


307 (1/4)



308 (1/4)

4区遺構外出土遺物(11)



5区遺構外出土遺物



2区2号整穴住居出土遺物

2区3号整穴住居出土遺物

5区111号土坑出土遺物

報告書抄録

書名ふりがな	ながやついせき
書名	長谷津遺跡
副書名	高崎渋川バイパス(2期工区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	525
編著者名	新井 仁/須田 正久
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	201202014
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	ながやついせき
遺跡名	長谷津遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんきたぐんまぐんしんとうむら
遺跡所在地	群馬県北群馬郡榛東村
市町村コード	1146
遺跡番号	0046
北緯(日本測地系)	362519
東経(日本測地系)	1385953
北緯(世界測地系)	362531
東経(世界測地系)	1385942
調査期間	20070109-20070331/20070402-20070630/20090101-20090131
調査面積	11,445.41
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/古墳/奈良/中近世
遺跡概要	集落-縄文-竪穴住居+埋設土器+掘立柱建物+土坑-土器+石器+石製品/集落-古墳-竪穴住居+竪穴状遺構+富+土坑-土器/集落-奈良-竪穴住居-土器/その他-中近世-掘立柱建物+礎石建物+土坑+溝-土器+陶磁器+石製品
特記事項	縄文時代中期から後期の集落 古墳時代集落、Hr-FA下富
要約	本報告書は高崎渋川バイパス道路建設に伴い、平成18年度から発掘調査が行われた長谷津遺跡の報告である。本遺跡からは、縄文時代中期から後期にかけての集落、古墳時代の竪穴住居や高、中近世の掘立柱建物や溝などが検出されている。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第525集

長谷津遺跡

高崎渋川バイパス(2期1区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24(2012)年2月7日 印刷

平成24(2012)年2月14日 発行

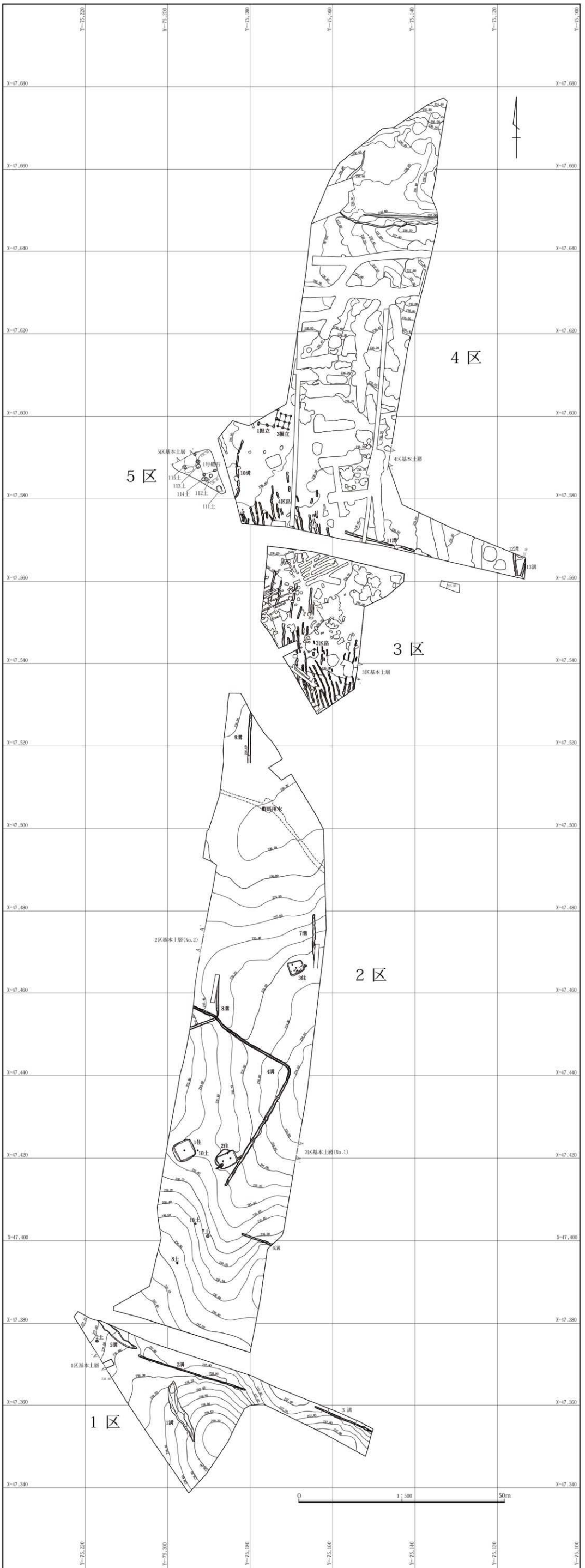
編集・発行/財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

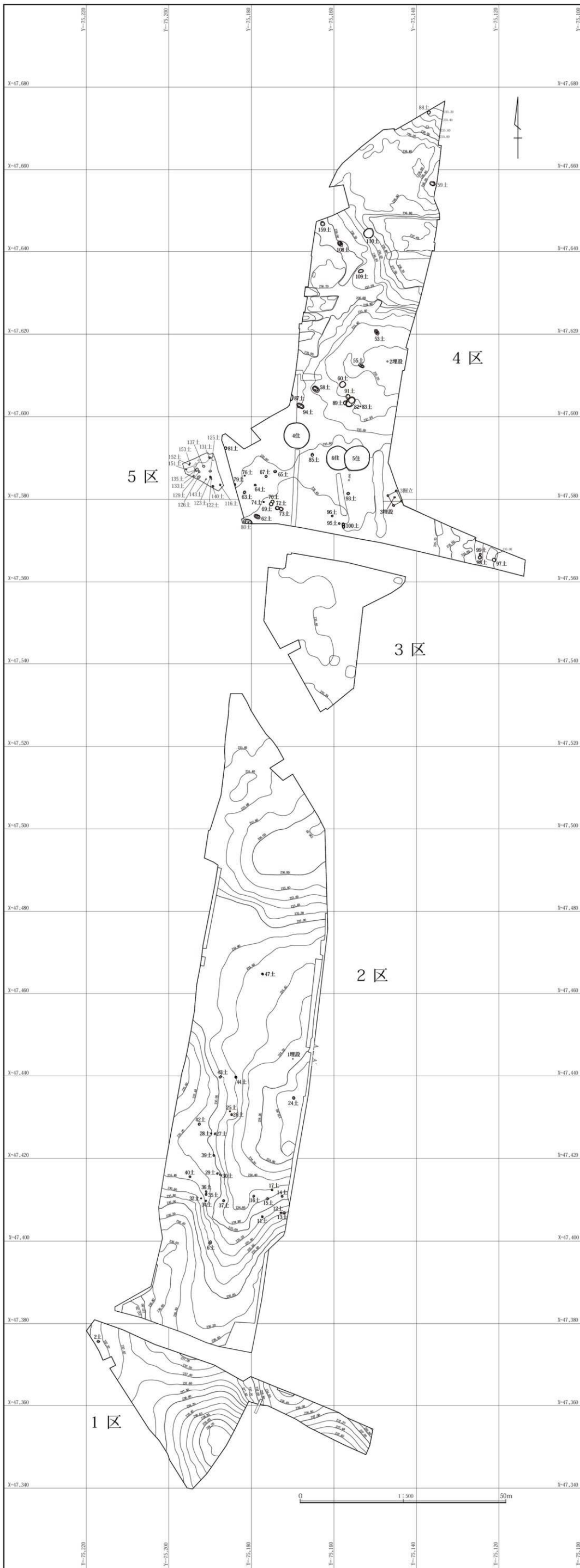
電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/上旬印刷



付図 長谷津遺跡 1 面全体図



付図 長谷津遺跡 2 面全体図